鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（45）

竜郷ー新奄美空港線の改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

下山田Ⅱ遺跡
和野トフル墓

1988年 3月

鹿 児 島 県 教 育 委 員 会

序　　文

この報告書は，鹿児島県教育委員会が，県道竜郷・新奄美空港線改良工事に伴って昭和59年度実施した下山田Ⅱ遺跡・和野トフル墓の発掘調査の記録です。

下山田Ⅱ遺跡は，砂丘地内に広がった縄文時代後期を中心とした遺跡で，多数の貝製・骨角製の垂飾品等の他，石器・土器が出土しました。

また，和野トフル墓は，南西諸島特有の風葬墓で，納骨した壺・甕が整然と配列されていました。

本書は，南西諸島の先史時代や墓制の解明に貴重な手がかりを提供するものと考えます。地域の歴史研究や文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに，この発掘調査に御協力くださった県土木部道路建設課・大島支庁・笠利町教育委員会並びに地元の方々に心から感謝いたします。

昭和63年３月

鹿児島県教育委員会
教育長　濵　里　忠　宣

例　　言

1．本書は，昭和59年度に実施した竜郷ー新奄美空港線の改良工事に伴う「下山田Ⅱ遺跡・和野トフル墓」の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，鹿児島県土木部の依頼を受けて鹿児島県教育委員会が行った。

3．発掘調査にあたり，

鹿児島県文化財保護審議会委員	河口　貞徳
鹿児島大学歯学部教授	小片　丘彦
熊本大学文学部教授	白木原和美
日本民俗学会評議員	小野　重朗
鹿児島県立徳之島高等学校教諭	成尾　英仁

の５氏に指導助言を受けた。

4．和野トフル墓の調査及び所見に関しては，小片丘彦氏に依頼し，その所見は本報告書にまとめられている。

5．下山田Ⅱ遺跡の地層については，成尾英仁氏に依頼した。

6．報告書作成のための整理作業の分担は下記の通りである。

実測・復元・拓影	長野真一，山畑泰子，後堂悦子，川畑恵子，永野香代子
トレース	長野，山畑
写真撮影	長野，鶴田静彦，山畑，旭慶男，冨田逸郎

なお，編集は長野・山畑が担当した。

7．本書の執筆分担は下記の通りである。

第１章	山畑泰子
第２章・第３章・第６章	長野真一
第２章第４節	成尾英仁
第４章・第５章	小片丘彦

8．遺物の番号取り扱いについては，土器，石器，貝製品，骨製品ごとに設けた。

9．本書で用いたレベル数値は，すべて絶対海抜高である。

10．出土遺物の管理・保管は，県教育庁文化課重富収蔵庫で一括して行っている。

本　文　目　次

序　　文
例　　言
第１章　調査の経過……10
　第１節　調査に至るまでの経過……10
　第２節　調査の組織……10
　第３節　調査の経過……12
第２章　遺跡の概要
　第１節　遺跡の位置と環境……16
　第２節　遺跡の概要……19
　第３節　層　序……22
　第４節　下山田Ⅱ遺跡の地層(成尾英仁)……24
第３章　下山田Ⅱ遺跡の調査
　第１節　第１地点……29
　　1）土層……29
　　2）遺物分布状況……29
　　3）出土遺物……29
　第２節　第２地点……32
　　1）遺物分布状況……32
　　2）遺　構……33
　　3）出土遺物－土器……37
　第３節　第３地点……43
　　1）遺　構……43
　　2）出土遺物－土器……52
　　3）第３地点の遺物分布と接合関係……115
　　4）出土遺物－石器……152
　　5）出土遺物－貝製品・骨製品……172
　　6）出土遺物－螺蓋製貝斧……188
第４章　鹿児島県奄美大島和野トフル墓出土の人骨(小片丘彦)……261
第５章　鹿児島県奄美大島下山田Ⅱ遺跡出土の縄文時代人骨(小片丘彦)……320
第６章　まとめ……329

挿　図　目　次

ページ
第１図　奄美大島の位置図……15
第２図　下山田Ⅱ遺跡と周辺遺跡……17
第３図　遺跡の概要図……20
第４図　下山田Ⅱ遺跡のグリッド配置図……20
第５図　和野トフル墓の位置図……21
第６図　Ａ－25区北壁土層断面図……22
第７図　下山田Ⅱ遺跡土層図……23
第８図　笠利半島の地形区分図……24
第９図　段丘断面図……25
第10図　砂丘概念図……25
第11図　笠利半島地質図……26
第12図　遺跡の砂丘堆積物……27
第13図　遺跡付近の砂丘……28
第14図　土器(第１地点)－１……30
第15図　第１地点出土遺物分布図……31
第16図　土器(第１地点)－２……32
第17図　石器(第１地点)－１……33
第18図　第２地点出土遺物分布図……34
第19図　第２地点遺構分布図……35
第20図　第２地点１～６号集石遺構……36
第21図　土器(第２地点)－１……38
第22図　土器(第２地点)－２……39
第23図　土器(第２地点)－３……40
第24図　土器(第２地点)－４……41
第25図　土器(第２地点)－５……42
第26図　第３地点Ａ－26～29区遺物散布状況……44
第27図　第３地点集石遺構配置図……45
第28図　第３地点１・２号集石遺構……46
第29図　第３地点３・４・５・６号集石遺構……47
第30図　第３地点７・８・９・10・11・13・14号集石遺構……48
第31図　第３地点12号集石遺構……49
第32図　第３地点６・10・14号集石遺構と共伴遺物……50
第33図　土器(第３地点)－１……53
第34図　土器(第３地点)－２……54
第35図　土器(第３地点)－３……55
第36図　土器(第３地点)－４……56
第37図　土器(第３地点)－５……57
第38図　土器(第３地点)－６……58
第39図　土器(第３地点)－７……59
第40図　土器(第３地点)－８……61
第41図　土器(第３地点)－９……62
第42図　土器(第３地点)－10……63
第43図　土器(第３地点)－11……64
第44図　土器(第３地点)－12……65
第45図　土器(第３地点)－13……66
第46図　土器(第３地点)－14……67
第47図　土器(第３地点)－15……68
第48図　土器(第３地点)－16……69
第49図　土器(第３地点)－17……70
第50図　土器(第３地点)－18……71
第51図　土器(第３地点)－19……72
第52図　土器(第３地点)－20……73
第53図　土器(第３地点)－21……74
第54図　土器(第３地点)－22……76
第55図　土器(第３地点)－23……77
第56図　土器(第３地点)－24……78
第57図　土器(第３地点)－25……79
第58図　土器(第３地点)－26……80
第59図　土器(第３地点)－27……81
第60図　土器(第３地点)－28……82
第61図　土器(第３地点)－29……83
第62図　土器(第３地点)－30……85
第63図　土器(第３地点)－31……86

第64図　土器(第３地点)-32……87
第65図　土器(第３地点)-33……88
第66図　土器(第３地点)-34……89
第67図　土器(第３地点)-35……90
第68図　土器(第３地点)-36……91
第69図　土器(第３地点)-37……92
第70図　土器(第３地点)-38……93
第71図　土器(第３地点)-39……94
第72図　土器(第３地点)-40……95
第73図　土器(第３地点)-41……96
第74図　土器(第３地点)-42……97
第75図　土器(第３地点)-43……98
第76図　土器(第３地点)-44……99
第77図　土器(第３地点)-45……100
第78図　土器(第３地点)-46……101
第79図　土器(第３地点)-47……102
第80図　土器(第３地点)-48……103
第81図　土器(第３地点)-49……104
第82図　土器(第３地点)-50……105
第83図　土器(第３地点)-51……107
第84図　土器(第３地点)-52……108
第85図　土器(第３地点)-53……109
第86図　土器(第３地点)-54……110
第87図　土器(第３地点)-55……111
第88図　土器(第３地点)-56……112
第89図　土器(第３地点)-57……113
第90図　土器(第３地点)-58……114
第91図　第３地点出土遺物分布図
及び接合図(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類土器) … 116
第92図　第３地点出土遺物分布図
及び接合図(Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ類土器) … 117
第93図　第３地点出土遺物分布図
及び接合図(Ⅸ・Ⅹ類土器)……118
第94図　第３地点出土遺物分布図及び
接合図(Ⅺ・Ⅻ・ⅩⅢ・ⅩⅣ土器)…119
第 95図　第３地点出土遺物接合図……120
第 96図　石器- 1(第１地点) ……153
第 97図　石器- 2(第１地点) ……154
第 98図　石器- 3(第１地点) ……155
第 99図　石器- 4(第３地点) ……156
第100図　石器- 5(第３地点) ……157
第101図　石器- 6(第３地点) ……158
第102図　石器- 7(第３地点) ……159
第103図　石器- 8(第３地点) ……160
第104図　石器- 9(第３地点) ……161
第105図　石器-10(第３地点) ……162
第106図　石器-11(第３地点) ……163
第107図　石器-12(第３地点) ……164
第108図　石器-13(第２・３地点)　……165
第109図　石器-14(第３地点) ……166
第110図　石器-15(第３地点) ……167
第111図　貝・骨製品- 1(第３地点)……171
第112図　貝・骨製品- 2(第３地点)……172
第113図　貝・骨製品- 3(第３地点)……173
第114図　貝・骨製品- 4(第３地点)……174
第115図　貝・骨製品- 5(第３地点)……175
第116図　貝・骨製品- 6(第３地点)……176
第117図　貝・骨製品- 7(第３地点)……177
第118図　貝・骨製品- 8(第３地点)……178
第119図　貝・骨製品- 9(第３地点)……179
第120図　貝・骨製品-10(第３地点)……180
第121図　貝・骨製品-11(第３地点)……181
第122図　貝・骨製品-12(第３地点)……182
第123図　螺蓋製貝斧-1(第２地点)……188
第124図　螺蓋製貝斧-2(第３地点)……189
第125図　螺蓋製貝斧-3(第３地点)……190
第126図　螺蓋製貝斧-4(第３地点)……191
第127図　螺蓋製貝斧-5(第３地点)……192
第128図　螺蓋製貝斧-6(第３地点)……193
第129図　螺蓋製貝斧-7(第３地点)……194

表　目　次

ページ
表 1　下山田Ⅱ遺跡と周辺遺跡地名表……18
表 2　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 1……121
表 3　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 2……122
表 4　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 3……123
表 5　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 4……124
表 6　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 5……125
表 7　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 6……126
表 8　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 7……127
表 9　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 8……128
表10　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表- 9……129
表11　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-10……130
表12　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-11……131
表13　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-12……132
表14　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-13……133
表15　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-14……134
表16　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-15……135
表17　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-16……136
表18　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-17……137
表19　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-18……138
表20　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-19……139
表21　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-20……140
表22　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-21……141
表23　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-22……142
表34　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-23……143
表25　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-24……144
表26　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-25……145
表27　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-26……146
表28　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-27……147
表29　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-28……148
表30　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-29……149
表31　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-30……150
表32　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表-31……151
表33　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表-1(20～24区)……152

表34　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表-2(26～28区) ……155
表35　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表-3(29～33区) ……167
表36　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表-4(29～33区) ……168
表37　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表-5(29～33区) ……169
表38　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表-6(29～33区) ……170
表39　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表-1 ……183
表40　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表-2 ……184
表41　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表-3 ……185
表42　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表-4 ……186
表43　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表-5 ……187
表44　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表-6 ……188
表45　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-1(20～24区) ……195
表46　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-2(26～28区) ……195
表47　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-3(29～33区) ……195
表48　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-4(29～33区)……196
表49　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-5(29～33区) ……196
表50　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-6(29～33区) ……197
表51　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-7(29～33区) ……197
表52　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-8(29～33区) ……198
表53　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧一覧表-9(採集品) ……198

図　版　目　次

図版１　アマンデーの丘(高岳) からの遠景第１地点８区～11区調査風景……200
図版２　第１地点(南側)旧海岸線
第３地点26区～29区(北側より)
第３地点26区～29区(南側より) ……201
図版３　第３地点31区南壁全体図・31区南壁部分図
第３地点25区北壁部分図 ……202
図版４　第３地点遺構出土状況(西側より)
第３地点遺構・遺物出土状況(東側より) ……203

図版５　第１地点遺物出土状況
第３地点遺物出土状況
第３地点７号集石遺構(上面)・(側面)
第３地点12号集石遺構(検出時)
第３地点12号集石遺構(最終面)
第３地点３号集石遺構
第３地点３号集石遺構(最終面) ……204
図版６　第３地点６号・７号集石遺構状況
第３地点貝溜り出土状況 ……205
図版７　遺物出土状況(貝溜り・貝殻・土器片・獣骨・鯨骨・猪骨)
西壁遺物出土状況 ……206
図版８　貝溜り出土状況 ……207
図版９　第３地点７号集石遺構(上面より)
第３地点７号集石遺構(東よりの側面) ……208
図版10　第３地点14号集石遺構の共伴土器
第３地点14号集石遺構・土器取り上げ後……209
図版11　遺物出土状況(土器№147・145・677・234・249・304・329)……210
図版12　遺物出土状況(土器№645・571・429・488・108・514・732・345・534)……211
図版13　第１地点出土遺物 ……212
図版14　第１・２地点出土遺物(Ⅲ類土器)……213
図版15　第２地点出土遺物(Ⅳ類土器) ……214
図版16　第２地点出土遺物(Ⅳ類土器) ……215
図版17　第２地点出土遺物(ⅩⅤ・ⅩⅥ・ⅩⅦ類土器)……216
図版18　第２・３地点出土遺物(Ⅸ・Ⅺ・ⅩⅧ類土器) ……217
図版19　第３地点出土遺物(Ⅸ・Ⅺ類土器)……218
図版20　第３地点出土遺物(Ⅲ・Ⅳ類土器)……219
図版21　第３地点出土遺物(Ⅳ類土器) ……220
図版22　第３地点出土遺物(Ⅳ類土器) ……221
図版23　第３地点出土遺物(Ⅳ・Ⅴ類土器)……222
図版24　第３地点出土遺物(Ⅳ類土器) ……223
図版25　第３地点出土遺物(Ⅳ類土器) ……224
図版26　第３地点出土遺物(Ⅵ・Ⅶ類土器)……225
図版27　第３地点出土遺物(Ⅷ・Ⅺ類土器)……226
図版28　第３地点出土遺物(Ⅷ類土器) ……227
図版29　第３地点出土遺物(Ⅷ類土器) ……228

図版30　第３地点出土遺物(Ⅷ類土器) ……229
図版31　第３地点出土遺物(Ⅷ類土器) ……230
図版32　第３地点出土遺物(Ⅷ・Ⅸ類土器)……231
図版33　第３地点出土遺物(Ⅸ類土器) ……232
図版34　第３地点出土遺物(Ⅸ類土器) ……233
図版35　第３地点出土遺物(Ⅸ類土器) ……234
図版36　第３地点出土遺物(Ⅸ・Ⅹ類土器)……235
図版37　第３地点出土遺物(Ⅹ・Ⅺ類土器)……236
図版38　第３地点出土遺物(Ⅺ類土器) ……237
図版39　第３地点出土遺物(Ⅺ類土器) ……238
図版40　第３地点出土遺物(Ⅺ類土器) ……239
図版41　第３地点出土遺物(Ⅺ類土器) ……240
図版42　第３地点出土遺物(Ⅺ類土器) ……241
図版43　第３地点出土遺物(Ⅺ・ⅩⅣ類土器)……242
図版44　第３地点出土遺物(Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・ⅩⅣ類土器)……243
図版45　第３地点出土遺物(Ⅸ・Ⅺ類土器)……244
図版46　第３地点出土遺物(Ⅸ・Ⅷ類土器) ……245
図版47　第３地点出土遺物 ……246
図版48　第３地点出土遺物(Ⅱ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・ⅩⅨ類土器) ……247
図版49　遺物出土状況(貝・骨製品No.56・10・40・9・55・104・16・クモガイ) ……248
図版50　遺物出土状況(螺貝製貝斧，貝・骨製品No.57・4・7・72・130・82・89) ……249
図版51　遺物出土状況(貝・骨製品No.66・95・128・132・獣骨・下顎骨) ……250
図版52　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品……251
図版53　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品 ……252
図版54　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・利器 ……253
図版55　下山田Ⅱ遺跡出土骨製品 ……254
図版56　下山田Ⅱ遺跡出土骨製品・貝製品 ……255
図版57　下山田Ⅱ遺跡出土石器 ……256
図版58　下山田Ⅱ遺跡調査風景 ……257
図版59　出土遺物(石器No.106～109)
　　遺物出土状況(石器)
　　下山田Ⅱ遺跡調査後の風景
　　下山田Ⅱ遺跡作業員一同 ……258
図版60　和野トフル墓出土品 ……259
図版61　和野トフル墓出土品 ……260

第 1 章　調査の経過

第1節　調査に至るまでの経過

鹿児島県は昭和63年度の完成を目ざし，新奄美空港の建設工事を実施している。建設予定地は，大島郡笠利町万屋から和野地区間の砂丘地及び東海岸である。

また，この空港の開設に伴い，竜郷－新奄美空港線の改良工事も計画された。それに基づき遺跡の確認調査をした結果，これらの建設地内に本遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が含まれることが明らかとなった。県土木部と県教育委員会はその取り扱いについての協議を重ね，県土木部からの依頼により，県教育委員会文化課が全面発掘調査を行い，記録による保存を図ることとなり，今回の調査が実施された。

第2節　調査の組織

◇発掘調査（昭和59年度）

調査主体者	鹿児島県教育委員会教育長		山田克穂
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課長	桑原一廣
	〃	課長補佐	坂口肇
	〃	主幹	中村文夫
調査企画	〃	主任文化財研究員	向山勝貞
調査事務	〃	主幹兼管理係長	寺園晃
	〃	主査	濱松巖
	〃	主事	田中孝子
調査担当者	〃	主事	長野真一
	〃	文化財調査員	鶴田静彦
調査指導助言者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口貞徳(考古学)
	熊本大学文学部教授		白木原和美(考古学)
	鹿児島大学歯学部教授		小片丘彦(形質人類学)
	日本民俗学会評議員		小野重朗(民俗学)
	鹿児島県立徳之島高等学校教諭		成尾英仁(地質学)

◇報告書作成（昭和62年度）

調査主体者	鹿児島県教育委員会教育長		濵里忠宣
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課長	吉井浩一
	〃	課長補佐	川畑栄造
	〃	主幹	森田齊
調査企画	〃	主任文化財研究員 兼埋蔵文化財係長	立園多賀生
調査事務	〃	企画助成係長	濱松巖
	〃	主査	京田秀充
	〃	主事	川畑由紀子
調査担当者	〃	主査	長野真一
	〃	文化財調査員	山畑泰子
調査指導助言者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口貞徳(考古学)
	鹿児島大学歯学部教授		小片丘彦(形質人類学)

その他，鹿児島県大島支庁土木課，鹿児島県大島教育事務所，笠利町役場，笠利町教育委員会，笠利町立歴史民俗資料館，沖縄県教育庁文化課，有限会社山下建設の協力を得た。

〈発掘作業〉川畑忠美，東田輝美，泉忠洋，川畑チズ，川畑オサエ，川畑キミエ，川畑ヨシ子坂下代千子，泉カズエ，東田ミネ子，清タエ子，山下ミナエ，当原カズエ，中ウエミ，重信チズ子，山下あや子，浜田ふじ子，川口ミカ，川畑テツ，元多あい子，川畑えい子

〈整理作業〉後堂悦子，川畑恵子，永野香代子，高瀬孝子，臼井綾子

なお，報告書作成にあたり，多くの方々に指導・助言をいただいた。

河口貞徳(鹿児島県文化財保護審議会委員)・小片丘彦(鹿児島大学歯学部教授)
高宮廣衛(沖縄国際大学長)・安里嗣淳・岸本義彦・島袋　洋(沖縄県教育庁文化課)
中山清美(笠利町歴史民俗資料館)・中村　愿(沖縄県北谷町教育委員会)
雨宮瑞生(筑波大学歴史・人文学系大学院博士過程)
池田栄史(琉球大学文学部助手)・知念　勇(沖縄県立博物館)
島　　弘(那覇市教育委員会)

第3節　調査の経過

当遺跡の現地発掘調査は，昭和59年11月1日から昭和60年3月26日まで行った。報告書作成は，昭和62年度に行い，その期間は昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までである。なお現地調査の経過については，日誌より抜粋して示すこととする。

≪日誌抄≫

昭和59年

11月1日(木)～11月2日(金)

現地着。雑木の伐採，撤去。重機による表層の取去。試掘トレンチの調査開始。支庁土木課，町教委打合せ。

A地点表土削り取り。曽畑式土器1点出土。事務所，休憩用テント設営。

11月5日(月)～11月9日(金)

A地点表土削り取り。層位の観察により，文化層は3層（黒色腐植土）。4層（褐色腐植土）で，特に4層がその中心と思われる。また，4層中には角礫（安山岩）が多く集中している状況も認められる。主な出土品は，磨製石斧，チャート材の剝片石器。A地点南端部の低地の草刈り，試掘調査の準備。A地点検出作業。形式不明の破片1点出土。

今週より鶴田加わる。7日　電話設営。8日　支庁土木課と排土について話し合う。持ち出しは困難との結論。当真嗣一氏（沖縄県文化課主任専門員）来跡。

11月12日(月)～11月17日(土)

A地点第2文化層面の検出。低地のトレンチ調査，深掘り，検出。大型のシャコ，夜光貝が出土。夜光貝製貝スプーン1点有り。

14日　岸本義彦氏（沖縄県文化課）来跡。大島新聞記者取材。17日　安全対策のため，ガードレール50m設置。

11月19日(月)～11月22日(木)

低地部の拡張（表土の剝離，深掘りトレンチの掘り下げ）。汀線部の写真撮影。記録終了部の埋め戻し。低地部第2層面の整理（近世陶磁器片が少量出土）。

和野トフル墓入口の確認。天目茶碗，染付の徳利，皿出土。

11月26日(月)～12月1日(土)

低地部の深掘り。

トフル墓上部の草，根の除去作業。

12月3日(月)～12月8日(土)

低地部の深掘り。遺物の集中化は確認できず。A－20～24区の検出作業。

トフル墓，6日より鹿大歯学部　小片教授らによる記録調査開始。墓内の人骨(16～20体)納骨壺・甕（11～14個）等の取り上げ。

6日　小野重朗氏（民俗学）指導のため来跡。

12月10日(月)～12月15日(土)

A－20～24区検出作業。第２層（黒色砂層）より面縄前庭式土器出土。A－20，21区よりそれぞれ集石確認。A－20，21，23～25区の掘り下げ。類須恵器，内黒土師器，青磁片，染付片等が混在。A－25～28区下層の白砂層より嘉徳系土器（ＩＡ式）出土。貝溜り的様相も認められる。

13日　松元助教授（国立民俗学博物館）来跡。14～15日　河口貞徳氏指導のため来跡。

12月17日(月)～12月21日(金)

トレンチ設定（24～33区・A，B，Z区）及び表土剝ぎ。26～29区は，砂採取により破壊を受け，上位の文化層は残存せず。下位に嘉徳式土器が一部残存。

本年これまで。

昭和60年

１月７日(月)～１月12日(土)

A・B－20～24区　大雨による流入砂の取り上げ。その後，25区までの第１文化層（黒褐色砂層）検出。全体的に面縄前庭式土器が出土している。A－21より磨製石斧の半欠品１点出土（全磨製)。小型貝，壊された貝殻多数散布。集石周辺の仕上げ，写真撮影。A・B・Z－29，30区最上面の検出。

１月14日(月)～１月19日(土)

A・B・Z－29，30区　第１文化層の検出。A地点より面縄前庭式文化層の検出。特殊な文様をもつ土器片あり。形式は不明。イソハマグリを中心とした貝溜り２ケ所あり。

１月21日(月)～１月26日(土)

A・B・Z－23～25区，29～33区の検出続行。A－23，24区より黒曜石石片（3点）出土。A・Z－29～33区より集石遺構５基検出。嘉徳式土器伴出。夜光貝製の有孔貝製品（垂飾品）も出土。A－30区に貝溜り。A－21，22区の集石，貝溜り実測，取り上げ。A－26，27区出土品の実測。

１月28日(月)～２月２日(土)

A－20区　集石部検出，実測。A－22区　北側壁面掘り下げ，検出。A－23～25区　掘り下げ，第１文化層の検出。A－26～28区　遺物取り上げ，レベル投入，第２文化層の検出。A・Z－29～33区　掘り下げ，検出，実測。Z－21，22区　表土剝ぎ。A－21～23区　検出

31日～２日　白木原教授（熊大考古学教室）指導のため来跡。

２月４日(月)～２月９日(土)

A－23～25区　第１文化層の検出。A・Z－29～33区　集石等の検出及び実測。遺物取り上げ後，下位包含層の検出。主な出土品は，嘉徳式土器，水字貝の破片，夜光貝製の垂飾（１点)，砂岩製の平扁礫（台石？)。

４日　向山，寺園両係長来跡。８日　成尾教諭（地質学）指導のため来跡。

2月12日(火)～2月16日(土)

A・Z・Y－29，30区の深掘り継続。

雨天の日多し。室内で記録図面の整理等。

2月18日(月)～2月23日(土)

A・Z・Y－29，30区の深掘り続行。

今週も雨のため度々中断。

2月25日(月)～3月2日(土)

A・Z・Y－29，30区の深掘り続行。硬砂層(クール)に掘り込まれた遺構出土。約1.0mの円形で，中にサンゴが積まれている。実測開始。

3月4日(月)～3月9日(土)

A・Z・Y－31，32，33区　深掘り。第4層（中間灰層）の検出。魚骨の上顎部で作った垂飾，動物骨に刻みを施した製品（目的不明），松山系土器，水字貝製利器（釣針?），骨針，骨（人骨？）等出土。A－20，32区　集石実測。A－25　南側断面実測。

8日　日本歴史の基礎研究団一行来跡。

3月11日(月)～3月16日(土)

A・Z・Y－31，32，33区　検出続行。本土系と思われる松山式土器，タケノコ貝製垂飾，面縄東洞式(？)土器2個体分，獣面把手土器等出土。A－26，27，28区　第2回目の遺物取り上げ。その後，検出続行。最終面に近いと思われ，文化層は切断される。特殊土器出土。A－28区より集石遺構出土　実測。

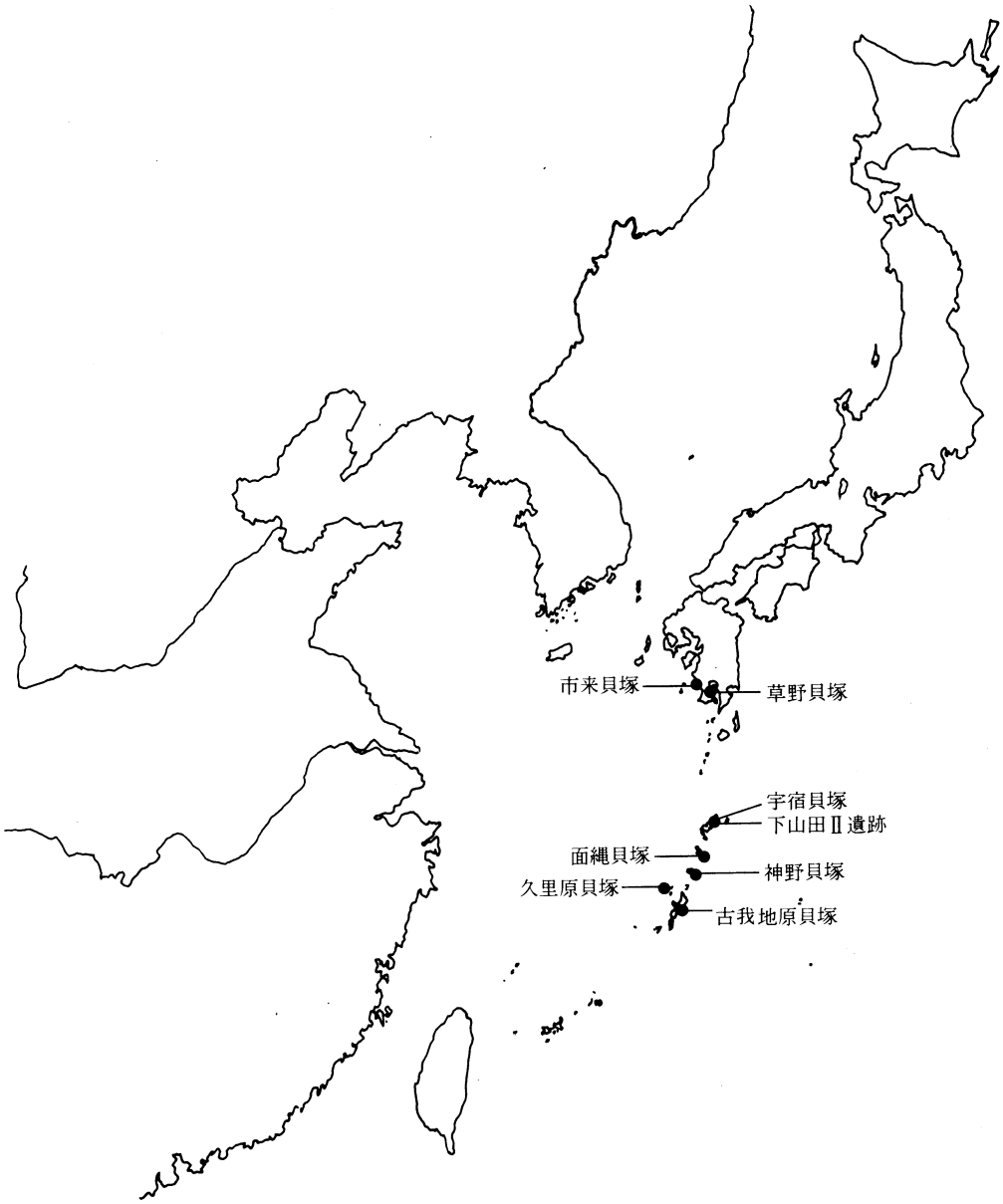
11日　上村教授（鹿大考古学）来跡。14～15日　知念勇氏（沖縄県立博物館）来跡。

3月18日(月)～3月23日(土)

A－31，32区　下位砂層（白砂）検出。面縄東洞式土器1個体出土。その下位より人骨（下顎骨）出土。A－23区　セクションベルトの掘り下げ。本土よりの移入と思われる弥生後期相当の土器底部出土。30区北側壁面検出。第4層より嘉徳系土器出土。第5・6層より加熱された貝，骨が多数出土。

3月24日(日)～3月26日(火)

30区北側壁面第7～10層の検出。7～8層は主として嘉徳系土器，8層の下位に面縄東洞類似土器出土。A－20，21区面縄前庭式土器出土地域の検出。水字貝製利器2点出土。出土品の箱詰め，埋め戻し，事務所の整理等。26日　現地発掘調査，本日午前中をもって全て終了。



第１図　奄美大島の位置図

第２章　遺跡の概要

第１節　遺跡の位置と環境

下山田Ⅱ遺跡は，大島郡笠利町万屋字下山田に所在する。また，和野トフル墓は，同じく笠利町和野長浜金久に所在する。

本遺跡のある笠利町は，奄美大島の最北端に位置し，南北約15km，東西約 4.5kmの細長い半島にある。この半島の中央部には，高岳・大刈山・淀山等が南北に連なり，この中の，最高峰高岳は〝アマンデーの丘〟と呼ばれ，天孫降臨の地として伝承されている。なお，このアマンデーの丘は，笠利町を東西に分断する形で連なっている。その結果，本遺跡のある東海岸一帯は，冬期の冷い季節風がさえぎられるために，直接吹きこむことがなくなり，生活上格好の場として生活の舞台となってきた。そのため，この東海岸一帯は，古くより多くの先史・古代遺跡の存在することが知られていた。

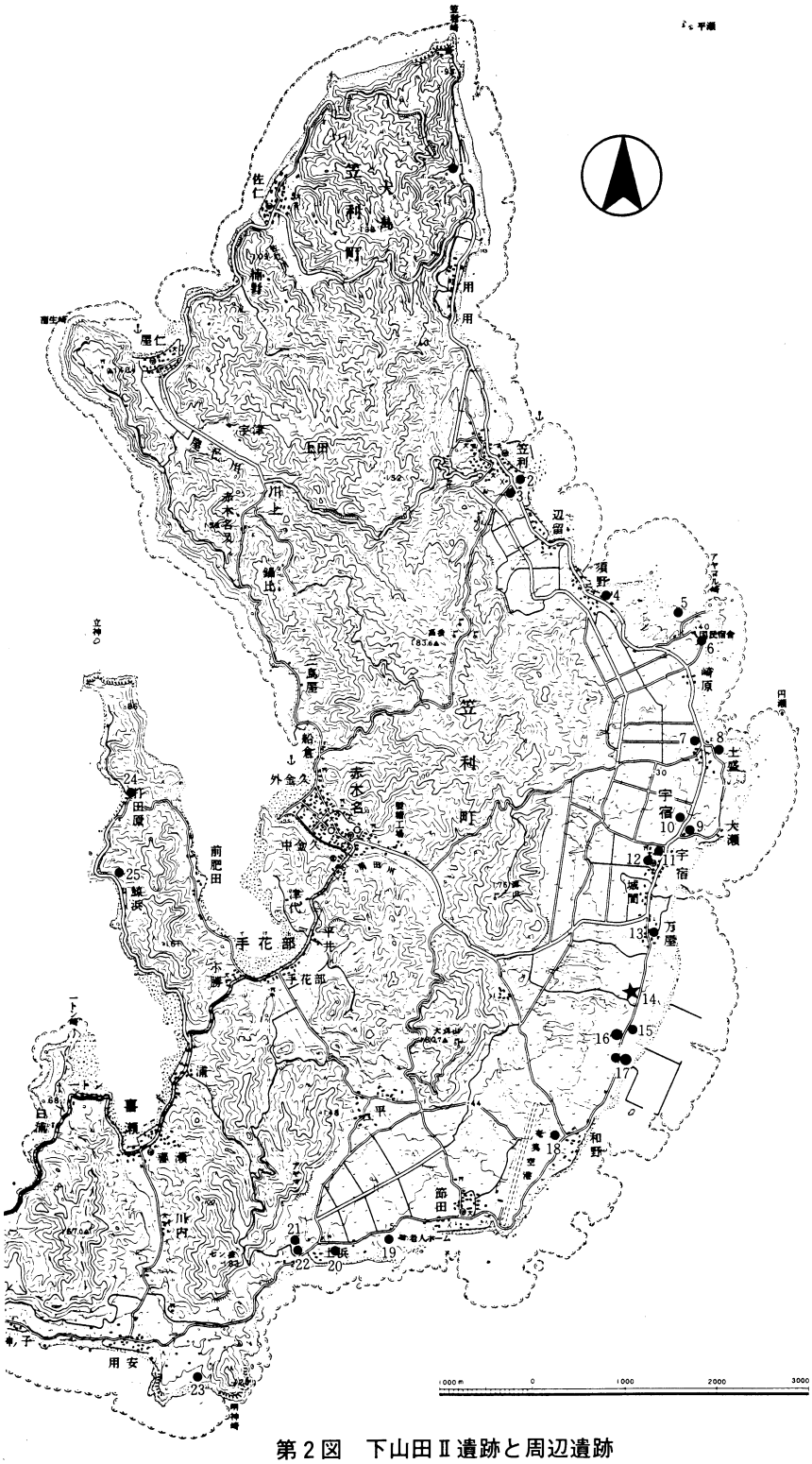
また，奄美大島を中心とする〝南島〟は，黒潮軸流と平行して連なり，そのため，〝道の島〟とも呼ばれ，日本文化の源流及び伝播を知るうえで貴重な位置にあり，多くの研究者が研究に取りくんできている。

本遺跡の所在するこの一帯は洪積台地の裾部に形成された旧期砂丘（後氷期海進に形成）と，旧期砂丘と接触しながら海岸へと伸びる新期砂丘が見られる。これまでの調査の結果，旧期砂丘上には，縄文時代前期から弥生時代前半の遺物が包含される遺跡の多いことが知られてきている。また，旧期砂丘と新期砂丘の接触部分では，弥生時代中期から弥生時代後期の遺跡が存在していることが明らかとなり，さらに，最も海岸線に近づく新期砂丘の上には，その後の古代の遺跡が数多く包含されている。

また，最近では，旧期砂丘の下位に堆積している火山灰層（アカホヤ火山灰層）の下に，石器及び剝片の存在することが明らかとなり，南島文化が少なくとも縄文時代早期にまでさかのぼれることが明らかとなりつつある。

南島先史学の開拓者であった，三宅宗悦は，昭和８年に南島の各島々を探索し，〝宇宿貝塚〟を訪ずれ，試掘調査を行ない，その結果は，「南島の先史時代」というタイトルで人類学先史講座に，その成果を発表し，貝塚や獣骨・魚骨等の存在することを記している。その後，昭和29年に結成された〝奄美大島学術調査団〟に加わった河口貞徳により，宇宿貝塚の本格調査が行われ，南島先史時代研究の幕が切っておとされた。この発掘調査で，南島先史時代研究の骨格となる〝宇宿下層式土器〟〝宇宿上層式土器〟が確認されている。

その翌年の昭和30年には，九学会連合奄美大島共同調査委員会が再度調査を行ない，石組住居祉の発見，さらに，宇宿下層式土器と本土からの移入と思われる市来式土器の共伴が確認され，ますます研究が大きく進み，今日にひき継がれている。



第２図　下山田Ⅱ遺跡と周辺遺跡

表1　下山田Ⅱ遺跡と周辺遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地	時期	出土遺物	文献
1	用長浜遺跡	笠利町用字長浜	古墳	兼久式土器・石器・貝殻	②
2	辺留城遺跡	〃　辺留城	中世	青磁・類須恵器	②
3	辺留窪遺跡	〃　辺留窪	古墳～	兼久式土器・青磁・石器	②⑫
4	コビロ遺跡	〃　須野コビロ	近世	埋葬人骨	②⑫
5	あやまる第2貝塚	〃　〃　字大道	縄文～古墳	面縄前庭式・弥生土器・土師器・兼久式土器	③
6	あやまる第1貝塚	〃　〃　須原	古墳～	類須恵器	①
7	喜子川遺跡	〃　喜子川	縄文	爪形文土器	⑳
8	土盛遺跡	〃　土盛	古墳～	兼久式土器・骨角器	②
9	宇宿港遺跡	〃　宇宿字港	弥生～	弥生土器・貝殻・人骨	④
10	宇宿貝塚	〃　〃　大道	縄文～弥生	住居跡・人骨・市来式土器・面縄東洞式土器・石器他	①⑤⑥⑦⑧
11	宇宿高又遺跡	〃　〃　高又	縄文	条痕文土器・曾畑式土器・面縄前庭式土器 他	⑨
12	宇宿小学校遺跡	〃　〃	縄文	宇宿下層式土器	⑦
13	万屋遺跡	〃　万屋	古墳～	兼久式土器・貝殻	②
14	下山田Ⅱ遺跡	〃　〃　字下山田	縄文	面縄前庭式土器・嘉徳式土器・石器・貝製品・骨角器	⑩　本文
15	泉川遺跡	〃　〃　長浜	奈良・平安	兼久式土器・貝殻	⑪
16	ケジ遺跡	〃　〃　ケジ	縄文	曾畑系土器・面縄前庭式土器 他	⑫⑬
17	長浜金久遺跡群	〃　和野字長浜	縄文～平安	嘉徳系土器・兼久式土器・住居祉・貝製品・骨角器	⑭⑮⑯
18	ナビロ川遺跡	〃　〃　ナビロ川	古墳～	兼久式土器・石器	⑦
19	立神遺跡	〃　節田	古墳～	兼久式土器・石器・貝殻・人骨	②
20	土浜遺跡	〃　土浜	古墳～	兼久式土器・石器・貝殻・人骨	⑳
21	ヤーヤ洞穴	〃　〃	縄文～弥生	爪形文土器・弥生土器・貝符・石器・貝輪	⑤⑰
22	土浜ヤーヤ遺跡	〃　〃	旧石器・縄文	石器（磨製石器・石斧・石鏃）	⑱
23	明神崎遺跡	〃　用安字入瀬	弥生	弥生系土器・貝殻	②
24	サウチ遺跡	〃　喜瀬字サウチ	縄文・弥生	住居跡・人骨・面縄西洞式土器・弥生土器・貝符	②
25	鯨浜遺跡	〃　〃　鯨浜	古墳～	類須恵器	①⑲

〈地名表作成文献〉

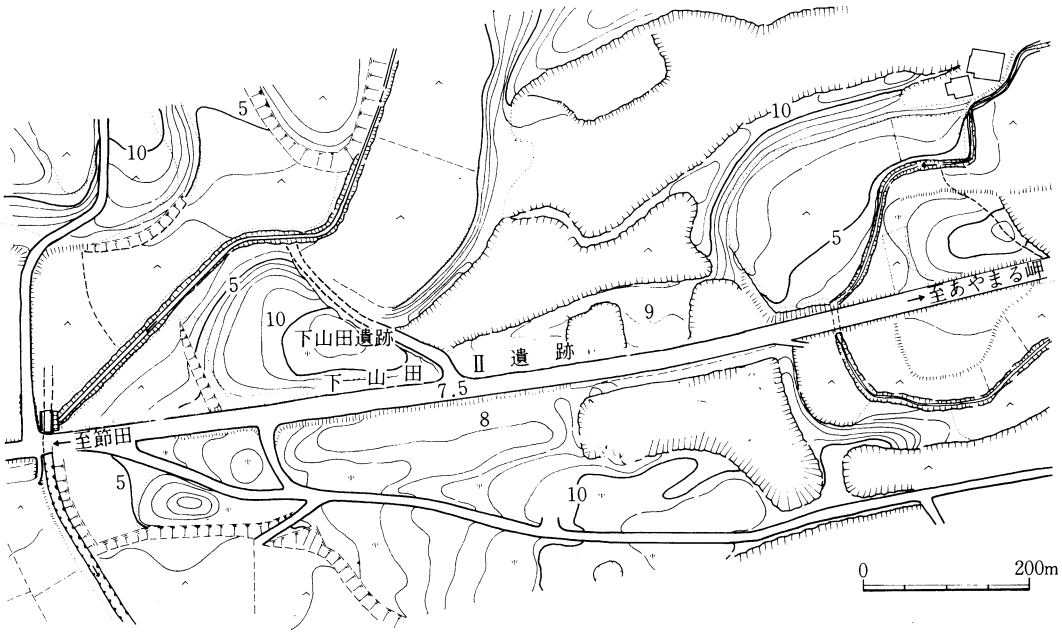
① 『笠利町郷土誌』　笠利町　1973
② 中山清美「奄美大島の先史遺跡」『南島史学 17・18』
③ 笠利町教育委員会「あやまる第２貝塚」『笠利町文化財調査報告　7』1984
④ 笠利町教育委員会「宇宿港遺跡」『笠利町文化財調査報告　4』1981
⑤ 三宅宗悦「南島の先史時代」『人類学先史学講座　16』　雄山閣　1941
⑥ 河口貞徳「南島先史時代」『南方産業科学研究所報告　第１巻２号』1956
⑦ 国分直一・河口貞徳。曽野寿彦・野口義磨「奄美大島笠利村宇宿貝塚発掘報告」
『美－自然と文化』　九学会連合奄美大島共同調査委員会　1959
⑧ 笠利町教育委員会「宇宿貝塚」『笠利町文化財調査報告』1979
⑨ 笠利町教育委員会「笠利町高又遺跡」『笠利町文化財調査報告　2』1978
⑩ 笠利町教育委員会「城遺跡・下山田遺跡・ケジⅢ遺跡」『笠利町文化財調査報告　8』1986
⑪ 鹿児島県教育委員会「泉川遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　39』1986
⑫ 笠利町教育委員会「ケジ遺跡・コビロ遺跡・辺留窪遺跡」『笠利町文化財調査報告　5』1983
⑬ 鹿児島県教育委員会「ケジⅠ・Ⅲ遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　38』1986
⑭ 鹿児島県教育委員会「長浜金久遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　32』1985
⑮ 鹿児島県教育委員会「長浜金久遺跡（第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡）」
『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　42』1987
⑯ 鹿児島県教育委員会「長浜金久遺跡（第Ⅱ遺跡）」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　46』1988
⑰ 永井昌文・三島格「奄美大島土浜ヤーヤ洞窟遺跡調査概報」『考古学雑誌　50巻2号』1964
⑱ 鹿児島県教育委員会「土浜ヤーヤ遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書　47』1988
⑲ 笠利町教育委員会「サウチ遺跡」『笠利町文化財調査報告』1978
⑳ 中山清美氏（笠利町歴史資料館）教示

第２節　遺跡の概要

発掘調査前の遺跡の最高位は，９～10m程で，遺物包含層の最深部は 6.5m程であった。調査対象区域は，県道に平行した山手側で約 200mの距離がある。対象区域内には未買収の民有地や，すでに破壊された場所もあり，便宜上，３地区に区分して調査を実施した。南側部分を第１地点，未買収地区から砂取工事により破壊された地区までA－20区，A－24区，Z20～Z－24区までを第２地点，その北側A－25区～33区，Z－29区～33区，Y－29区～33区を第３地点とした。

第１地点

わずかな地域（８区～11区）に遺物が分布し，下層に曾畑式土器，上層に面縄前庭様式（神野C式土器か）が出土した。なお，この遺物出土地域は昭和60年度笠利町が実施した国庫補助事業の下山田遺跡の一部である。遺跡の主体部分は笠利町の実施した丘陵の平坦面の部分であり，今回の調査区は丘陵の末端に相当し，急角度で東側（現道方向）へ落ち込んだ場所である。



第3図　遺跡の概要図

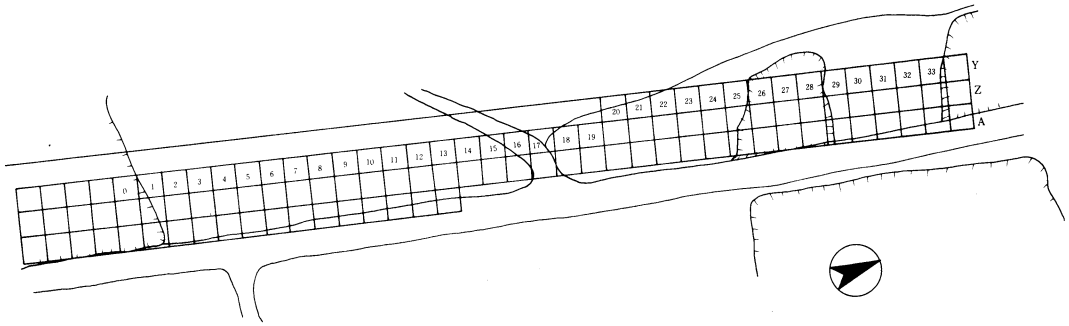
第2地点

主に白砂層中に面縄前庭式土器とその前後の土器が出土した。面縄前庭式土器は，散在的ではあるが集石遺構を伴っている。

第3地点

25区～28区は，発掘調査を前に砂採取のために破壊された所であり，遺物包含層の中心部はすでに運び去られていた。その為，かろうじて道路側の一部で最下層面が検出できた状況であった。残された部分は，これ以上，砂採取を続行すると道路の崩壊が起こる可能性が高い場所である。自然遺物では，マガキガイを中心に，シャコガイ，チョウセンサザエ，クモガイ，ホラガイ等が散在し，それらの中に土器片，石器等が含まれている状況であった。29区から33区での出土量が最も多く，今回の中心的場所である。

Y区（山側）よりA区（海側）にかけて遺物包含層が深く潜み込んでいた。遺物包含層も厚く，表土直下より最下部の第9層まで，連続して多量の遺物が検出された。最も深い所では表土下－ 2.7m程に達している。



第4図　下山田Ⅱ遺跡のグリッド配置図

出土遺物は，人工遺物では嘉徳ＩＡ式・面縄東洞式・面縄前庭式土器等が主で，その他，叩石を中心とした石器類，貝製品，骨製品等である。自然遺物では，貝殻が最も多く，魚骨，獣骨等も出土している。

遺構は，集石遺構が14基，特異な遺構としてサンゴを敷きつめてそのサンゴを加熱したものもある。最下層では，人の下顎骨も２例出土し注目される。

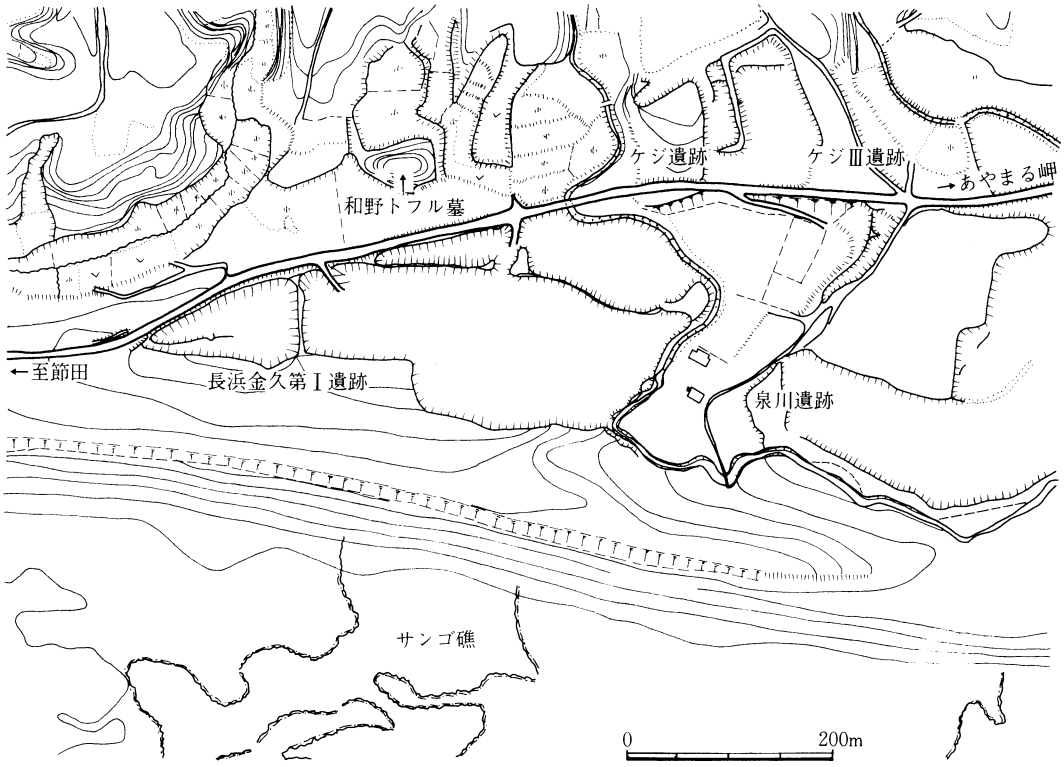
和野トフル墓

南島特有の墓制であり，本遺構の所在する奄美大島北部では，〝トフル〟〝トフル墓〟と呼称されている。

この墓制の特徴は，洗骨して改葬することにある。それらの工程は，先ず遺体を風葬又は土葬することに始まり，埋葬後おおよそ３年から13年経過すると再度掘りだし，その掘り出した骨を海水で洗浄し，壺や甕に納め，それをトフル墓と呼ばれる集団墓に祀る。

本例は，地元で「クール」と呼ばれる露出した小丘陵を形成する固結砂丘に，横穴を穿ち納骨している。横穴は，幅80cm程の入口が設けられ，最深部が最も広く 290cmで，三味線の胴張り状を呈している。床面より天井までは100～130cmで，天井はドーム状を呈している。納骨した壺や甕は右壁，奥壁，左壁に「コ」の字状に並んでおり，部屋の壁に添うように並んでいたと思われる。

副葬品は，寛永通宝３枚，染付の徳利，薩摩焼の白磁碗，天目様の碗等が出土している。



第５図　和野トフル墓の位置図

第3節　層　序

A－25区　北　壁

1a　表層，蘇鉄や雑木等の腐植物等による褐色の砂質層

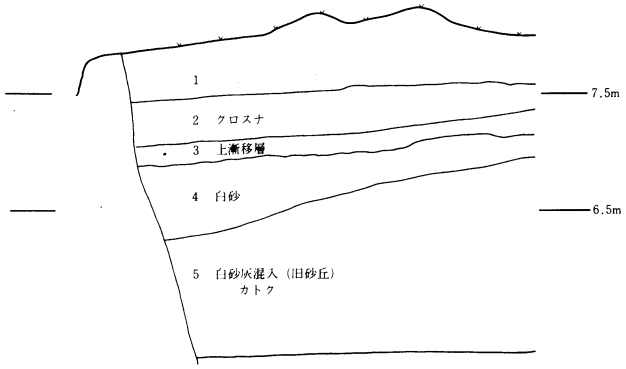
1b　表層からの掘り込みによる攪乱層

2　茶色の濃い褐色の砂層で，有機物を多く含む。

3　黄褐色の砂層で，上位の2層の漸移層的様相が濃い。

4　白色砂層。純白の砂層で，遺物などは含まない。

5　白色砂層であるが，4層よりも汚染は進行し，灰や多くの遺物を含んでいる。(包含層)



第6図　A－25区北壁土層断面図

A・Z・Y－31区南壁

1　種々の汚染のみられる表層である。調査前の洗掃作業もあり部分的にしか残存しない。

2　茶褐色の砂層で，クロスナ期に相当し，腐植質の有機物を多く含む。(包含層)

2b　Y－31～X－31区のみ堆積し，基盤の頁岩の腐植礫と風化土が砂層と混り合った層。

3　白色砂層で，カーボン等の不純物はほとんど含まない純白の砂層で遺物は含まない。

4　全域に堆積し，灰混りの砂層で多くの遺物を含んでいる。層質は軟質である。(包含層)

5　Z－31区に部分的に堆積し，灰を主体とした層で，灰色で軟質の砂層である。(包含層)

6　灰が固結した層で極めて硬質の層である。(包含層)

6a　黒色の灰層でやや軟質。(包含層)

6b　灰黒色の灰層でやや軟質。(包含層)

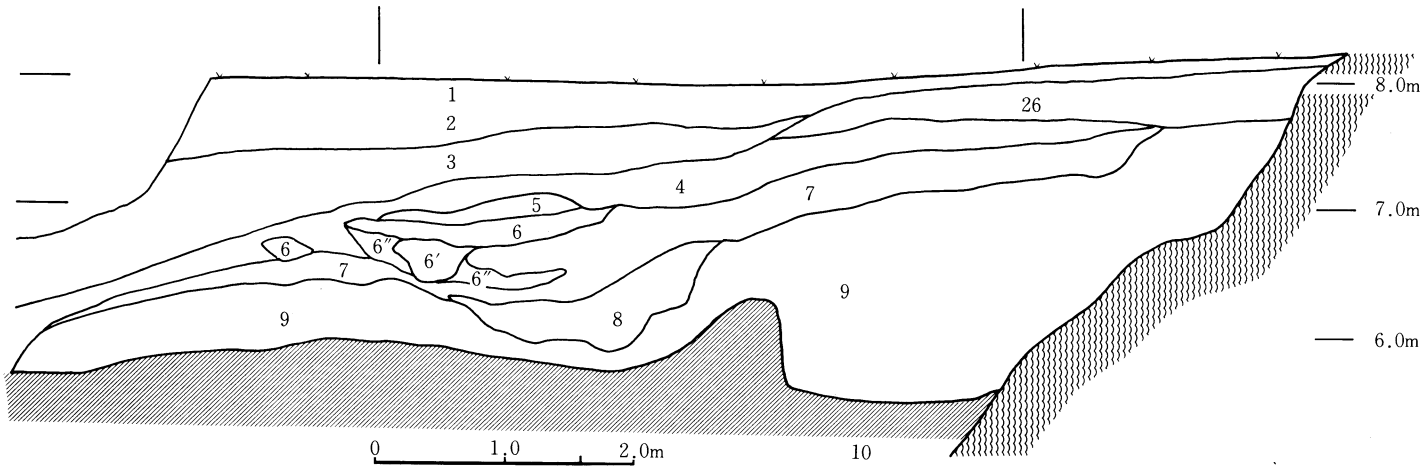
7　4層が堆積する直前の層で，4層と類似している。多くの遺物を含んでおり，4層と比べるとやや灰の汚染が少なく白色が強くなる。(包含層)

8　多くの炭化物を含む黒色の灰混り砂層であり，層質は軟かい。カーボンの他貝殻等も多く含んでいる。(包含層)

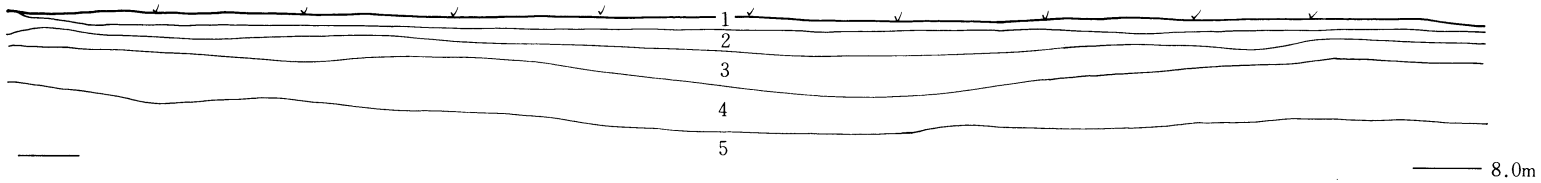
9　白色の砂層で，カーボンや灰はほとんど含まれない。(包含層)

10　〝クール〟と呼ばれる固結砂層で，白色である。

11　頁岩の基盤（岩盤）で，名瀬層と呼ばれる。



31区南壁土層断面



A－9・10区西壁断面図

第7図　下山田Ⅱ遺跡土層図

第4節　下山田Ⅱ遺跡の地層

鹿児島市立玉龍高等学校教諭　成尾英仁

1）地　形

①　遺跡周辺の地形

下山田Ⅱ遺跡のある笠利町は，奄美群島中最大の島である奄美大島の最北端に位置しており，東側は太平洋に西側は東シナ海に面している。奄美大島は全体として中～南部は険しい山岳地帯であるが，北部の笠利町付近は海岸部に平坦な地形が多く，ここに奄美大島の遺跡の大部分が集中している。

笠利町の地形は第8図にあるように，東側は平坦で緩やかに海側に傾斜する段丘が広がっているが，西側は山脚がそのまま海に沈んでおり，比較的険しい地形となっている。最高所は笠利町の中央にある高岳で，標高 180m のやや開析の進んだ山である。笠利町では北の笠利崎から町境の神子にかけて，標高 150m 前後の山が背骨のように南北に並んでいる。

笠利町では一般に山が低く土地が狭いため河川の発達が悪く，平野は河口付近にごくわずかしかみられない。笠利町で大きな河川は北部にある屋仁川と，中央部にある前田川である。いずれも東シナ海に流れており，長さは約4km内外と短い。しかし標高 150m 前後の山から流下するため，流れは比較的急である。

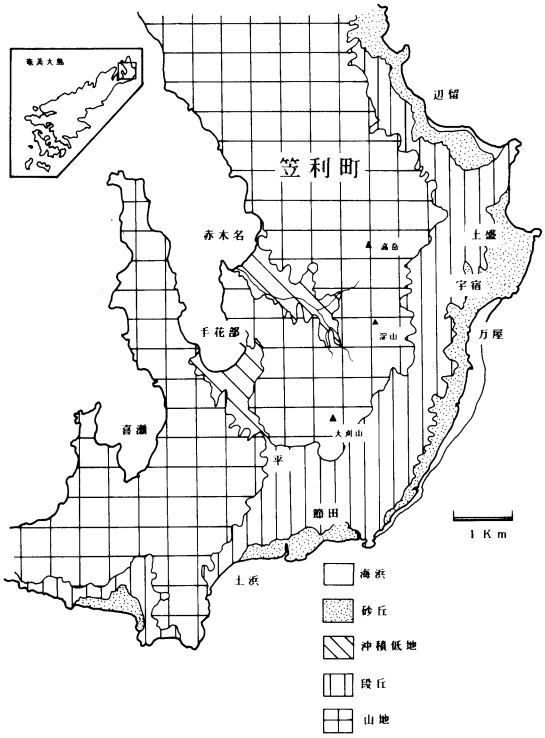
笠利町の西側は，河川により形成されたごくわずかの平地を除いて，山地が広がっているが，東側では平坦な段丘地形が見られる。

一般に奄美群島では段丘の発達が著しいが，奄美大島では北部の笠利町の東側にわずかに見られるにすぎない。

この段丘は数段に分かれており，大きく高位段丘・中位段丘・低位段丘の3段に区分することができる。

笠利町では標高10m～20m の中位段丘がよく発達しており，その内部はいくつかの小さな段丘に区分することができる。この段丘は節田から崎原にかけて発達する。

段丘が最も良く発達する宇宿付近では，

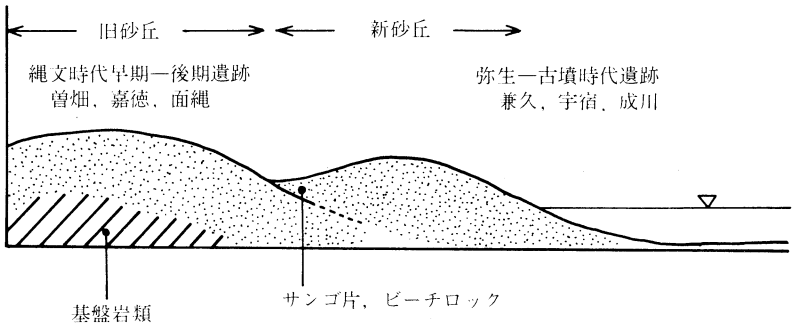


第8図　笠利半島の地形区分図

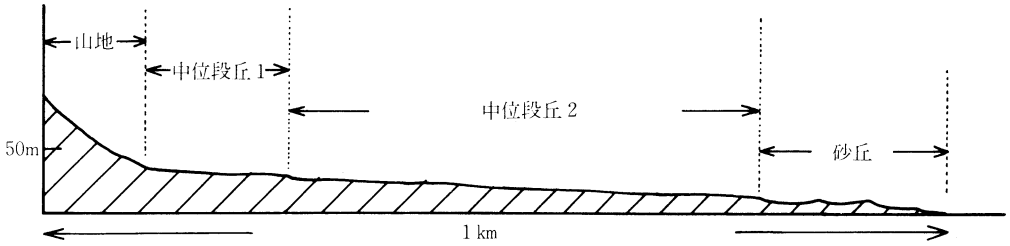
段丘の幅約 1.5km高低差約40m で東側に緩く傾斜している。

段丘が海に接している部分では砂丘が見られる。段丘同様に砂丘も笠利町の東側に発達しており，西側海岸ではほとんど見ることができず，日本の大半の砂丘が西側の日本海側に発達していることと，著しい相違をみせている。

砂丘は遺跡のある和野から土盛にかけて発達しており，そこでは海岸に平行に最大幅約500m高さ約20m である。砂丘は新旧二つに区分することができるが，古いものはやや幅が狭く高さも低い。海岸部においては現在も砂丘が形成されつつある。



第 9 図　段丘断面図



第10図　砂丘概念図

②遺跡の地形

第9･10図にあるように遺跡周辺の地形は，段丘末端の小砂丘になっている。ここでは段丘の高さは約15m であり，それを覆うような形で砂丘堆積物が乗っている。段丘を構成する堆積物は，基盤の和野層・名瀬層と砂礫層である。

遺跡周辺では風化した頁岩の上に直接砂丘堆積物が乗る場合と，数枚の古土壌を挟んで乗る場合とがあるが，いずれの場合も下部の砂丘堆積物は，硬く固結したサンゴ片・有孔虫片・サンゴ藻などからできており，ところどころにルーズな砂が薄く挟まっている。

一方海岸により近い所にある砂丘は，この硬い砂丘堆積物を覆って堆積しており，サンゴ片・有孔虫片・サンゴ藻などからなるが，ルーズでサラサラしている。

またこの砂丘はまだ開析が進んでいず，連続性が良好であるのに対し，山側にある固結した

砂丘の方は開析され，小谷により細かく分断されている。

固結砂からなる砂丘と，未固結砂からなる砂丘との間は６～８ｍで少し低くなっており，ここはいわゆる後背湿地に相当するが，現在は埋め立てられ道路となっている。

２）遺跡と周辺の地質

① 遺跡周辺の地質

遺跡周辺に分布する地層は，四万十帯に属する名瀬層と古第三系の和野層，およびそれらを不整合に覆って堆積している第四系の平層・砂丘堆積物である。名瀬層は遺跡の直接の基盤岩となっており，風化しボロボロになった黒色の頁岩が主体である。遺跡西側の山地もこの名瀬層によってつくられており，大部分の地域で激しくかく乱を受けている。このため走向・傾斜は場所により著しく異なっているが，概ね北東－南西で西に傾斜している。和野層は主に黄色の中～粗粒の砂岩から構成され，名瀬層ほどはかく乱は受けていない。しかし遺跡西の台地では，短い周期の褶曲がみられる。走向・傾斜は概ね名瀬層と同じである。

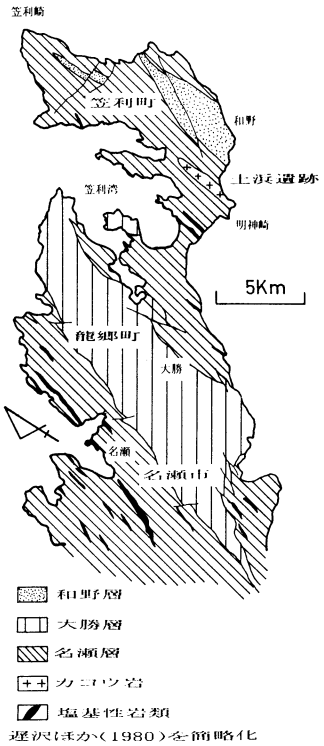
平層は段丘をつくっている堆積物であるが，宇宿から和野・平にかけて名瀬層と和野層を薄く覆って堆積している。宇宿・和野地区では主に親指大の円礫を含む砂礫層から構成されている。海岸からやや離れた段丘面では，この上に茶褐色の古土壌を挟んで火山灰様土や黒茶色土が堆積し，さらに厚さ数十cmで砂層が薄く堆積している。

この薄い砂の層は海岸部から約１km内陸部まで見られる。

遺跡の周囲で見られる砂丘は，固結した砂からなる砂丘であり，厚さ約15ｍで堆積している。この砂丘が下部の風化赤黄色土と接している部分では，砂は特に硬く板状となっており，一見するとビーチ・ロックのようである。

遺跡南側の断面ではこの砂丘内部が露出しており，そこでは全体として海側に緩く傾斜しながら堆積し，小規模のクロス・ラミナが発達している。

この固結砂層の中程に，厚さ約15cmのルーズな中粒砂があり，さらにその中部に赤色粘土が挟まっている。



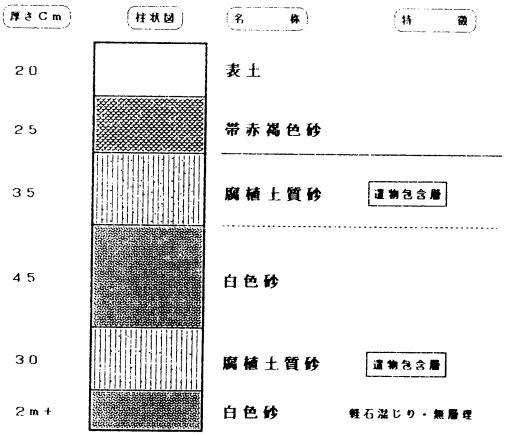
第11図　笠利半島地質図

② 遺跡の地層

遺跡の堆積物は場所により若干の相違があるが，基本的には基盤の風化した頁岩層の上に乗る固結した砂層と，それを覆っている未固結の砂層からなる。そして上位の砂層の中には黒色を帯びたクロスナ層が挟まれている。

遺跡の最南端のトレンチでは河川堆積物のみが見られ，大小のサンゴ片・固結砂層の破片などが雑然と堆積し，さらに親指大の砂岩・頁岩礫の混じった砂礫層や，青灰色をしたグライ土様の粘土などがレンズ状に挟まっている。標準的なトレンチでは，貝やサンゴ片を含んだ粗粒の固結砂層があり，その上に貝殻などを含むルーズな未固結砂層がある。この層の上部に近い部分にはやや薄い黄色をした砂層があり，この中に風化し若干粘土化したスコリアが挟まれている。海岸から少し内側にはいったトレンチでは，ルーズな未固結砂層の上部に二枚のクロスナ層が挟まれている。

その厚さは約30～40cmであり，上の層が黒色が強い。クロスナ層の連続性はあまり良くなく，場所によってはレンズ状に消滅している。



実線より上は新砂丘堆積物、下は旧砂丘堆積物
遺物包含層は黒色をおびたクロスナ層である。

第12図　遺跡の砂丘堆積物

③ 砂丘の形成時期

奄美諸島には一般に砂丘が発達しているが，その規模や立地する場所は島毎に異なっている。しかし砂丘の在り方は琉球列島の中～部を通じておおよそ同じで，外海側にリーフがありその内側に礁湖がひろがり，海岸線に沿ってビーチ・ロックがあって，そこから砂丘となっている。

ところで前述のように遺跡周辺には，固結した「クール」とよばれる砂からなる砂丘と，未固結の砂からなる砂丘とがある。

周辺遺跡の調査によれば，固結した砂丘からなる砂層の上部からは，縄文時代前期の曾畑式土器が出土し，さらに上からは面縄前庭式土器が出土している。[1] また遺跡のすぐ南側にあるケジⅠ・Ⅱ遺跡では，曾畑系土器を含む層の炭素14法による年代で5080±50 Y.B.P.が得られている。

このようなことからこの砂丘層の形成時期は，少なくとも縄文時代前期まではさかのぼることになるが，その開始時期が何時であったかは，考古学的遺物からだけでははっきりしない。

奄美大島の東側にある喜界島での炭素14法による年代測定値から，三位・木越は新期砂丘は縄文海進以後に形成され，新砂丘Ⅰと新砂丘Ⅱに区分されることがわかった。そして新砂丘Ⅰ

は，表面に10cm前後の土壌が発達している。[2]

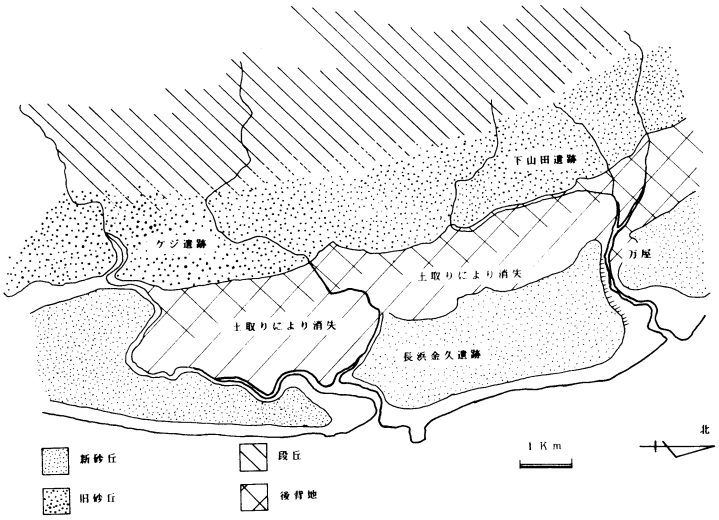
奄美大島の砂丘の堆積物や堆積構造は，喜界島の砂丘で見られるものとほとんど同じであり，形成の時期も同じと考えられる。喜界島では27,200±1,200 Y.B.Pの湾層の上に，固結して岩石化した砂丘堆積物が不整合に堆積しており，立川期の風成砂層とされている。

奄美大島北部では固結砂丘の直下に火山灰質土壌があり，さらにその下に基盤の頁岩層などが見られる。この火山灰質土壌の中からは，鬼界カルデラ起源のK－Ah 火山灰が検出されており，砂丘の形成時期は，少なくとも縄文時代早期までさかのぼると思われる。[3]

この砂丘の上に不整合で堆積し，海岸側に近いところにあるルーズな砂丘には，遺跡周辺では宇宿式土器や兼久式土器・山ノ口式土器・成川式土器が出土しているが，縄文時代の遺物は出土していない。[4]

このようなことから下位の固結した砂丘は，井関による縄文海進期に形成された旧期砂丘に対比され，これを不整合に覆っているルーズな未固結砂丘は，弥生時代以降形成された新期砂丘に対比されると考えられる。

遺跡内におけるルーズな砂丘堆積物は固結砂丘から連続しており，この中に縄文時代後期の遺物が含まれていることから，旧期砂丘の堆積は縄文時代後期まで続いたと思われる。



第13図　遺跡付近の砂丘

文　献

① 鹿児島県教育委員会(1986)：ケジⅠ・Ⅱ遺跡　鹿児島県教育委員会

町田　広・新井房夫(1983)：広域テフラと考古学　第四紀研究　22.133～148

② 井関弘太郎(1975)：砂丘形成期分類のためのインデックス　第四紀研究　14.183～188

遅沢壮一ほか(1979)：奄美大島の地質(第1報)　琉球列島の地質学研究4 p. 95～105

③ 鹿児島県教育委員会(1988)：土浜ヤーヤー遺跡発掘報告書

④ 笠利町教育委員会(1983)：ケジ遺跡・コビロ遺跡・辺留窪遺跡　笠利町教育委員会

第 3 章　下山田Ⅱ遺跡の調査

第1節　第1地点

第1地点は，最も南側の低地部分と，1区～16区へかけての小丘陵の先端部に相当する部分とに分けられる。

今回の調査区域の南側の位置は，標高4～5m程の低地である。

すでに，砂採集や耕地開墾のために削平され，大きく地形が変えられており，予想された包含層はすでに消失していた。そのため，重機（バックホー）による確認調査を実施したが，人工遺物等の検出は認められていない。また，小河川に近い一部で，旧海岸線（汀線）と思われる状況を検出したが，冠水のため，それ以上の検出，確認は困難となり断念した。

1区から16区は，独立した小丘陵の南側部分で，丘陵の先端部に相当する。また，丘陵には，砂丘が覆いかぶさる状況である。独立した丘陵の西側は湿地帯で，丘陵と湿地帯の間は小河川により分断される状況である。元来，この小丘陵は，西側後方に広がる畑地帯（洪積台地）の先端部であったと思われるが，旧期砂丘形成時や，その後の河川の運動や，人為的開墾のために現況を呈することとなったと思われる。

調査の結果，出土遺物は，A－8区から9・10・11区にかけて出土し，特に10区を中心に分布していた。出土状況も，丘陵の地勢に応ずるように孤状に認められ，遺跡の中心部が後方(地区外）の平坦地であることがわかる。

1）土　層（第7図）

Ⅰ層　表層……蘇鉄，雑木等による腐植質層

Ⅱ層黒褐色砂層……Ⅰ層との区分が困難な場所もある。（腐植質の砂質）クロスナ期か。

Ⅲ層　黒灰色砂層……腐植質の強い砂層で，遺物包含層

Ⅳ層　褐色砂層……Ⅲ層程の腐植化はみられない，砂質はザラザラしている。遺物包含層。

Ⅴ層　白砂層……汚染の少ない白砂層

2）遺物分布状況（第15図）

図に示したのが第1地点（Z，A－8・9・10・11区）の遺物出土状況である。

約70点程の出土があり，9区から10区へかけて孤状に広がっていることが分かる。

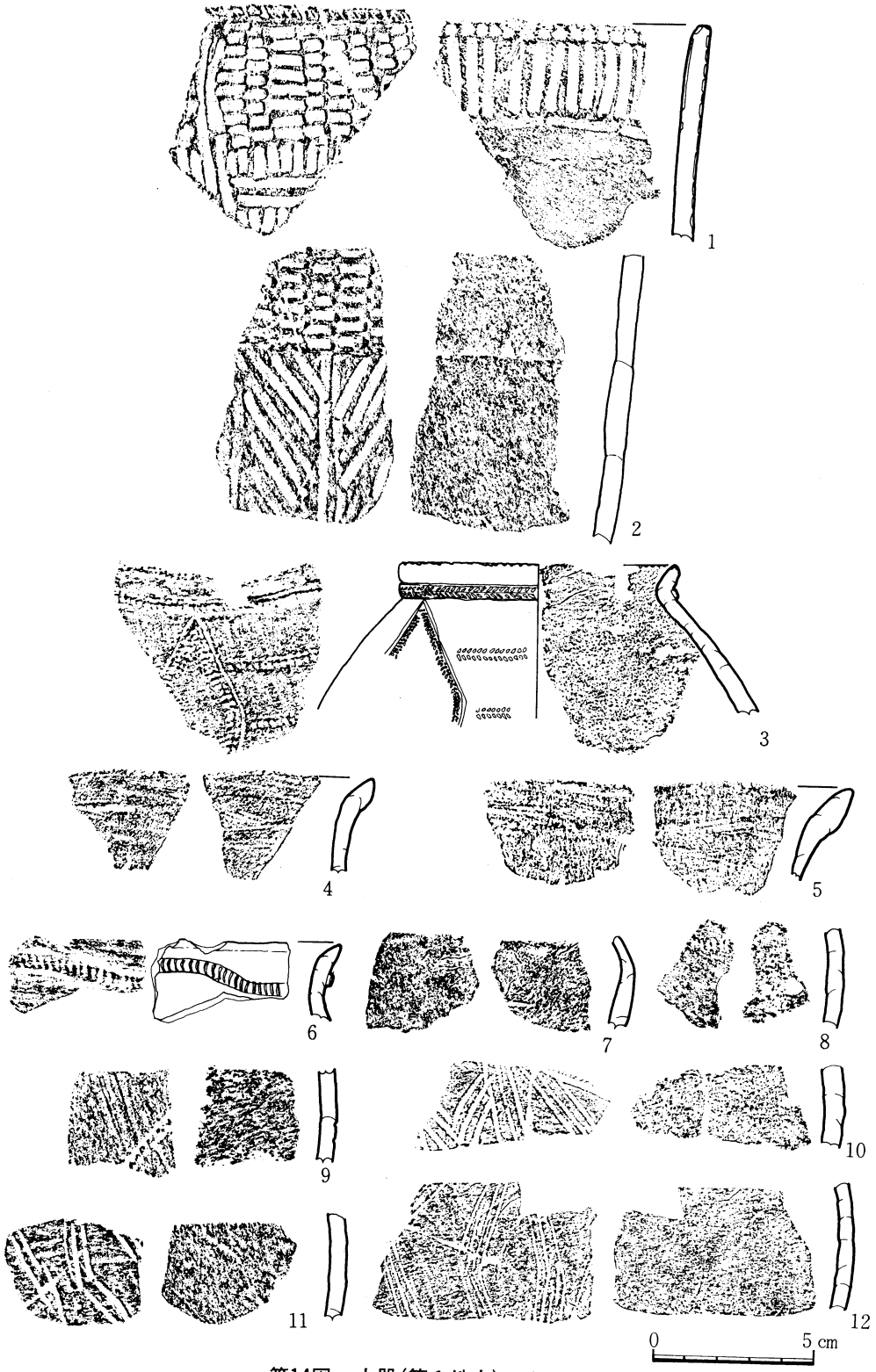
3）出土遺物（第14，16，17図）

60点程検出し，それらの内，土器片22点，石器4点を図示している。

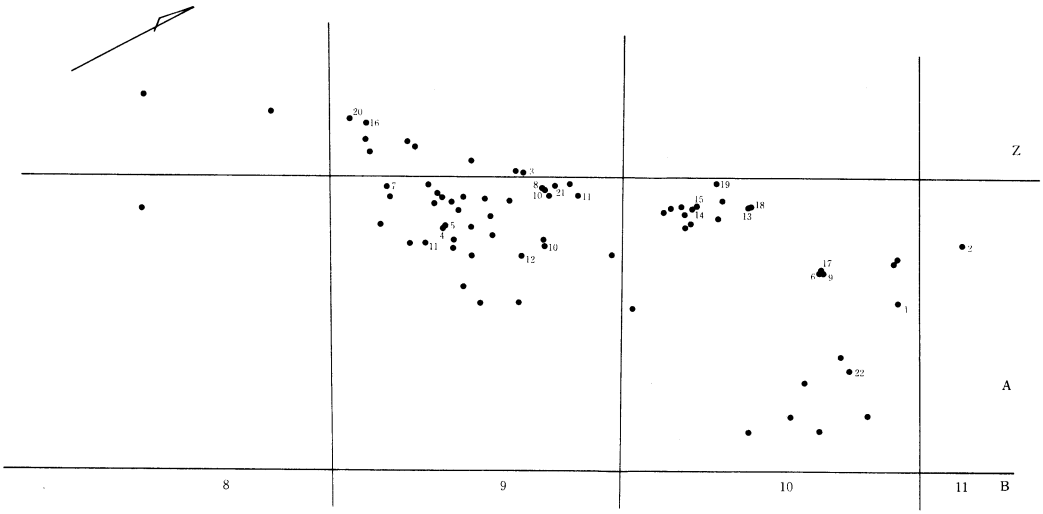
Ⅰ類　（1・2）Ⅰ類土器は，aとb類に細分し，ここ第1地点ではⅠ－a類土器だけが出土している。

薄手で硬質のもので，ヘラによる短沈線を施文の基本としている。

1と2は同一個体と思われ，口辰部外面と連続にヘラ刻目，内面にヘラの連続押圧が施される。



第14図　土器(第１地点)－１



第15図　第１地点出土遺物分布図

また，内面には，縦位の短沈線が区画文の後に施されている。外面は，器体のかなりの部分まで施文がなされたと思われ施文のため区画がなされた可能性もある。

Ⅲ類　（**3**～**22**）Ⅲ類はａ，ｂに細分し，ａは，沈線と刺突文により文様を構成したもの。ｂは，頸部は原則として無文であり，また刻目突帯を持つものである。胴部は明確ではないが，10，11の様な複合鋸歯文等も描かれている。

ａ類（**3**，**8**，**9**）叉状工具や半截竹管，ヘラ状工具で連続刺突を施し，文様を描いたもので，出土量は図示しただけの３点である。

3では，頸部はかなり締り胴部が大きく膨む器形を示している。３の整形は細い粘土紐を積み重ねていたことが内面の状態から判断できる。

ｂ類　（**4**～**6**，**10**～**21**）

4と**5**は同一個体の可能性が強いもので，口縁部は舌状に膨み施文は認められない。**6**では頸部（屈曲部）に蛇行する隆帯を貼り付け，叉状工具で刻み目を施している。なお，この間は，施文は認められない。他の**21**までの胴部片および底部片は，その色調等から見て，この類のいずれかに属するものである。

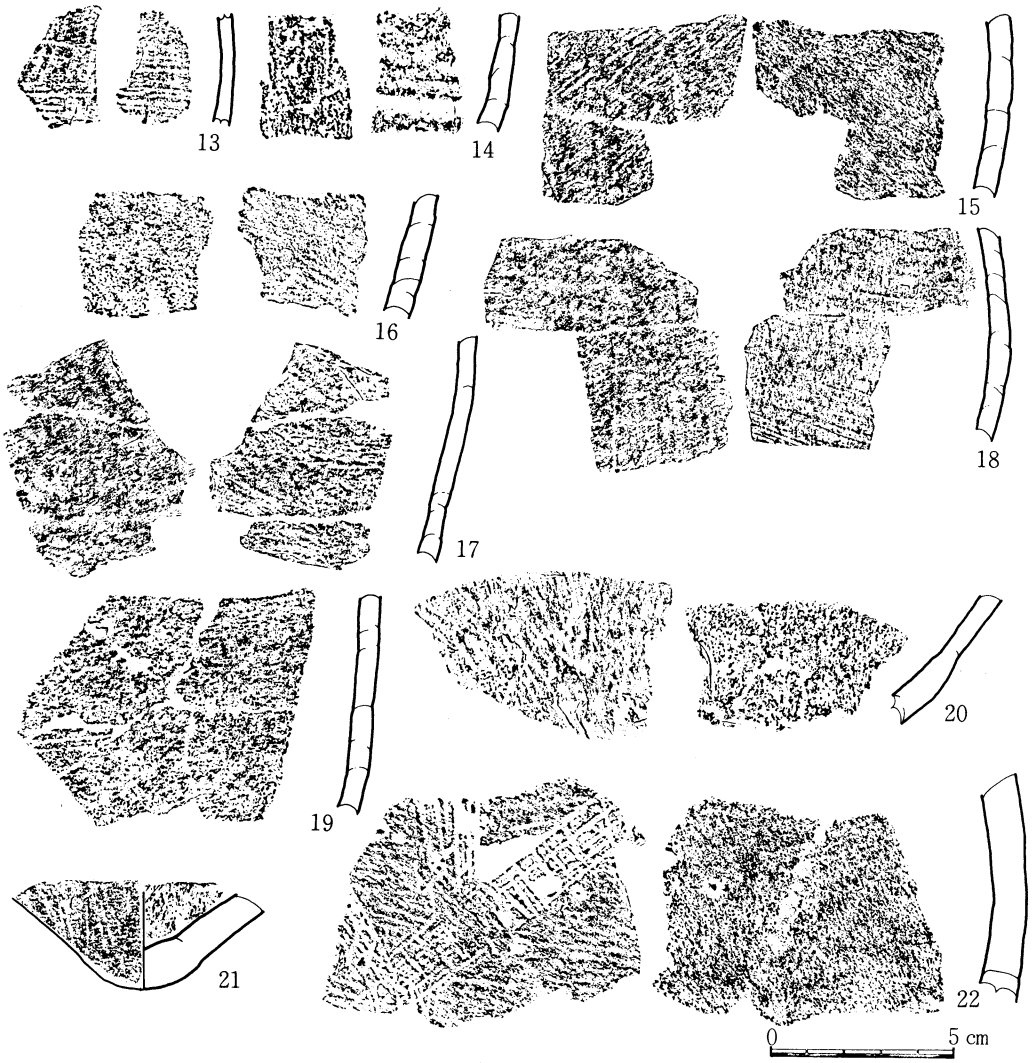
石器　(**23**～**26**)

23，チャート製で，使用痕のある剝片である。使用方法は左側縁と先端部を削器的用途に用いたと思われる。

24，頁岩製の石核で，打面は平坦面を呈している。打点が，次々と移行する多面体石核である。

25，頁岩製の削器で，厚手の不定形剝片の打点部は切断している。刃部は先端部だけに設けられる。

26，チャート製で，尖頭器状石器の可能性がある。先端部と尾部は欠落したものと思われ，表，裏の調整剝離は全て側縁部から体部に向けて施している。



第16図　土器(第１地点)－２

第２節　第２地点

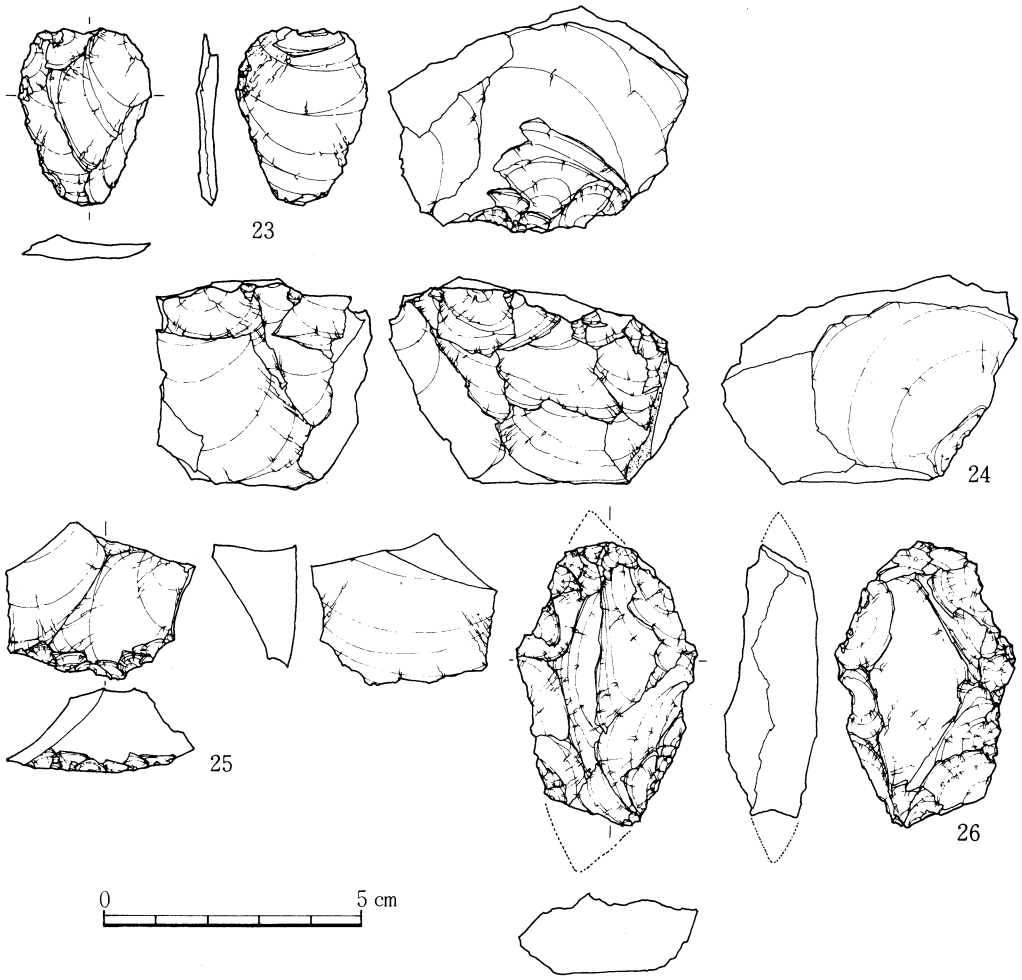
18区の一部分と19区は未買収地で，発掘調査が実施できず20区から25区を実施した。

調査時点では，蘇鉄や雑木の繁る荒地となっていたが，以前は砂地を利用した耕作が行われており，そのためか上位層の攪乱が著しかった。また，A－24区には電柱が埋設されており，埋設時点での攪乱もあり，良好な保存状況ではなかった。

１）遺物分布状況

第２地点での掲載遺物の分布状況は第18図に示すとうりである。

A－21区から24区へかけては，平均的な出土がみられ，Z区では，Z－21区と22区の一部に見られるだけである。Ⅳ類・Ⅴ類はやや西側に出土の片寄りが看取される。また，XⅤ類，XⅦ類等の土器片は，Z区には見られず，A区のみに分布している。



第17図　石器(第１地点)－１

2）遺　構

遺構としては，集石遺構のみであり，Ａ・Ｂ－20区とＡ－21区で６基を確認した。

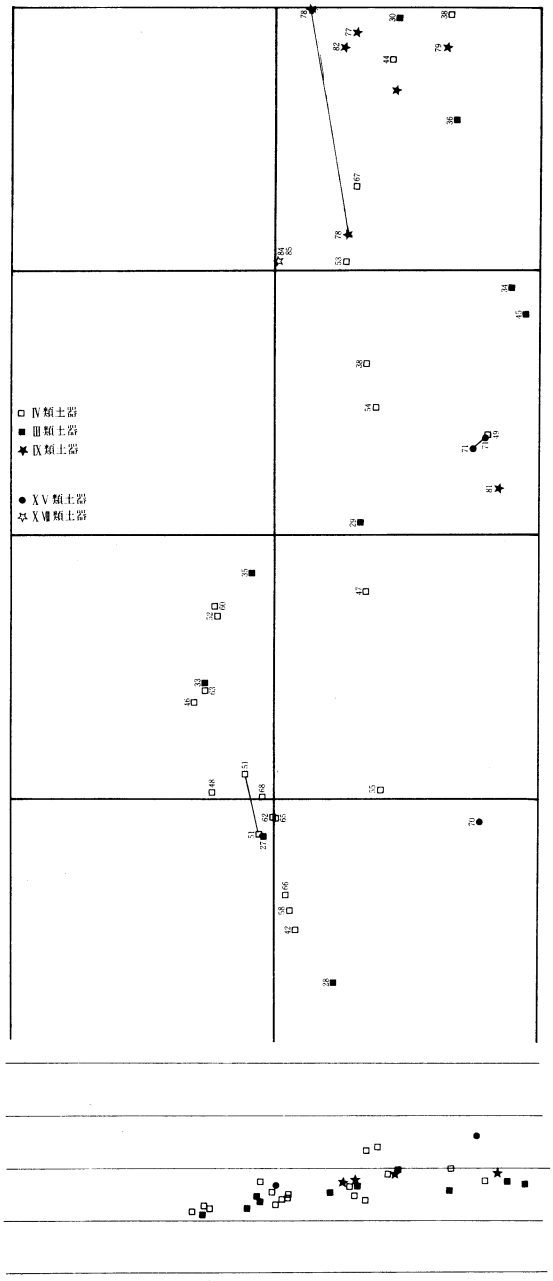
遺構は全て，Ｖ層に相当する白砂層中に，その設置面が認められる。

〈１号集石遺構〉　Ａ－20区，75cm×75cm，水糸高7.20m

Ａ－20区にあり，角礫，円礫の40個程で構成し，拳大から最大30cm程の礫を用いている。遺構は，第Ｖ層の白砂層に位置し標高6.80m から6.90m 程に底面がある。大きめの礫が，主に西側に置かれることから，その方向を奥壁とする炉的構成も想定できるが，確認し得ない。

〈２号集石遺構〉　Ａ－20区，Ｂ－20区，140cm×140cm，水糸高7.20m

Ａ－20区とＢ－20区に広範囲に散在するため，Ｂ－20区の礫の集中個所（70cm×40cm）をその中心部と判断される。中心部では24～25個の円礫，角礫が用いられている。



第18図　第２地点出土遺物分布図

〈**３号集石遺構**〉　A－20・21区，B－20区，100cm×50cm，水糸高7.20m

A－20・21区，B－20区に広がるもので，もともとは別々の集石遺構であった可能性もあるが，今回は，１基として提えている。23個の円礫，角礫で構成し，礫間に極端なレベル差は認められない。

〈**４号集石遺構**〉　A－21区，80cm×70cm 水糸高7.20m

２個づつ３ケ所に配された角礫と，集中した９個の小円礫で構成されている。

〈**５号集石遺構**〉　A－21区，60cm×75cm 水糸高7.20m

第２地点で確認した６基の集石遺構では，最も礫がまとまっているものである。

用いた礫は，角礫が多く10cmから20cm程のものを24～26個で構成されている。6.70m から6.80m のレベル位置に置かれている。

〈**６号集石遺構**〉　A－21区，80cm×140cm 水糸高7.20m

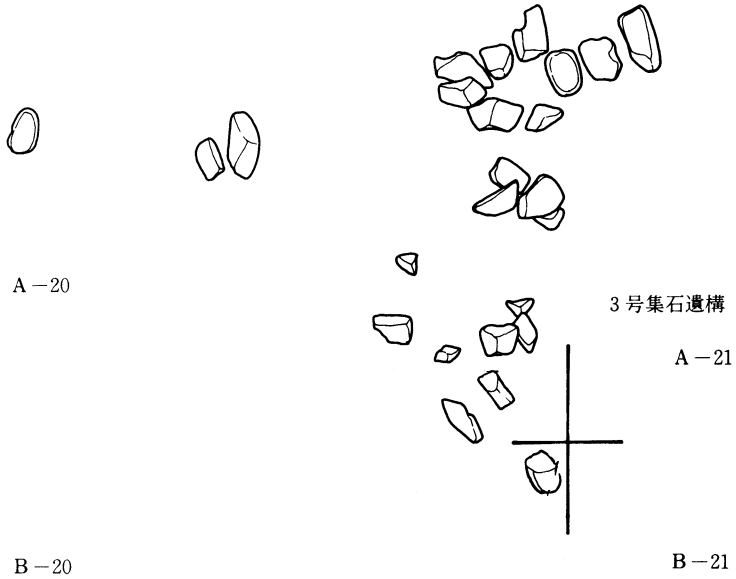
20個の角礫が，80cm×140cmの範囲に散在し，白砂層に置かれている。

第２地点での集石遺構は，A－20区，A－21区にのみ認められ，その範囲は調査区の東側にベルト状に配置されている。

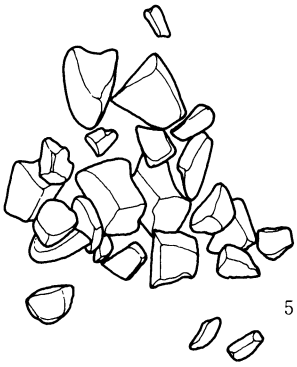
また，西側方向のZ区からA・B区にかけて傾斜した関係上，全ての集石遺構もその傾斜に添っていることがうかがえる。

集石遺構の造営時期については，明確な共伴遺物が無く確証は得られていないが，集石が白砂層中に包含されること，また，この白砂層の主体となす土器がⅢ類及びⅣ類土器であることを考慮すると，これらのいずれかに属するものと判断される。

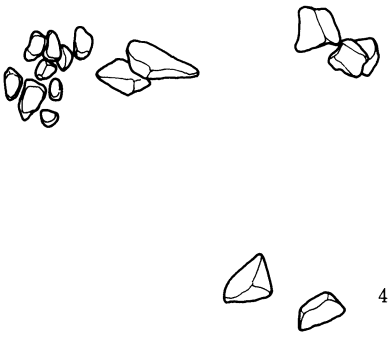
1号集石遺構
2号集石遺構



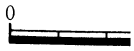
第19図　第2地点遺構分布図

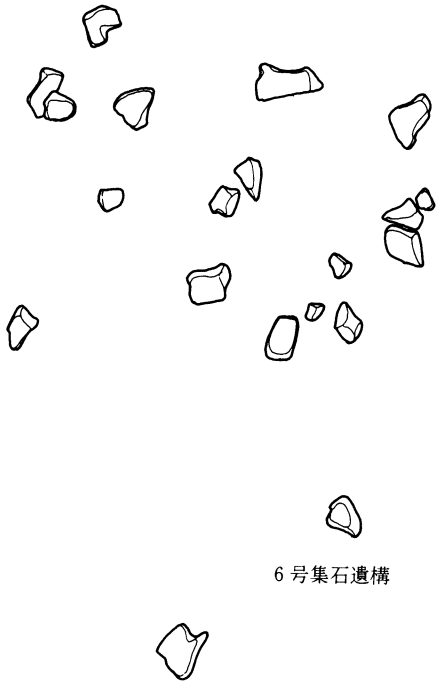


5 号集石遺構

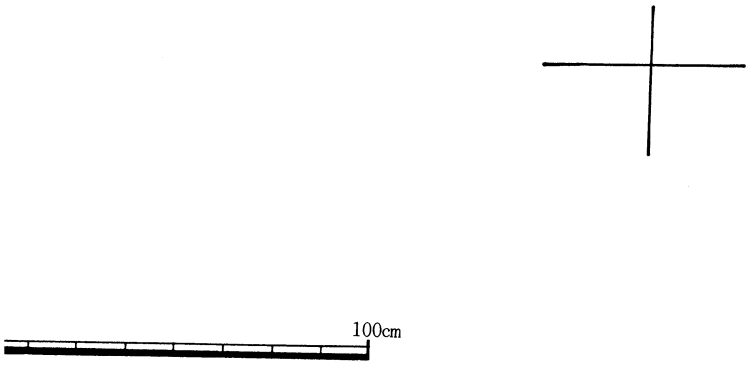


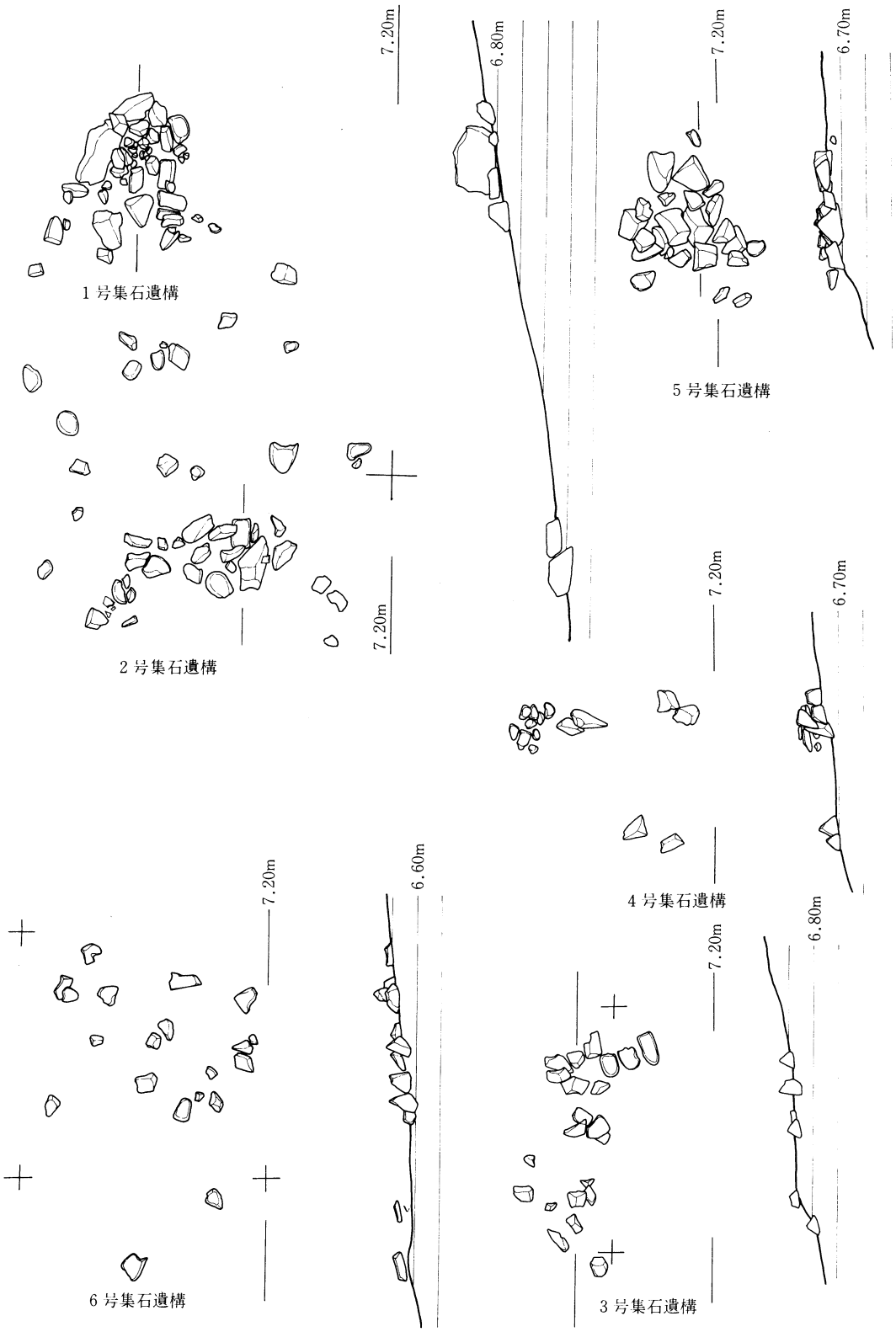
4 号集石遺構





6 号集石遺構





第20図　第 2 地点 1 ～ 6 号集石遺構

3）出土遺物―土器

Ⅲ類　Ⅲ類はａ（刺突文）とｂ（口縁部から頸部までの屈曲部が無文のものと，貼り付け突帯が施され，かつ無文のもの）に分けたが，第２地点ではａ類は認められず，全てｂ類である。

27～29は，貼り付け突帯等の貼付は全く行わず，口唇部に直接叉状工具等で連続した刺突文を施している。また，口縁部も他に比らべると立ち上りが強い感じがする。

35，**36**では，口縁端部に貼り付け突帯を巡らし，叉状工具，及び半截竹管工具で連続した刺突で刻み目を施している。また，直下の屈曲部への施文は認められない。

31，**32**，**34**では，屈曲部に貼り付け突帯を巡らし，口唇部と同様に刻み目を施し，また，その間は他の施文は行われていない。**45**では，蛇行する突帯が施されている。

33の１点は，屈曲部に１条の刻み目突帯を巡らし，突帯の下位に連続刺突を施し，ａ類的特長が認められる。

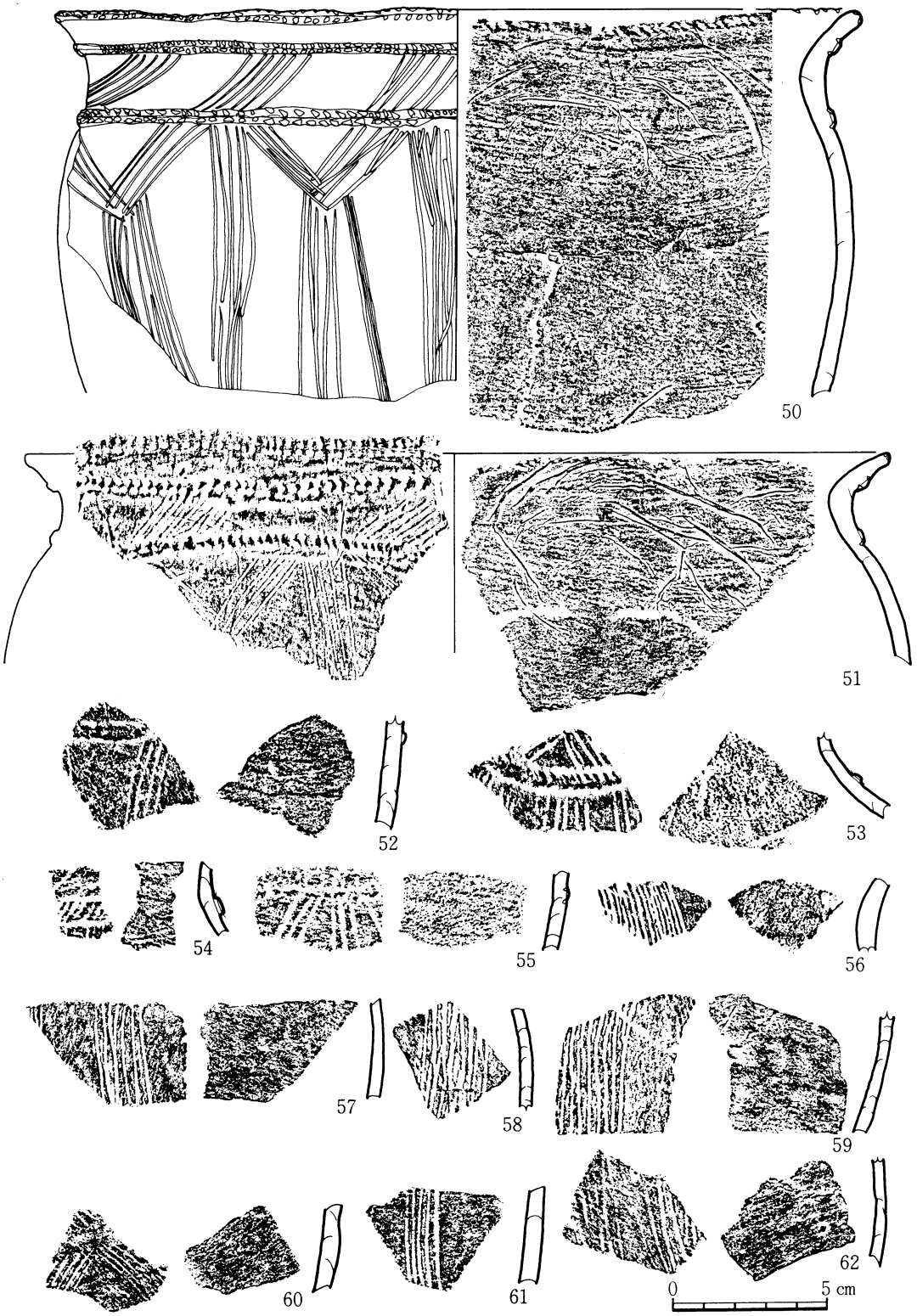
Ⅳ類

Ⅳ類は，ａとｂに細分している。ａは口縁端部及びその直下に突帯を貼り付け，さらに頸部（屈曲部上位）にも貼り付け突帯を持つものである。また，この突帯は，その全てが，叉状工具及び半截竹管具により連続した刺突が施されている。さらに，突帯と突帯間は屈曲した形状を呈し，その部分に細沈線文による縦位ないしは斜位の平行線文が例外なく描かれている。胴部にも屈曲部に施文したものと同様，同種の工具で細沈線文を描いている。描かれた文様は，細沈線を複数組み合わせた平行線文で，構図は，平行直線文，Ｙ字状平行線文，人字状平行線文，くの字状平行線文等である。これらは，総じて薄手であり，かつ硬質の出来上りとなっている。

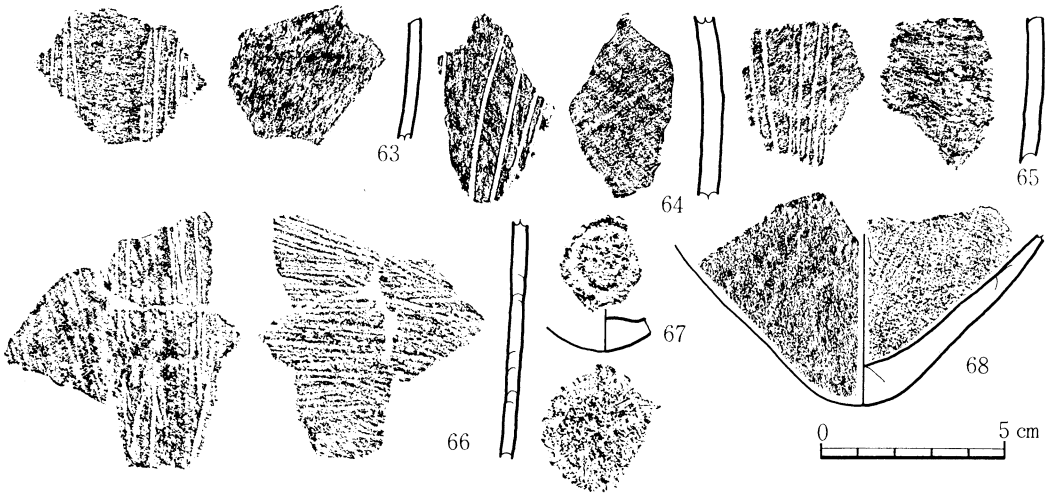
ｂ類は，第２地点では出土していないが，基本的にａ類と同様の特長を示すが，口縁部と頸部の突帯間を連結する縦位の突帯を施すもので，同様に突帯上に刺突を施している。

Ⅳａ類　**42**は復元口径 124mm程で，小型土器の部類と思われる。頸部の突帯は小さく，口縁部に最大径が求められる。屈曲部・胴部の沈線は，深く明瞭に描き出されている。**50**は 260mm・**51**では 278mmの復元口径が出ているが，色調，文様構成等類似点が多く，同一個体の可能性が極めて高いと思われる。口唇部に叉状工具による連続刺突を施し，２本の突帯上にも同じ工具で連続して刺突している。口縁部の突帯はかなり下がった位置に設けられ，胴部は〝Ｙ字〟状と直行する沈線が描かれている。焼成は良く，薄手で硬質の仕上りを持つ。**49**は，Ａ－24区と第３地点のＹ－32区出土の２片と接合した資料で，その間の距離は40m程になる。暗褐色の特長のある色調を呈し，施された細沈線も多く，また，深く刻まれシャープな文様である。**53**は，頸部の突帯を基準に復元した結果，他と比べて胴の張りが強い形状を呈している。**55**の胴部の沈線は，３本で構成され，今回の資料中最も少ない例である。**66**の内面は，横位の条痕整形で行なっている。**67**・**68**は底部片であり尖底に近い丸底を呈し，これらａ類に相当するものである。**67**では，接地面の円盤を貼りつける手法が行なわれている。

第21図　土器(第２地点)－１



第22図　土器(第２地点)－２



第23図　土器(第２地点)－３

ａ類でも，貼りつける突帯の位置が一定せず種々のバリエーションがみられる。**37・42**のように縁端部に貼り付ける例，**50**のように口縁部よりかなり下った位置に貼り付けるものなどどがある。また，刺突に用いる工具にも各種あるようで，叉状工具・半截竹管等が使用されている。

Ⅺ類

文様帯に沈線文を横走するのを基本とし，直行あるいは斜行する沈線により区画文を描き出している。その後，これらの区画文間に，間のびした押し引きないしは連続刺突を施し，区画文間を充塡していく手法（文様構成）を基本とした一群である。

86と**88**があり，**86**では先端部の鋭利な工具で，**88**では半截竹管状の工具を用いて施文している。

ＸＶ類

口唇部内面の上端に，断面三角形の粘土紐を１条貼り付けた一群の土器である。

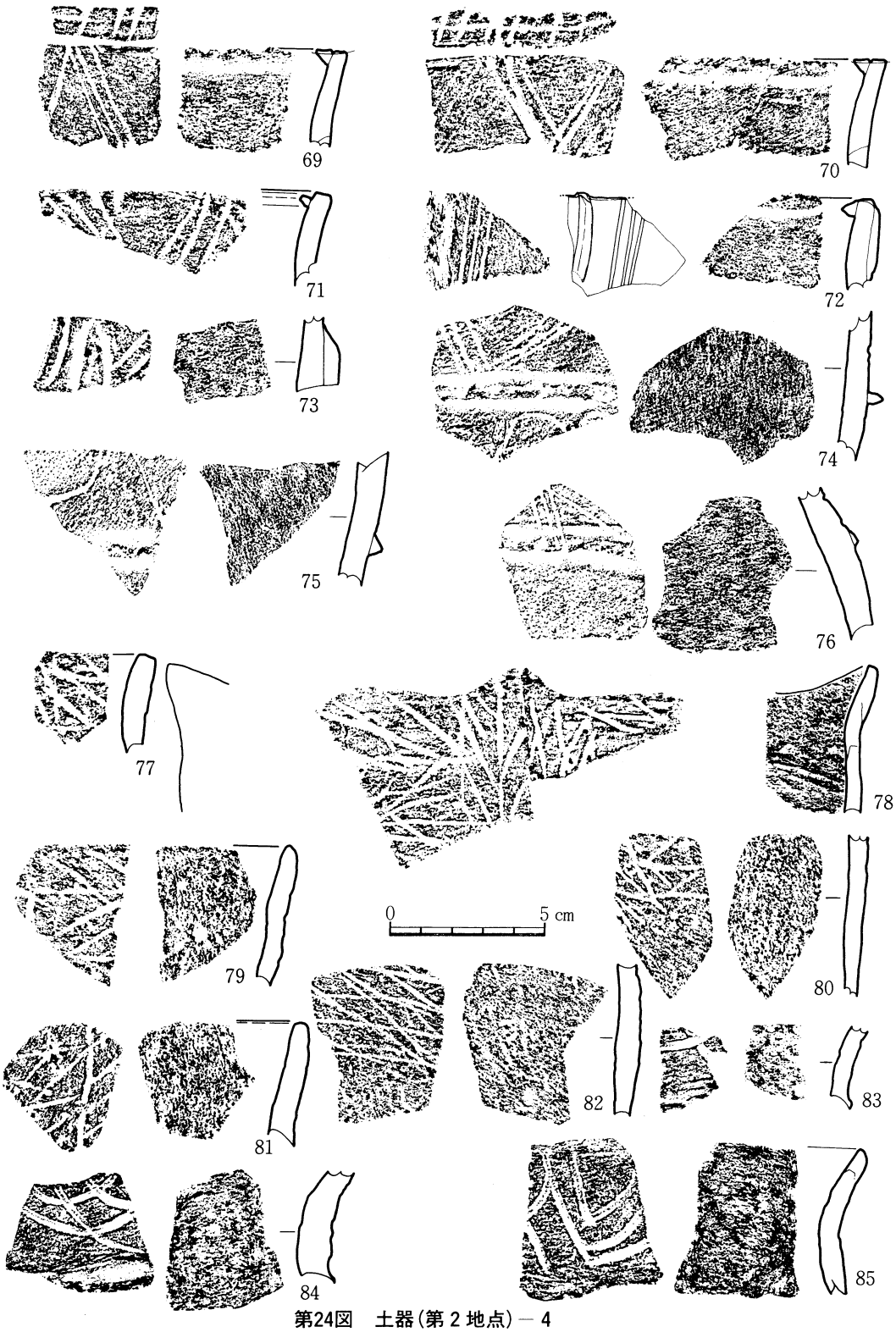
69～73，は同一個体と思われる資料で，全く同一の特長を備えている。また，**72**，**73**のように，口縁部と直行する縦位の突帯も備えている。口唇部は，ヘラ状工具で浅く刻まれ，内面の貼り付け突帯も同時に刻まれている。外面は，三本の平行沈線で口縁端まで達する鋸歯文が描かれている。

ＸⅥ類

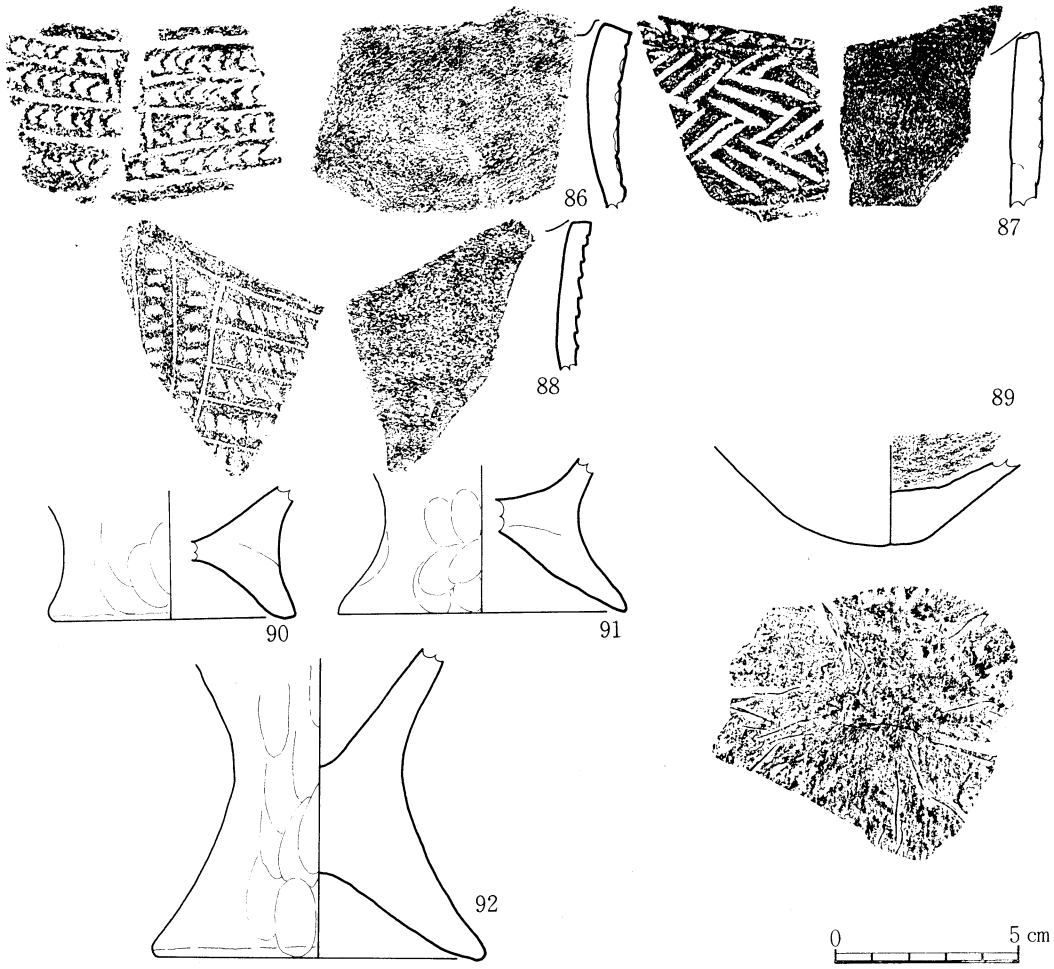
器形等は全く不明で，一部に横走する三角突帯を貼りつけ，上下に沈線で施文したもので，焼成は良く硬質である。**74～76**の３点であり，いずれも同一の特長を備えており，同一個体と思われる。

Ⅸ類

沈線及び細沈線で文様を構成したものである。



第24図　土器(第２地点)－４



第25図　土器(第2地点)—5

78は，山形口縁を持つ鉢形土器で，山形頂部を中心とした文様を描いているが，規則性はない。また，意図的な文様帯の肥厚は認められない。79も同様であり，同一個体の可能性がある。80～82も同様の特長を示し，77～82までが同一個体の可能性がある。

XⅦ類

外反する口縁形を持っもので，繊維状の条痕を残す浅い沈線文で孤状に近い文様を描いている。時期，形式等の位置づけは明確でないが，類似したものが長浜金久第Ⅲ遺跡にみられる。83～85は色調，胎土，文様構成が同一であり同一個体の可能性が極めて高い。

XⅧ類

脚台付の上げ底を呈する3点を一群として取り扱っている。同一区から出土であり，同種の範中に納まるものと思われる。この種の形状を持つ底部は，近くでは，長浜金久第Ⅲ遺跡，サウチ遺跡，スセン當貝塚等で散見される。

第3節　第3地点

A－26からA－28区・A・Z・Y－29区からA・Z・Y－33区が第3地点に相当する。

A－26区～A－28区の全域とA－29区の一部分は，砂採集による遺跡破壊の行われた場所に相当し，発掘調査の結果，包含層の最下面がかろうじて残されている状況であった。

29区から33区の範囲が，本遺跡の中心をなす地域で，多くの遺物や遺構が検出された。調査前の最高標高は，8.30m程で，Y区方向（西側）からA区方向（東側）の道路側へ緩かな傾斜をなしていた。また，この範囲は，旧期砂丘に相当する。

1）遺　構（第26～31図）

A－26からA－29区では，最下面で貝殻の散在状況を捉えている(第26図)。

貝の種類では，マキガイが最も多く，シャコガイ・ホラガイ・クモガイ・水字貝・チョウセンサザエ・ヤコウガイ等がある。それらに混り，礫や叩石，土器片等がわずかに散在していた。

29区から33区で検出した遺構は，集石遺構14基であり，その内，サンゴを集積した遺構2基，集石遺構に土器が投げ込まれたもの(?)1基がある。また，集石遺構の中には，炉的様相を持つものもある。したがって，集石遺構11基，サンゴ集積遺構2基，土器溜り1ケ所である。

〈1号集石遺構〉　Z－30区，100cm×80cm，水糸高7.5m

Z－30区にあり，20個程の角礫で構成し，最大30cm程の角礫が用いられる。遺構中央部の平扁な角礫には，灰が多量附着していた。大型の角礫や灰等の付着物等が認められることにより，炉的機能も考えられる遺構である。

尚，本遺構の約 100cm東側には，モチズキギラだけが集中して検出され，一時の投棄を示すものと思われる。個体にして75個前後が想定できる。

〈2号集石遺構〉　Z－30区，70cm×150cm，水糸高7.35m

Z－30区にあり，最大40cm程の角礫を西端に置き，北側に10～15cm程の角礫が孤状に置かれている。また，東側には，6個の角礫とマガキガイ・オニコブシが集中していた。

遺構内には，150cm程の炭化物を伴なっており，その機能を知るうえで興味深い検出状況といえる。

〈3号集石遺構〉　A－30区，120cm×120cm，水糸高6.75m

A－30区の第10層（固結砂丘・クール）に掘り込みを持つ遺構で，掘り方は2段掘りである。最深部で－45cm，浅部で－35cm程で，すり鉢状に造られている。

遺構に用いられた素材はサンゴ塊で，確認面から床面までギッシリ敷き詰め，床面より5cm程上位には，焼土面がみられ明燈色や黒色の加熱された痕跡かが確認された。サンゴ塊は，大小混入しているが，加熱の為に崩壊したと思われる小片や細粉も多く見られた。用途については，不明である。

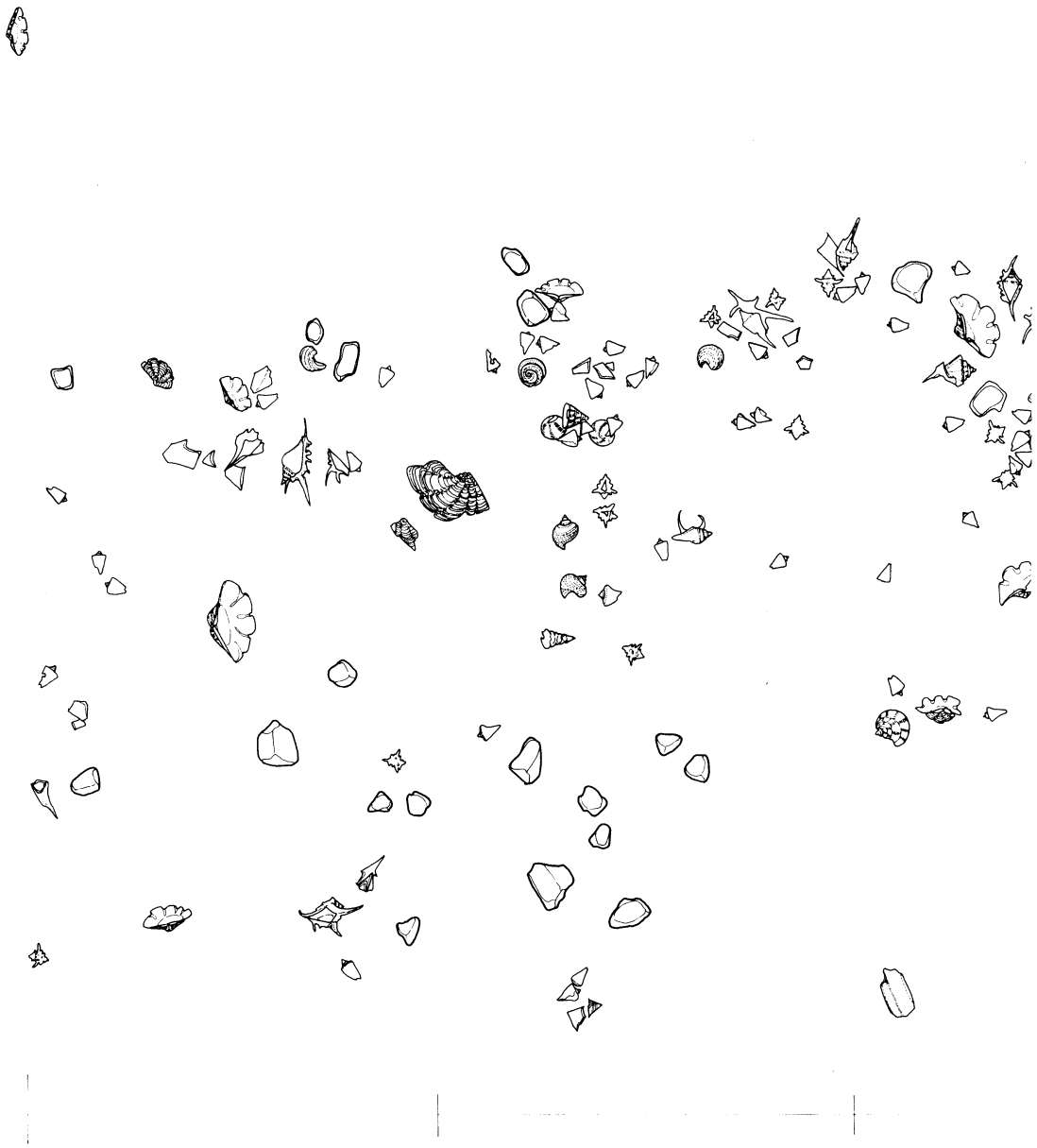
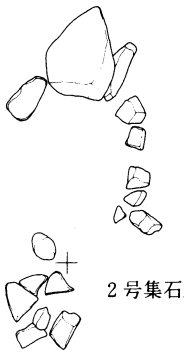


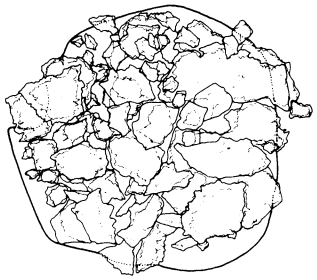
図　第３地点Ａ－26～29区遺物散布状況

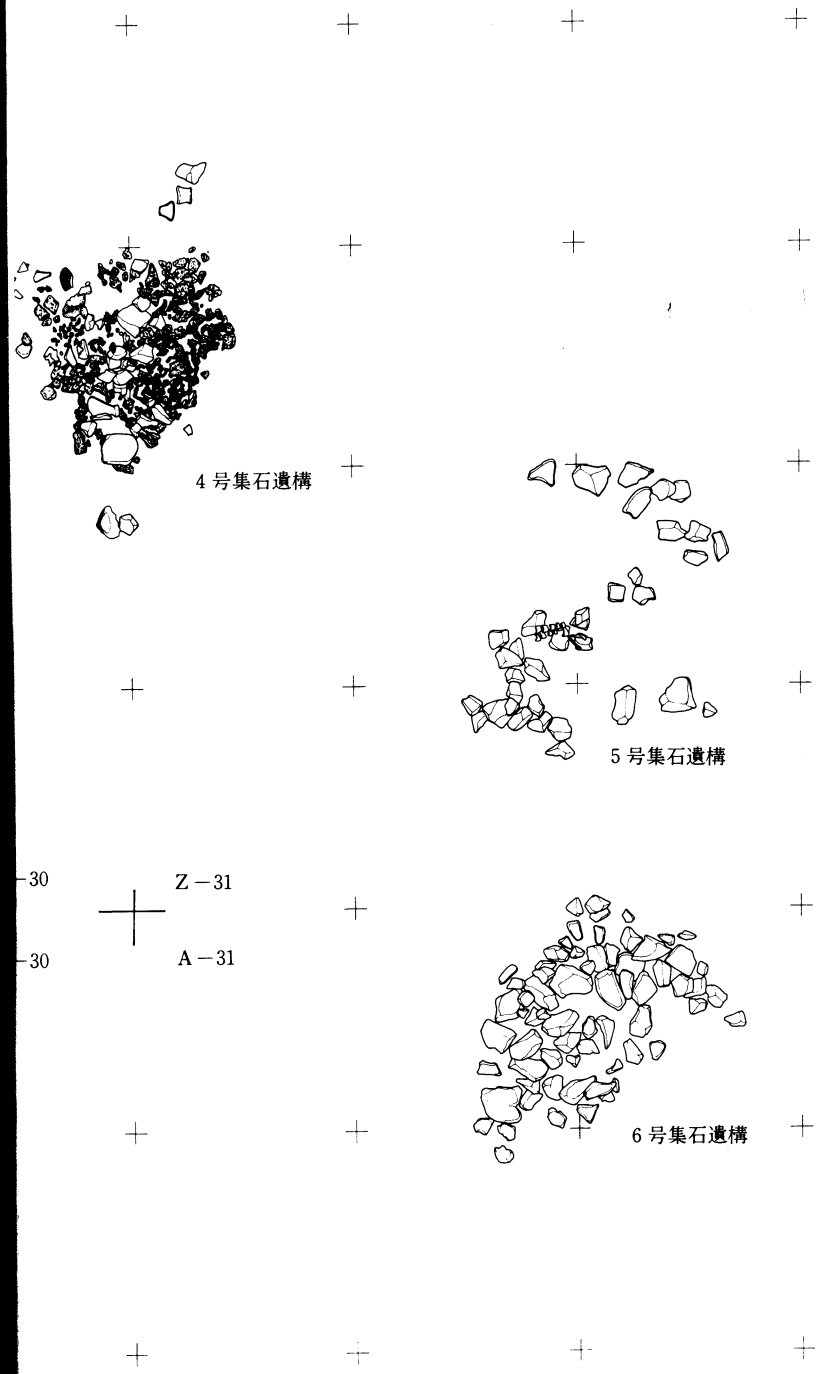
1号集石遺構



2号集石遺構

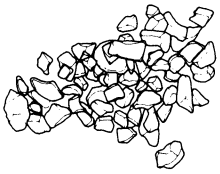
3号集石遺構





第27図　第 3 地点集石遺

14号集石遺構

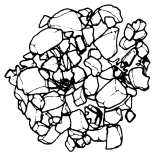


7 号集石遺構

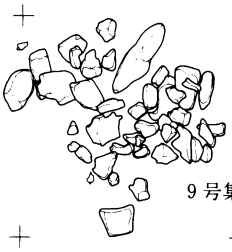
8 号集石遺構

Z－31　　Z－32

A－31　　A－32



12号集

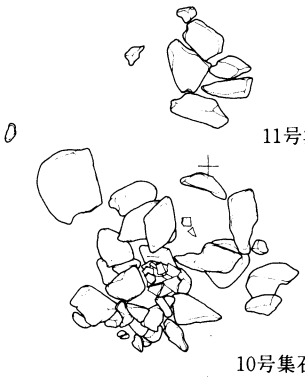


9 号集石遺構

構配置図

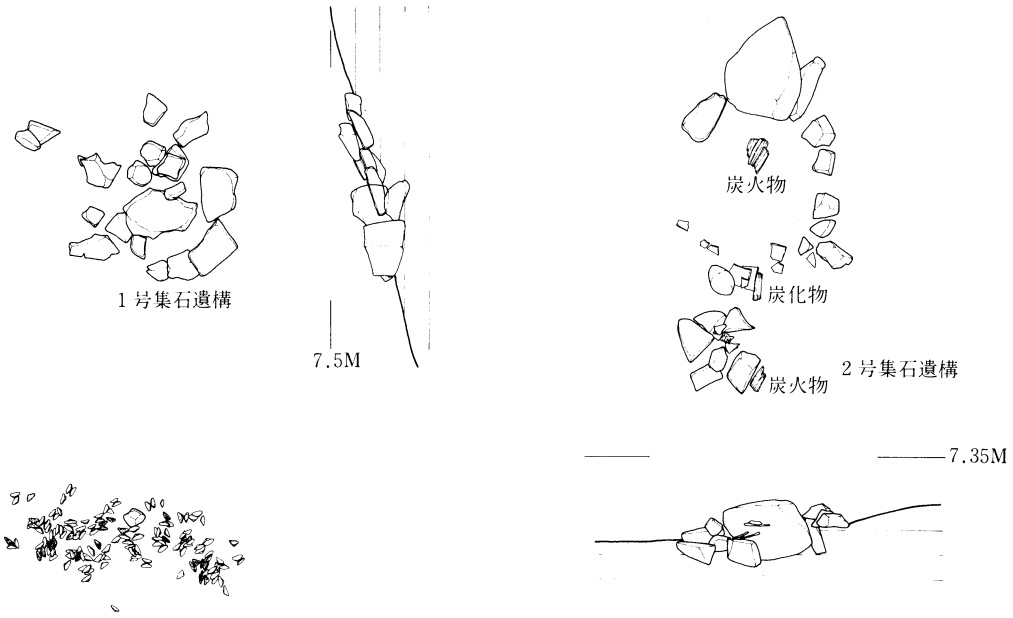
13号集石遺構

石遺構



11号集石遺構

10号集石遺構



第28図　第3地点　1・2号集石遺構

〈**4号集石遺構**〉　Z－30・31区，110cm×150cm，水糸高7.0m

第9層の白砂層に遺構の底面が置かれ，特に掘り込み等の作業痕は確認できない。

遺構に用いられた素材はサンゴ塊，礫（5～20cm程の角礫）で，貝殻片が少量含まれ，特にサンゴは加熱され黒色に変色しバラバラに破砕している。

〈**5号集石遺構**〉　Z－31区，120cm×130cm，水糸高7.0m

Z－31区にあり，第9層の白砂層に遺構の底面が位置する。遺構は，第8層の多量のカーボンを含んだ灰黒色砂層によって覆われている。

遺構は，35個程の角礫で構成され，中程に動物骨（脊椎骨）が伴っていた。

〈**6号集石遺構**〉　A－31区，120cm×120cm，水糸高7.0m

A－31区にあり，第7層下部から第9層の白砂層に遺構の底面が位置する。この位置では，第8層が存在しない地域で，第7層が直接遺構を埋設した状況にある。

遺構は，60数個の礫で構成され，Ⅸ－c類のNo.406の一部が共伴している。

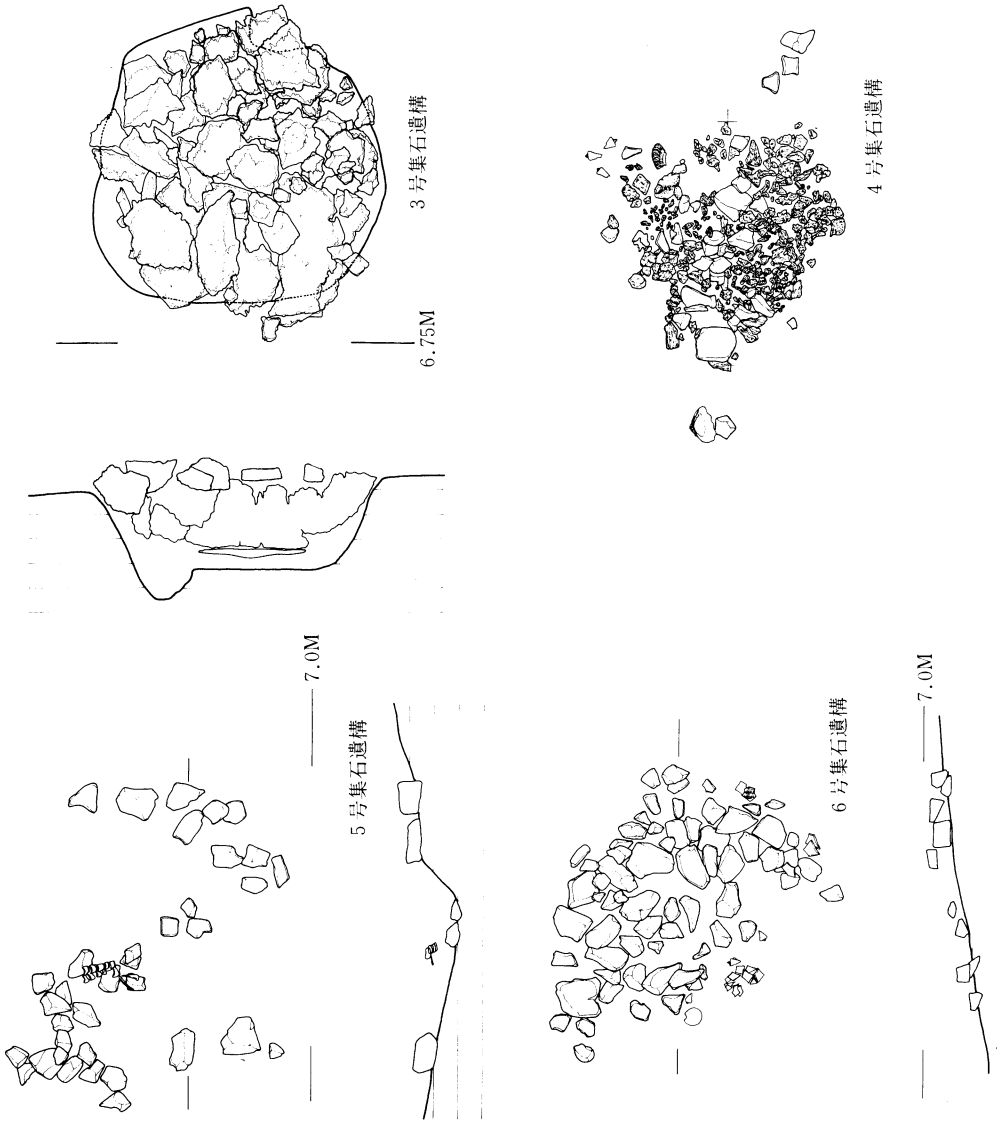
〈**7号集石遺構**〉　Z－31区，90cm×80cm，水糸高6.9m

8号集石の西側にあり，70個以上の角礫で構成する。

礫主体で構成し，礫以外はシャコガイ1点，ラクダガイ1点が含まれるだけである。また，西から東側へかけて大きく傾斜し，底面は約30度程の角度を持つ。

〈**8号集石遺構**〉　Z－31・32区，120cm×110cm，水糸高8.20m

礫が集中する部分と，散在的部分を含めて取り扱っている。礫集中部の東側に35cm×40cm程の大石が残されているが，本遺構との関係は不明であり，上記の分布範囲には含めていない。



第29図　第3地点，3・4・5・6号集石遺構

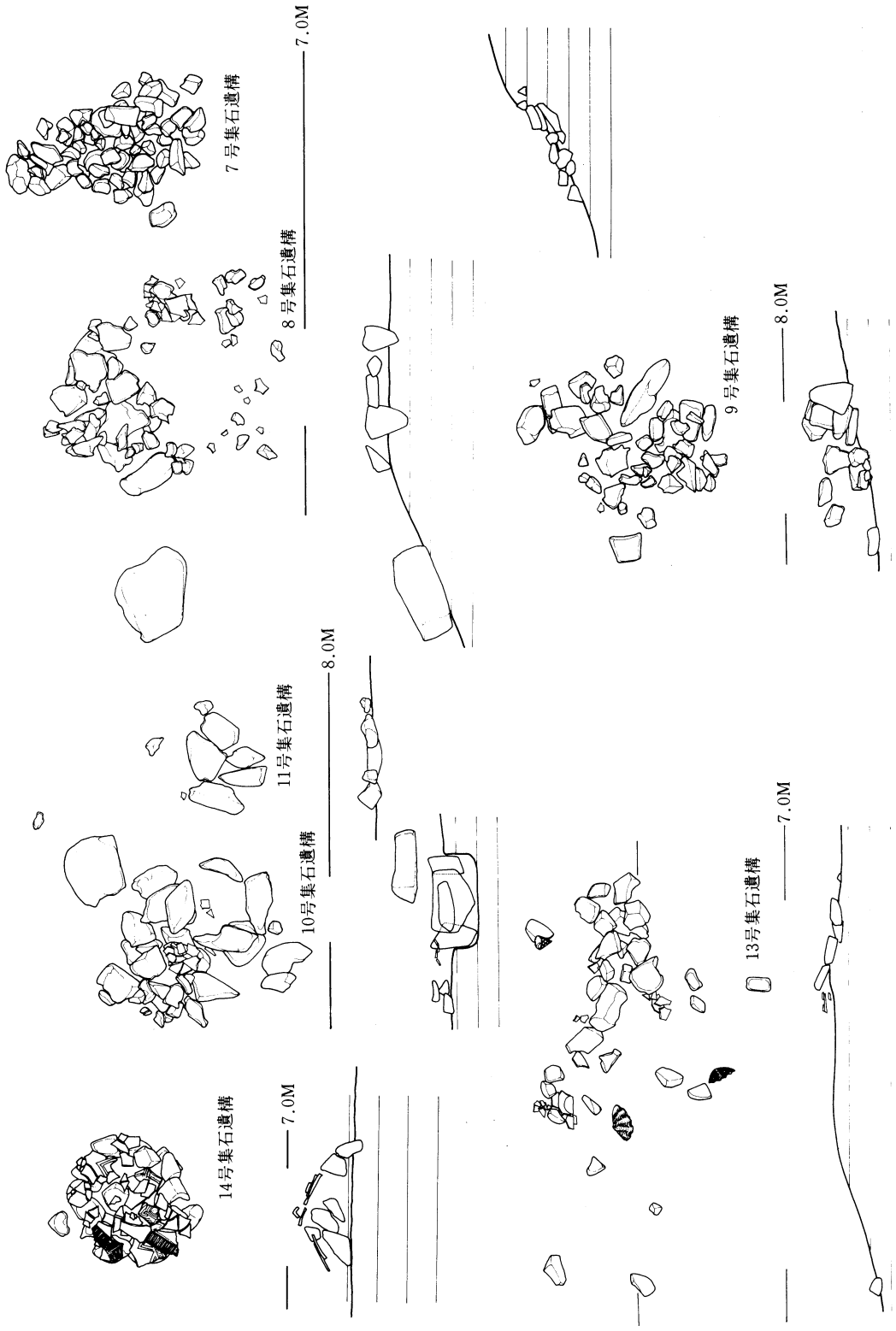
集中部の底面は，安定した状態で検出され，実測等の完了した後，凝固剤で固定し，笠利町立歴史資料館で保存するための移設作業を行ない，現在公開展示している。

なお，遺構に伴って，Ⅺ類の512が一括して出土している。

〈9号集石遺構〉　A－31，100cm×100cm，水糸高8.0m

第4層に掘り込まれた可能性の高い遺構で，レベル位置は高くなっている。拳大のものから最大40cm程の角礫を用い，40個程で構成している。遺構は安定した状態で置かれ，底面は水平に近い状況である。

なお，共伴遺物等は出土していない。



第30図　第3地点7・8・9・10・11・13・14号集石遺構

〈**10号集石遺構**〉　A－32区，120cm×90cm，水糸高8.0m

30個程の角礫を素材とし，20cm以上の角礫が15個程用いられている。

炉としての構築が行われた可能性があり，No.2が炉の北側の奥壁に，No.1・No.3が側石，No.4が床石に相当するものと思われる。

共伴遺物は，集石に接触した状態で，Ⅺ類の572が1個体出土している。

〈**11号集石遺構**〉　A－32区，40cm×50cm，水糸高8.0m

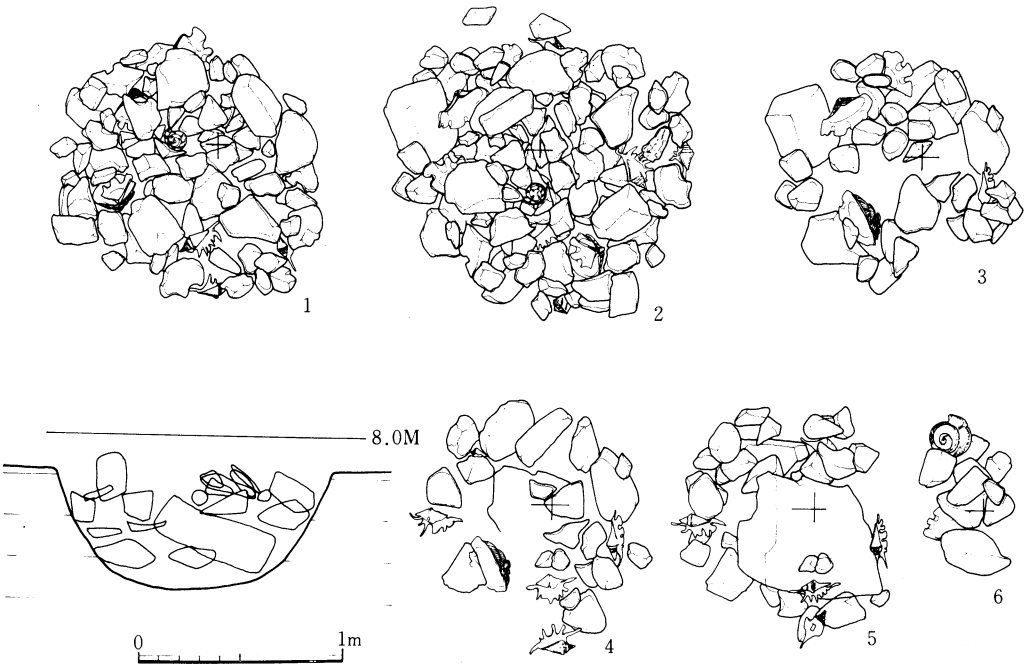
10号集石の西側に位置し，25cm程のレベル差がある。

明確な掘り込みラインは確認できていないが，礫面を皿状に中央部が窪んだ状態に配置されている。このことより，敷石炉的機能を持っていたと考えられる。

〈**12号集石遺構**〉　A・Z－32区，60cm×60cm，水糸高8.0m

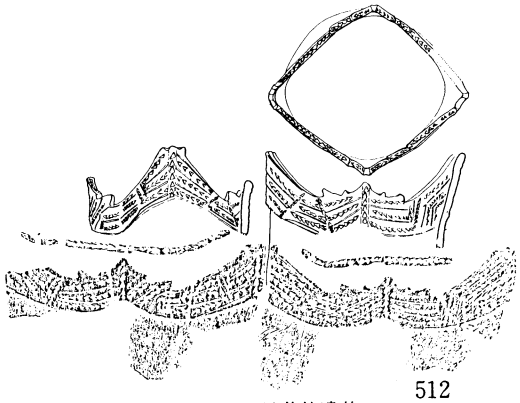
遺構確認面より，－30cm程土壙状に掘り込み，土壙の中に多量の礫と貝殻を混入している。底面近くには30cm程の平坦な角礫が置かれ，混在する貝殻は，シャコガイ・サラサバテイ・クモガイ・ヤコウ貝等である。

上面図は，6枚に分けて示してある。



第31図　第3地点，12号集石遺構

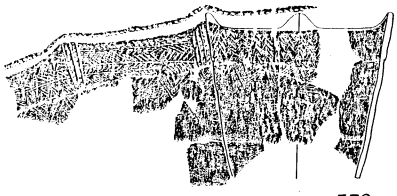
6号集石遺構



512

6号共伴遺物

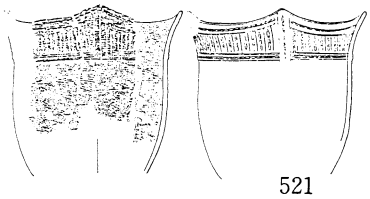
10号集石遺構



572

10号共伴遺物

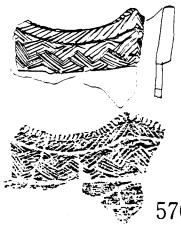
14号集石遺構



521

518

14号共伴遺物



570

第32図　第3地点6・10・14号集石遺構と共伴遺物

〈13号集石遺構〉　Z－33区，120cm×200cm，水糸構7.0m

東西200cmに広がっているが，中心は60cm×90cm程の範囲と思われる。

30個程の角礫で構成され，周辺には，シャコガイ・ウズラガイ・ヤコウガイ・サラサバテイ等が散在しているが，集石遺構との関係については明らかでない。

共伴遺物は，底部の 708があり，その他，細沈線による鋸歯文を持つ胴部片が数点出土している。おそらく，Ⅺ類に相当するものと思われる。

〈14号集石遺構〉　Z－32区，50cm×50cm，水糸高7.0m

20個の角礫を集め，その上位に土器片を配している。

土器片は3個体分あり，いずれも完形復元ができないことより，破損品を破棄したものと思われる。3個体の内訳は，Ⅺ類の518・521・570である。

第31図は，6・10・14号集石遺構にそれぞれ共伴した遺物を示している。

6号と10号の集石遺構に伴った土器に共通していることは，各個体の胴部上半部だけが残され，下半部が全く残されていなかったことである。今回の整理作業での土器復元は，小破片や細片が圧倒的に多く，極めて難しくほとんど成功していない。そのようななかで，比較的復元の進行した個体が，両遺構に伴ったものであった。

中でも，10号集石遺構は，先にも記したように，石床炉として構築した可能性のある石の配置が残されており，遺構の果した機能を推察するうえで，注目される。

14号集石遺構では，20個程の角礫を集め，その上に土器が覆さる状態が確認できた。土器片は，3個体分混在して出土しているが，復元がかなり進んだ 521以外の2点は，いずれも破片である。したがって，6号，10号集石遺構とは性格を異にし，土器捨て場的様相が強く，いわゆる破棄の一形態を示すと思われる。また，一括した一時の破棄であることより，3個の土器が同時期の所産である可能性を示しており，土器編年の貴重な手がかりを与えてくれそうである。

2）出土遺物―土器

Ⅲ類　基本的に第２地点の分類に準じている。

Ⅲａ類　**120** の１点だけである。口唇部に叉状工具による連続刺突を施し，頸部から口縁部へかけての屈曲部には，同一の施文具によって連続刺突を巡している。

Ⅲｂ類　第３地点では，全く無文のｂ類は確認されていない。

121は，口唇部に連続刺突，**122・126**は口唇部に連続刺突を施し，無文のままの屈曲部には蛇行突帯，**128** では，口縁直下の横走する突帯と下部の無文帯には蛇行した突帯が設けられ，突帯のあり方に多様化している様相がうかがえる。**130** は無刻目の突帯が２条貼り付けられる。これらは，いずれも口縁部から頸部へかけての屈曲部へは，沈線文等の文様は施されていない。

Ⅳ類　頸部から，口縁部へかけて，形状・整形等の違いが認められ，いくらかのバリエーションが見られる。

Ⅳａ類　**132** は全体的に器肉は厚く舌状の口唇部を呈し，**139** は頸部から口縁部へかけて，外反が小さく直線的な立ち上がりをみせ，製作時の粘土ひもの接合面も明瞭に残される。また，**139・142**の屈曲部に描かれた沈線は，他と比べてやや広目の施文具が使用されている。このⅣ類土器の器形は，**145**や**148**のように最大径は胴部に位置するのが一般的であるが，**147** の場合，若干様相を異にし，広口の鉢形の形状を呈している。**145** の屈曲部の細沈線は，途中で方向を変え屈曲をつけている。**153・154**の口縁直下の貼りつけ突帯は，他と比べて小型であり，また，**153**の器肉は，特に薄い。**173**は器肉も厚く，頸部での屈曲も強く，異質で大型の器形である。

胴部の文様は，垂直方向の平行線文が主であるが，**177・201**のように交差するものも含まれている。**227** は，平行する曲線文を描いているが，単独したヘラで施文している。１点だけの出土で，他に類例は認められない。

Ⅳｂ類　**143** は，復元口径80㎜程で，他と比べて極端に口縁部が小さく壺形土器的様相が強く感じられる。また，口縁端部の突帯上には，叉状工具による２条の連続刺突が並走する。**144** は，口唇部に円盤状の粘土板を貼り付け，円盤の上面の周辺に連続刺突を施す特異なもので，他に類例は認められない。**148** は，口縁部と頸部に直結する２本の突帯を貼り付け，**155・156** は蛇行する突帯が施されている。

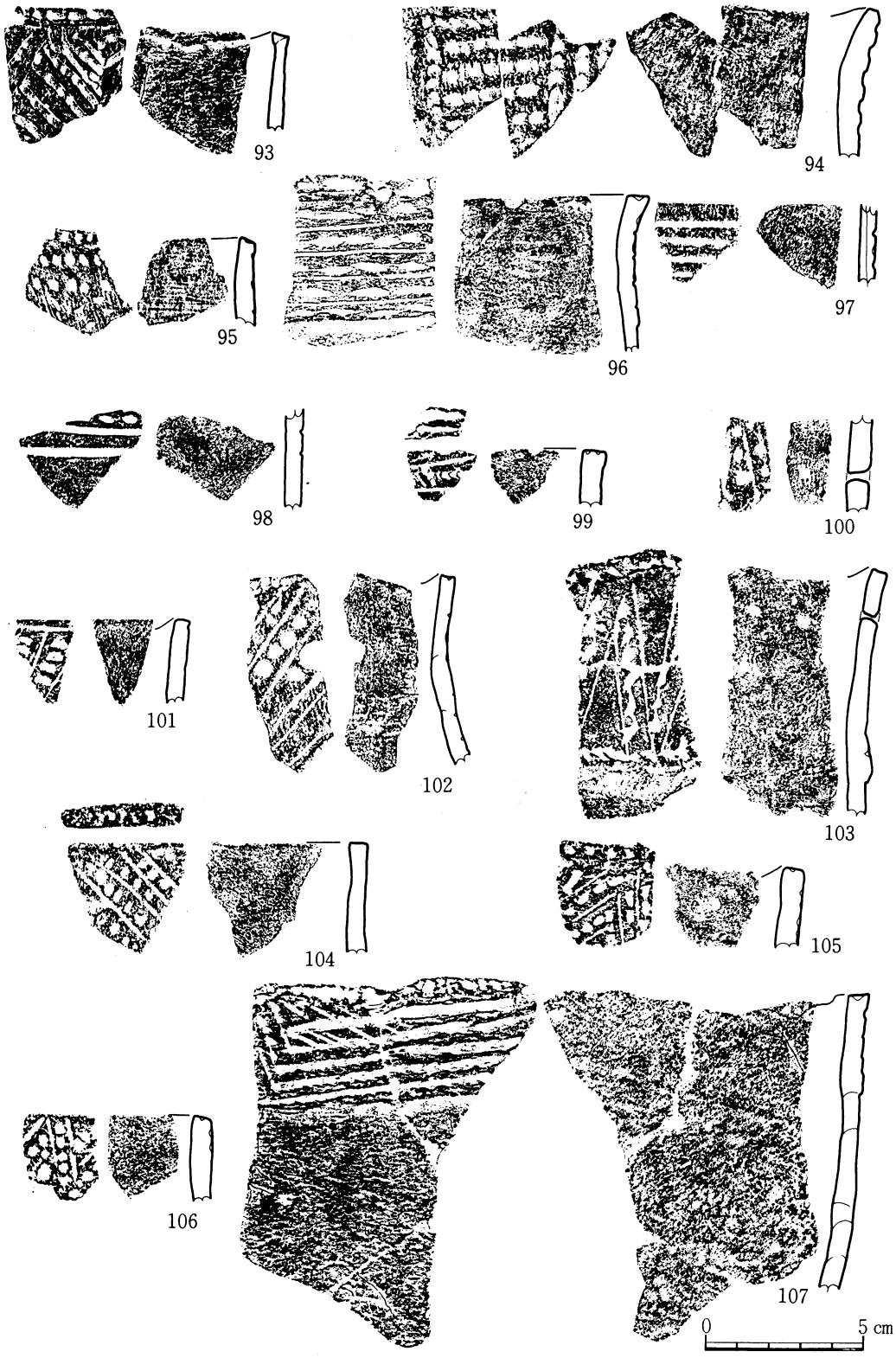
胴部や底部については，ａ類との区別は困難で，おそらく類似した形状・施文手法を用いたと思われる。

Ⅴ類

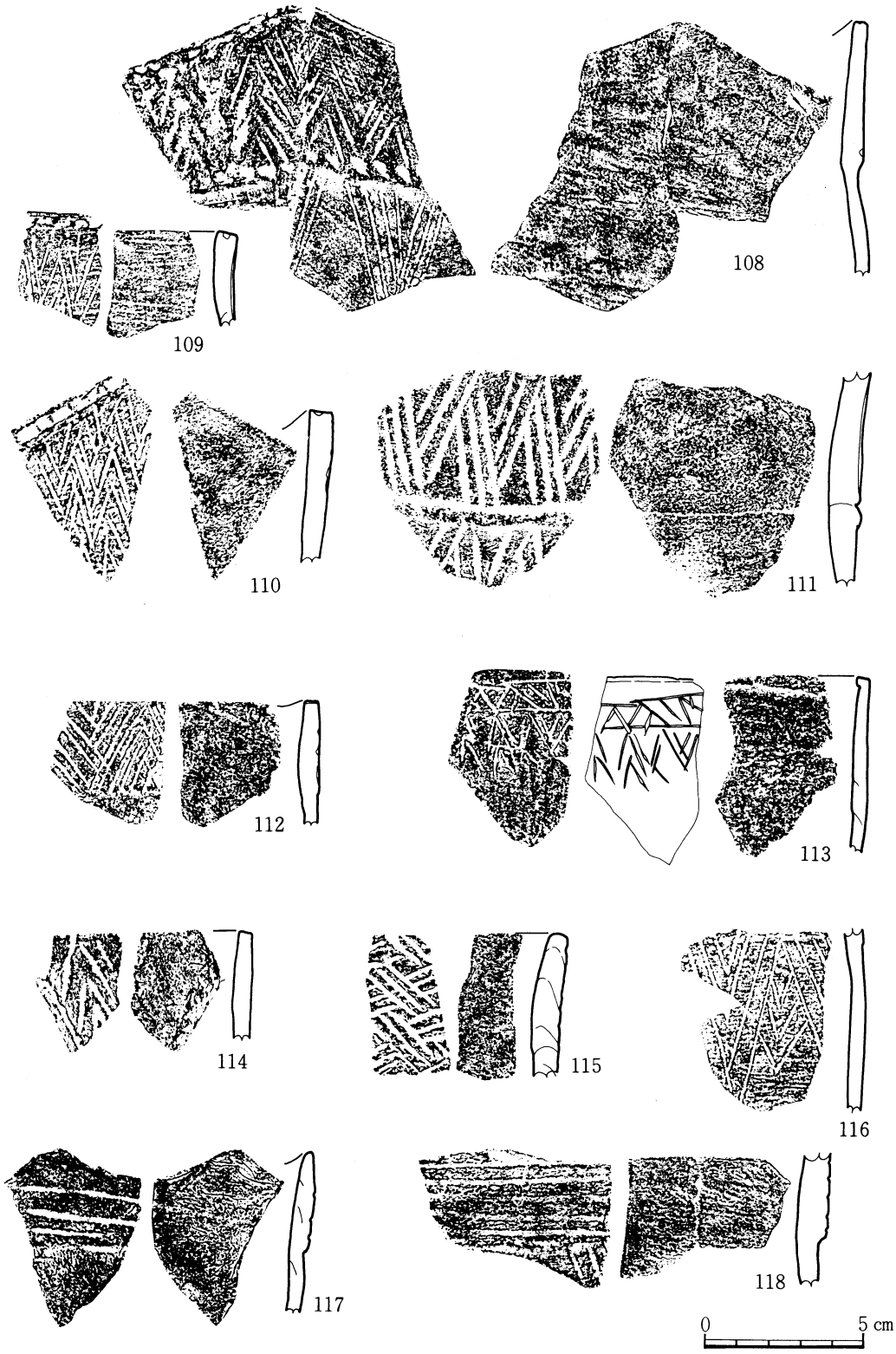
Ⅳ類土器と比べて，貼り付ける突帯の幅がより広くかつ平坦面を呈している一群である。

164～168の口縁部への貼りつけは，いずれも幅広で平坦面をなし，押し引きや連続刺突で刻まれる。**166** は口唇部に角状の突起をつけ，**167** の直交する突帯は内面にまで達している。いずれも，平坦で幅広の突帯が貼りつけられる。

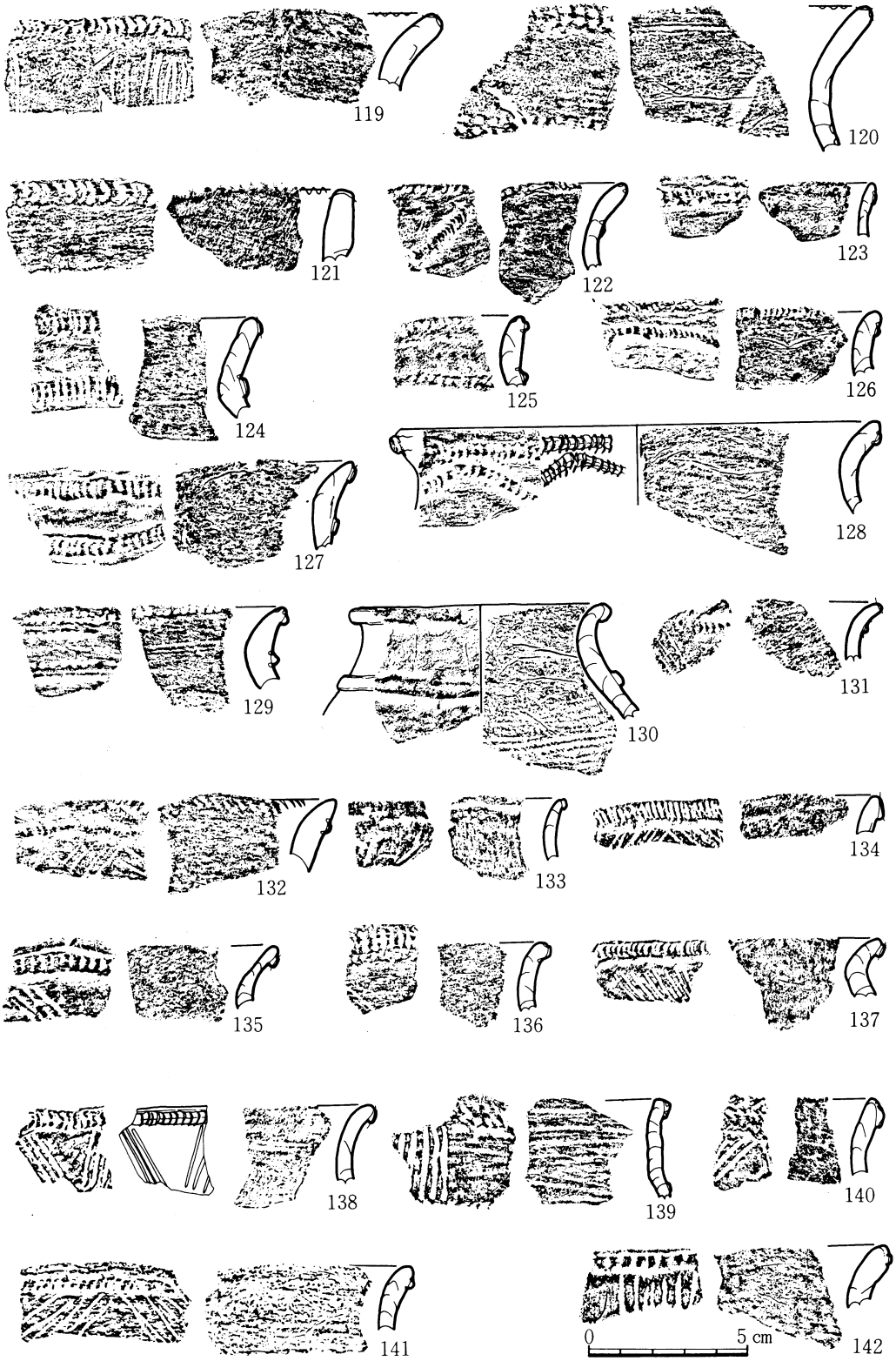
171と**172**は復元口径は異なるが，同一の個性を持つもので，その点同一個体の可能性がある。やはり幅広の突帯を持ち，屈曲部では口縁部と頸部の突帯を連結する突帯がつけられる。２点



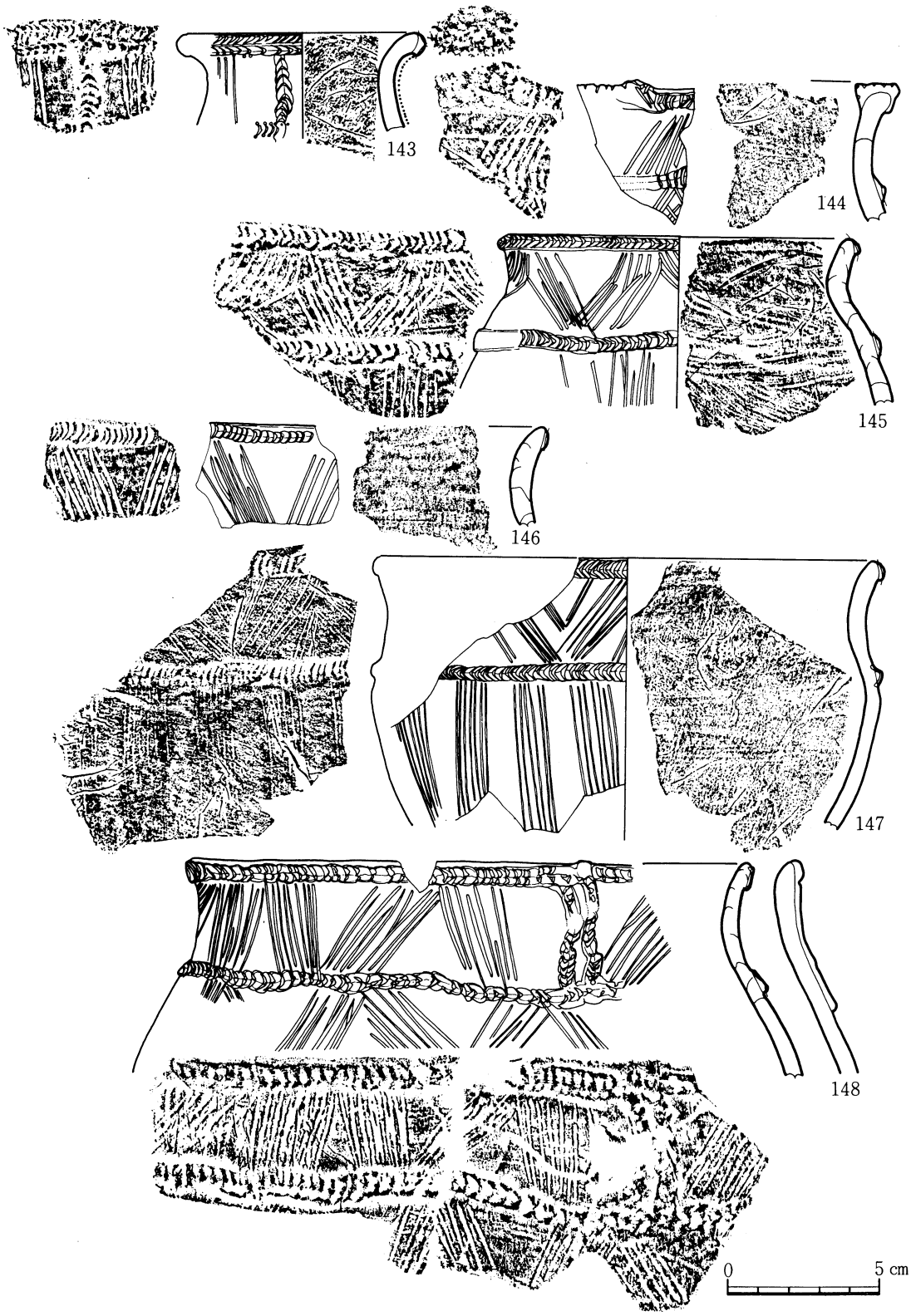
第33図　土器(第３地点)－１



第34図　土器(第３地点)－２

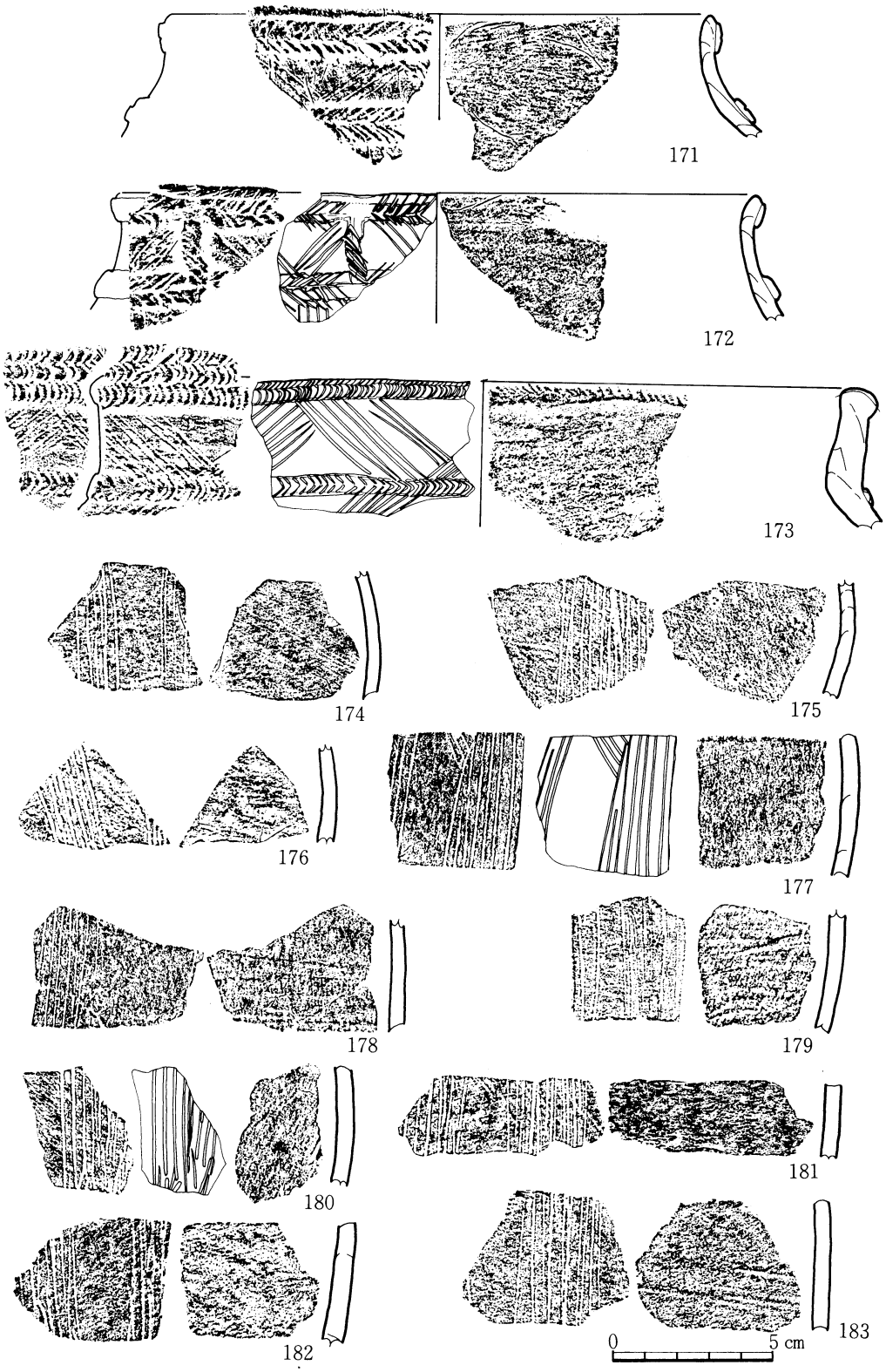


第35図　土器(第３地点)－３

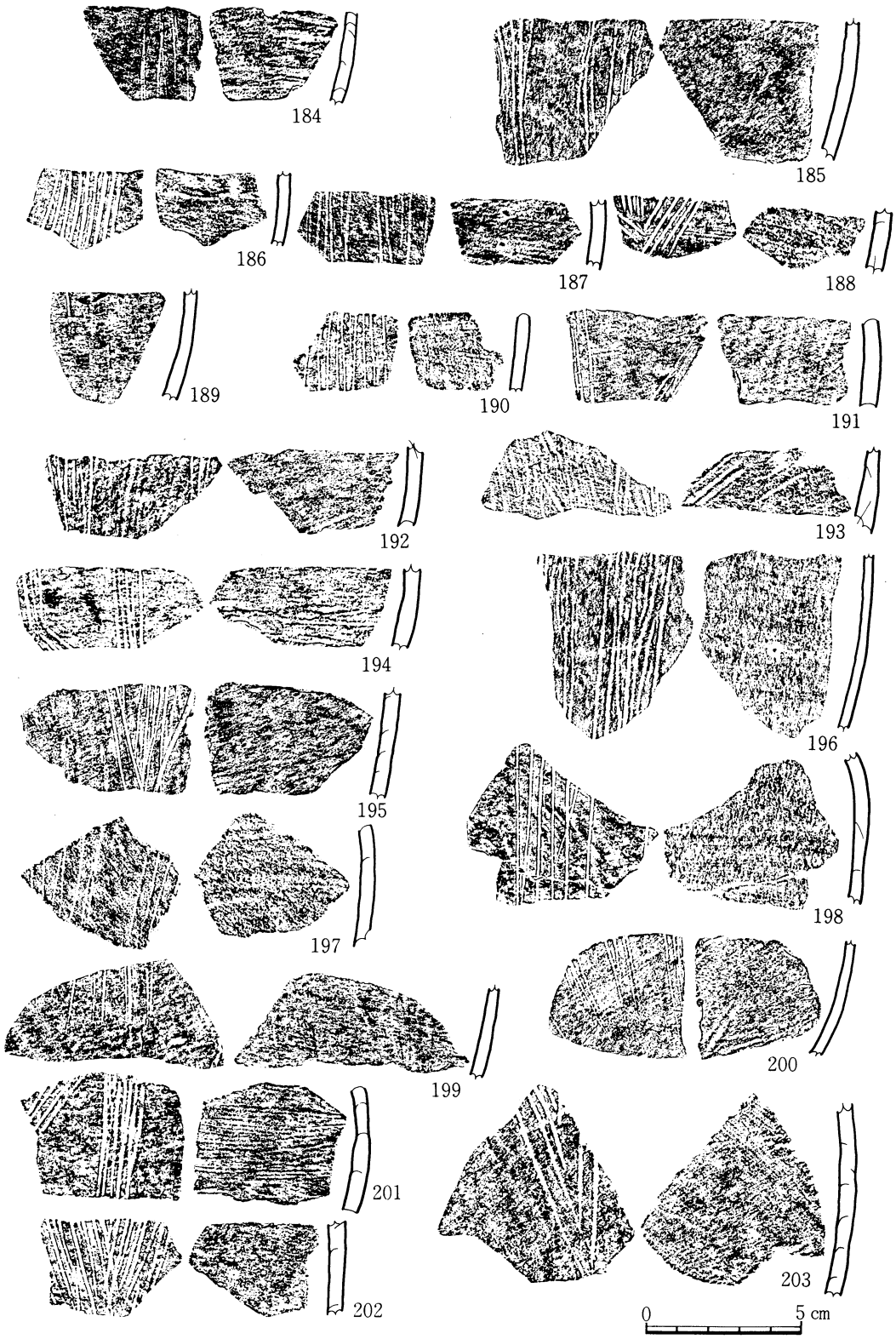


第36図　土器(第3地点)－4

第37図　土器(第3地点)－5



第38図　土器(第3地点)－6



第39図　土器（第３地点）－７

共に同一のヘラ状工具によりシャープに刻まれている。

678～680も同様な特長を持つもので，**681** はそれらの胴部片と思われる。平坦で背の低い幅広突帯は鋭利な工具で斜位に刻まれ，屈曲部や胴部の細沈線もシャープに描かれている。

Ⅵ類

口唇部が意図的に肥厚されている一群である。口唇部が外に傾き断面が三角形状を呈し，なおかつ，口唇部に刻み目を施したもの（Ⅵａ類)。Ⅵ類の特徴を持つもので，口唇部に細沈線，内面に刺突文等を加えたもの（Ⅵｂ類)。肥厚した口唇部の傾きが弱く，平坦面に近くなり，口唇部の刻み目も明瞭さを失い，刺突や細沈線が施されるもの（Ⅵc類)。平坦な口唇部に貝殻腹縁部を刺突したもの（Ⅵd類）に分類される。

Ⅵａ類　**231～235**は共通して横方向の条痕整形がなされ，口唇部はナデ消された後に棒状工具で深い刻み目が施される。刻みの方向は，外から内へ向いている。色調は明赤褐色で明るく，他の土器類とはやや趣を異にしている。器形は口縁部片だけで明らかでないが，ゆるやかに外に開き丸味を呈し，胴部に最大径があるものと思われる。

Ⅵｂ類　**239・240**をその典型とするもので，**239** は，刻目間の平坦面に斜行する細沈線を施し，屈曲部にも細沈線文が描かれる。**240** では，刻目は斜めに施され，刻みの方向は内側から行われている。また，屈曲部にも沈線文が描かれ，内面は不規則な刺突が施されている。

Ⅵｃ類　**241～245**は，口唇部の傾きが弱まり平坦に近くなる。**241**は細沈線，**242**は細沈線と連続刺突，**245**では，３条の連続刺突文等が施されている。

Ⅵｄ類　**253** の１点だけの出土である。内外面共に斜位の条痕調整がなされ，平坦な口唇部には，貝殻腹縁による刺突が施される。やや内弯する形状を呈した鉢形土器で，他には類はないようである。

Ⅶ類

口縁端部に幅広の突帯を貼り付けるもの（Ⅶa類)，突帯が小型化し，頸部に貼り付けられるもの（Ⅶb類）とに細分される。

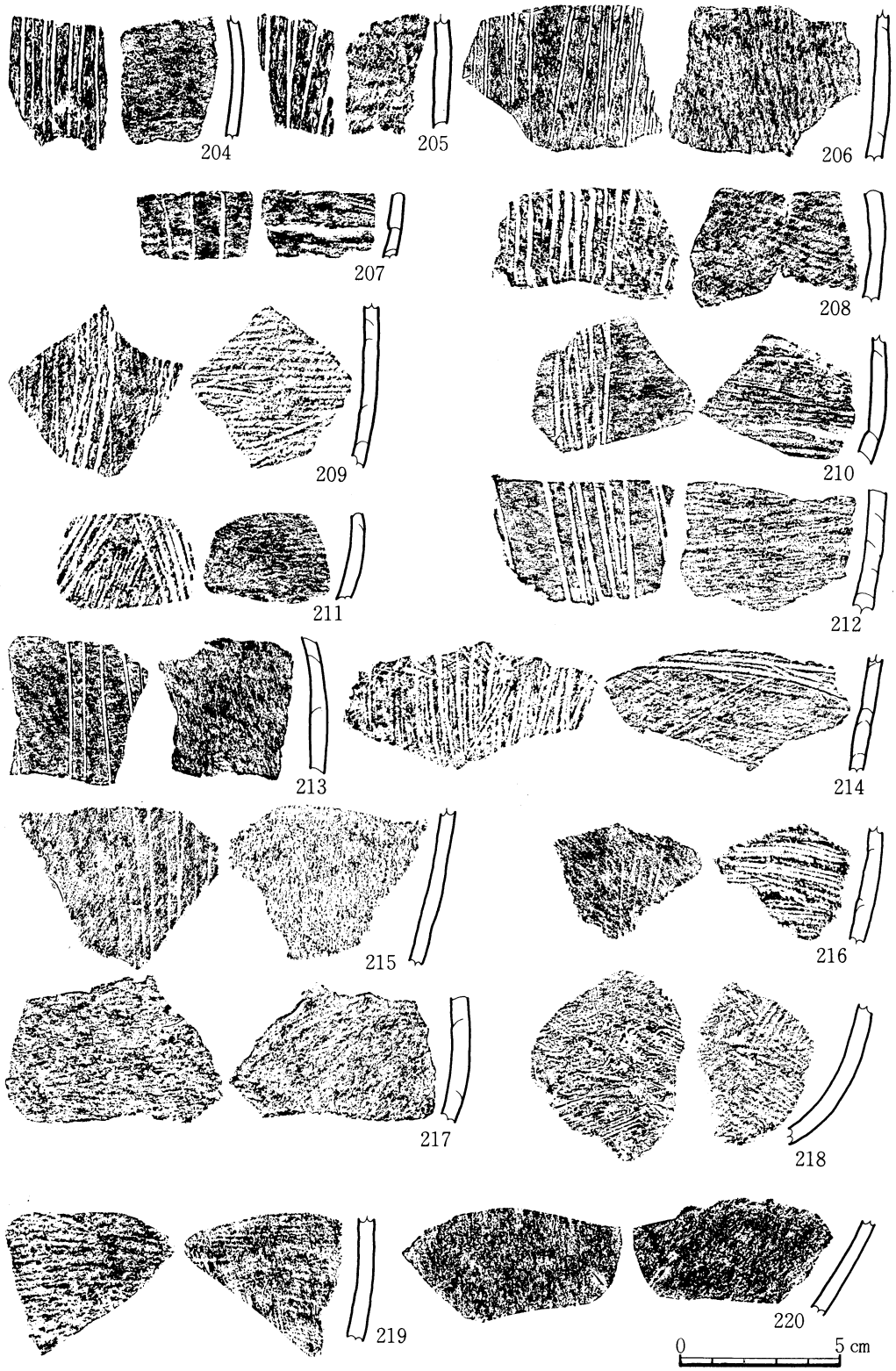
Ⅶａ類　**248～249**が代表的なもので，20㎜幅の粘土帯の貼り付けがなされる。突帯上は，貝工具により掻き取る様に押圧（**248**)。**249** では，口唇部の両端に押圧により連続刺突，中央部に貝工具による押圧，口縁部も同じように押圧している。

Ⅶｂ類　**257・260**の頸部の突帯上の刺突は，**249** の口唇部の両端に施された押圧手法と同一である。

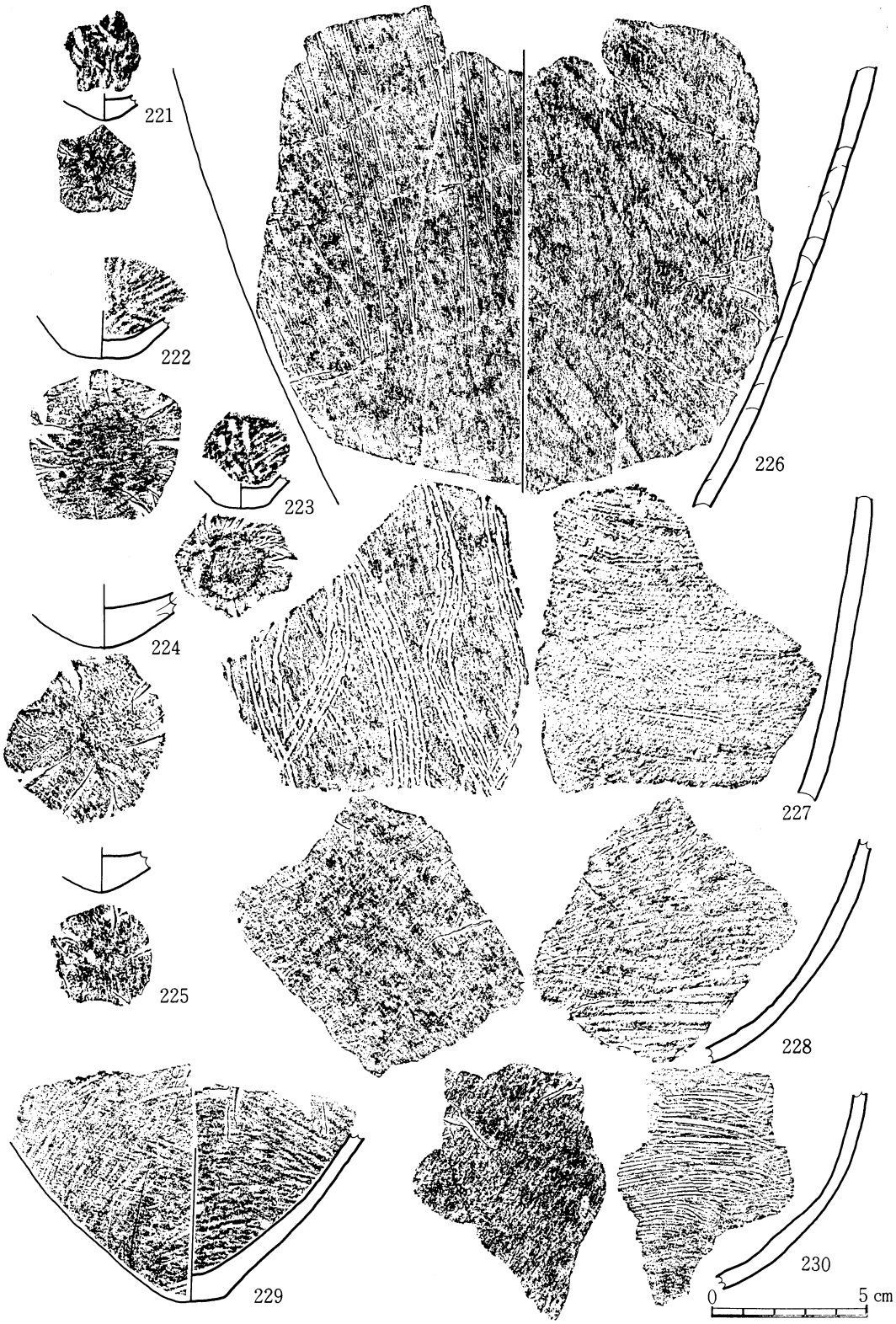
Ⅷ類

口縁部及び文様体が肥厚したもので施文の違いにより，押し引き（Ⅷa類)，押し引きの間隔が遠くなり間のびした感じの押し引き，あるいは一方向への連続刺突（Ⅷｂ類）に大別している。密な押し引きを施したものは少なく，間のびした押し引きによる施文が圧倒的に多いのも特徴である。

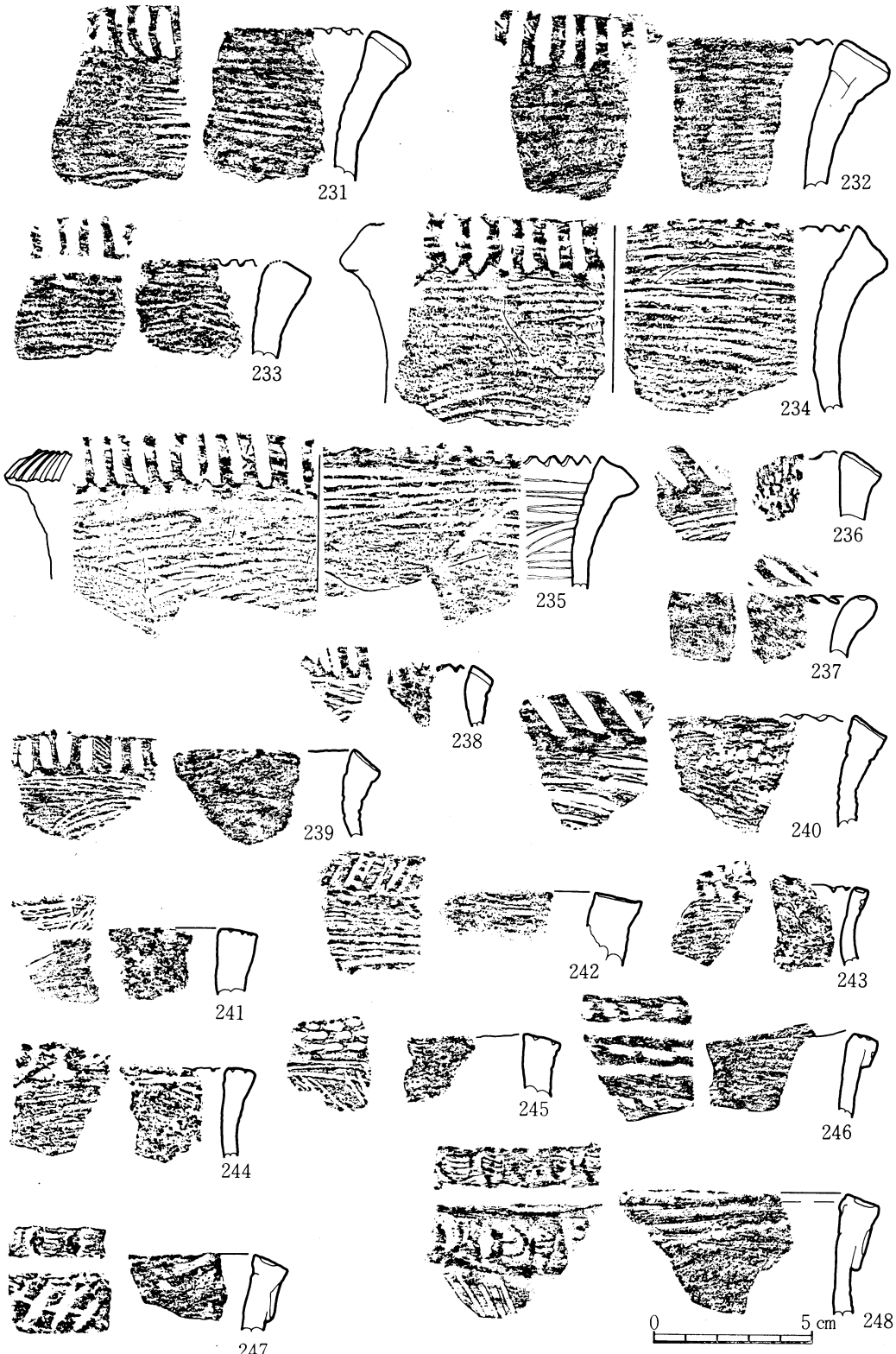
Ⅷａ類　**262** がその典型的なもので，内外面を入念にナデ仕上げた後に，先端部が三角形に



第40図　土器（第３地点）－８

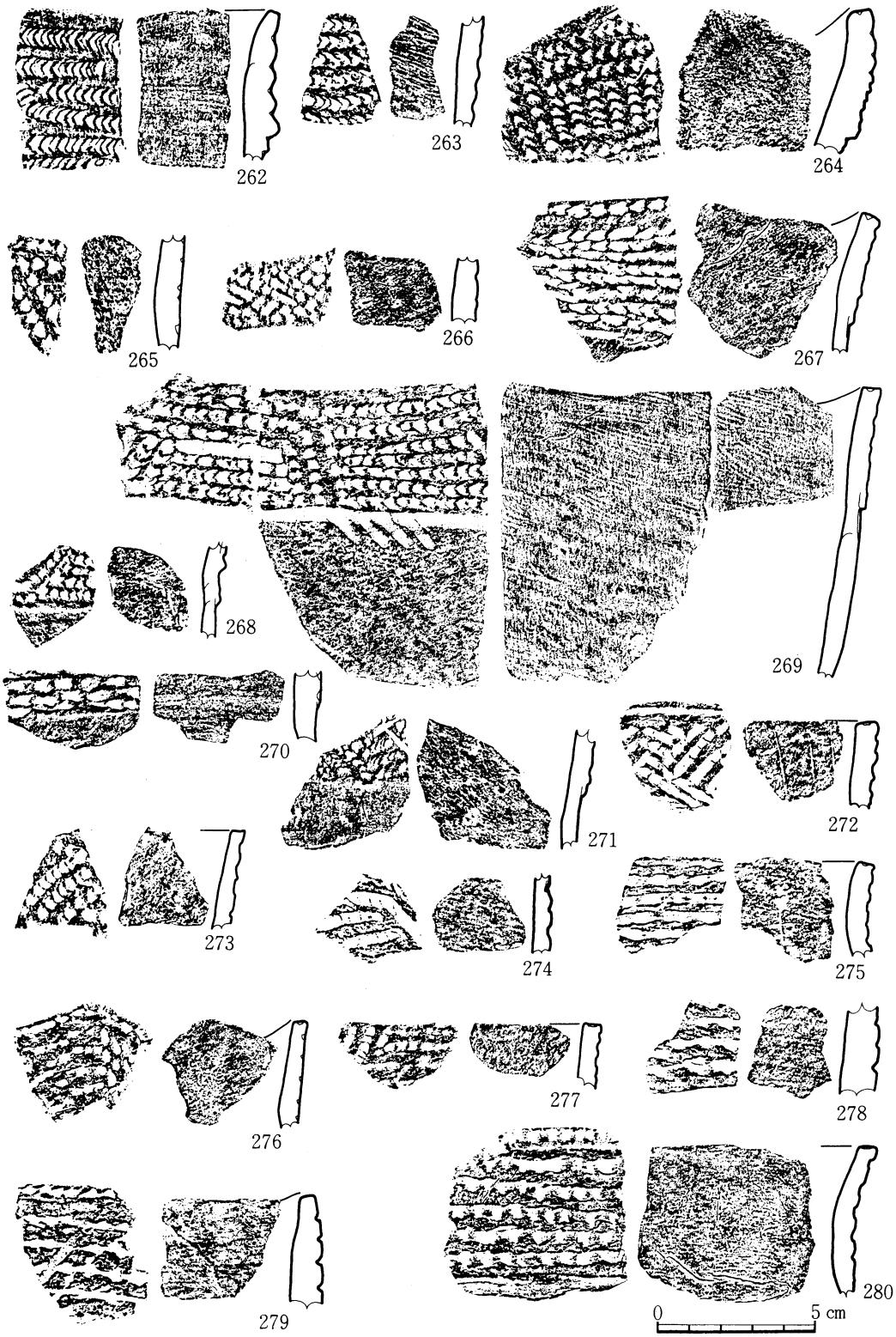


第41図　土器(第3地点)－9

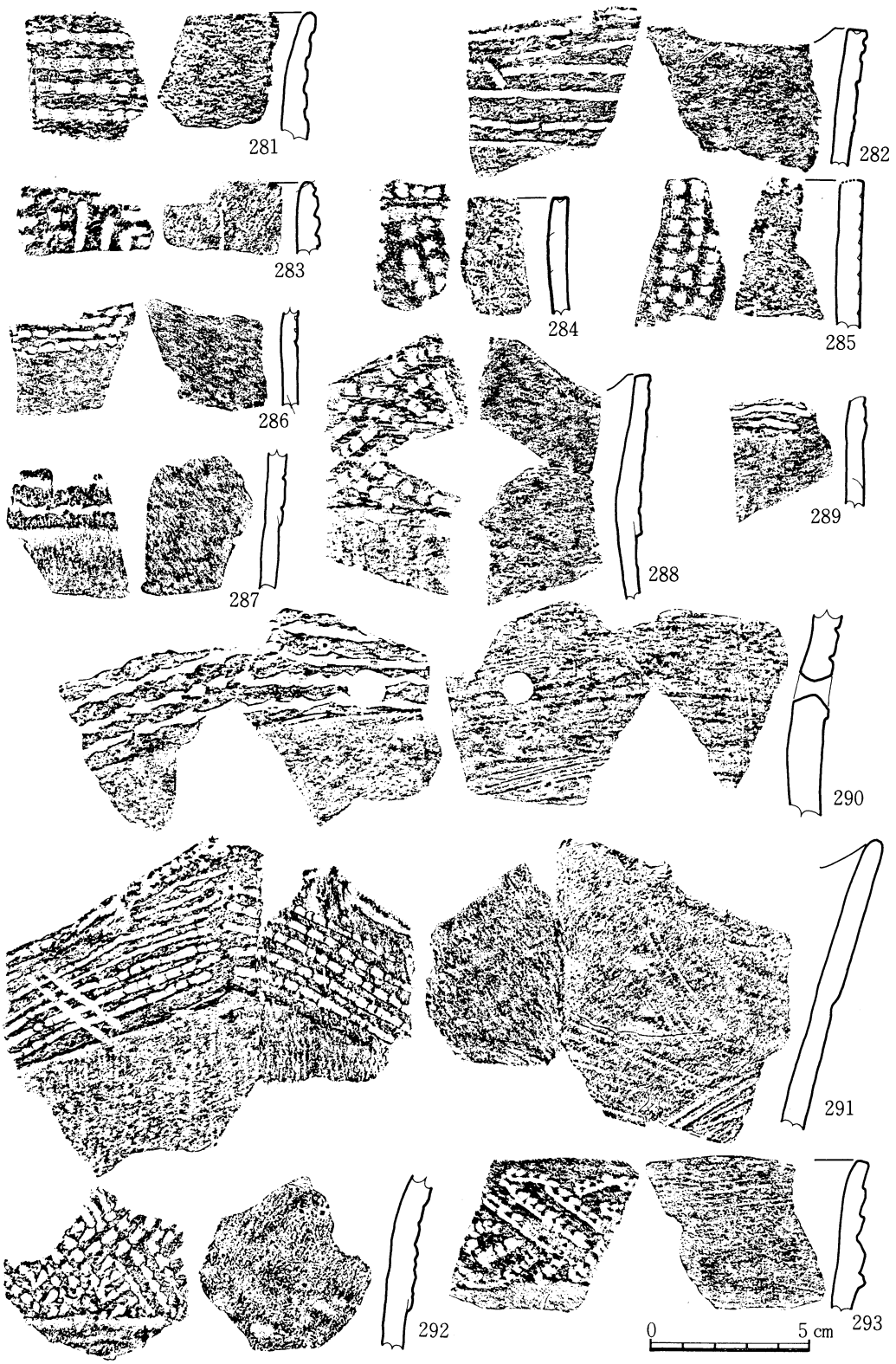


第42図　土器（第３地点）－10

第43図　土器(第3地点)－11

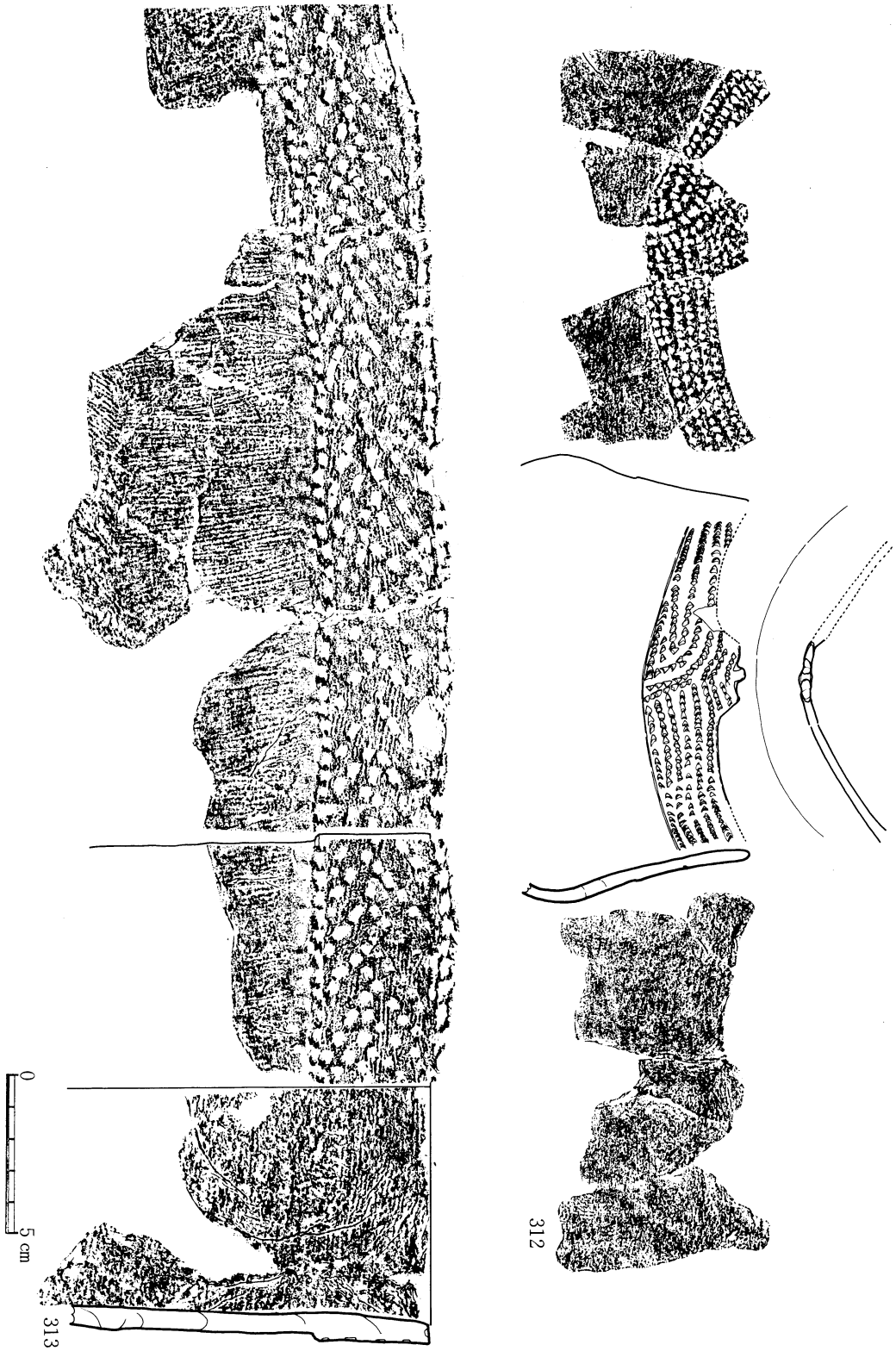


第44図　土器(第3地点)－12

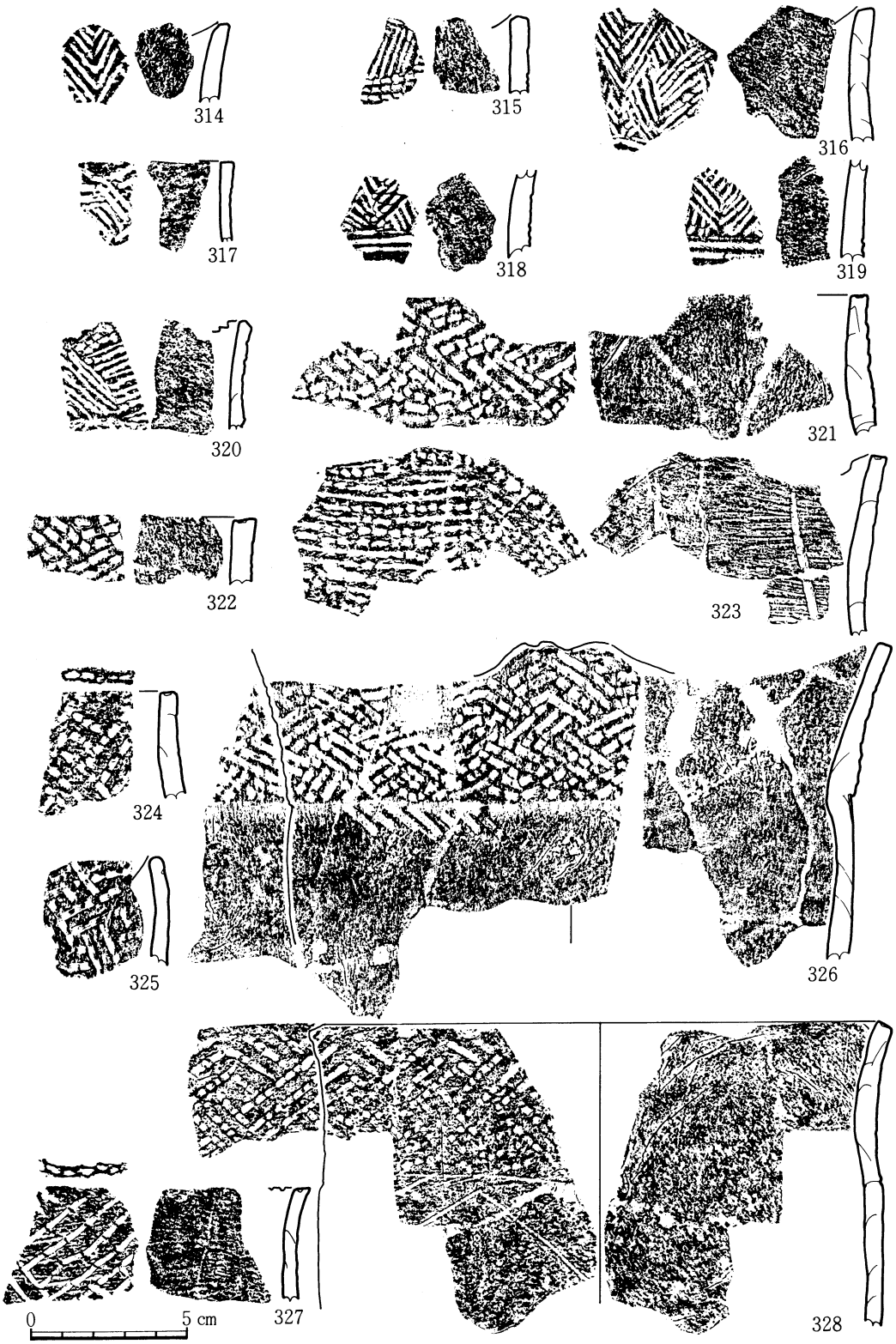


第45図　土器(第3地点)－13

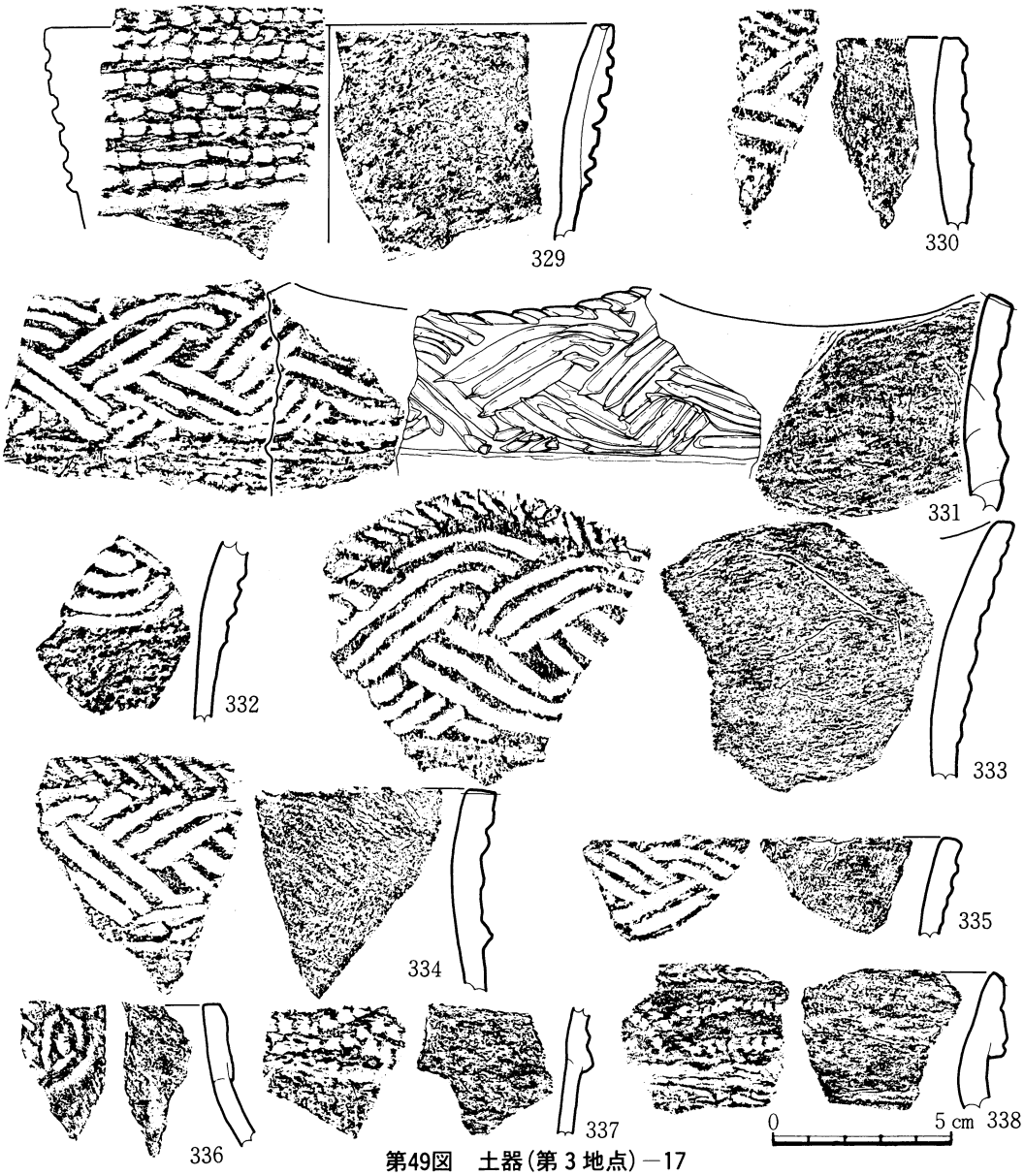
第46図　土器(第3地点)－14



第47図　土器(第3地点)－15



第48図　土器(第3地点)－16

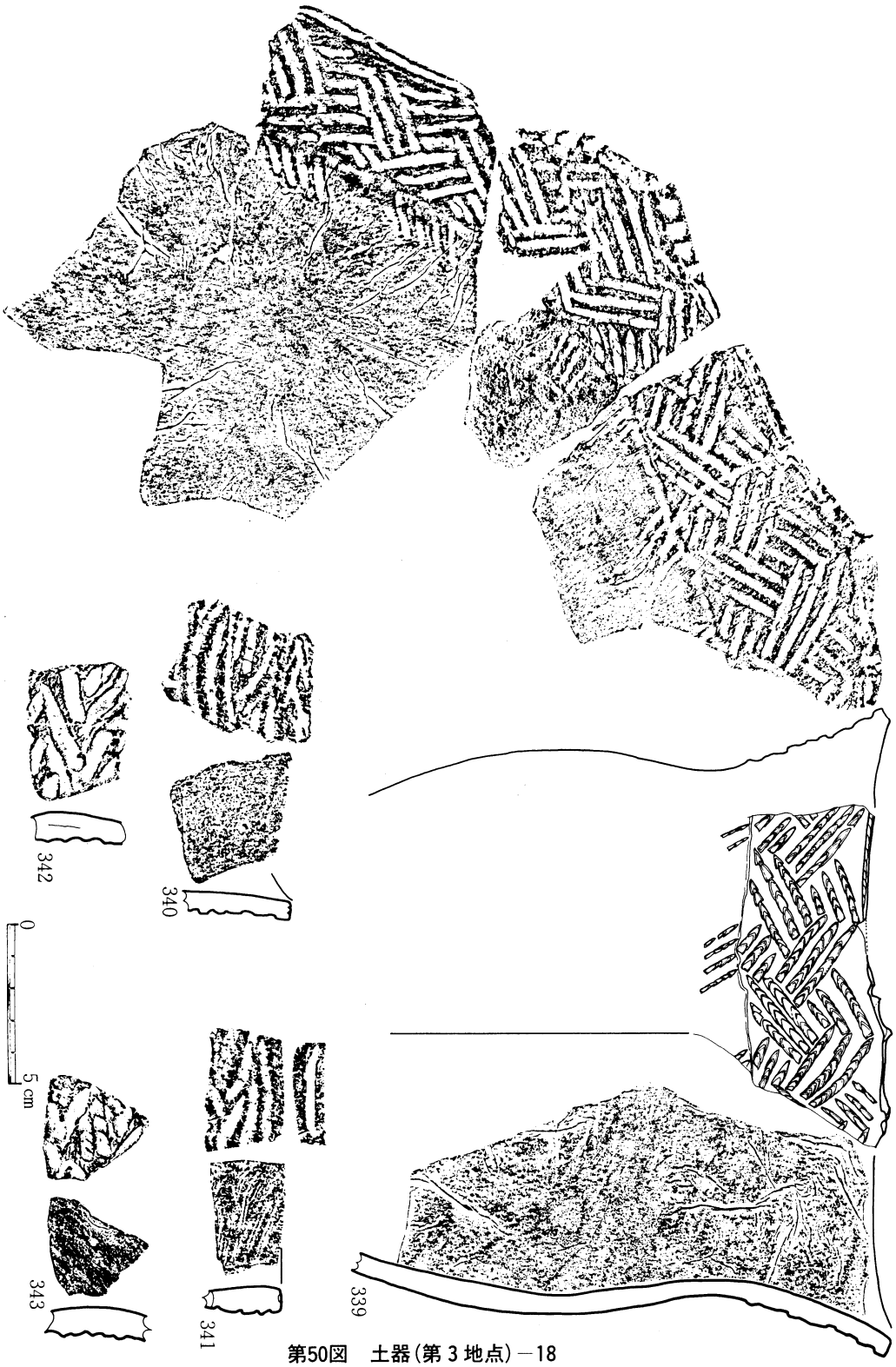


第49図　土器(第3地点)－17

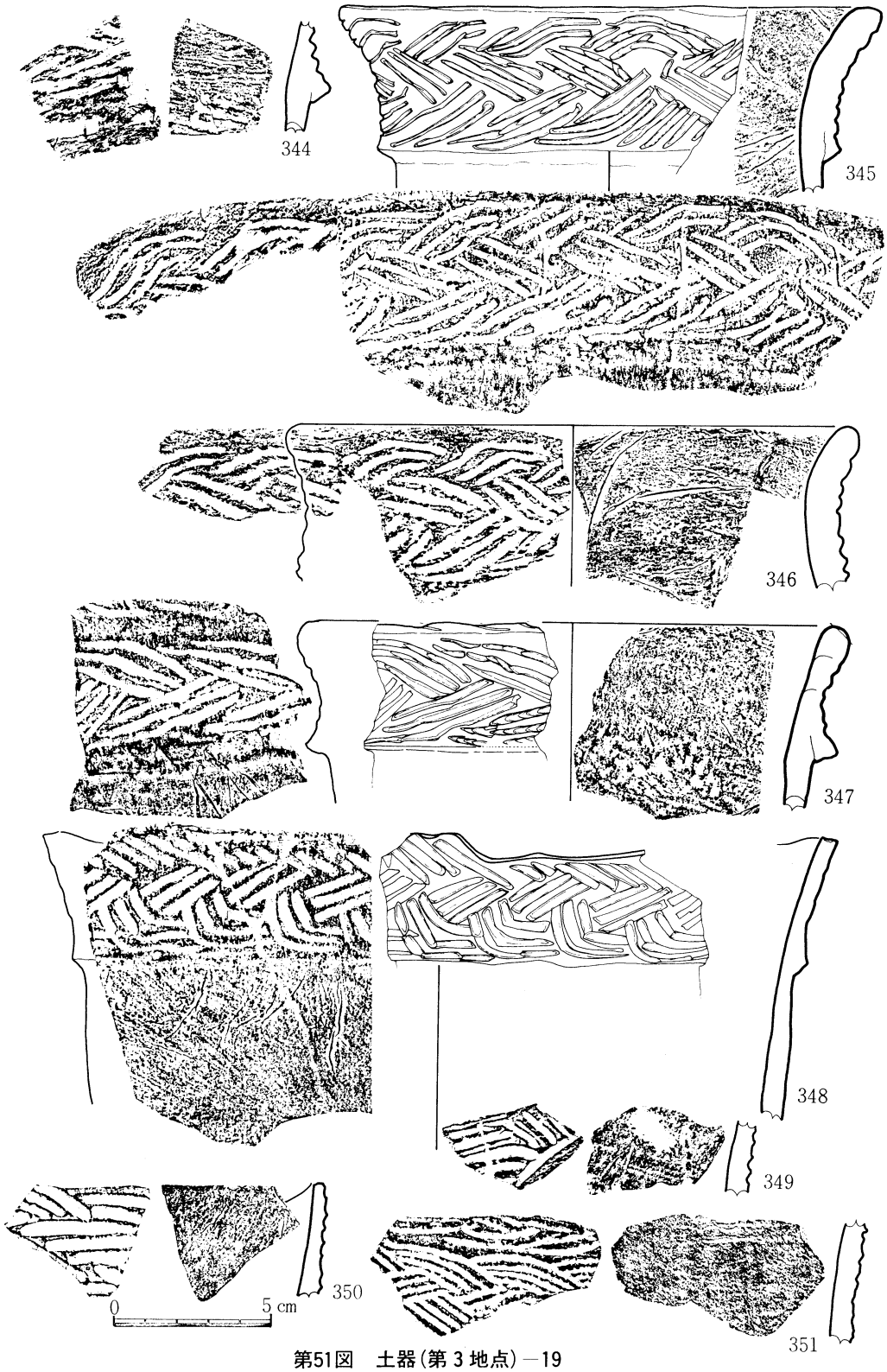
整形された工具で密に押し引いて入組文を描いている。**269** では，押し引きの間隔がやや粗となったもので，肥厚帯の下位にも同様に施している。全体としては数は少ない。

Ⅷb類　Ⅷ類の中では，圧倒的に多い。b類の施文パターンは，**291・304**のように横位に一定方向へ施すもの，**295**や**301**のように器形のアクセント部で方向を変化させるもの，**326・328・339**のように3本が1組の単位でそれらを組み合わせて文様を構成(編籠文)するもの，**313** のように異なる方向のものを組み合せて構成するもの等が存在している。

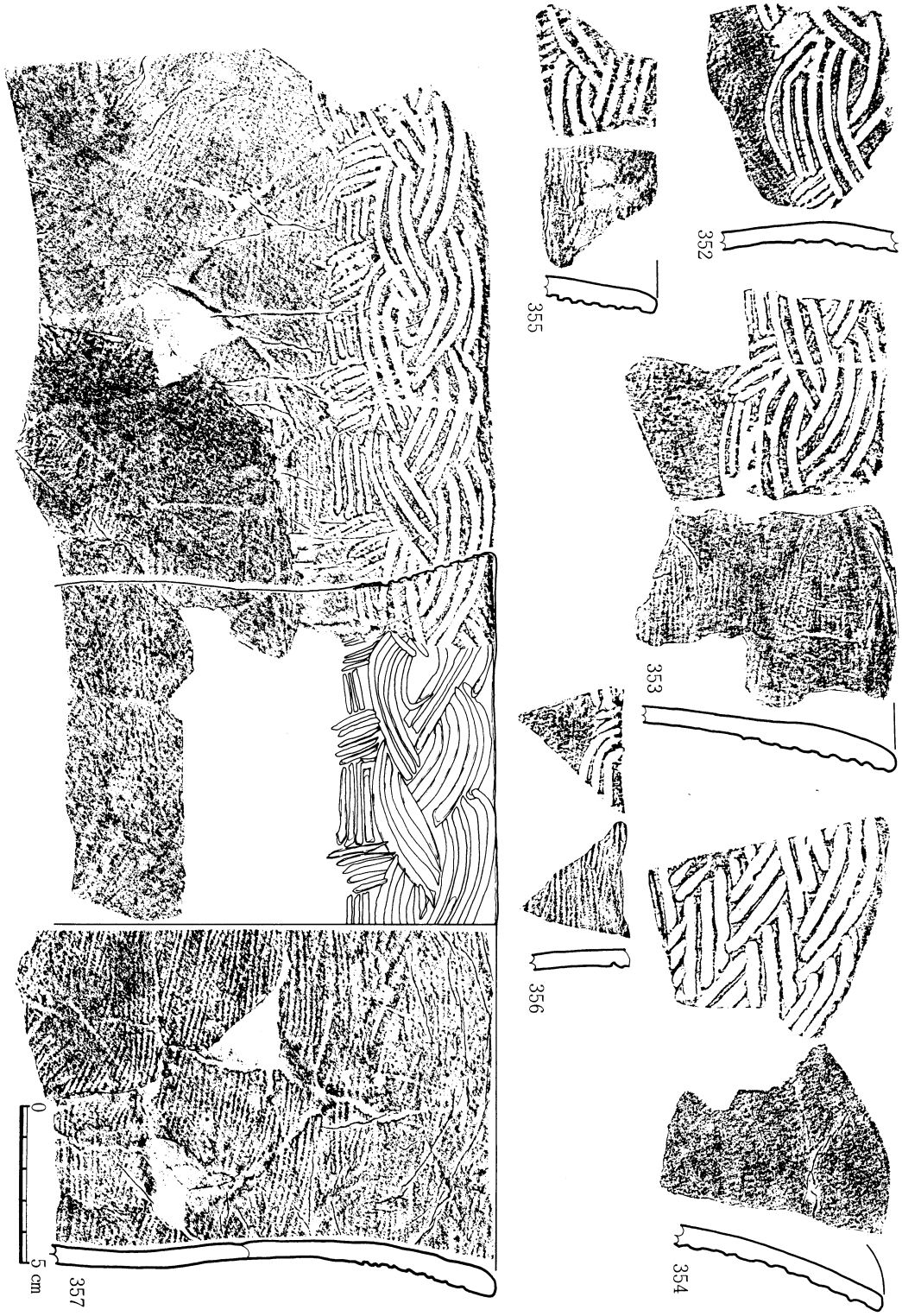
280 は間のびした押し引きで，その押さえも浅く，**281**も同様である。 **283**では深く押さえ込まれているが間のびが大きく，拓影では沈線状にしか見えない。**293**の工具は半截竹管。**300～301** は同一個体と思われるもので，先端部の鋭い工具で連続刺突状に施文している。**306** は内外面



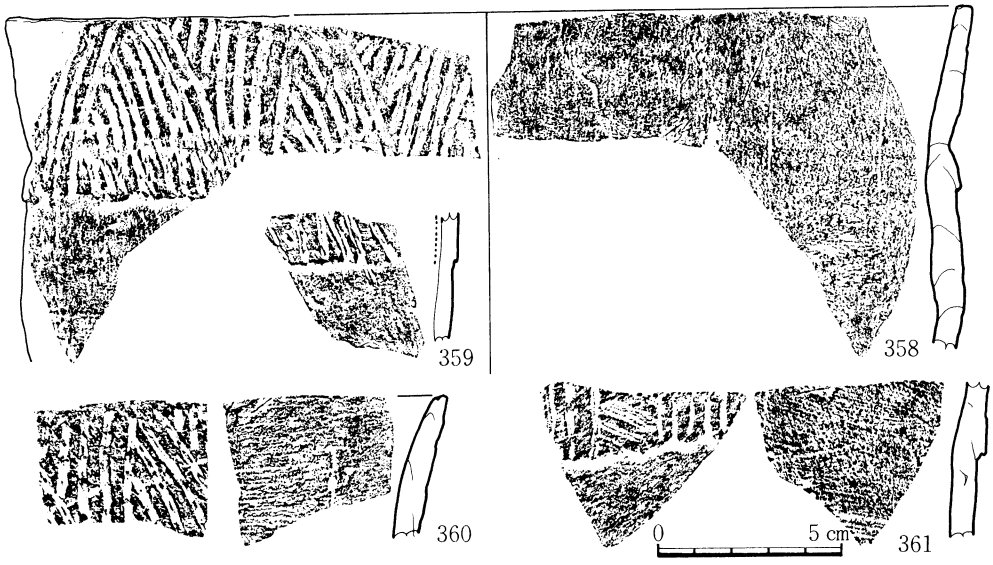
第50図　土器(第3地点)－18



第51図　土器(第3地点)－19



第52図　土器(第3地点)－20



第53図　土器(第3地点)—21

共に施文した特殊な例である。**310・311**は連続刺突，**313**も同様で先端部が方形の工具を深く刺突している。器形は円筒形を呈し，胴部では縦位の条痕が著しい。**312**は薄手で硬質の精製土器である。特殊な器形を呈し，口縁部上面観は方形で最大径は胴部にある。山形口縁の頂部の左右に削りを加え，中心部だけ乳頭状に突起している。なお，相対する山形部は同一の形状をなし，左右の山形部の形状は異なる可能性が高い。**314～316**，**318・319**は同一個体の可能性が高い資料で，細い工具で浅い間のび押し引きを施す。**326**の山形口縁は2ケ所で抉られ，**321**，**322**と同一個体の可能性が高い。**328**では文様帯の肥厚は見られず，押し引きも極めて浅く，間のびしている。また，内面にも縦位の浅い細沈線が描かれ，**324**と同一個体の可能性が高い。**329**は1点だけの出土で，深く押し引かれている。**336**，**338**は壺形土器の可能性もあるもので，口縁部文様帯が意図的に肥厚されている。**339**，上面観は方形，五段の階段状の山形口縁を呈し，肥厚した文様帯に編籠文状に間のび押し引きを施す。拓影では沈線文に写る。**358～361**は同一個体で，叉状工具を縦位に押し引いている。

Ⅸ類

沈線により規則性のある文様構成をなす一連の土器群で，やや幅の広い工具から細い工具まで用い，編籠文を文様構成の基本とし種々展開されている。

弧状の曲線を施文の主体とするもので，総じて幅広の工具を用い，一部には押し引きの痕跡を留めるものも含む（Ⅸa類)。直線化した短沈線でa類同様の文様を構成するもの（Ⅸb類)。直線化した短沈線の組み合せにより「く」の字状の文様構成を持つもので，編籠文とはやや距離が感じられる（Ⅸc類)。横走する沈線間に「く」の字状の短沈線を組み合せたもの（Ⅸd類）に細分する。

Ⅸa類　**331～334**は同一個体と思われるもので，**332**と**334**は掲載後接合している。口唇部はいづれも斜めに刻まれ，3本1単位で弧状に描き**331**の一部には押し引きの痕跡が残される。**345**と**346**は復元口径に差があるが，同一個体の可能性が高い。**347**まで一部に押し引きの痕跡が

残されている。348は，凹線が方向転換し屈曲する位置に押し引きの痕跡が残される。また，348の胎土には多量の金雲母が含まれている。350と354は，薄手で硬質の焼成で規則性のある文様を描き，同一個体の可能性が高い。351では4本1単位で描かれる。357は口縁部が外反する形状をなすもので，3～5本の弧状の凹線で文様を構成している。385～387も同一個体で，上面観は方形を呈す。3本1単位でヘラ状工具をやや寝かせて描いている。

Ⅸb類　362，363はいずれも焼成前に穿孔し，極めて類似した個性を持っている。沈線はやや細くなり，直線化した文様を呈している。371では明確な規格化が見られる。376は一部に押し引きの痕跡を残している。379や381の内面の沈線は明瞭である。383は山形口縁。384の口縁は特徴的である。388，389は同一個体と思われるもので，3本と4本の単位である。422の穿孔も焼成前に施され，同個体には4個認められる。　421や422等では，編籠文が完全に直線化し固定化していることがうかがえる。433は4段のステップを持つ山形口縁で，3～4本単位の構成は見られず，形骸化している様相を示している。571は，31区南壁（断面ベルト）の第4層から出土した小型の深鉢形土器の完形品であり，本遺跡唯一の完形土器でもある。上面観は方形を呈し，胴部では楕円形，底部ではほぼ円形をなしている。山形口縁で，頂部は抉られ凹面を呈し，口唇部はヘラ状工具で斜めに刻まれる。文様帯は，若干肥厚し，縦，横方向の沈線で文様を構成している。

Ⅸc類　406は肥厚した文様帯に沈線で「く」の字状に施文したもので，大型の土器である。412，416も同様の文様構成を持つもので，いずれも大型の土器である。420の外面の文様はc類と同一であるが，類を異にした方が良いかも知れない。440～443は同一個体と思われるもので，上面観は方形の筒形土器である。繊維質の施文具を用いたと思われ，線条痕が残される。444～446では先端部の鋭い工具で，細沈線が施されている。

このc類でも，b類と同様，施文具に多様化が認められる。

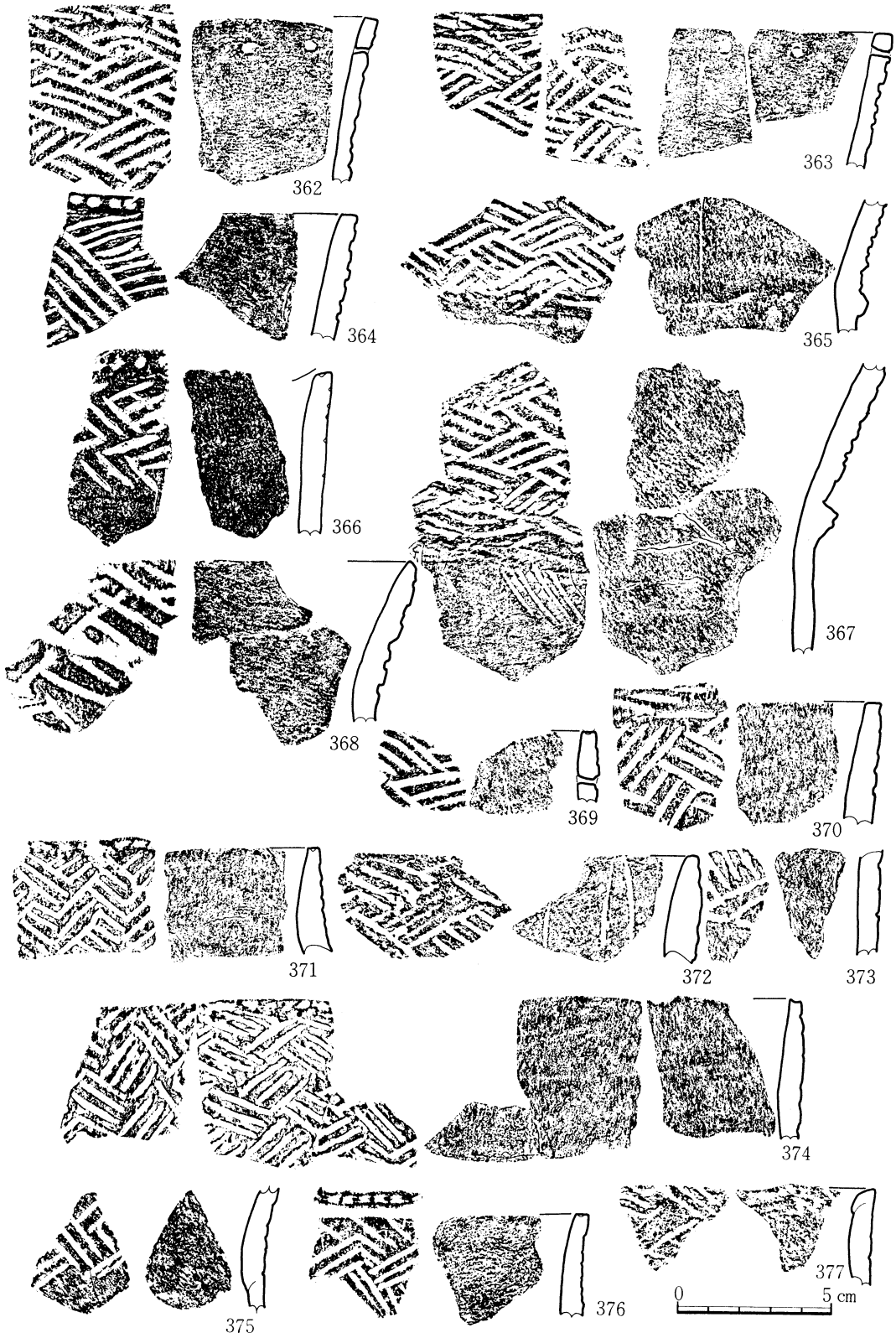
Ⅸd類　458～464の資料であり，羽状文様の規則性のある構成が見られ，いずれも，器肉は薄く硬質で，直行する器状を呈している。

X類

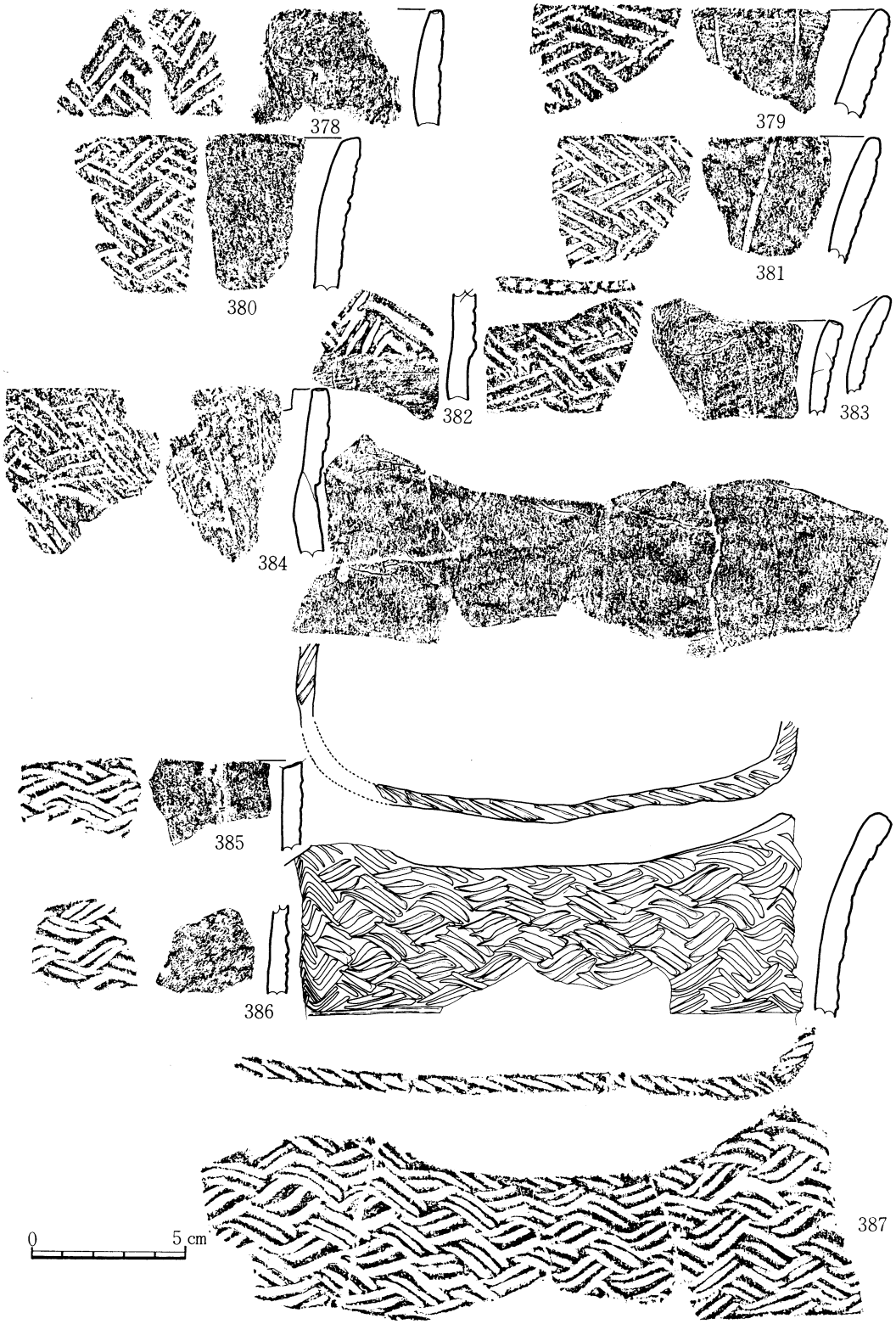
平行する沈線文で文様を構成するもので，肥厚した文様帯に斜行する平行沈線を施すもの（Ⅹa類）。横位に平行沈線を施すもの（Ⅹb類）。縦位の平行沈線を施すもの（Ⅹc類）に細分される。

Ⅹa類　467と469，472の3点で前2点はおそらく同一個体と思われる。口唇部は深い連続刺突が施され，口縁部の文様帯は若干肥厚し，ヘラ状工具で鋭い沈線が描かれる。また，口唇部の一部には瘤状の小突起がつけられる。472は入念にナデ消された後に，施文し，胎土には多量の金雲母が含まれる。

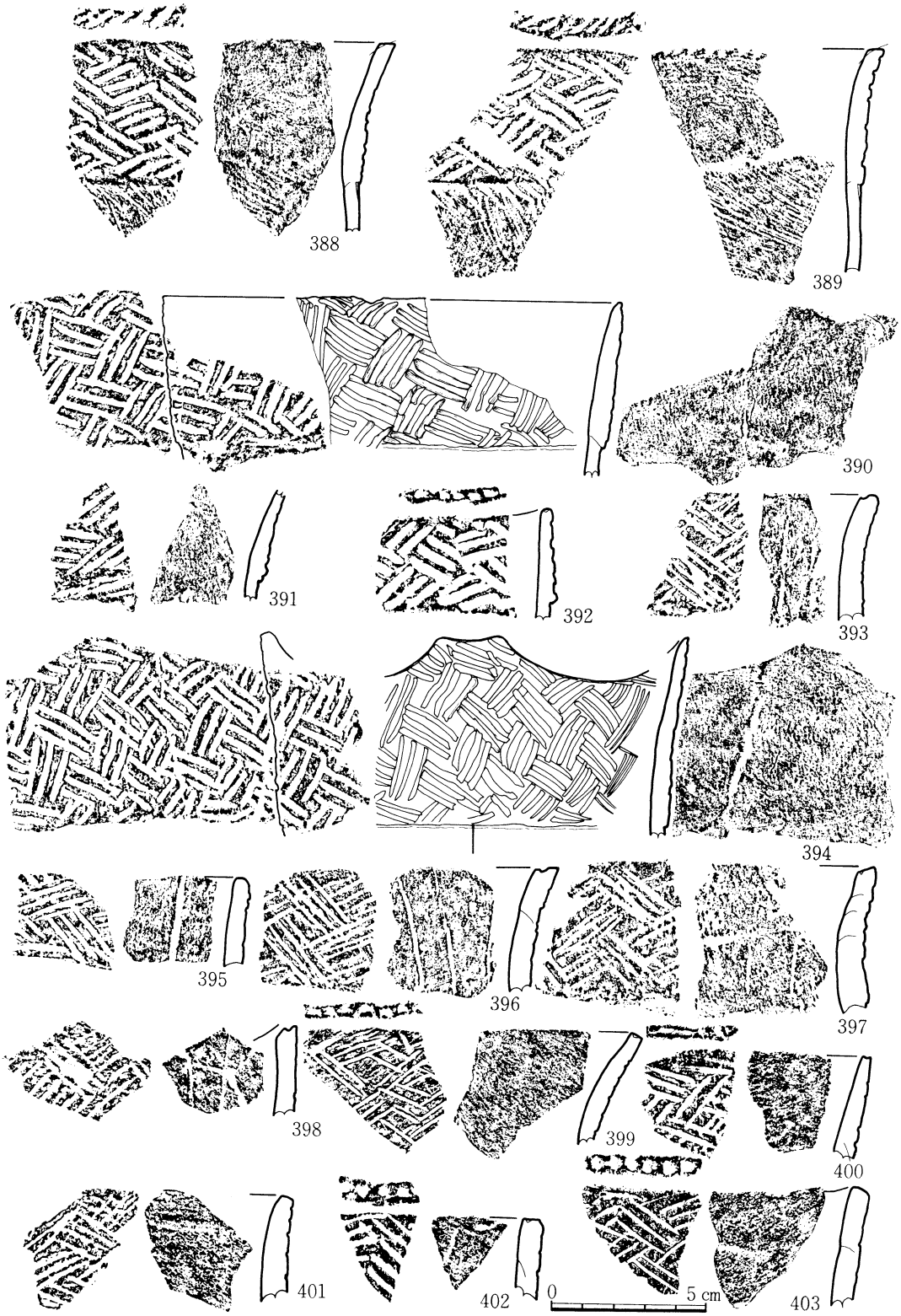
Ⅹb類　466は繊維質の施文具を用いたと思われ，線条痕が残されている。470の文様帯は肥厚し，477もその可能性があり，さらに穿孔は焼成前になされている。471，476は薄手で476は軟質の焼成である。



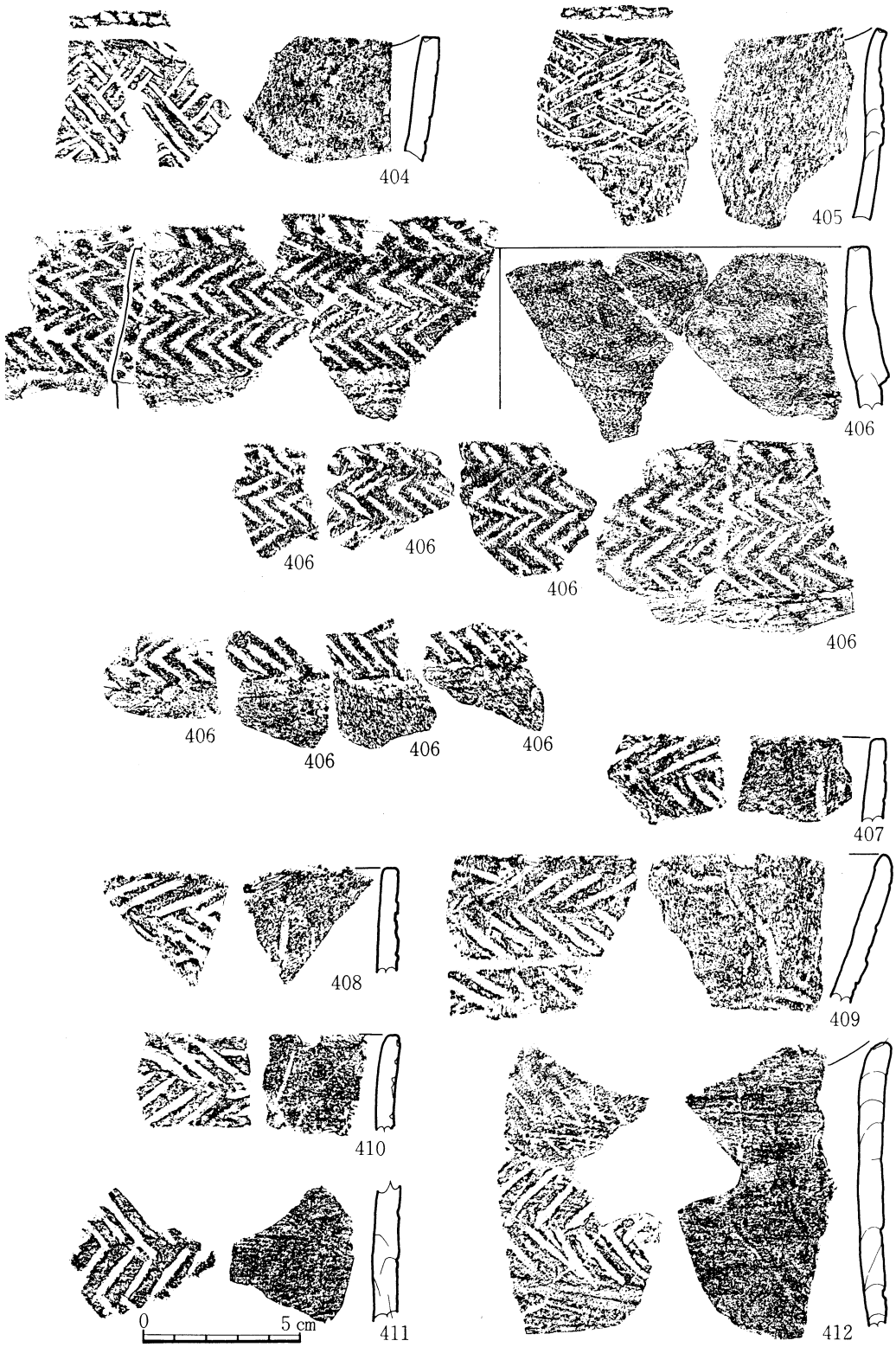
第54図　土器(第3地点)－22



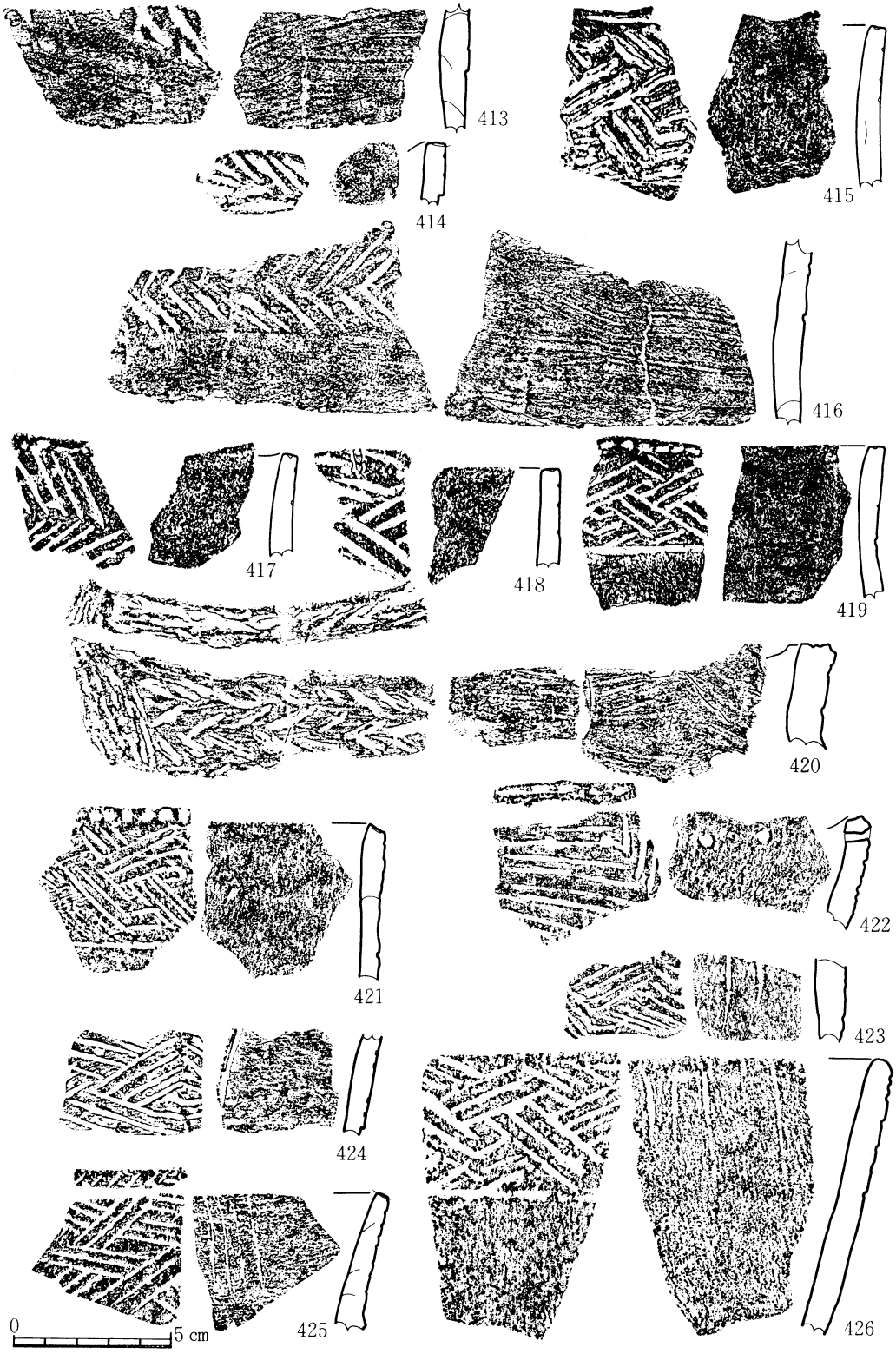
第55図　土器(第 3 地点)－23



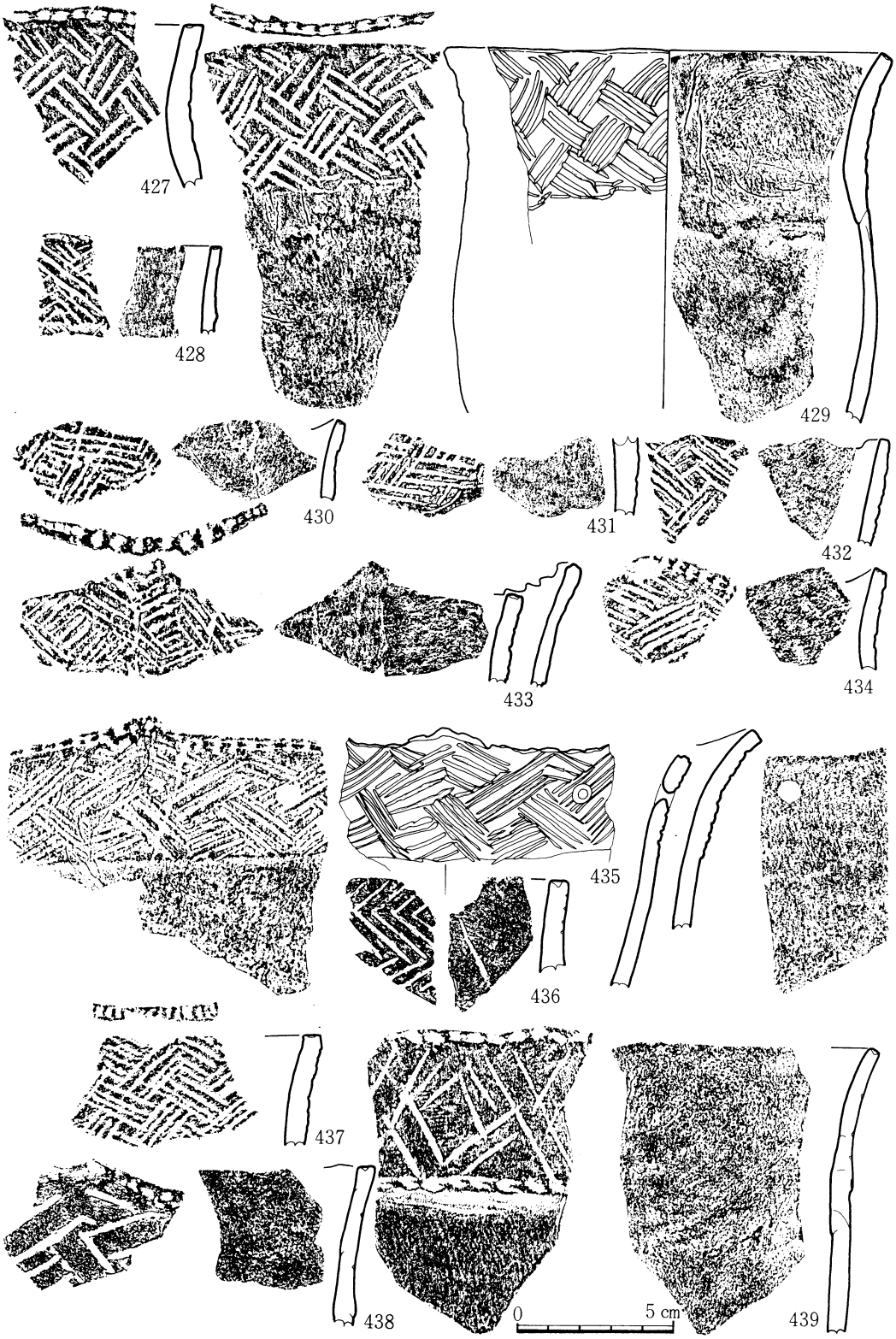
第56図　土器（第３地点）－24



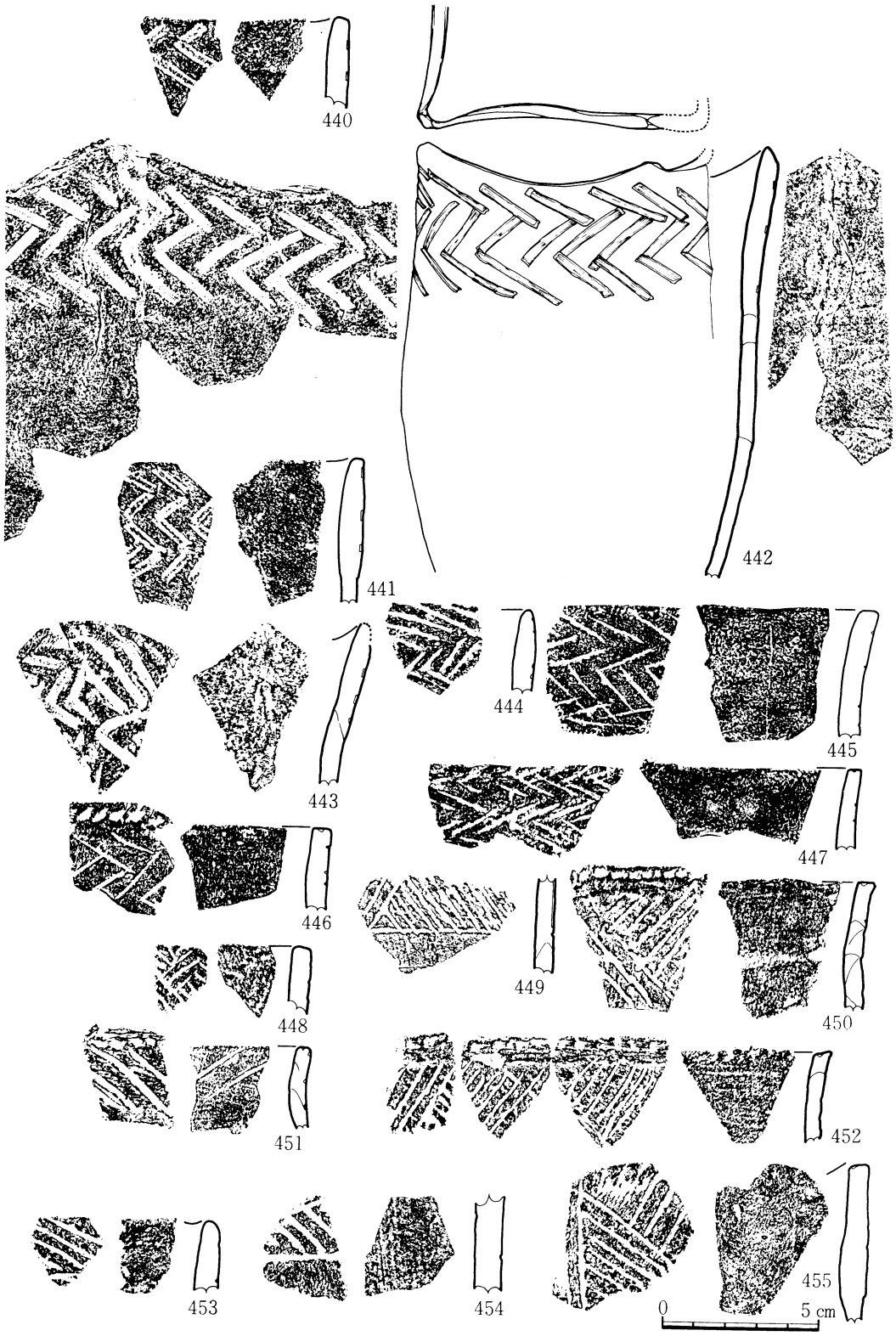
第57図　土器(第3地点)—25



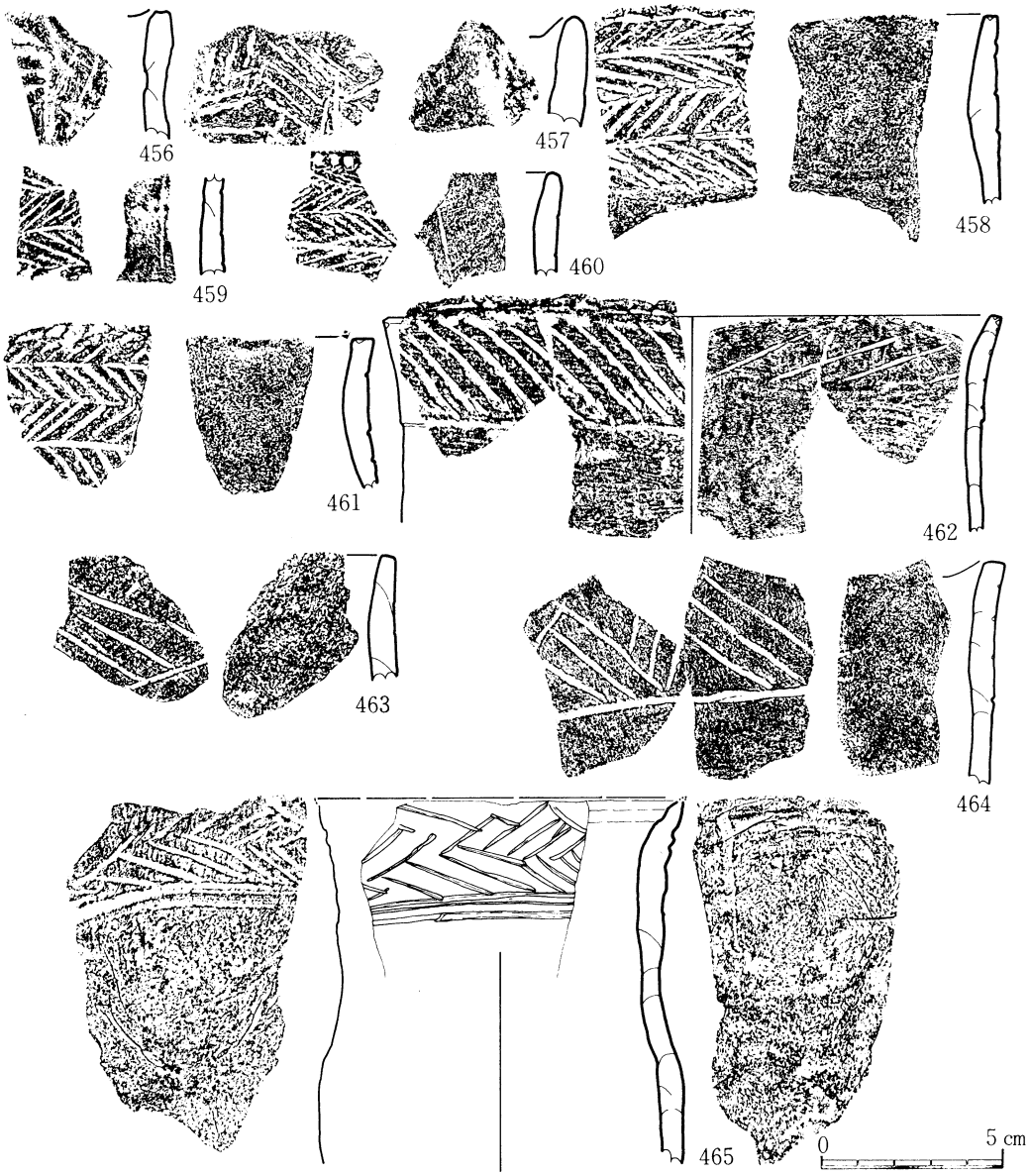
第58図　土器(第3地点)－26



第59図　土器（第３地点）－27



第60図　土器（第３地点）－28



第61図　土器(第3地点)－29

Ⅹc類　**478**，**479**の2点で，同一個体と思われる。**476**同様，軟質である。器形等は不明で，口縁部は波状を呈するようである。また，口唇部も舌状を呈している。

Ⅻ類

口縁部文様帯を上段と下段に区分し，口縁端と文様帯下端に同一の施文具により，間のび押し引き及び連続刺突を施したものである。上段と下段を細沈線で結んだものを（Ⅻa類），連続刺突で結んだもの（Ⅻb類）と二分している。

Ⅻa類　**480**～**482**の3点だけである。**480**と**481**は同一個体と思われるもので，やや軟質の焼成であるが，薄手の良質な資料である。文様帯はていねいにナデ消され，口唇部にも連続刺突

を施し，山形口縁を呈している。

Ⅻ b 類　**483**と**485**は同一個体と思われ，器肉は厚く硬質の土器で，口縁部は山形をなしている。文様帯は肥厚し，先端部が三角形の工具で押し引き，連続刺突を施している。施文部は，口唇部，文様帯上段と下段，肥厚部の接合部で，さらに，上段と下段を３条１組の押し引きで連結している。**486** も前記と同一の文様構成を持つもので，やや小ぶりの土器片である。施文は，押し引きが消失し連続刺突で行なわれる。やや軟質の焼成であるが，多量の金雲母を胎土に含み，外面には多量のススが付着している。

XⅢ類

口縁部が山形を呈す鉢形土器で，山形口縁部の直下に縦位の粘土紐を貼りつけ，瘤状の隆起帯を持つものである。

XⅢ類　**487・488**の２点だけである。口唇部に連続刺突，隆起帯と器面に縦方向の連続刺突が施され，刺突は上から下へ斜めに深く押されている。文様帯と胴部を区分するための1.5 cm程の短沈線が間隔を置いて描かれている。

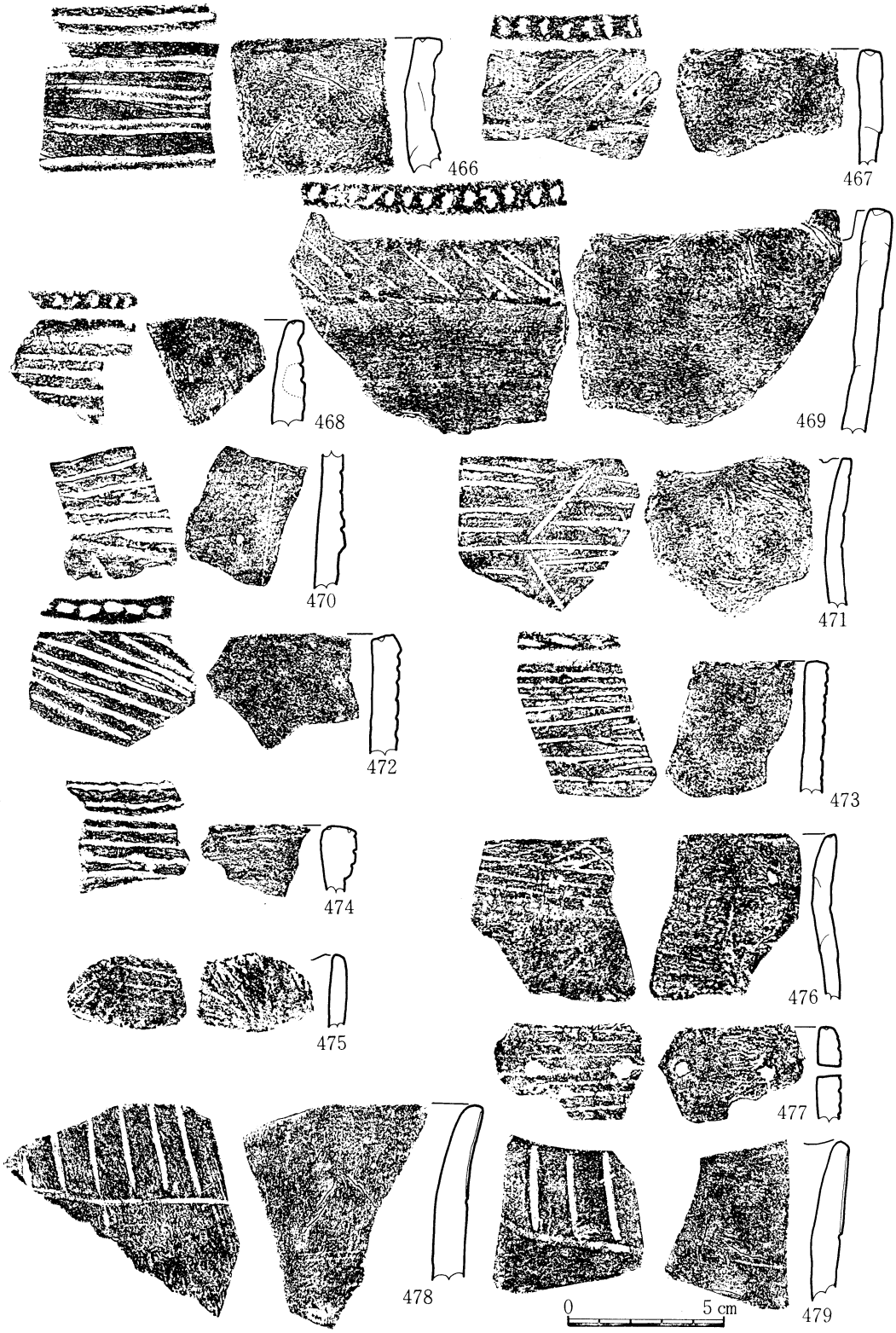
XⅠ類

口縁部は，平口縁と山形口縁をなすものがあり，口縁部がゆるやかに外反する鉢形土器が基本となる。施文は口唇部，口縁下位（文様帯は肥厚するのが一般的で，若干は肥厚しないものもある）が圧倒的で，胴部に鋸歯文様の沈線文を施すものも存在する。文様は沈線文と間のび押し引き文，連続刺突文の組み合せで構成される。横，縦，斜め方向に沈線を引き，その間に間のびした押し引きや連続刺突を充塡しており，沈線が区画文の役を果している。

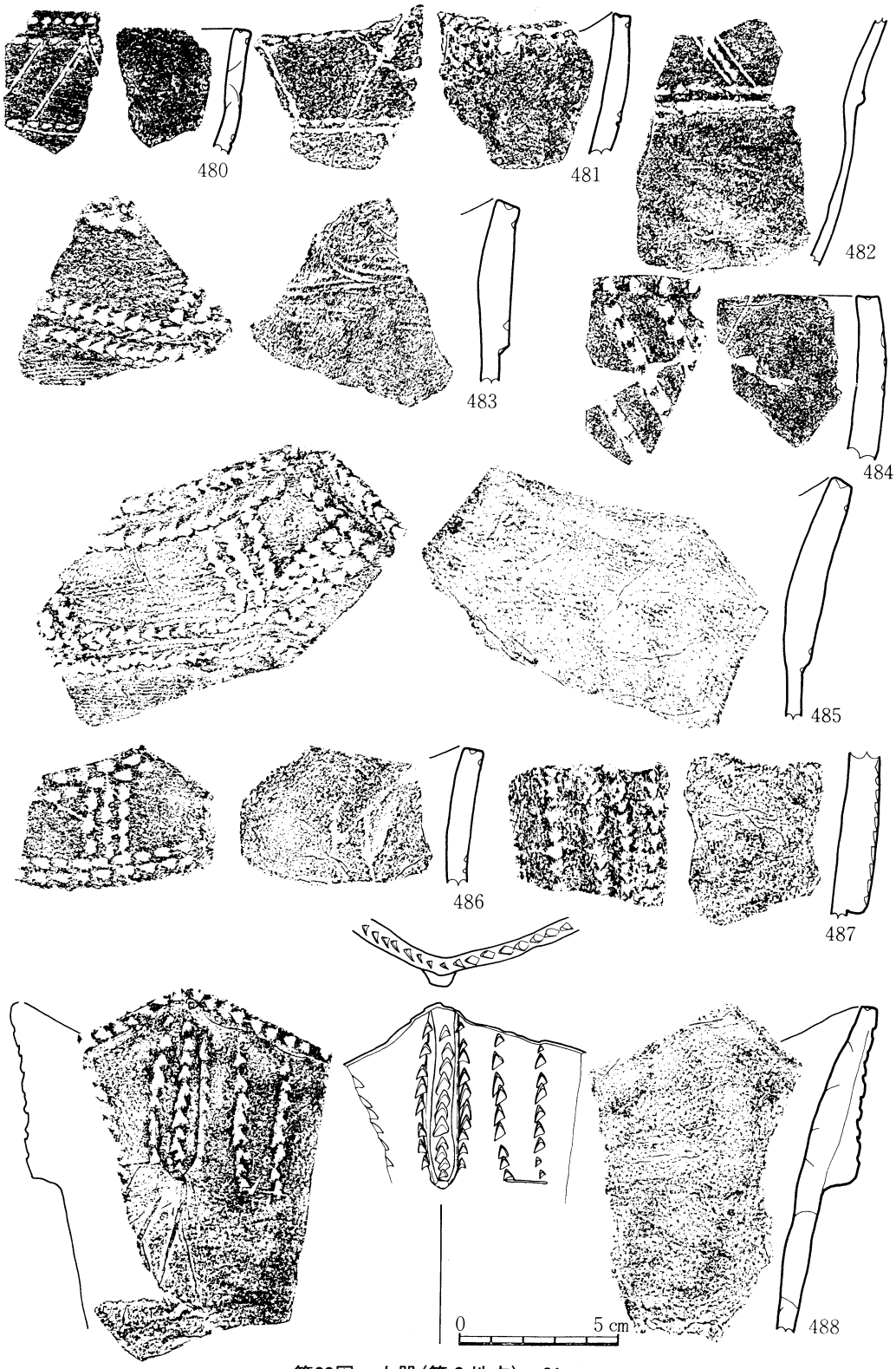
また，内面にも縦位の浅い沈線が描かれているものもある。

押し引きと刺突の施文具は，先端部が鋭く磨かれた三角形・丸形・方形等であり，総じてシャープな文様が見られる。そのため，専用の工具が用意されていた可能性が高い。

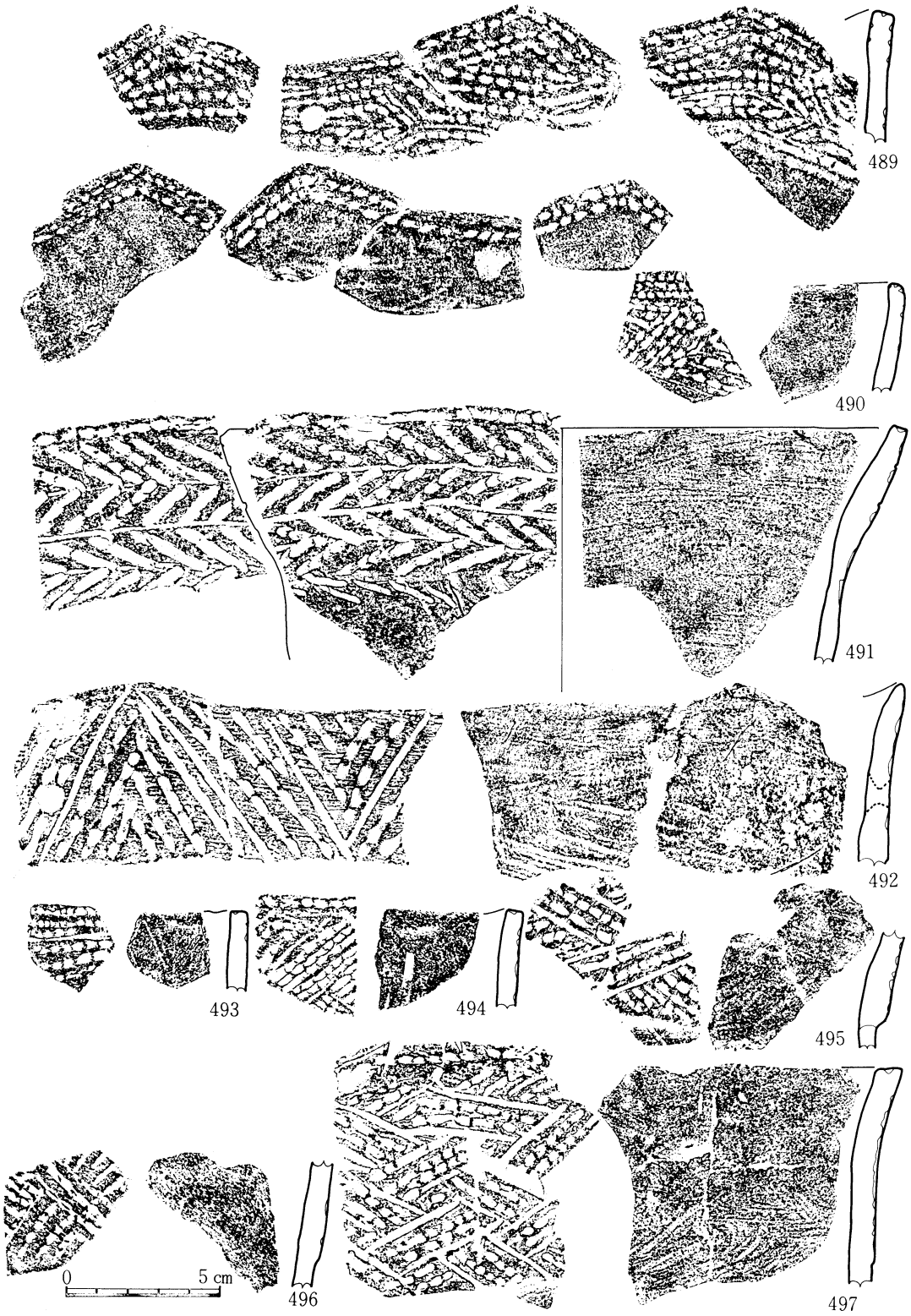
489 山形口縁は段差がつけられる。文様帯のほぼ中央部に横走する細沈線がつけられ，その他部分的（不規則）に短沈線を描き，その間を連続して斜めの刺突で埋めている。内面は，山形頂部で２列，その他に１列刺突を巡らしている。尚，補修孔は，外から内へ向けて穿っている。**490** では，口唇部の頂部，内面端，外面端に３列刺突を施している。**491** は口縁部がラッパ状に開くもので，他には例はないようである。**497** はやや幅広の沈線で入組み文を構成。**498** の施文具は，叉状工具。**501**の山形口縁頂部は削りにより抉る。**504**の口唇部の瘤状突起にも刺突がつけられ，薄手で硬質な仕上りである。**505** は細沈線により複合鋸歯文が描かれ，その後間のび押し引きがつけられる。**510** の口唇部は平坦。**512** は８号集石遺構内に出土し，胴部下半は失なわれていた。口縁部は，相対するものどうしが同一の形状を持ち，頂部は削り出しによりアクセントをつける。**514** は大型土器で，ステップのある山形口縁を持ち，先端部の鋭い工具で施文している。**515** は焼成前に穿孔を行なっている。**518** はＺ－32区の14号集石遺構に伴った大型土器である。山形口縁を持ち，頂部直下の胴部にも同構成の施文を行なっている。文様帯は，わずかに肥厚するだけである。**517** は刺突の部位により工具を変えている。



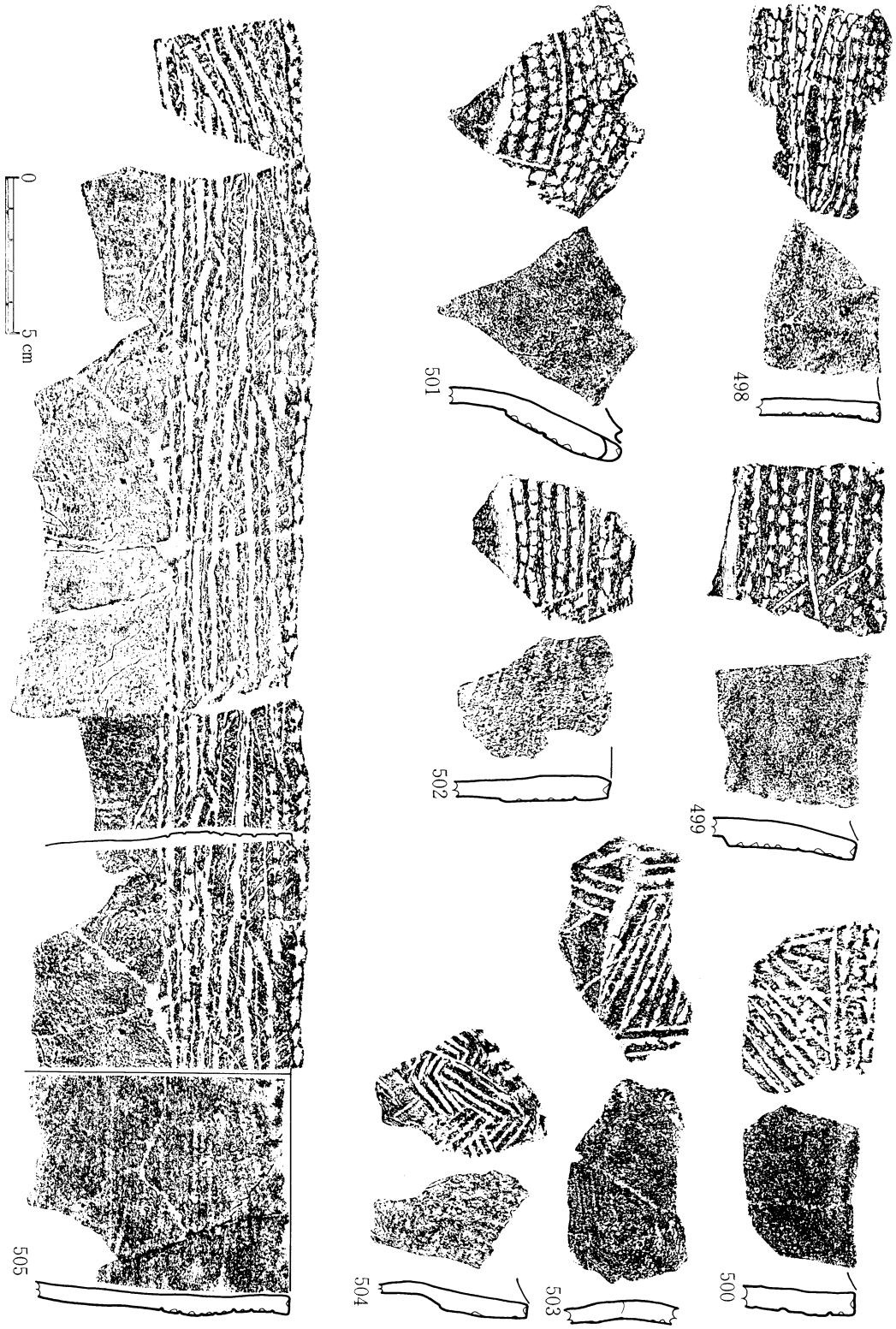
第62図　土器(第3地点)－30



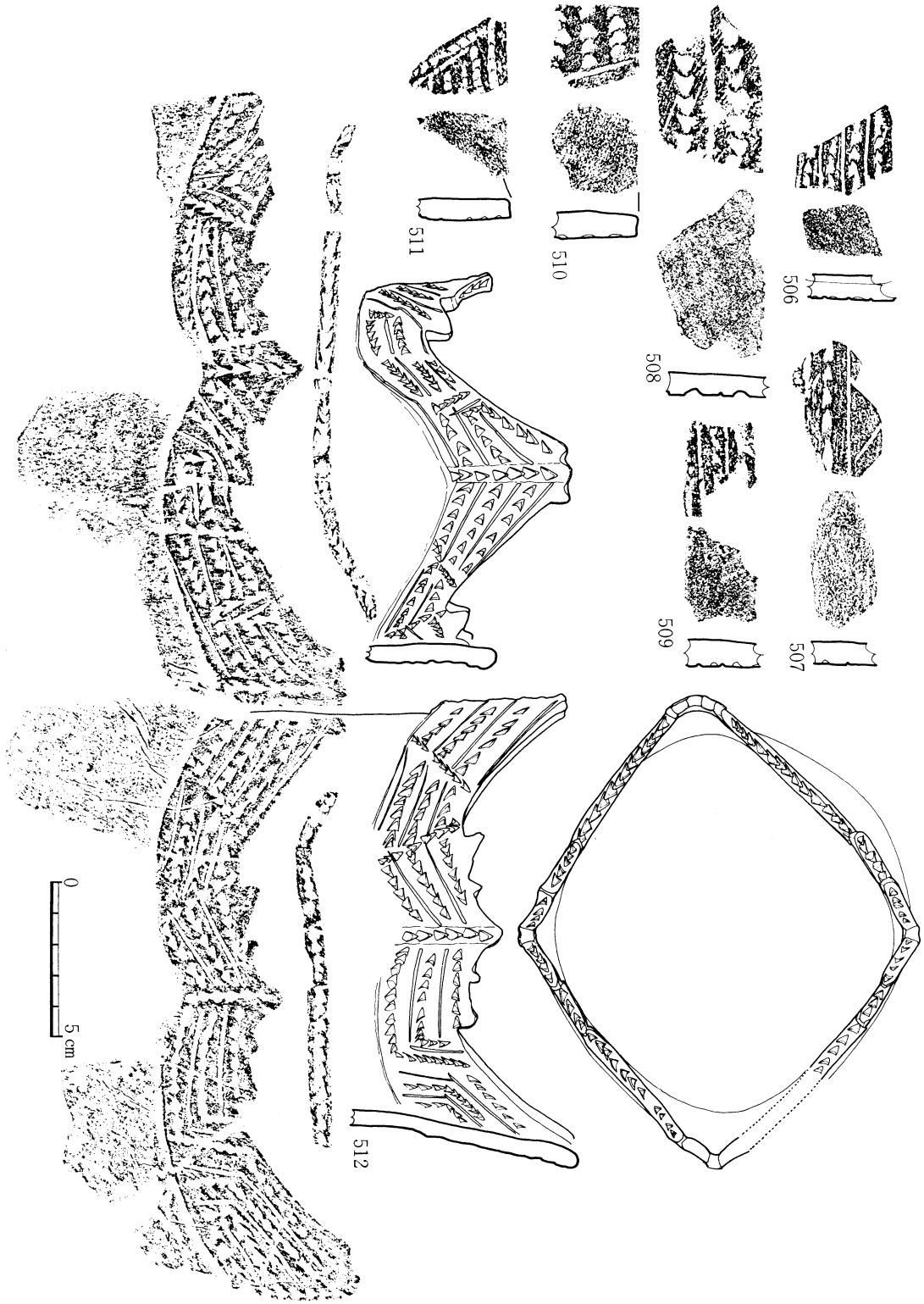
第63図　土器(第３地点)－31



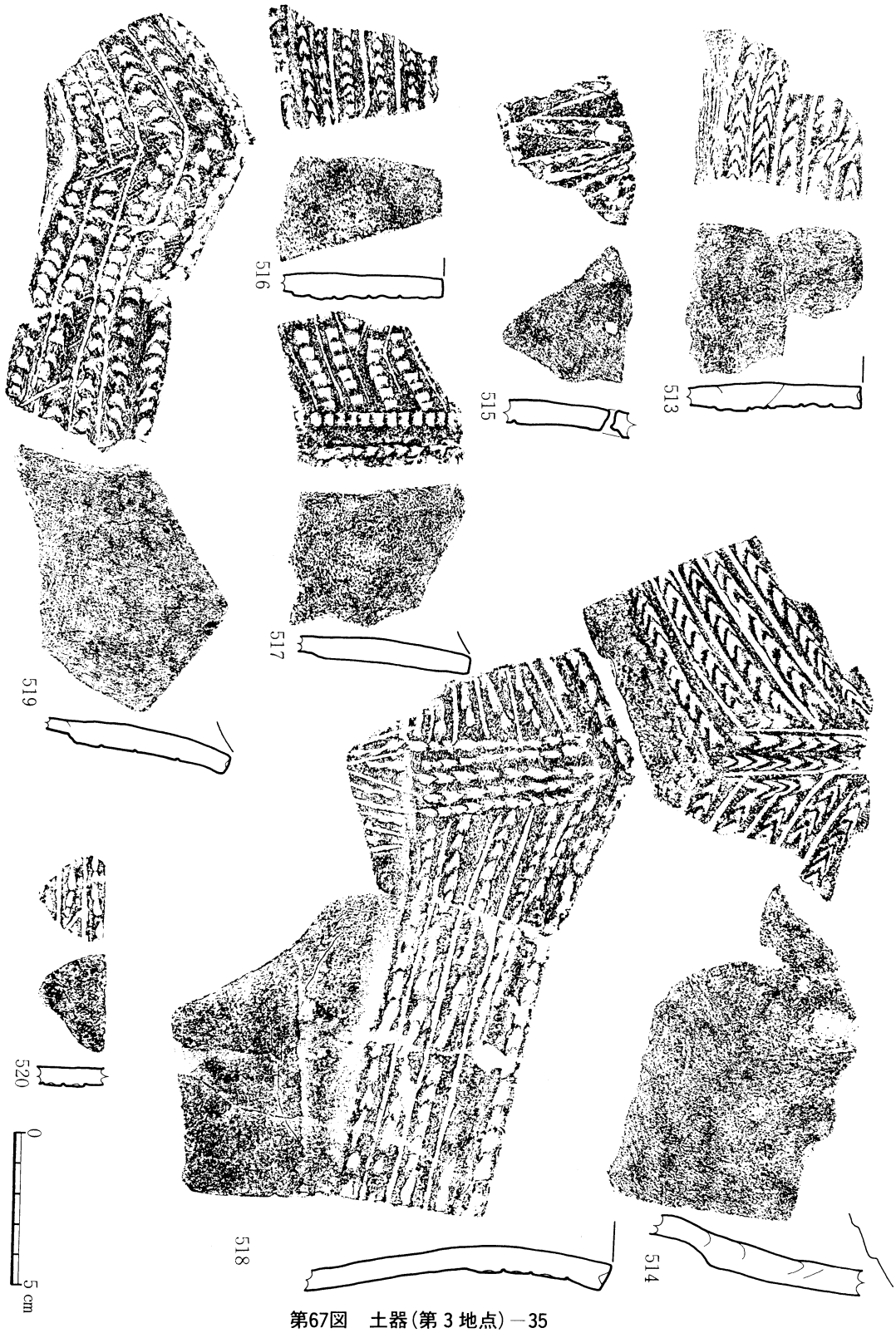
第64図　土器(第3地点)－32



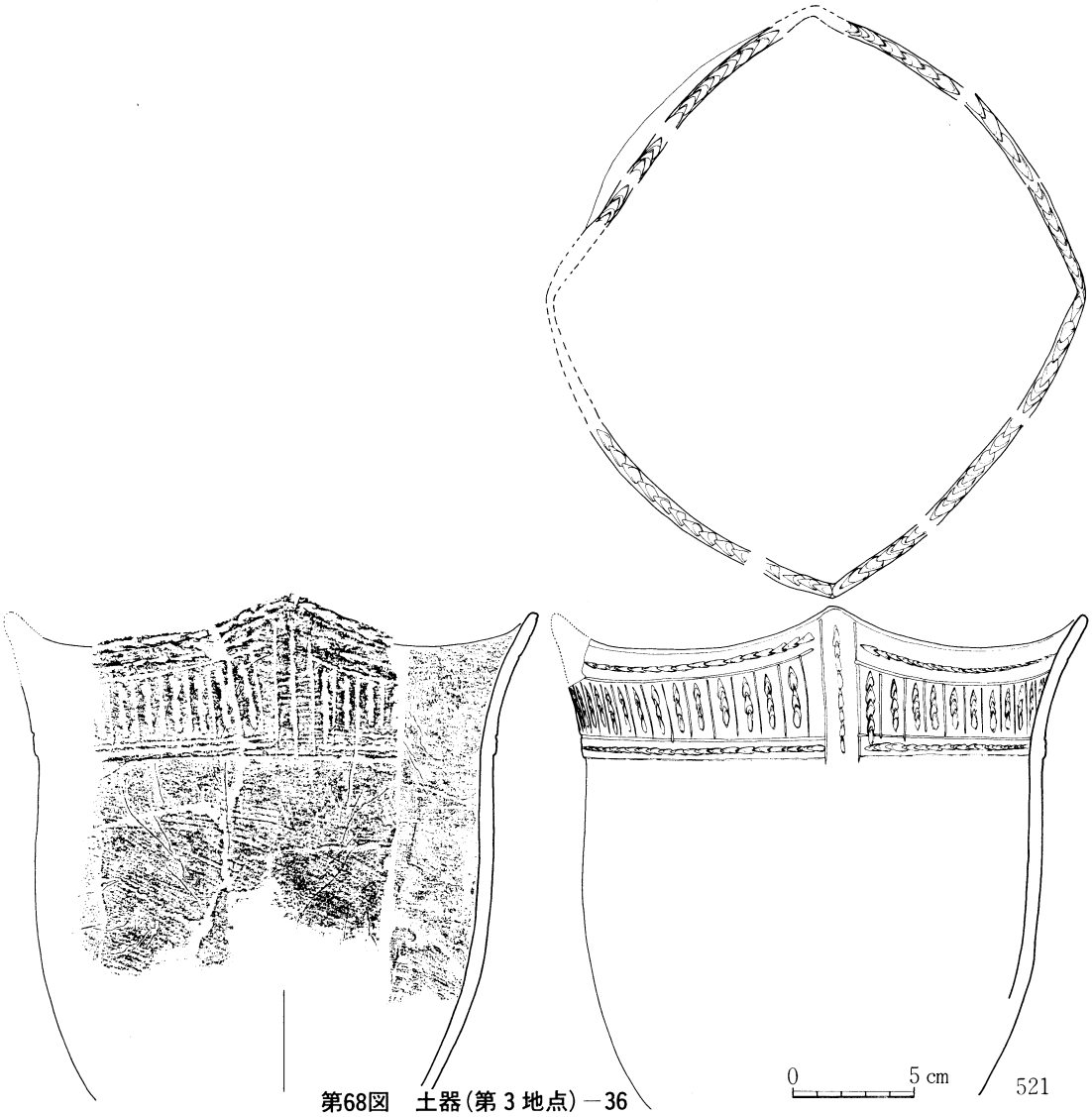
第65図　土器(第3地点)－33



第66図　土器(第3地点)－34

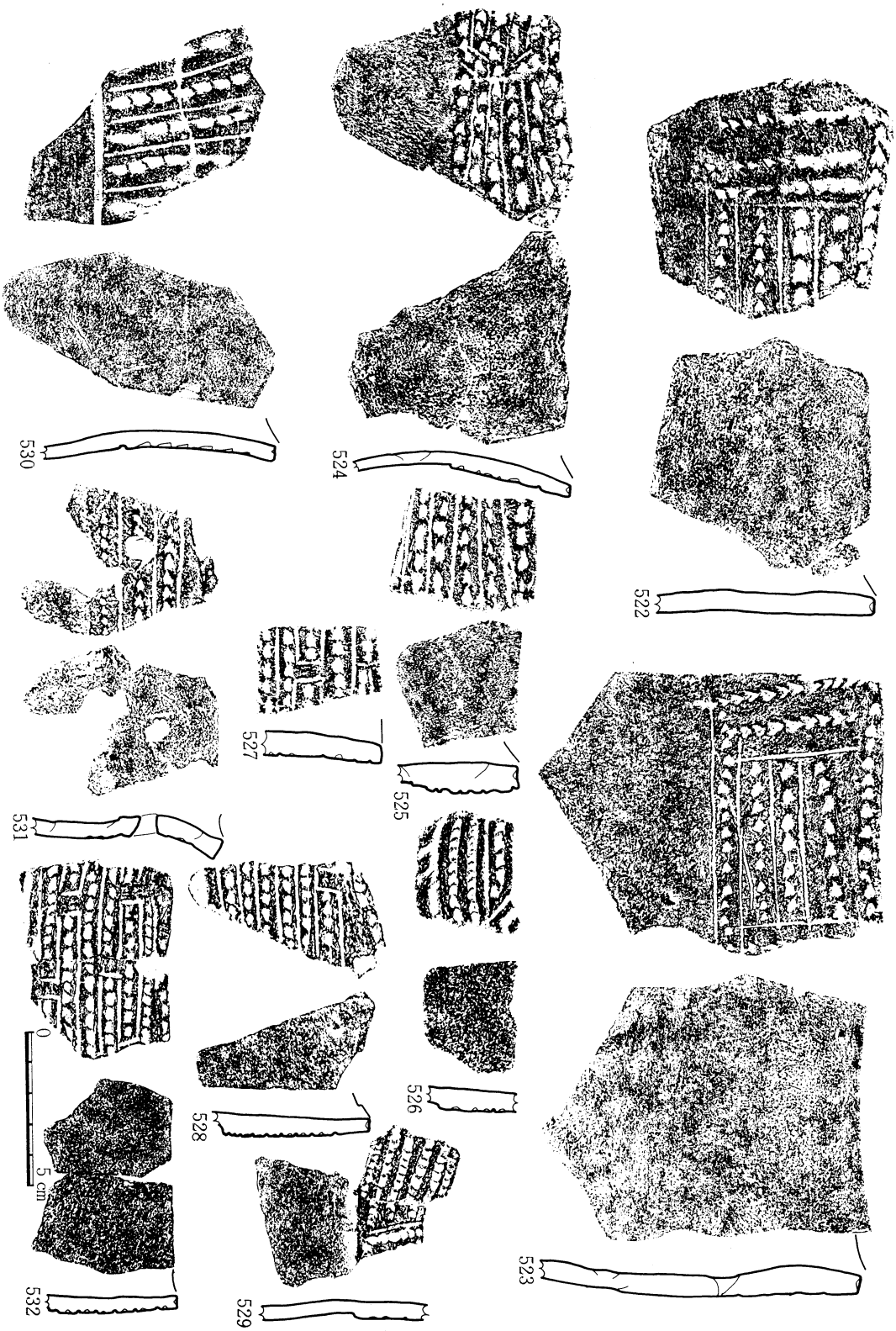


第67図　土器（第３地点）―35

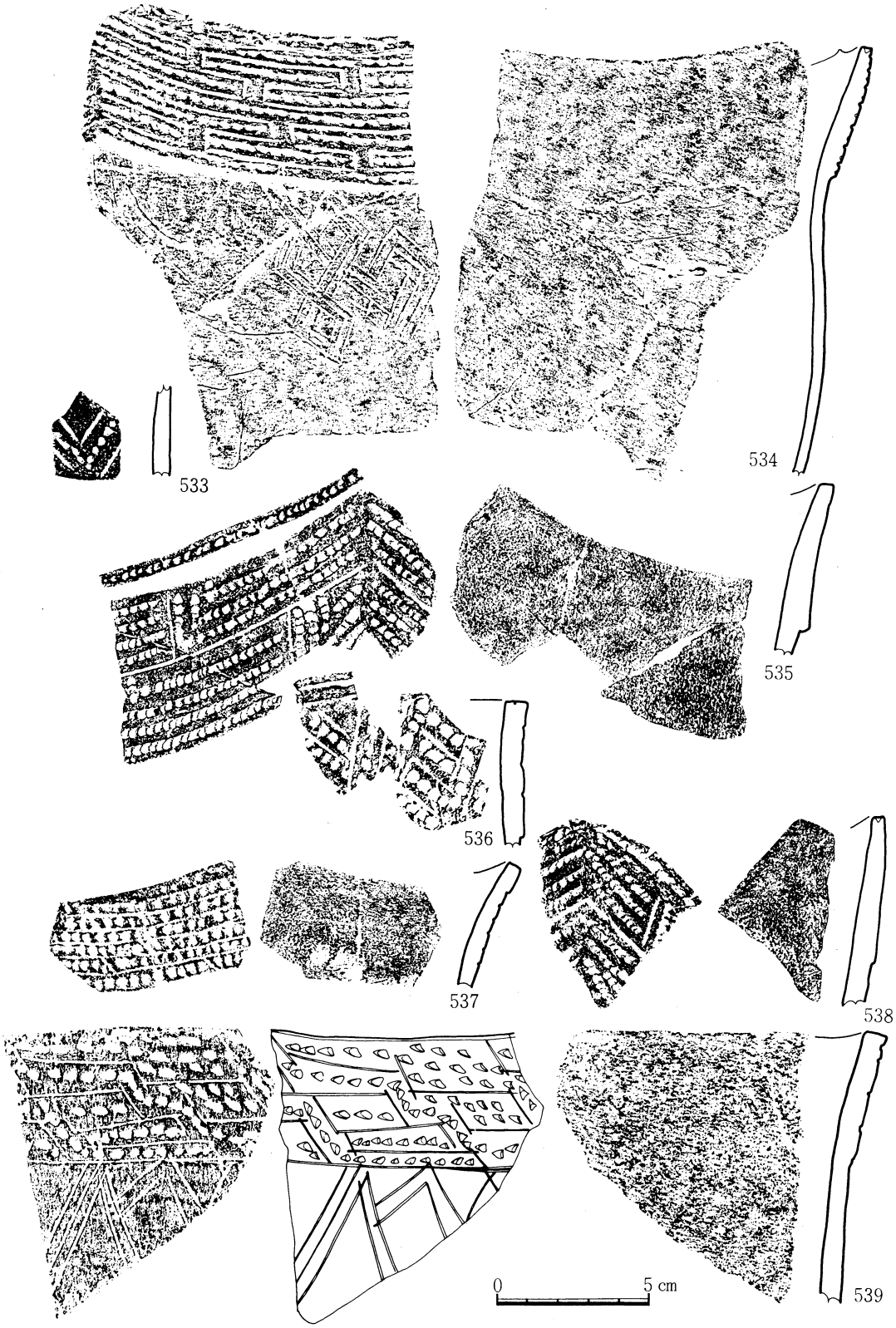


第68図　土器（第３地点）－36

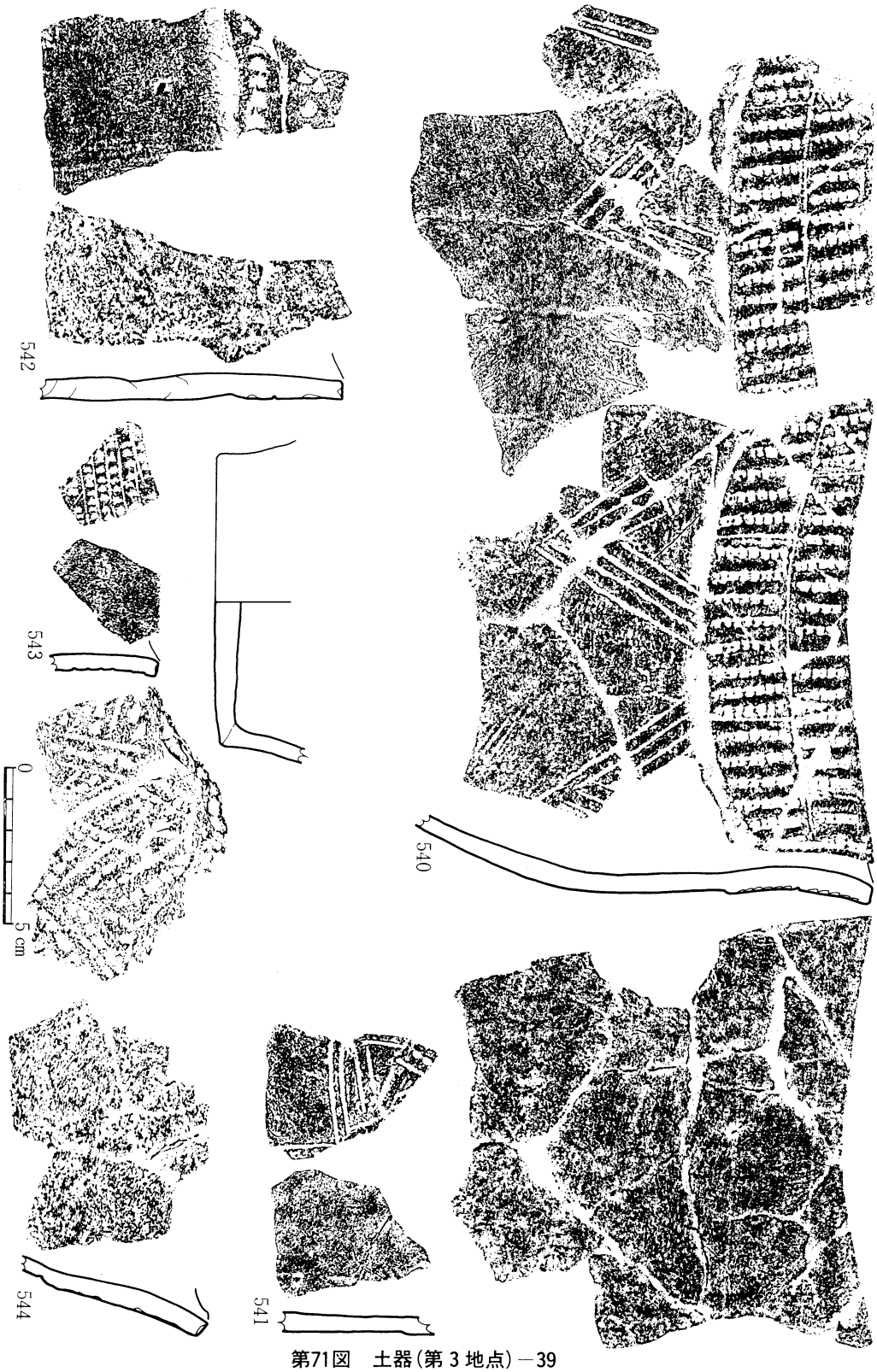
521 も14号集石遺構に伴ったもので，文様は縦位の構成である。**522・523**は文様帯は肥厚しない。**530** も縦位に文様構成し，口唇部は沈線を巡らす。**534** の胴部施文は，下描きした後に描き出している。砂粒が多く含まれ，硬質でザラザラした器面をなしている。**540**，山形口縁を持ち，先端部方形の工具で縦位に間のび押し引きを施す。胴部は４本の平行線文で釣手状文を描く。**542** は壺形土器の可能性のある形状を呈している。**548** は，横走する沈線間に間のび押し引きを浅く施すが，途中で方向を変えている。この方向転換は，編籠文との関わりが区画文との関わりか不明であるが注目される。**557** の連続刺突は一定方向に行なわず，動作の変化が見られる。**560** の工具は先端部が方形で，線条痕が明瞭に残る。また，押し引きも間のびが大きく，若干異質の様相を呈している。**570** は，14号集石遺構に共併したもので，山形口縁を持ち，上面観は方形を呈す鉢形土器である。他に，同一個体を示す資料は無く，破棄された資料の感が強い。口縁直下に，間のび押し引きが１条横走し，下位はやや太め沈線で区画を行ない，その間を細沈線で充填している。コーナー部は，特に肥厚させる。**572**，10号集石遺構に



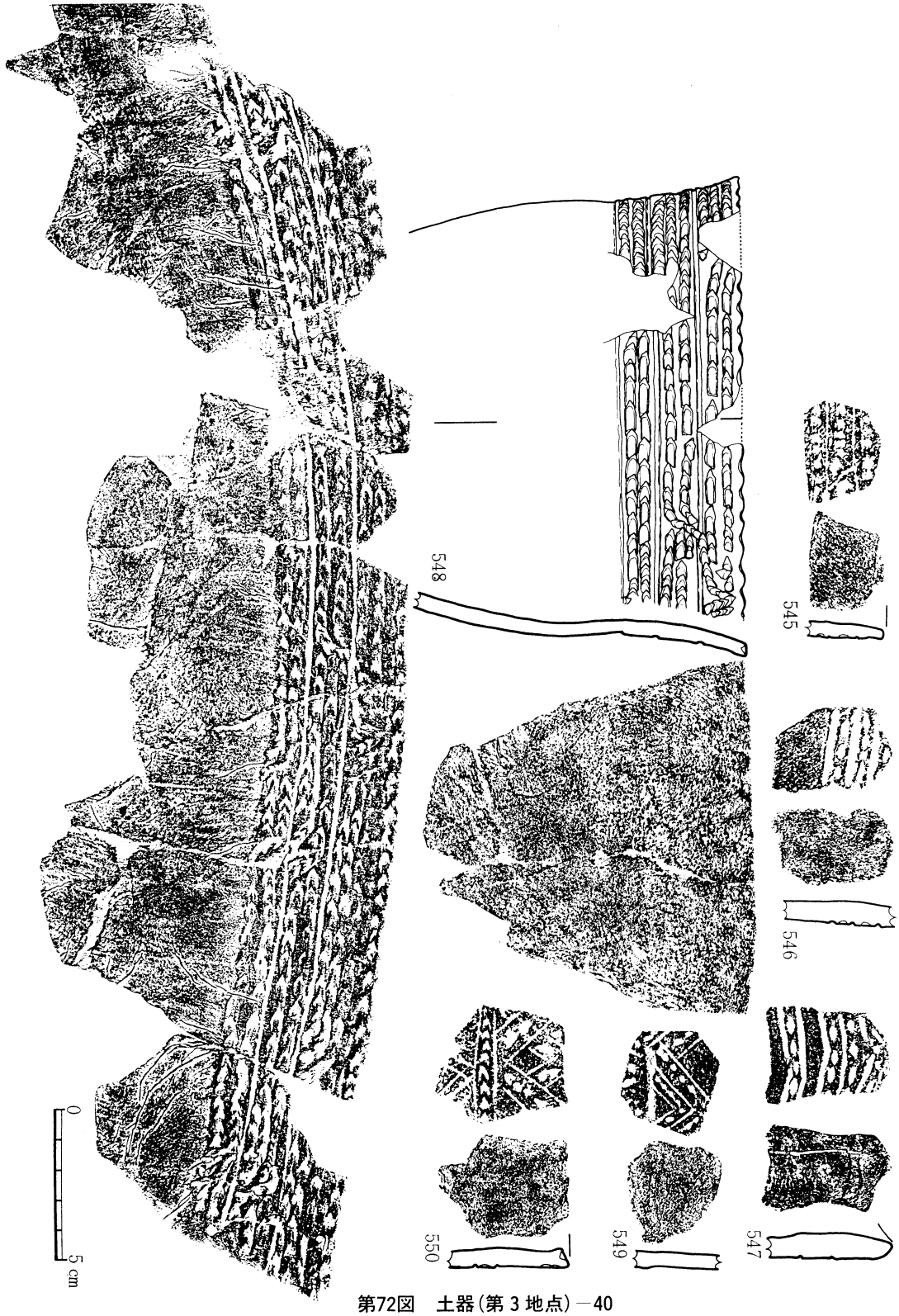
第69図　土器(第 3 地点)－37



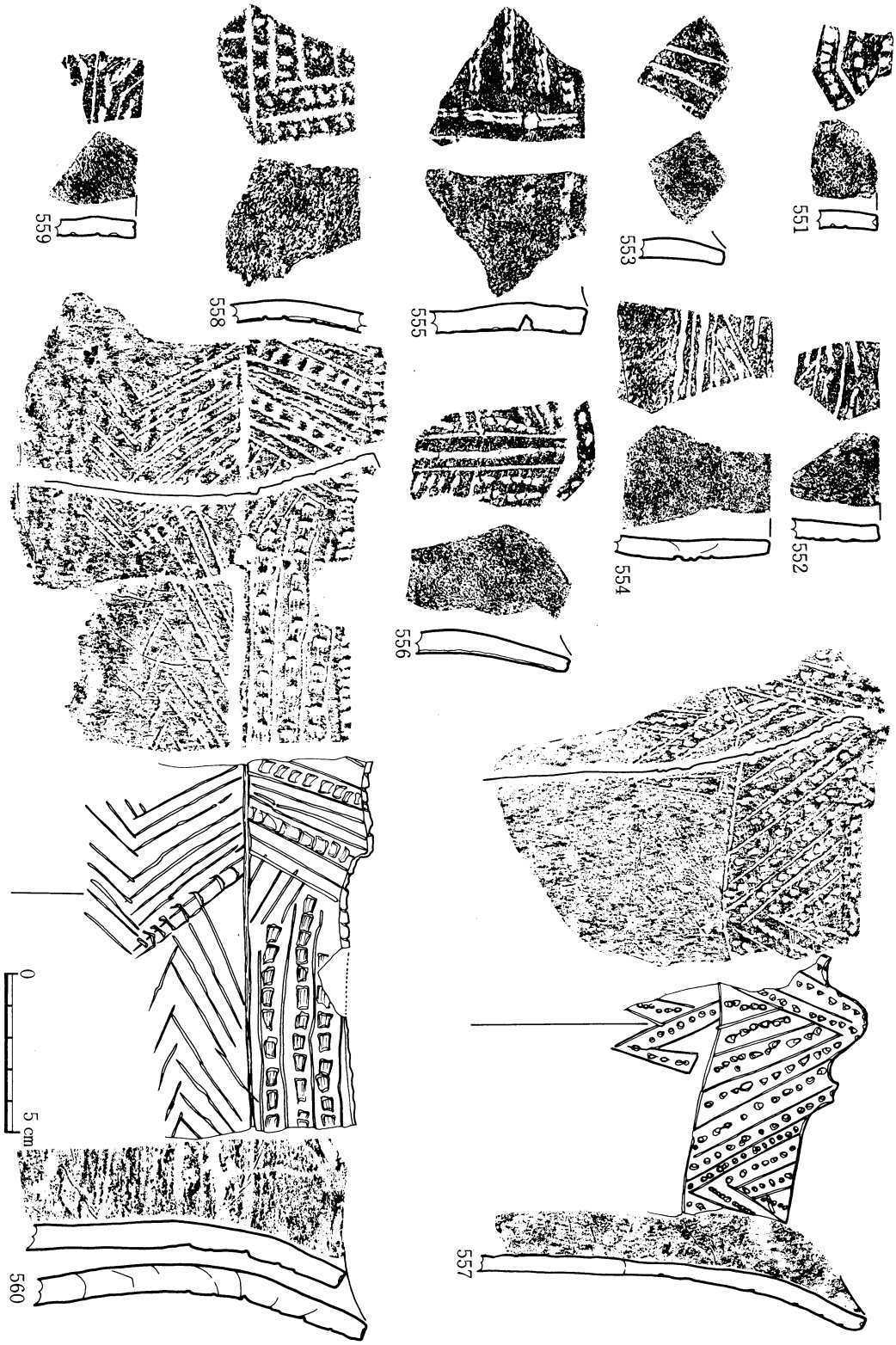
第70図　土器(第3地点)－38



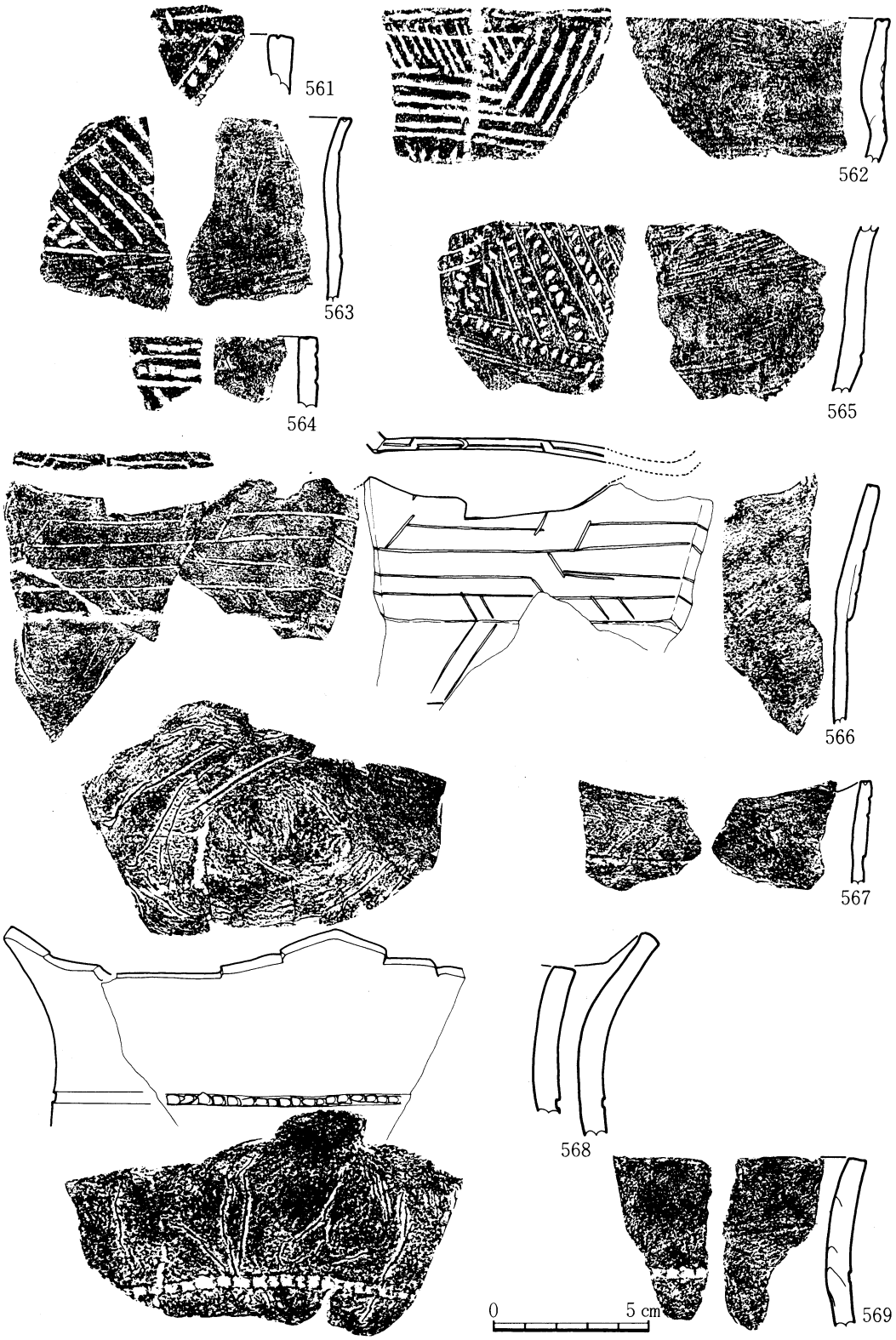
第71図　土器(第3地点)－39



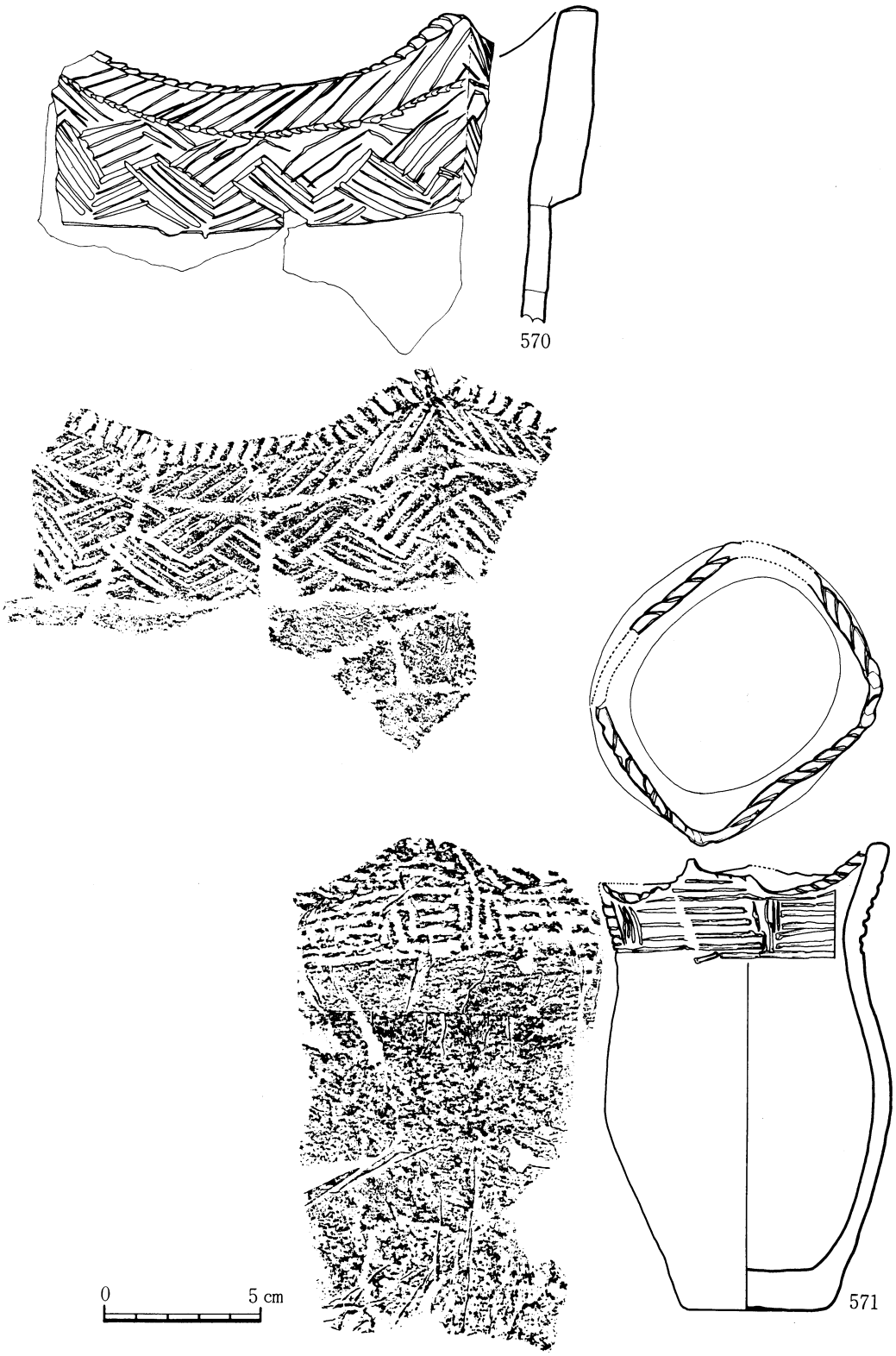
第72図　土器(第3地点)－40



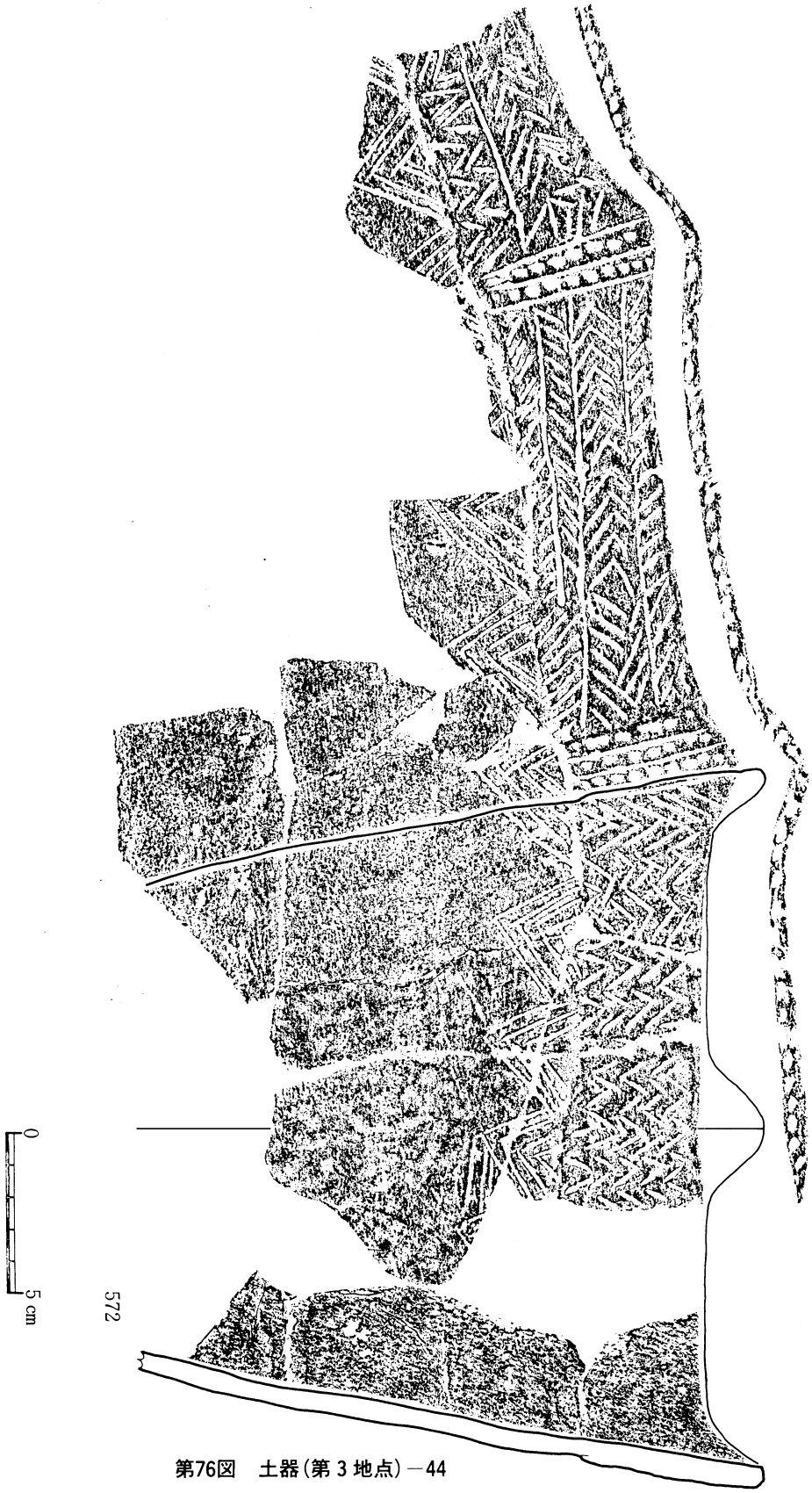
第73図　土器(第3地点)－41



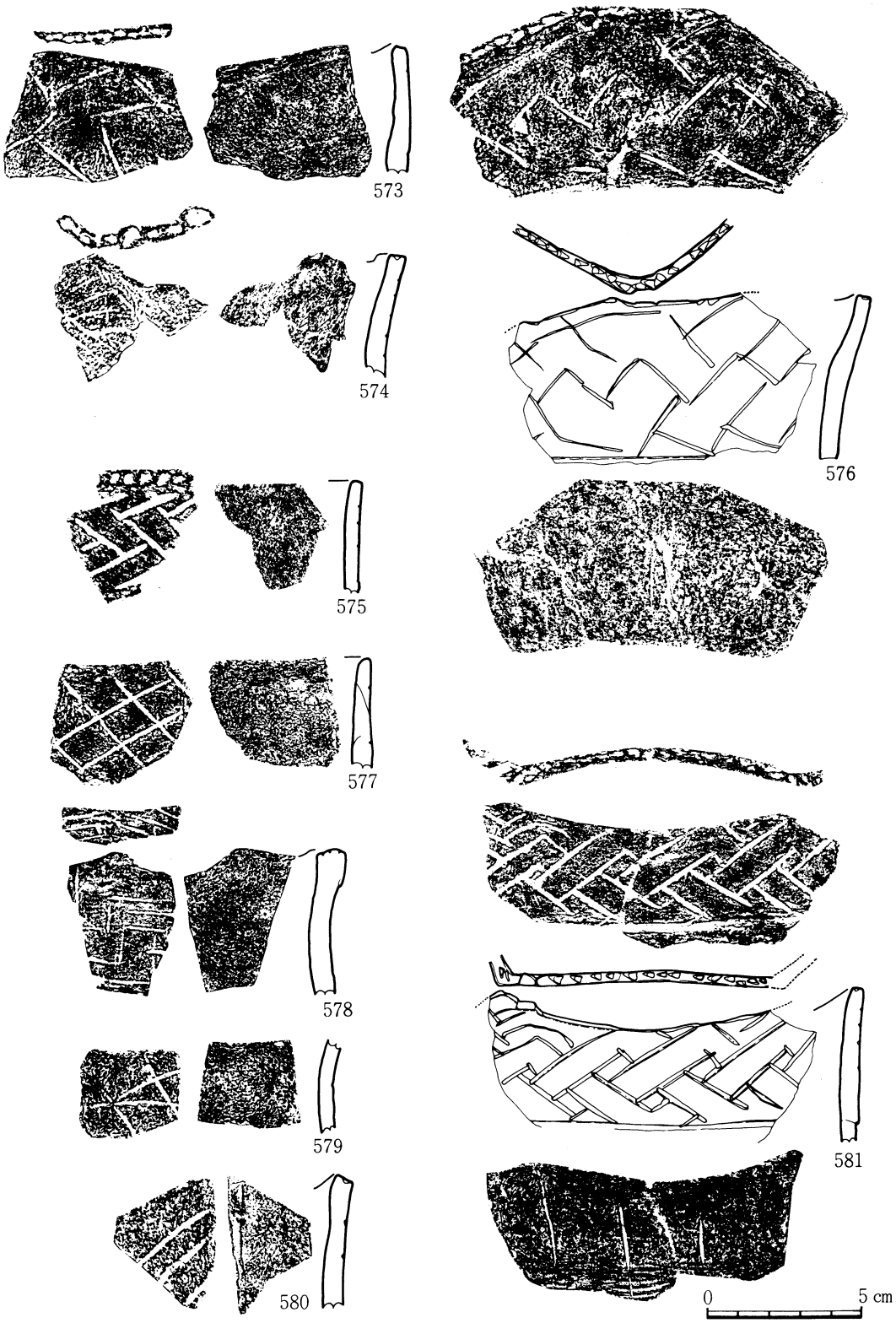
第74図　土器(第3地点)－42



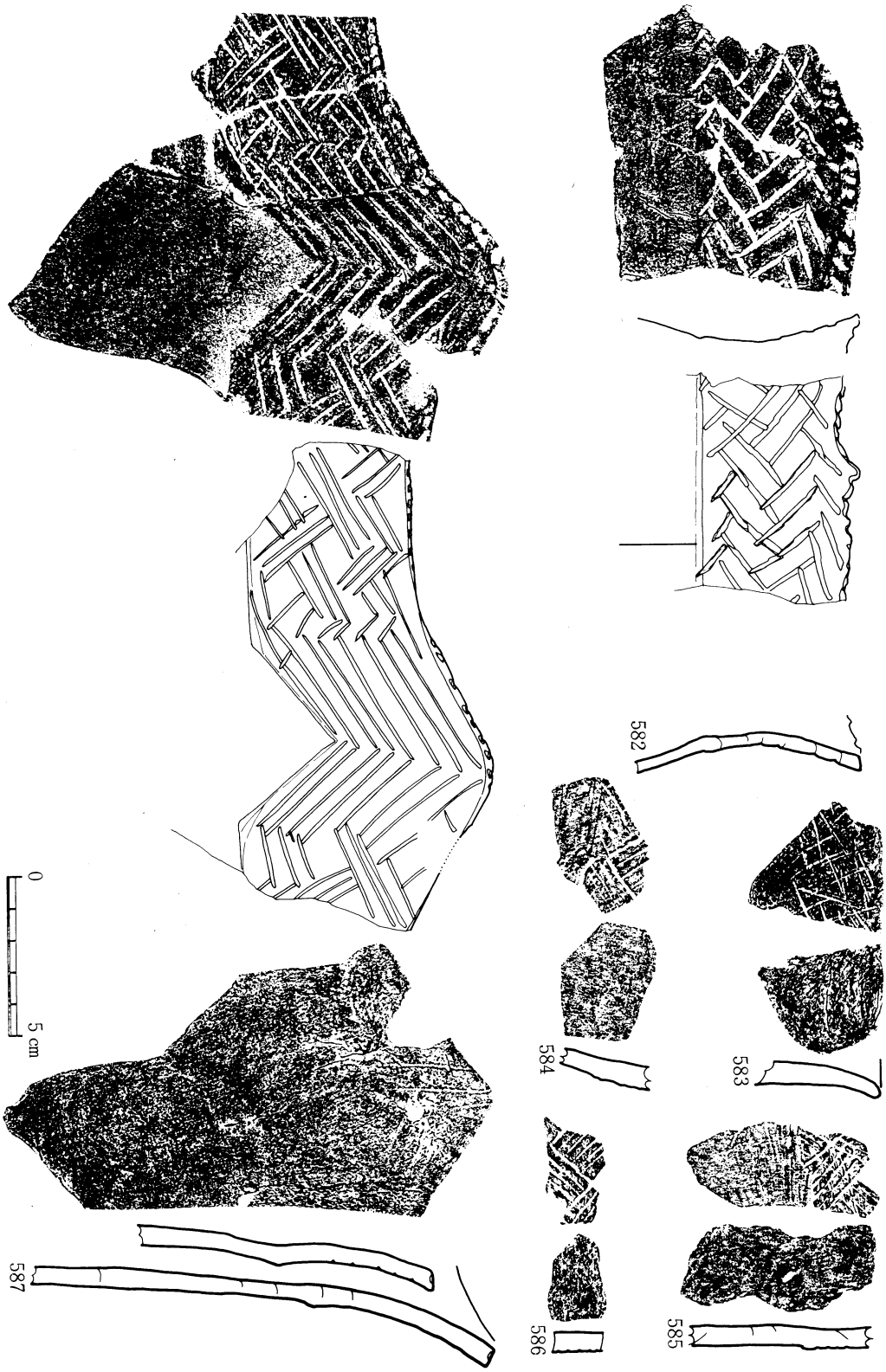
第75図　土器(第3地点)－43



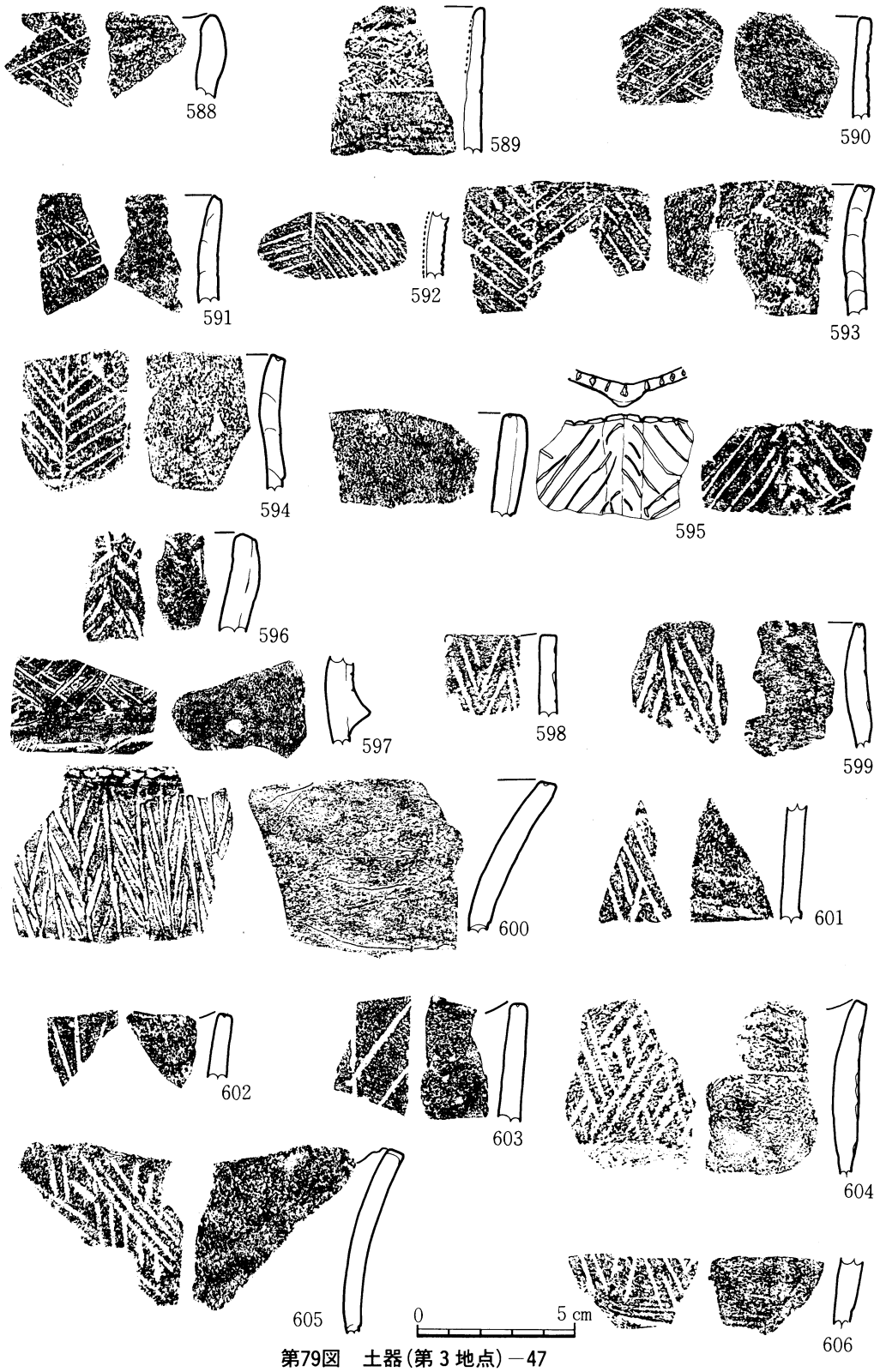
第76図　土器(第 3 地点)－44



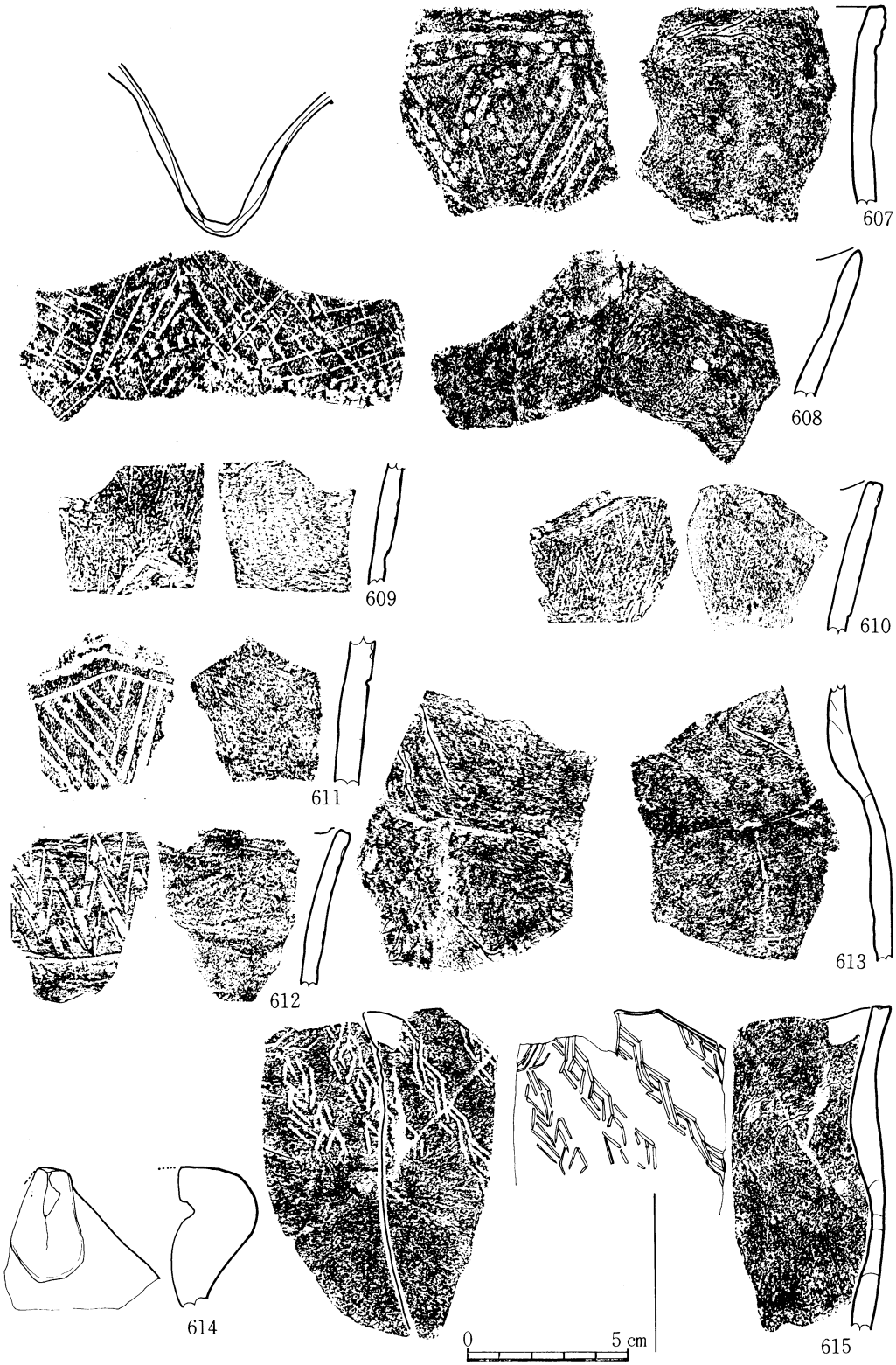
第77図　土器（第３地点）－45



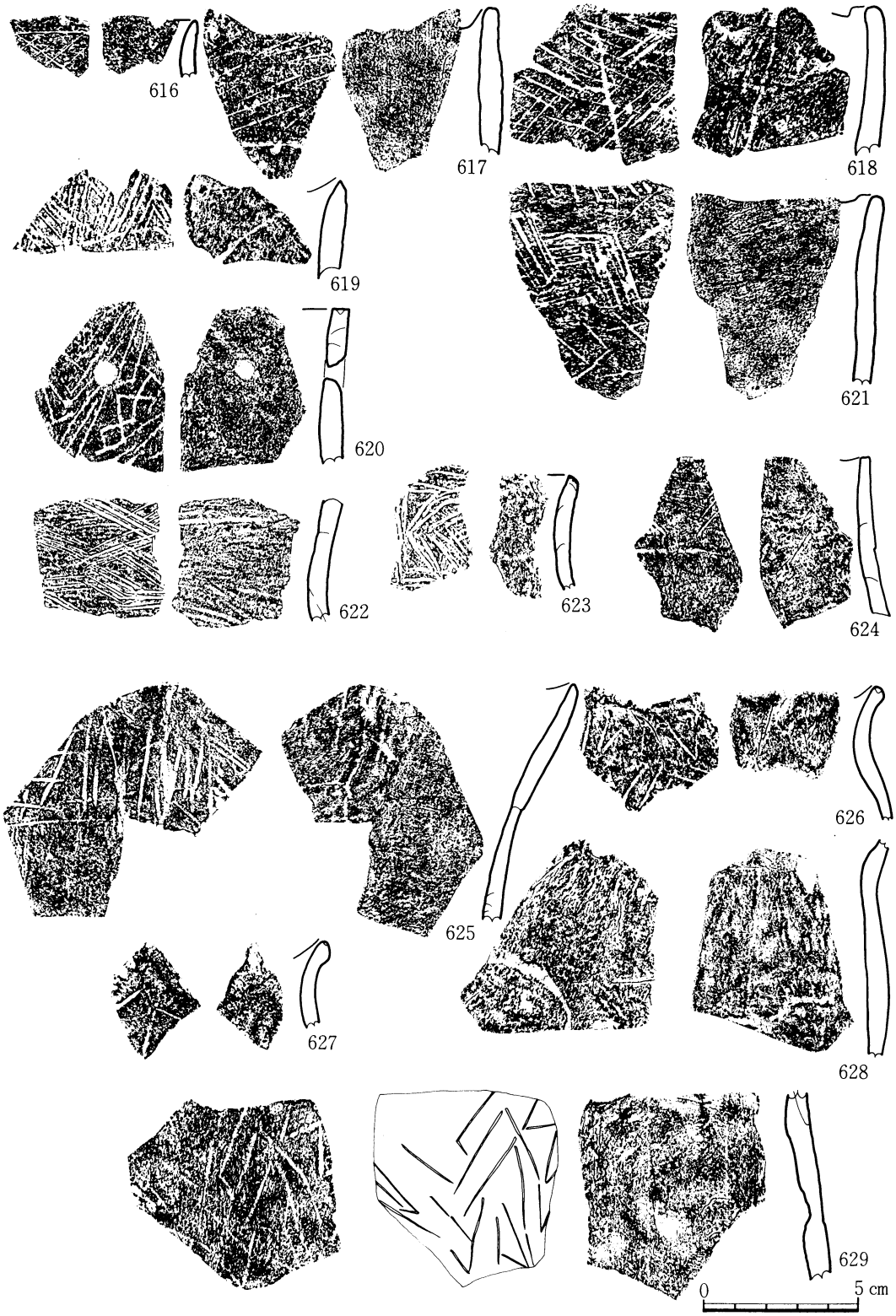
第78図　土器（第３地点）－46



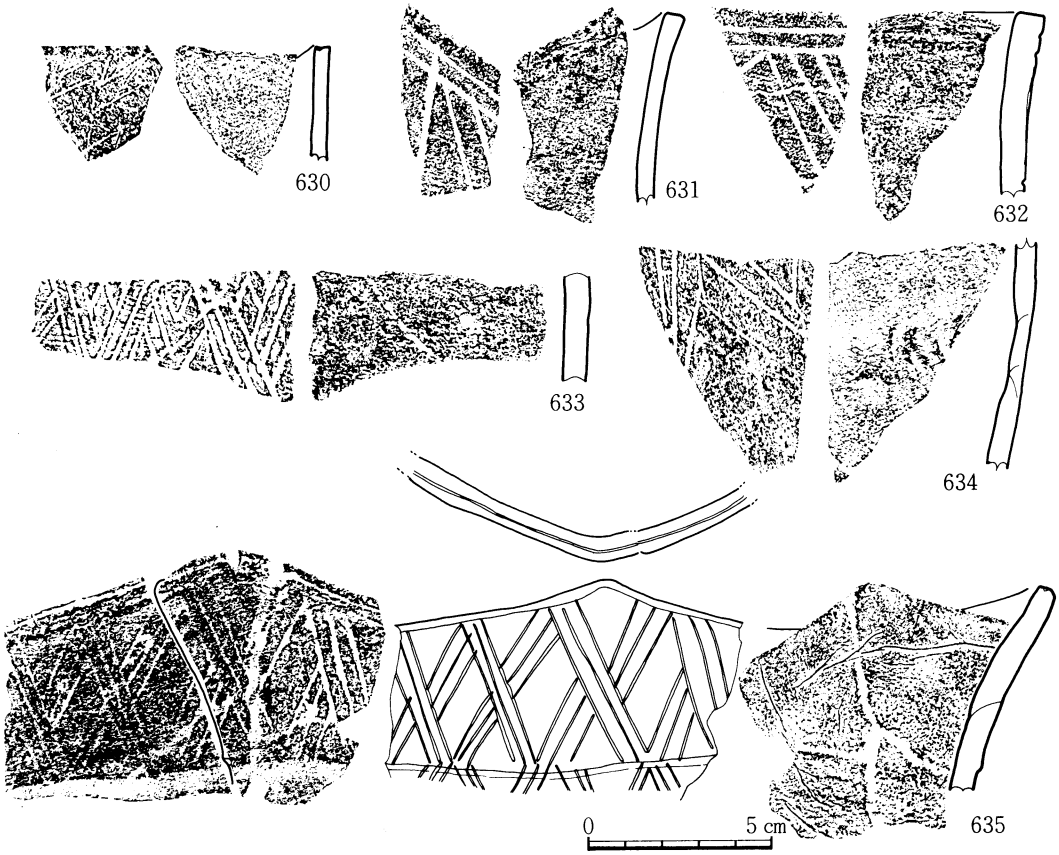
第79図　土器（第３地点）－47



第80図　土器(第3地点)－48



第81図　土器(第3地点)－49



第82図　土器(第3地点)－50

貼りついた状態で，内面を上位に出土している。文様帯が若干肥厚し，突起した状態の山形口縁を呈し，口唇部には連続刺突が全周に施される。文様帯に描かれる連続刺突文は，山形口縁の直下にだけ見られ，縦位の沈線間に施されている。山形口縁部を境に文様帯は4区分され，その内の3つが残されているが，各々が独立し，別々の文様を構成する。

XⅣ類

文様帯がシンプルに強調された一群の土器で，細沈線，間のび押し引き，連続刺突などが独立して文様を構成している。沈線で区画文を描くもの（XⅣa類）と文様帯は形成されるが施文しないもの（XⅣb類）に分ける。

XⅣa類　**566**，文様帯は肥厚し，ステップのある山形口縁を持つ。文様帯は，入念にナデ消され，細沈線で鋭く区画文が描かれている。器肉は薄く，硬質の土器である。**567**の口唇部は連続刺突が施され，文様帯は，鋭い細沈線が描かれる。**566**同様，薄手の硬質の仕上がりである。**573**と**576**は，編集後接合している。薄手で硬質の土器であるが，砂粒を多く含み器面は粗くザラザラしている。口唇部は，間のび押し引きが施され，内面には，縦位の浅い沈線が描かれている。**575**の口唇部は，ヘラ状工具で斜めに刻まれる。**581**は，**566**と同様ステップのある山形口縁を持ち，口唇部は連続刺突を施し，内面には縦位の沈線が描かれる。

XⅣb類　**568**と**569**の2点で，文様帯は意図的につくり出しているが，施文は行なわれず無

文のままである。口唇部も施文されず，ヘラによる削り出しで作出している。

XIX類

734・735の2点は，厚手の甕形土器で，口縁部は大きく外反し「く」の字状を呈したもので，内面にはヘラ削りがなされている。**733**は，この類に含めているが，上記2点とは若干異なり，再考を要すると思われる。

XX類

内面が黒色に研磨された，いわゆる内黒土師で2点だけの検出である。2点とも，良質できめの細い粘土を用い，内面はヘラ研磨により光沢のある黒色を呈している。移入土器の可能性が高いと思われる。

XXI類

類須恵器で，カムィヤキ窯系のものと思われる。

738～740等の内面は格子目タタキの後ナデられ，**742**では大き目の平行タタキが認められる。外面では，小さめの平行タタキが施された後，ナデによる仕上げが施されている。**739**の内外面は，ロクロによるていねいにナデて仕上げられている。

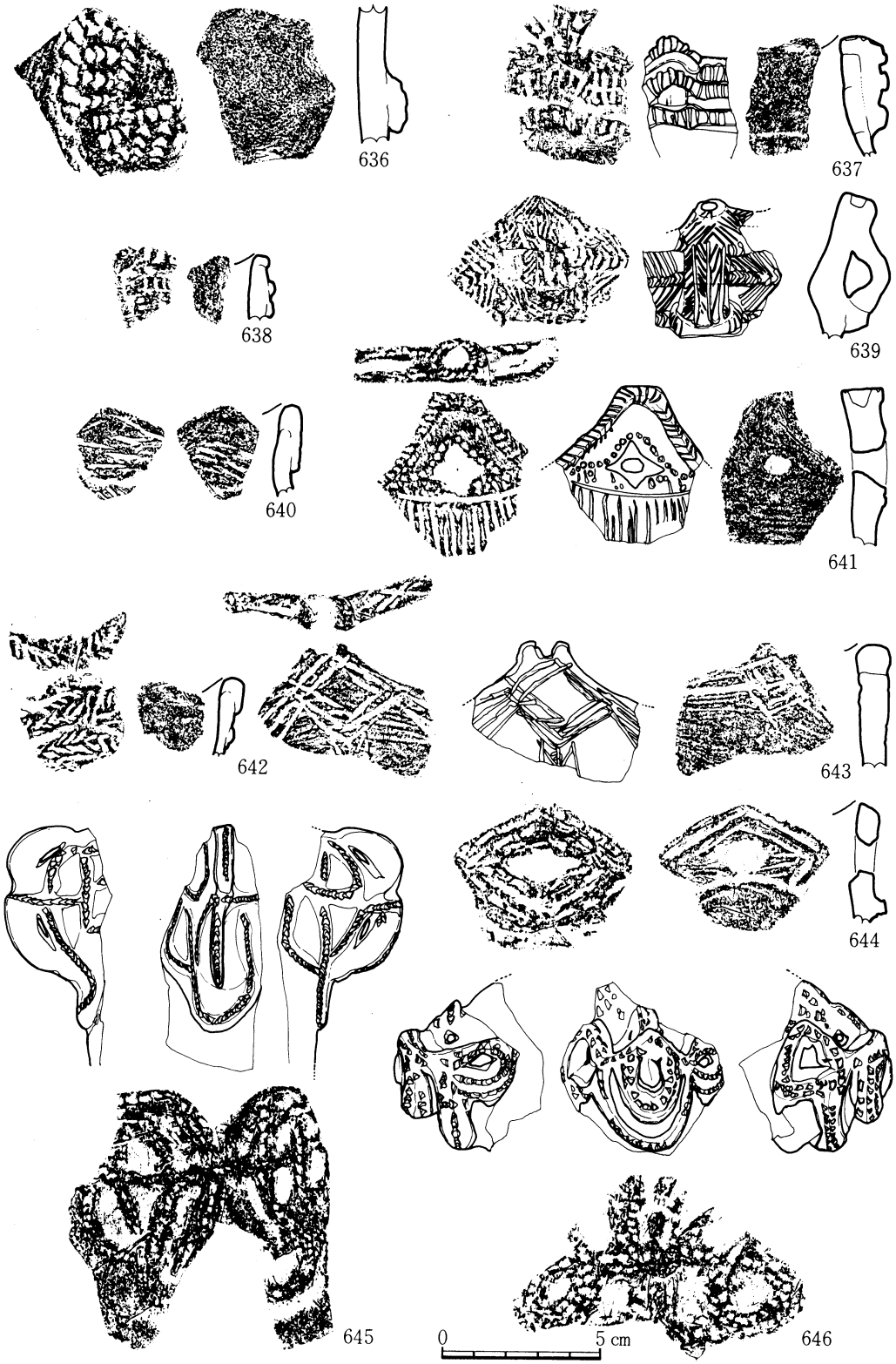
XIX類土器は，長浜金久第I遺跡や泉川遺跡で，兼久式土器との共伴関係が認められ，また，XX類土器の黒色研磨（内黒土師器）も，長浜金久第I遺跡で同様に出土しており，兼久式土器の下限を知るうえで重要視されている。

その他（特殊把手状）

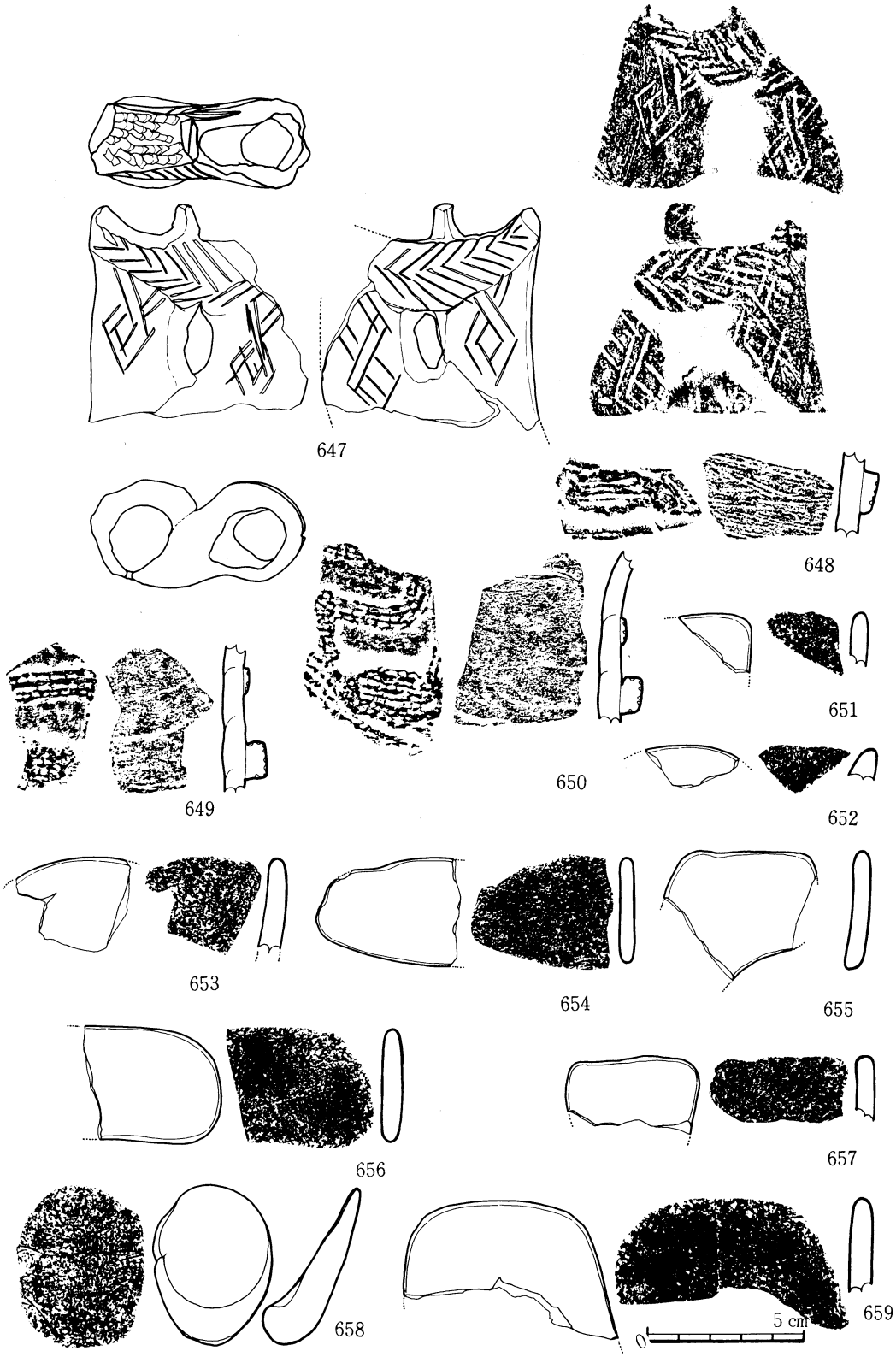
639は，橋状把手を持つもので，把手上に3本の縦位の沈線と綾杉状の沈線が施される。また，屈曲部と胴部最上位には，半截竹管による刻み目を持つ突帯が巡らされている。これらの特徴から判断するとIV類土器に近いと言える。

645は，人面を模した把手と思われるもので，器種は壺形土器の可能性が高い。〝目〟と思われる部分は，斜めに細長く穿ち，押し引きにより区画文を描いている。

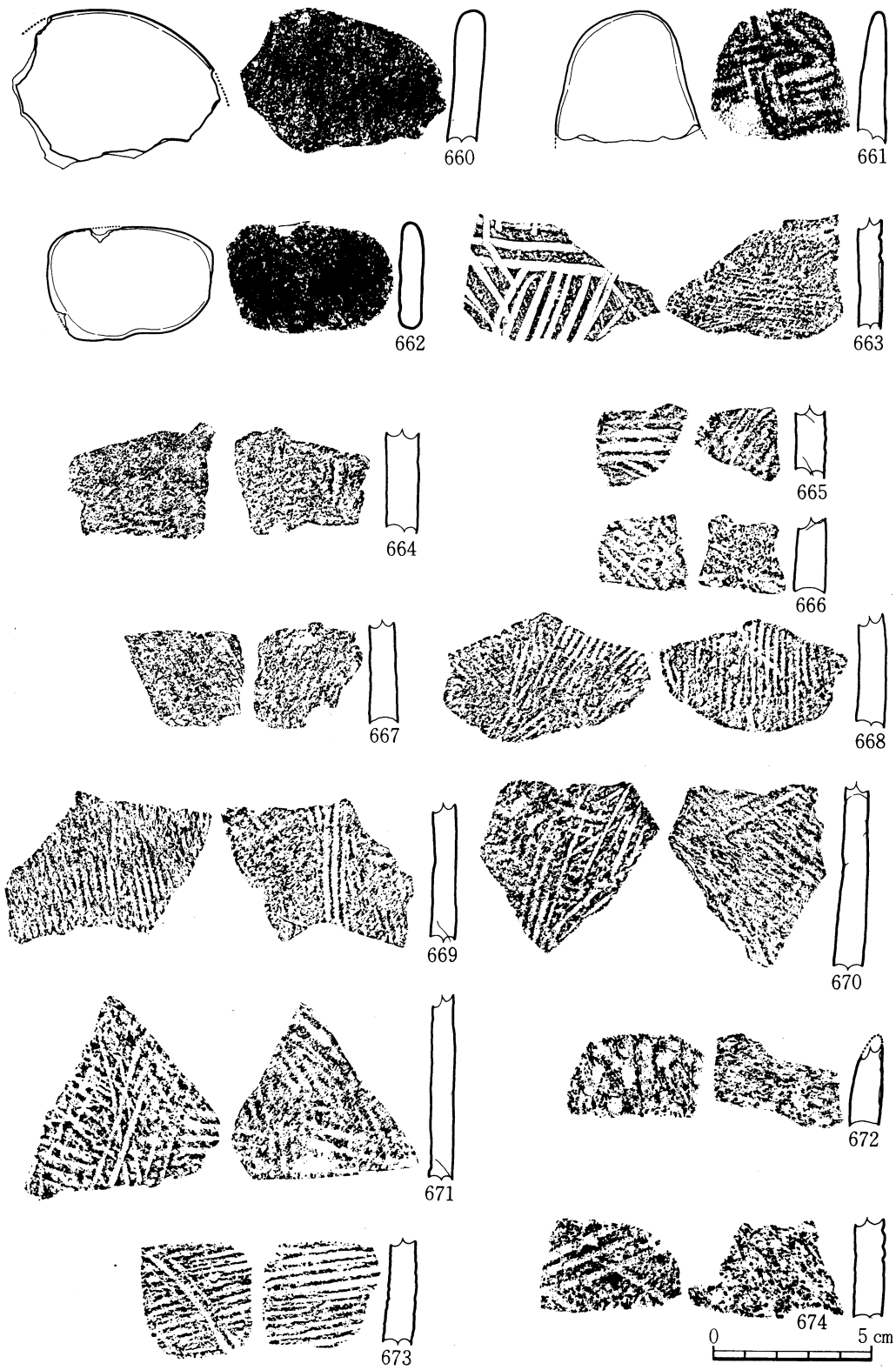
646は，獣面の把手で，対象は猪かと思われる。粘土ひもを貼りつけ，連続刺突により施文している。目と思われる部分は，焼成前に穿っている。



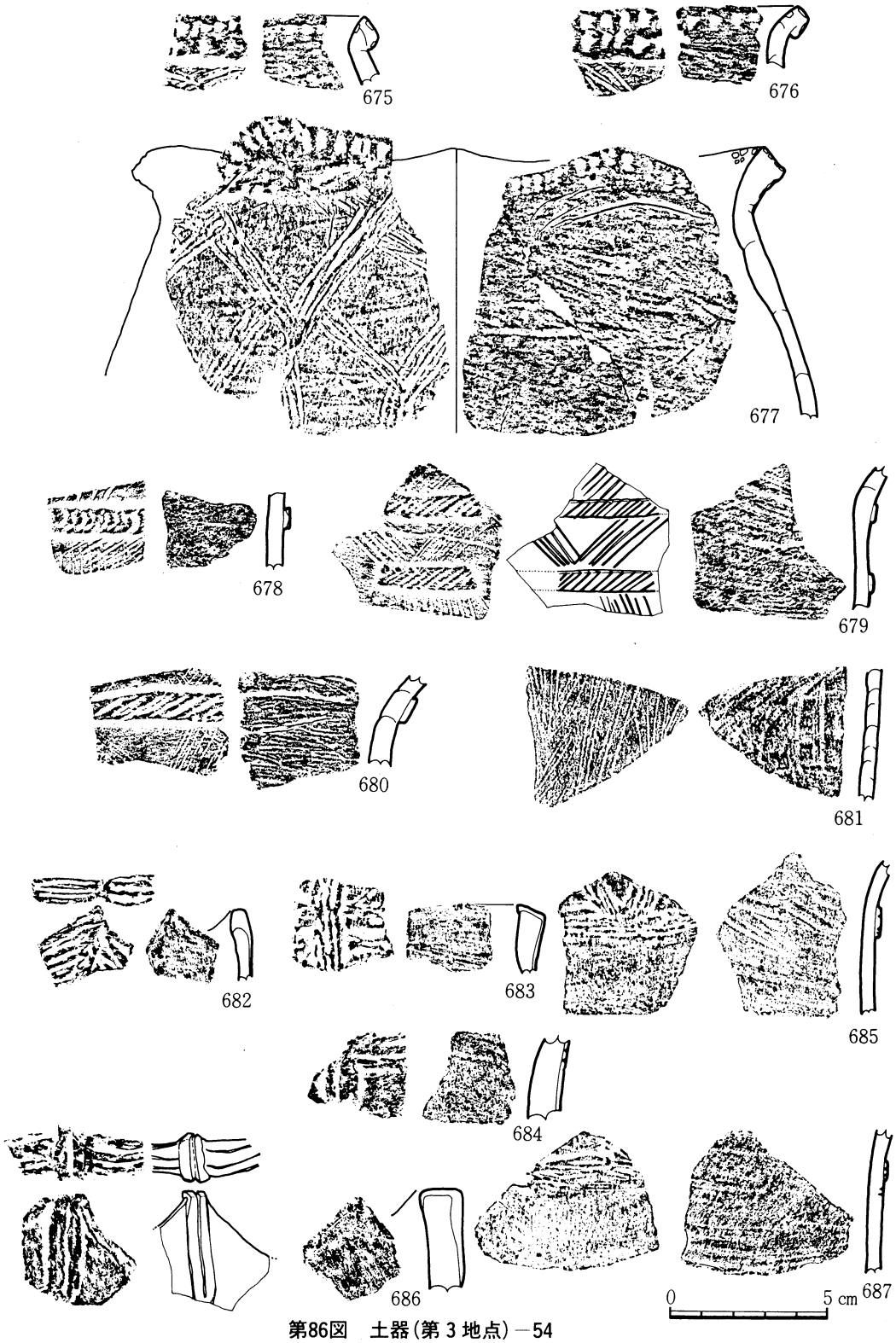
第83図　土器（第３地点）－51



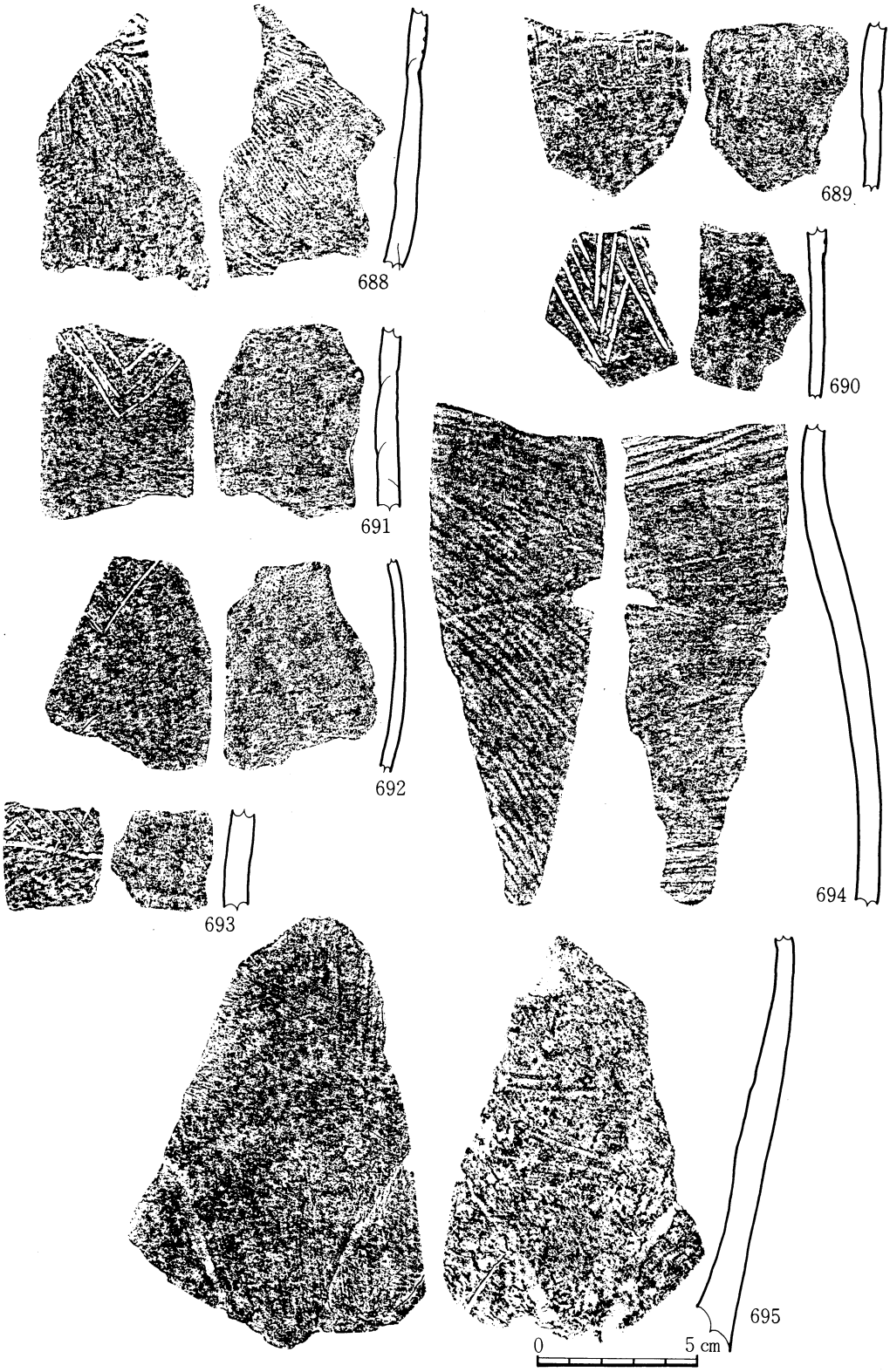
第84図　土器（第３地点）－52



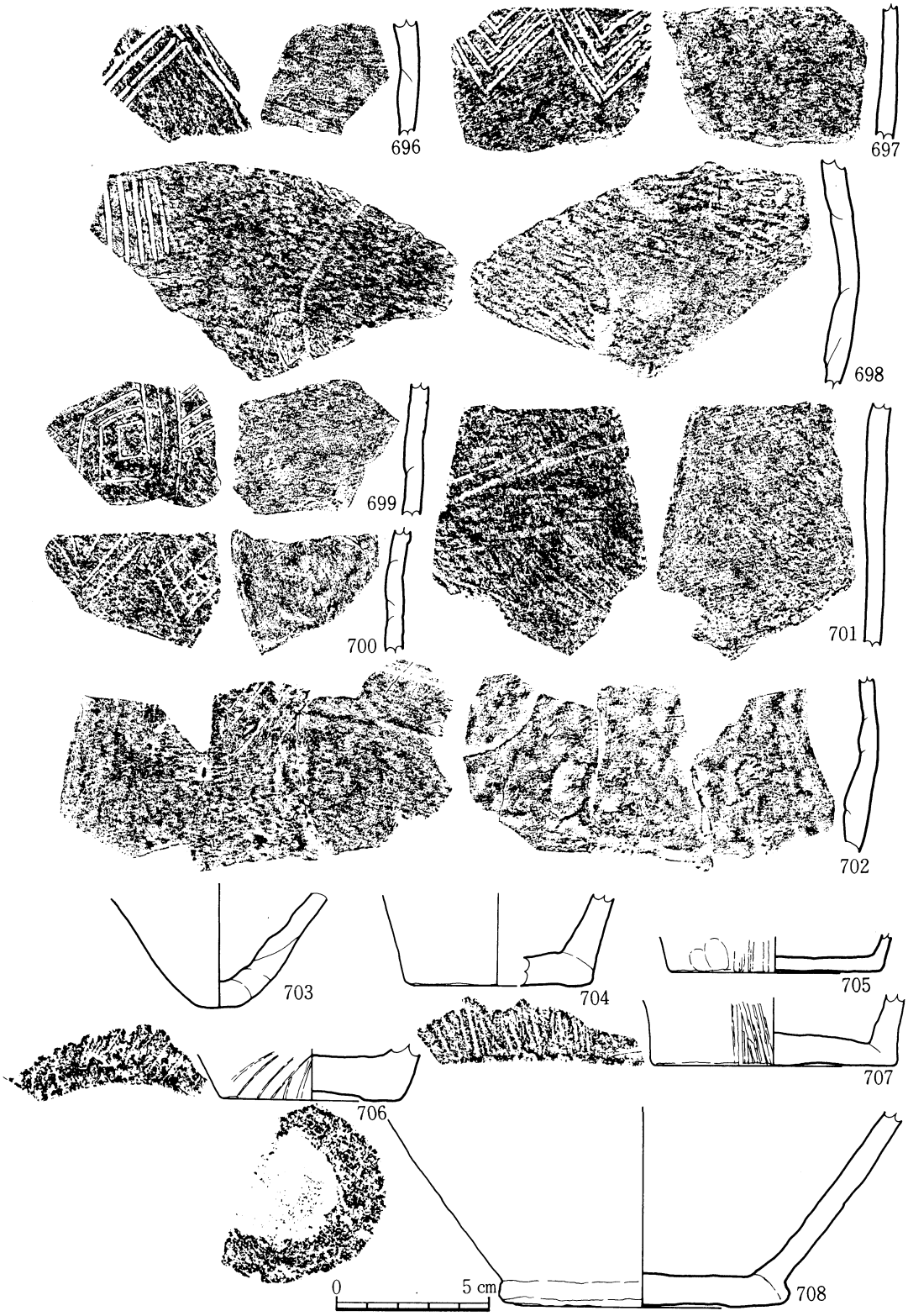
第85図　土器（第３地点）－53



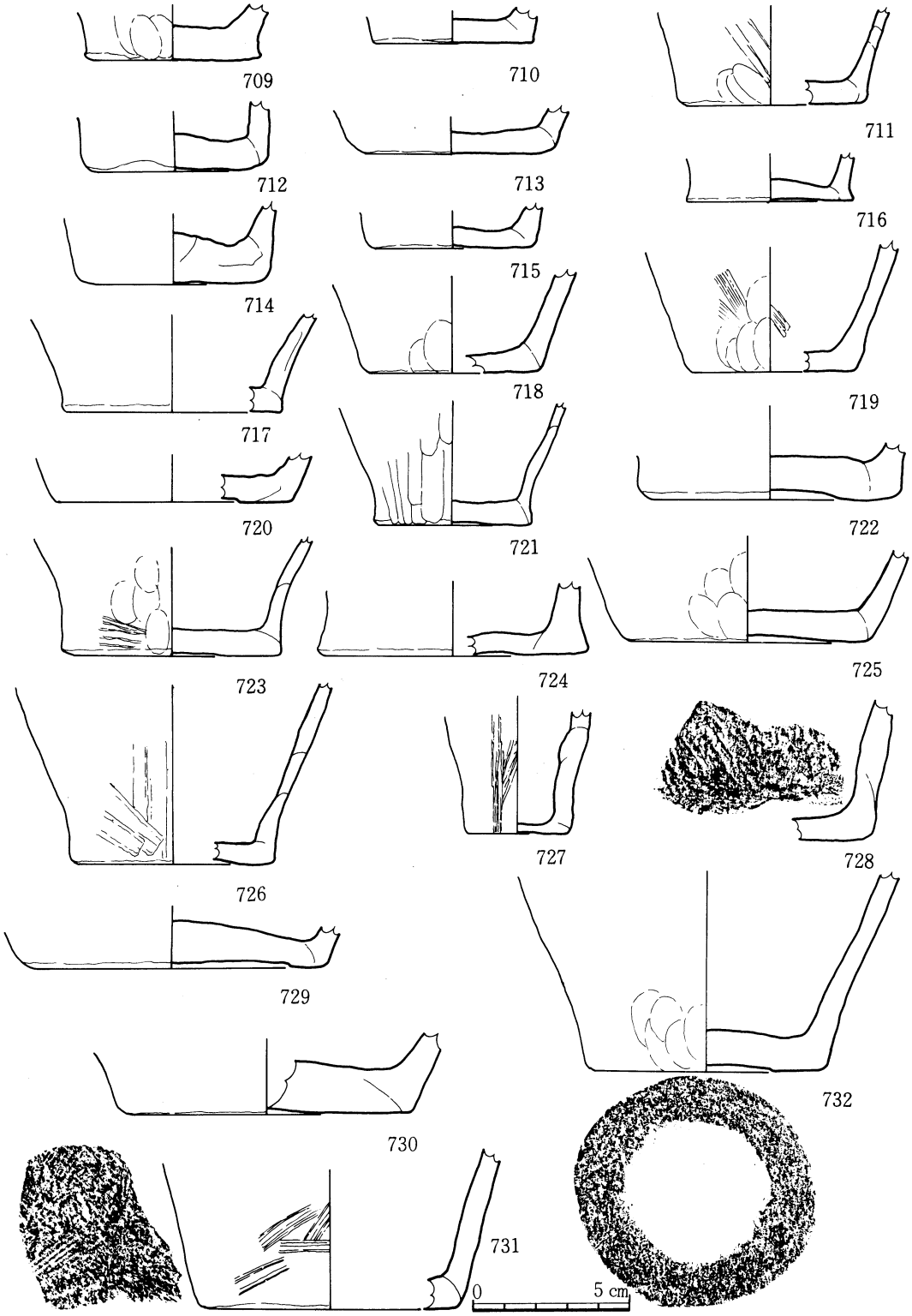
第86図　土器（第３地点）－54



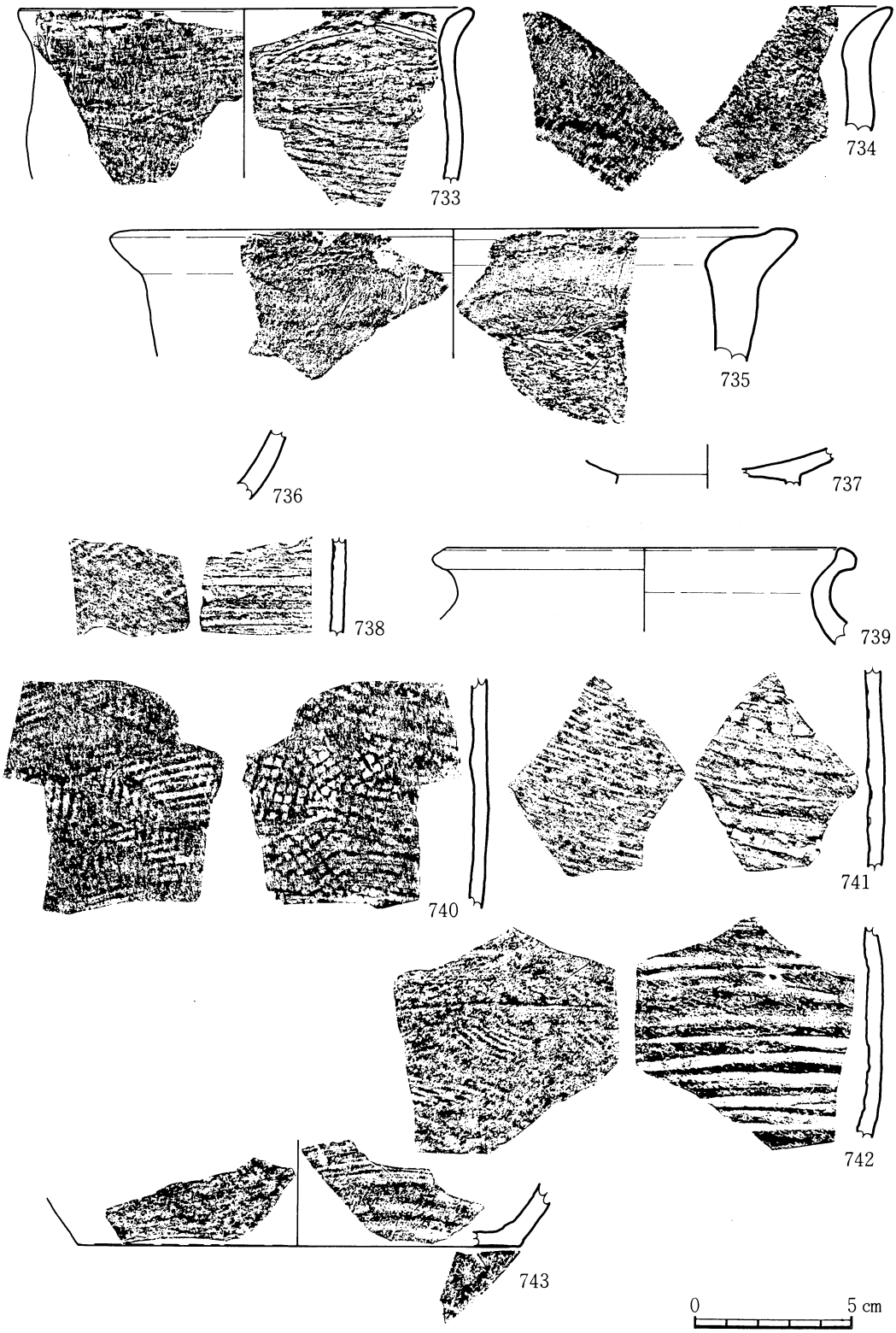
第87図　土器(第3地点)－55



第88図　土器(第3地点)－56



第89図　土器（第３地点）－57



第90図　土器(第3地点)－58

3）第3地点の遺物分布と接合関係

① Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類土器（第91・95図）

第3地点における，Ⅲ・Ⅳ・Ⅳ類土器の出土分布状況及び接合関係は，第90図と第94図に示した。

Ⅲ～Ⅴ類土器は，総じて類似した分布状況を呈している。すなわち，最も出土量の多いⅣ類土器の分布域内に，Ⅲ・Ⅴ類土器が混在している状況と言えそうである。また，Z－31区を中心に分布し，A区にはほとんど分布しないことは注目される。

② Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ類土器（第92・95図）

第3地点における，Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ類土器の出土分布状況及び接合関係は，第91図・第94図に示した。

Ⅵ類土器は，Z・Y－32区を中心に分布し，Ⅶ類土器は少数であるが極少的なまとまりはなく，全域に散在している。また，Ⅷ類土器は，全域に分布し，特にA区にまで分布していることは，注目される。

③ Ⅸ・Ⅹ類土器（第93・95図）

第3地点における，Ⅸ・Ⅹ類土器の出土分布状況及び接合関係は，第92・94図に示した。

Ⅸ類土器は，全域にほぼ均等に分布し，Ⅹ類土器も少量の出土であるが，同様の傾向が認められる。接合関係は，南北で最大7.0m，東西で6.0mのものが見られた。

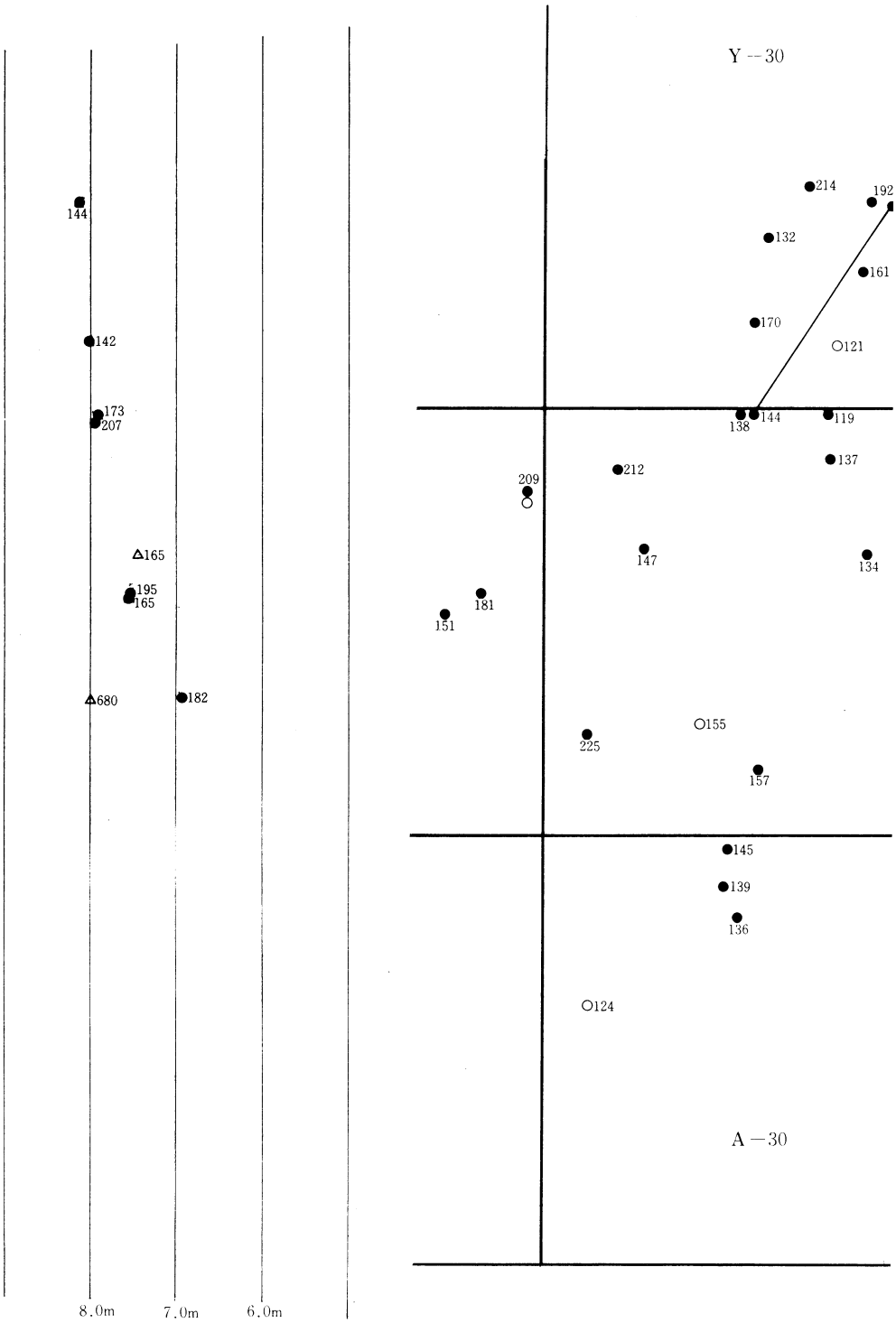
④ Ⅺ・ⅩⅡ・ⅩⅢ・ⅩⅣ類土器（第94・95図）

第3地点における，Ⅺ・ⅩⅡ・ⅩⅢ・ⅩⅣ類土器の出土分布状況及び接合関係は，第93・94図に示した。

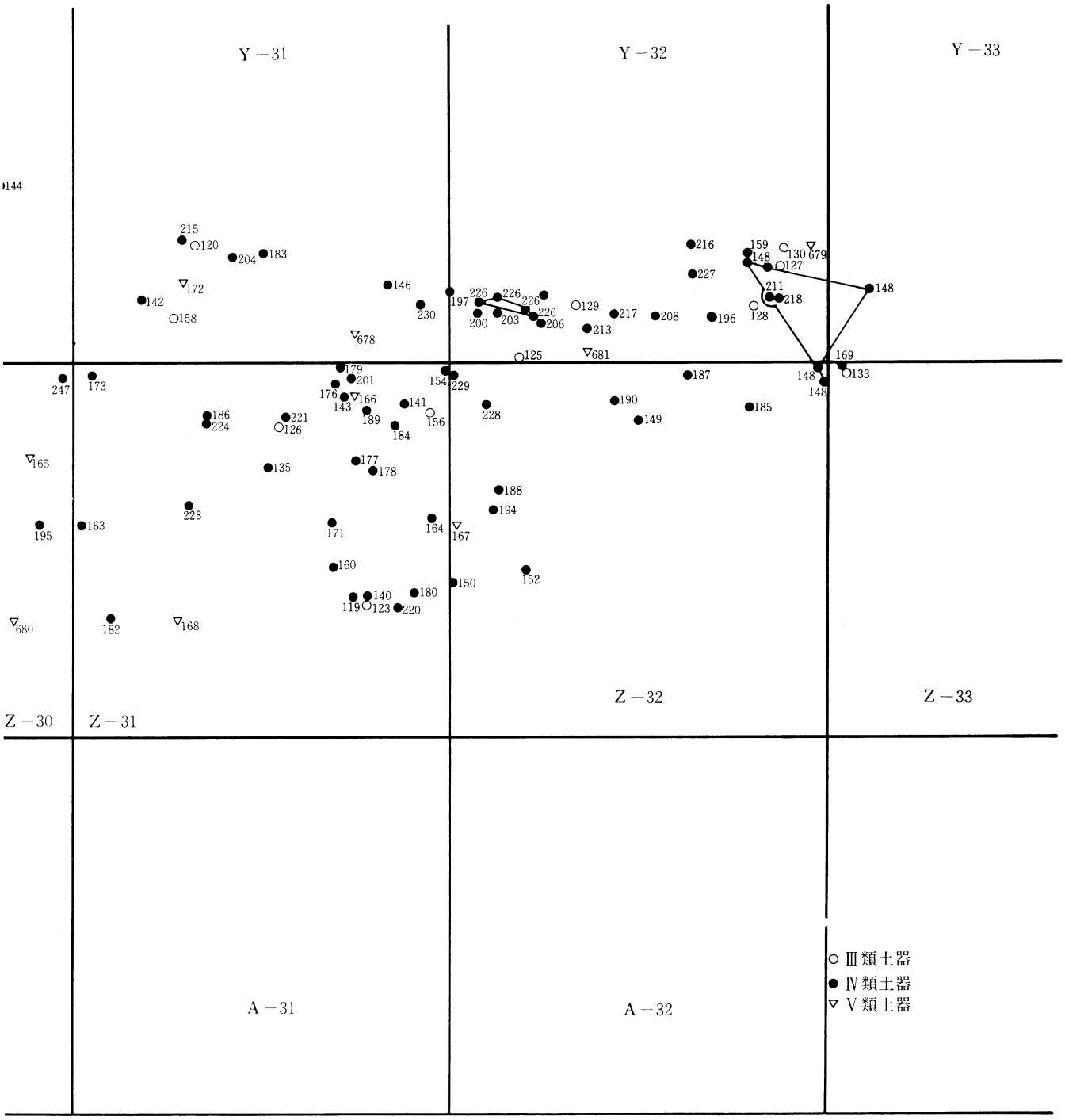
Ⅺ類土器を中心に，全域に分布している。接合関係は，Ⅺ類で最大12.5m，ⅩⅣ類で最大13.0mのものが認められる。また，その他の接合資料も分布の広がりが認められ，個体の分散化が認められそうである。

Ⅲ類からⅩⅣ類までの分布状況を概観すると，Ⅲ～Ⅴ類土器は，Y区とZ区を分布の領域とし，A区にはほとんど分布を示していない。一方，Ⅵ～ⅩⅣ類土器は，Z区を分布の中心とし，A区まで，ほぼ均等に分布していることを示している。

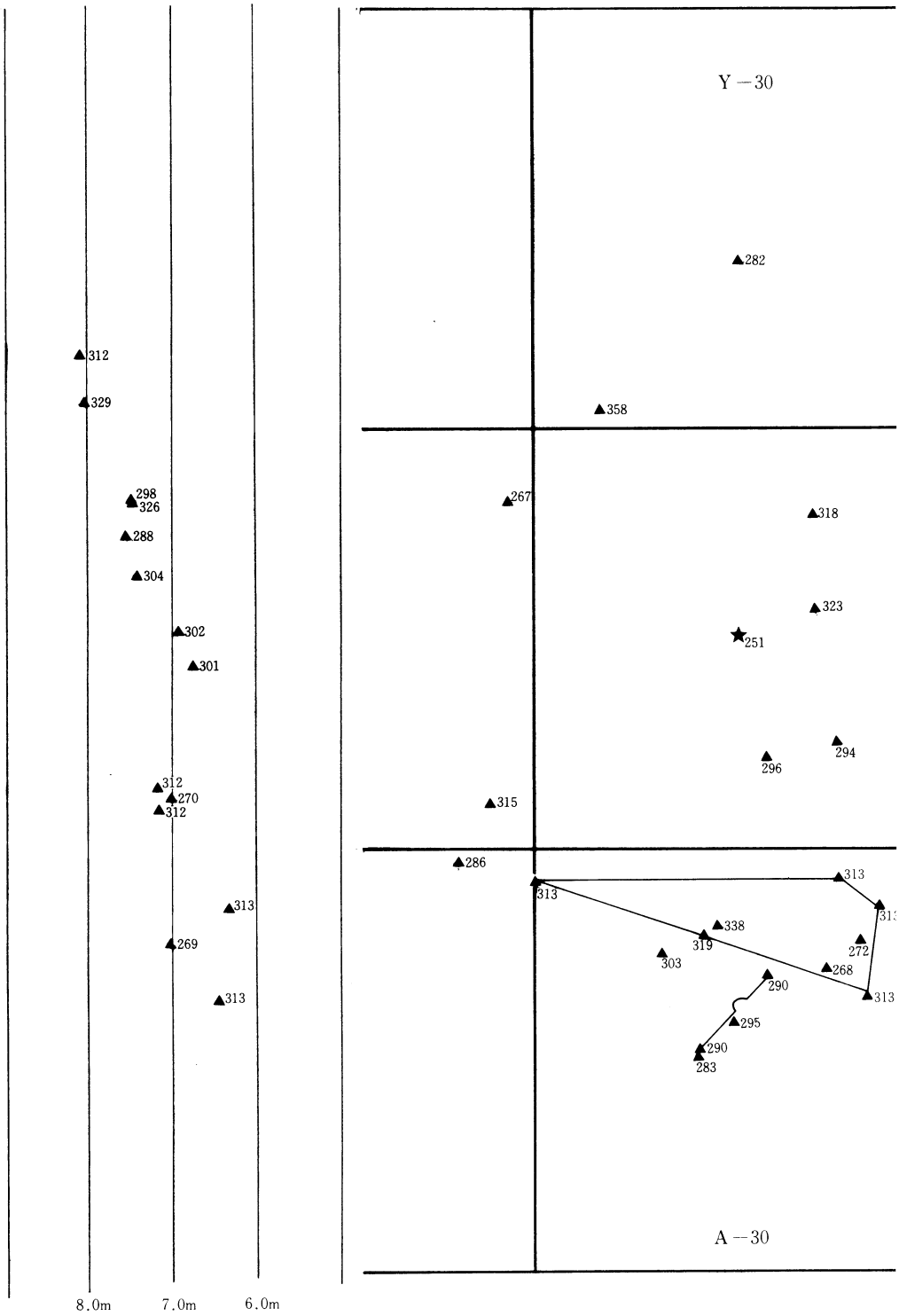
このことは，接合関係でも認められ，Ⅳ類土器は，Y区を中心に一部Z区との接合を示し，Ⅵ～ⅩⅣ類土器は，Z区を中心に，接合を示している。また，広範囲での接合をなすのも，Ⅵ～ⅩⅣ類土器と見ることができる。なかでも，特にⅪ類，ⅩⅣ類土器の接合関係は，類似した状況を示しており，興味深い。


Y −30
144
142
173
207
165
195
165
680
182
8.0m
7.0m
6.0m
214
192
132
161
170
121
138
144
119
137
209
212
147
134
181
151
155
225
157
145
139
136
124
A −30

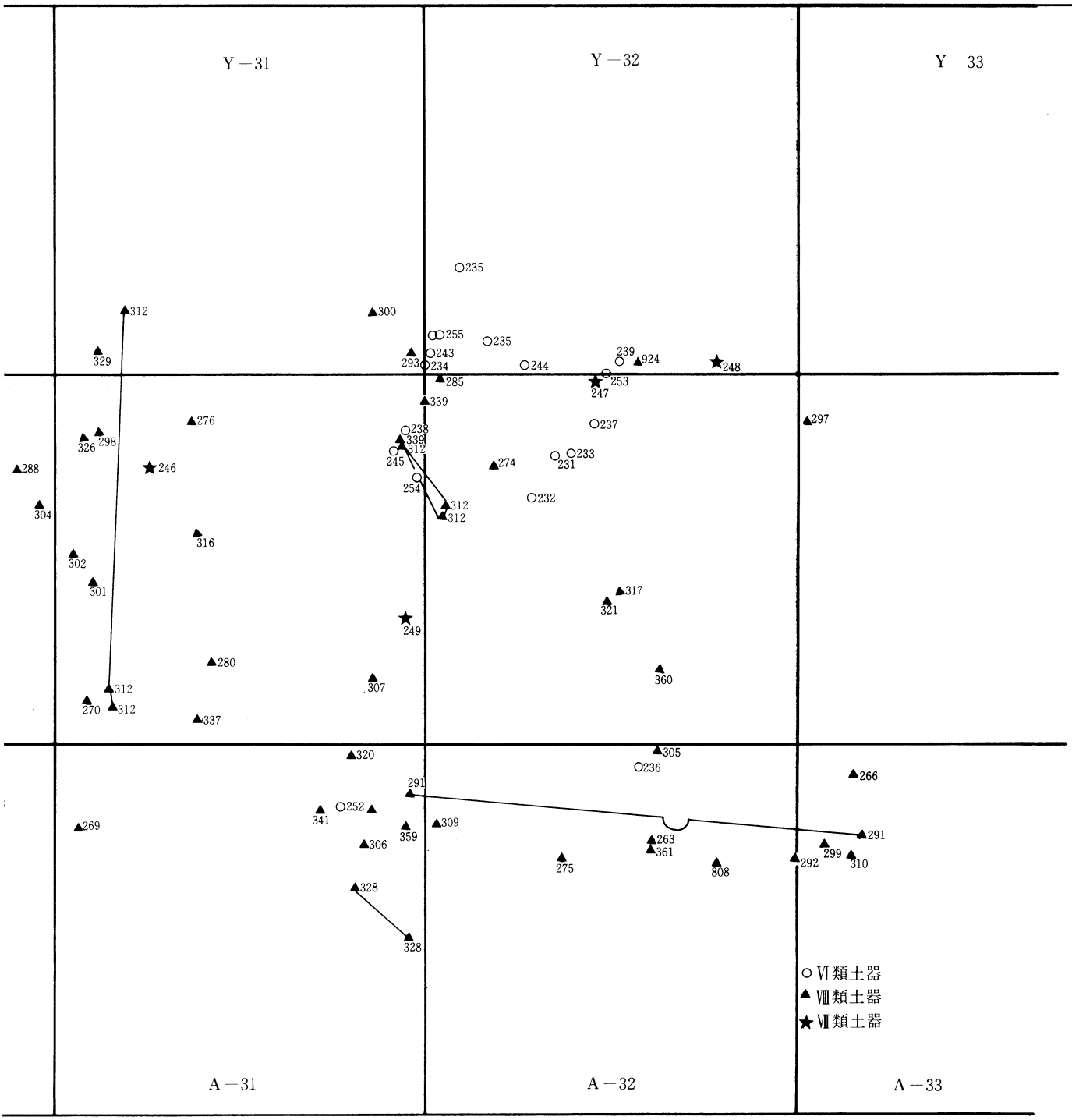
第91図　第３地点



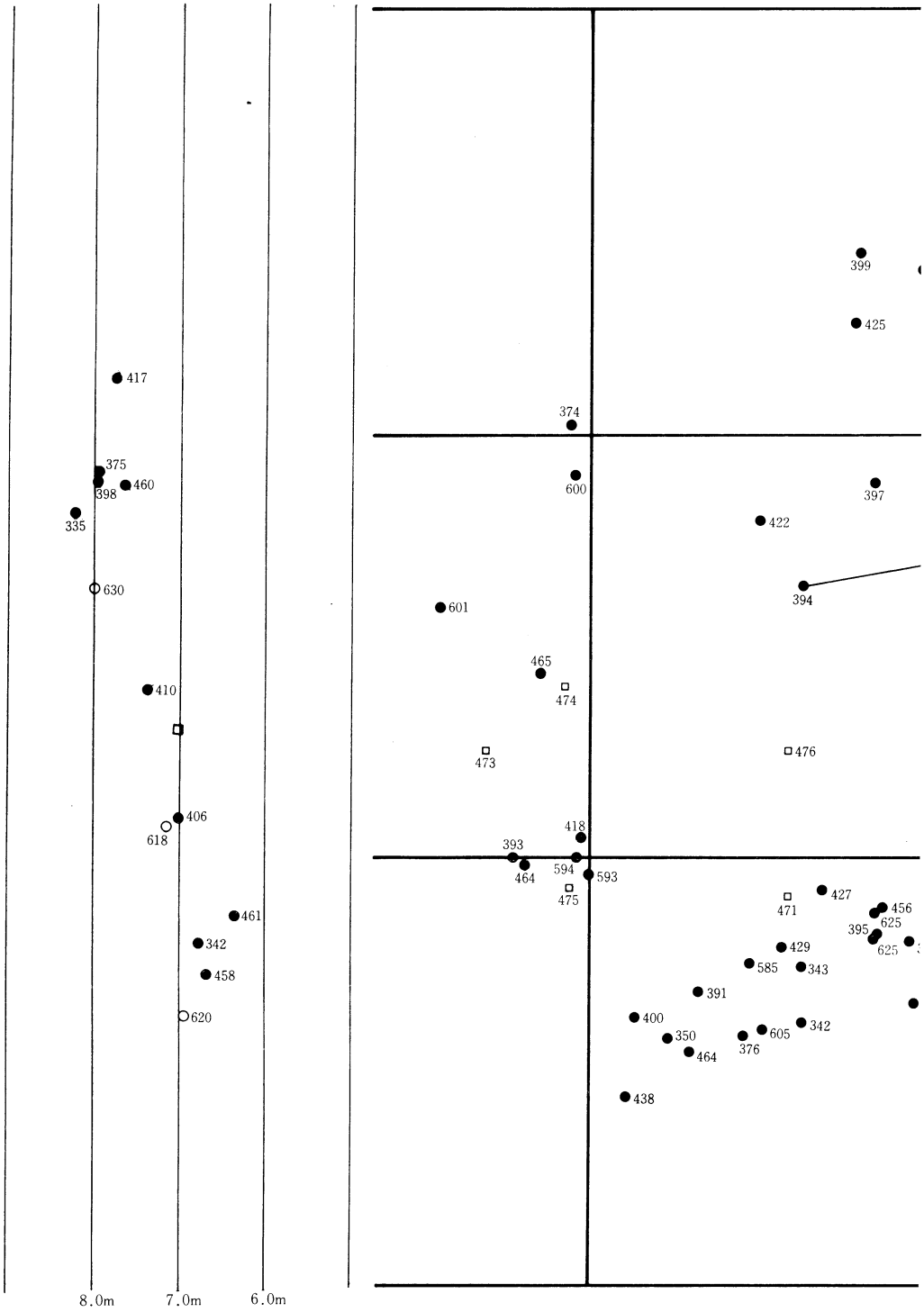
出土遺物分布図及び接合図(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類土器)


Y −30
282
358
312
329
298
326
288
304
302
301
312
270
312
313
269
313
267
318
323
251
294
296
315
286
313
313
338
319
303
272
268
290
313
295
290
283
A −30
8.0m
7.0m
6.0m

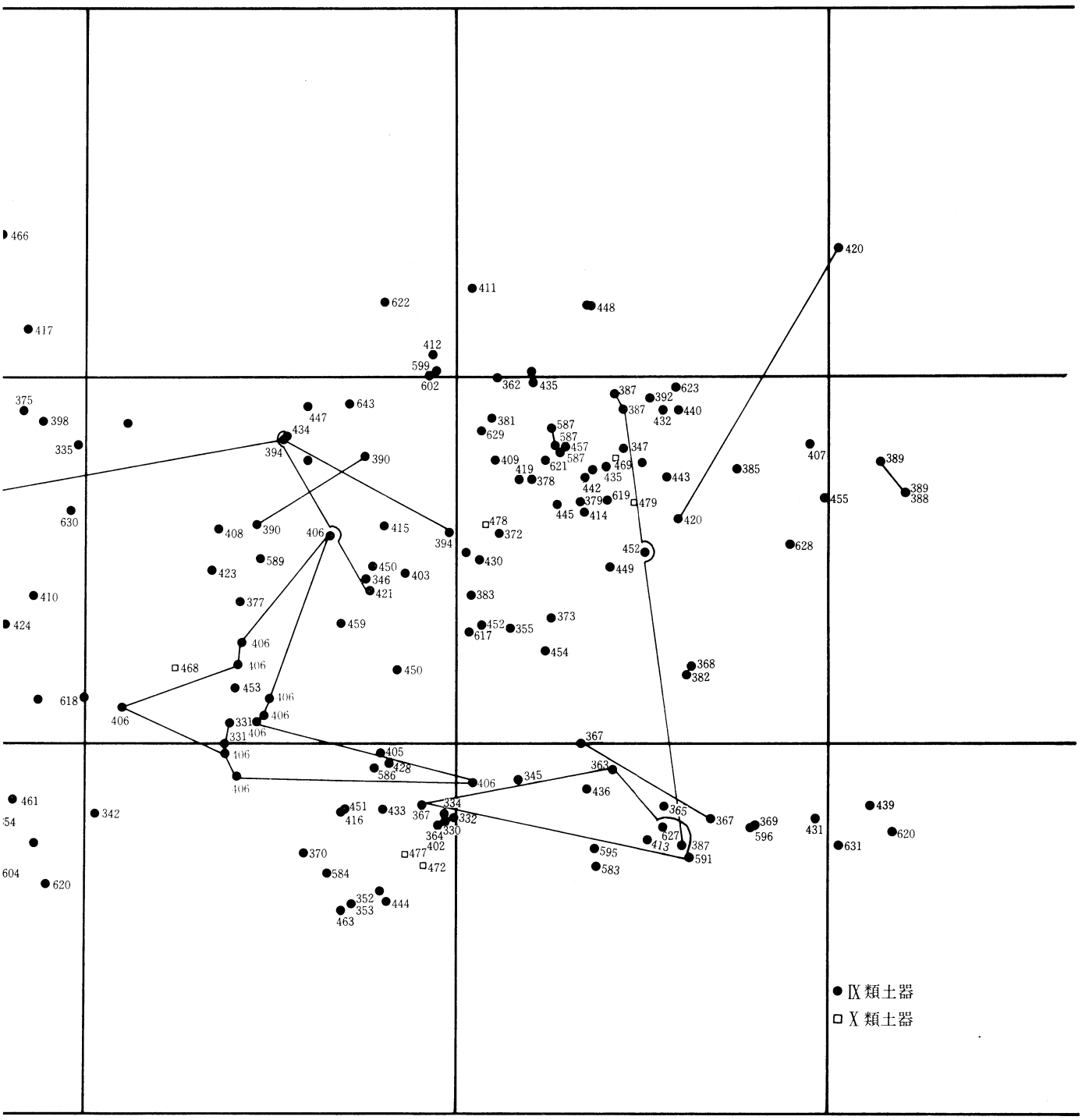
第92図　第



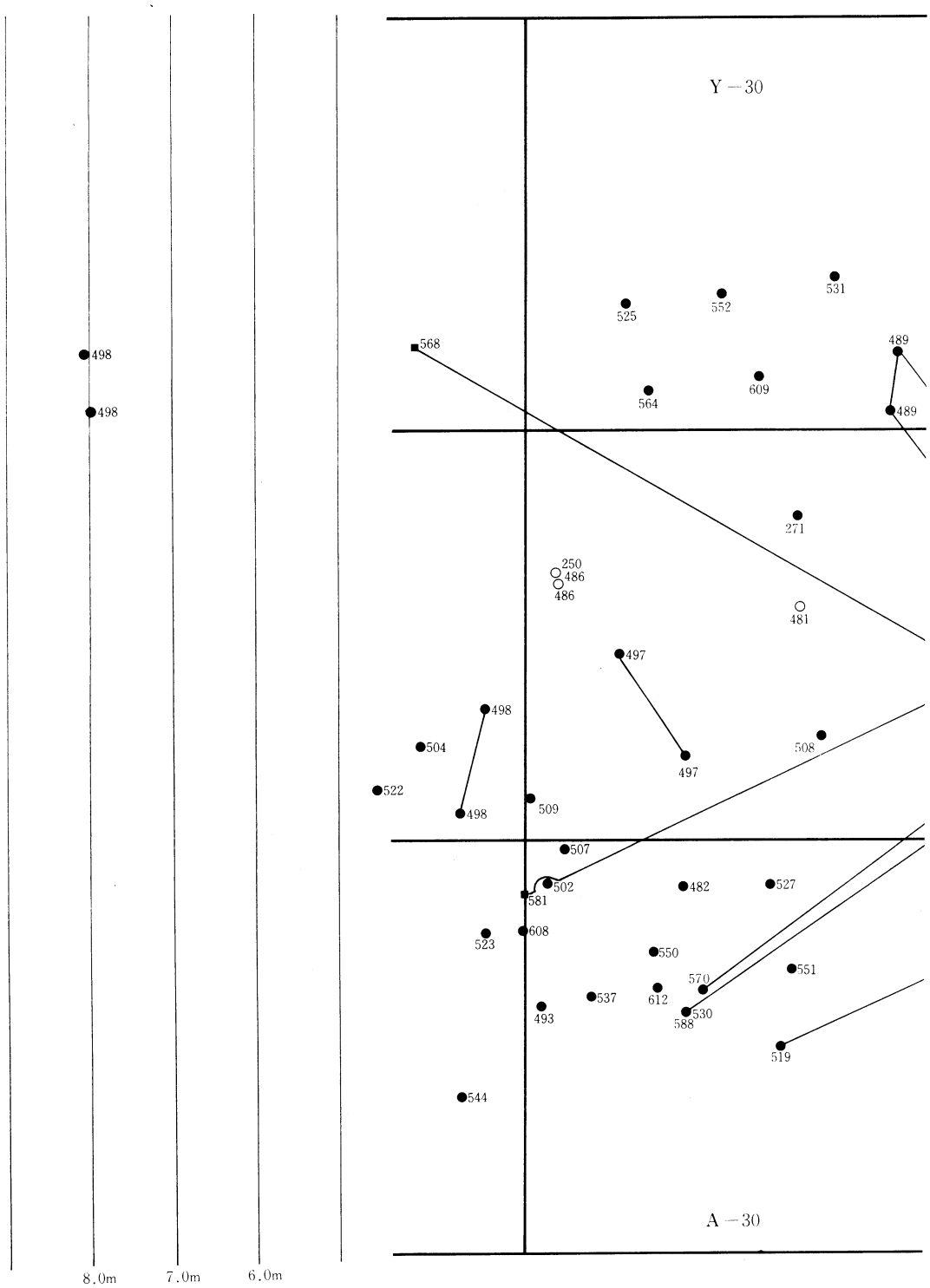
3 地点出土遺物分布図及び接合図（Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ類土器）


417
375
398
460
335
630
410
406
618
461
342
458
620
8.0m
7.0m
6.0m
399
425
374
600
397
422
394
601
465
474
473
476
418
393
464
594
593
475
427
471
456
625
395
625
429
585
343
391
400
342
350
605
376
464
438

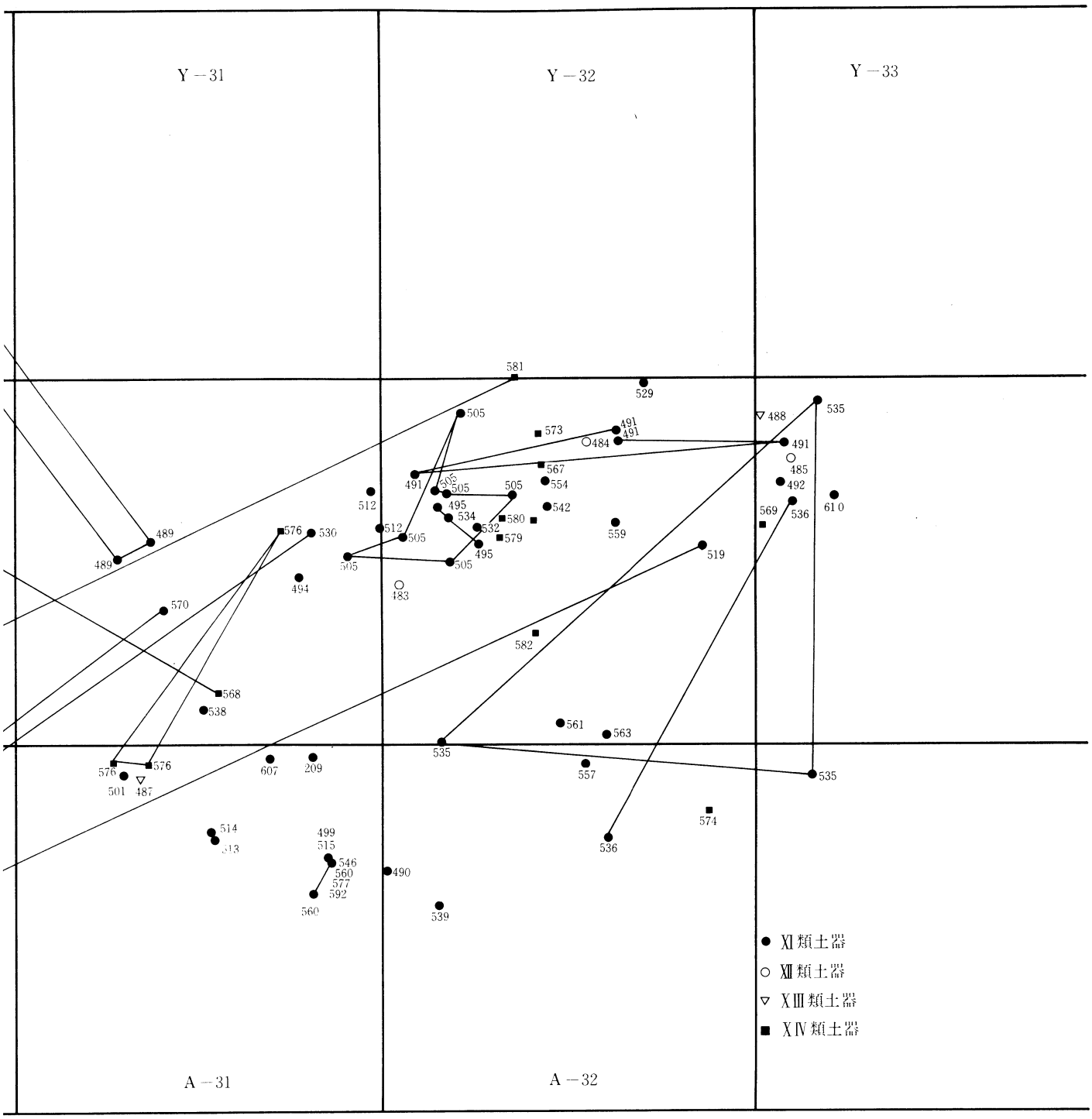
第93図　第3:



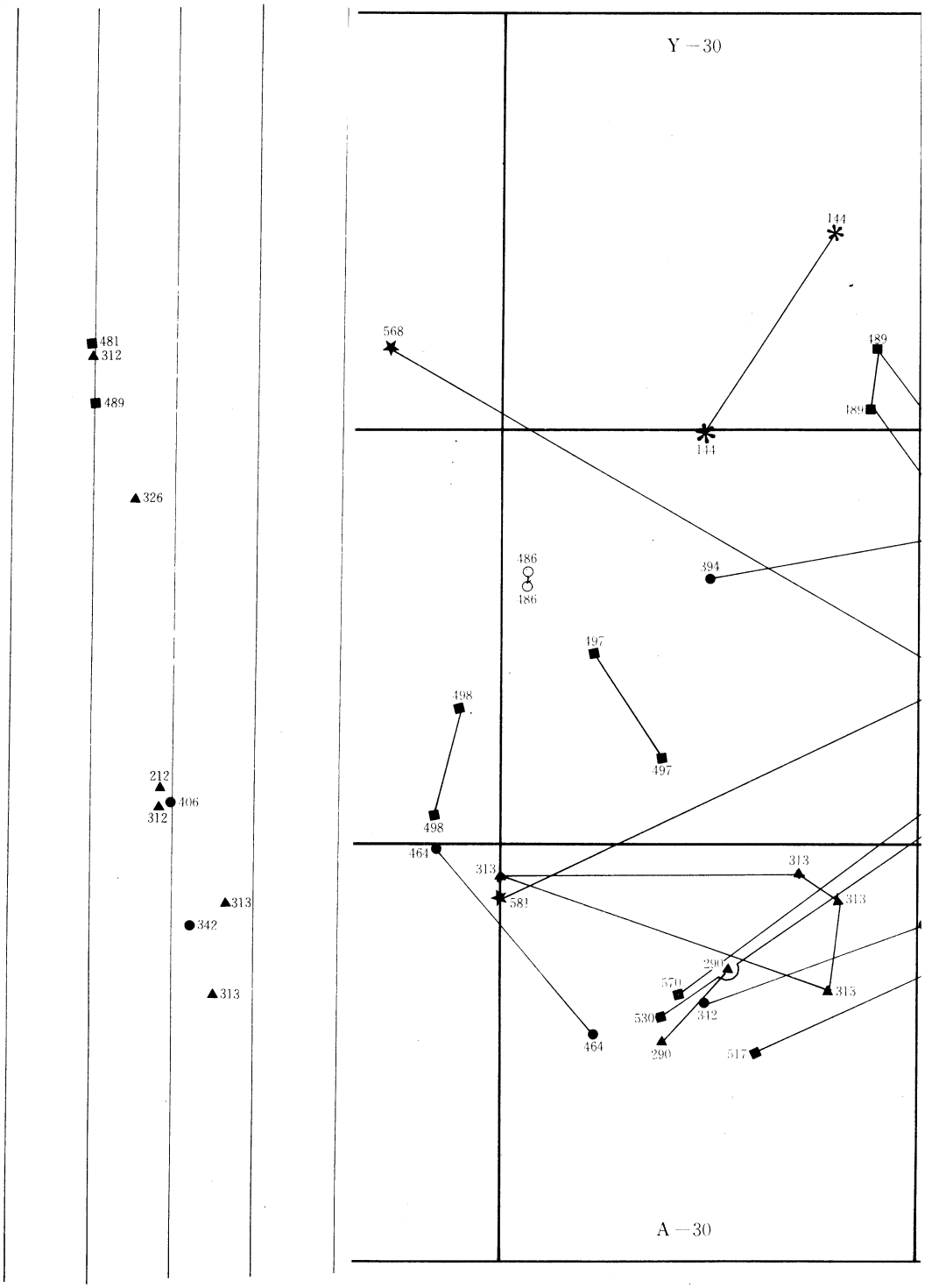
地点出土遺物分布図及び接合図(Ⅸ・Ⅹ類土器)

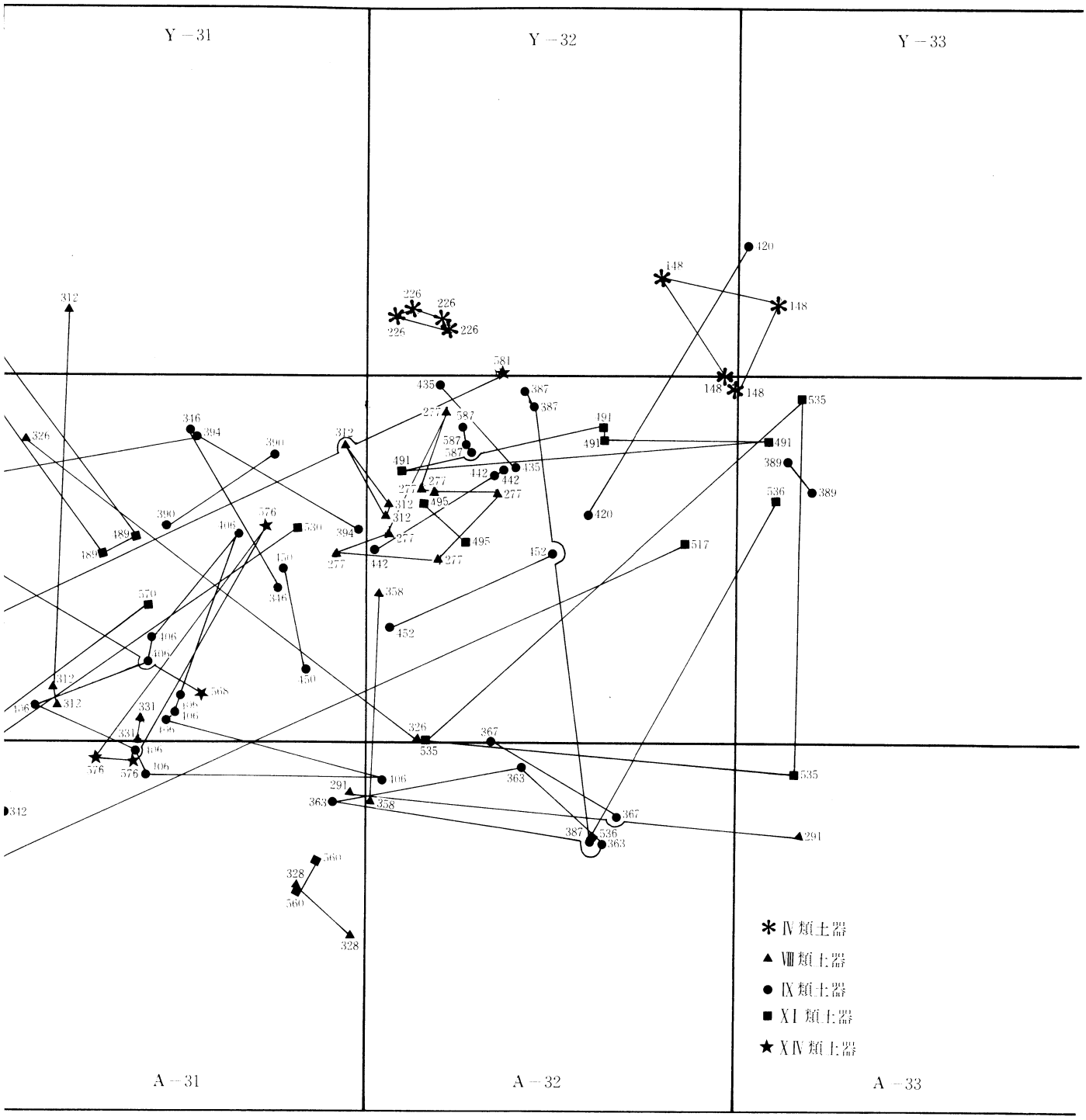

Y－30
A－30
8.0m
7.0m
6.0m
498
498
568
525
552
531
489
489
564
609
271
250
486
486
481
497
497
498
504
508
522
498
509
507
502
581
482
527
523
608
550
551
570
537
612
530
588
493
519
544

第94図　第３地



点出土遺物分布図及び接合図（XI・XII・XIII・XIV類土器）


Y —30
144
568
481
312
489
489
144
326
486
394
486
497
498
497
212
406
312
498
464
313
313
581
313
313
342
290
570
313
530
312
464
290
517
A —30



第95図　第３地点出土遺物接合図

表２　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－１

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
1	42	1地点	－	7.5YR 3/3 暗褐	深鉢円	Ⅰ	外:入念なナデ 内:ナデ	器肉約5mm。口唇部はヘラによる斜位の刻目。横・縦位の短沈線縦位の文様区画。内面も縦位の沈線文。
2	41	〃	－	5YR 3/3 暗赤褐	深鉢円	Ⅰ	外:ナデ 内:条痕後ナデ	1と同一個体の可能性が高い。胴部は斜位のヘラ沈線文。焼成は良で硬質。
3	9080	〃	8.44	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－a	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に叉状工具による連続刺突。頸部に隆帯、上位に連続刺突胴部は，横位の連続刺突と沈線文にそった連続刺突。
4	10	〃	7.74	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:条痕後ナデ	無文。5と同一個体。口縁部は肥厚(製作段階で意図的に実施)。
5	10	〃	7.74	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	無文。4と同一個体。長石粒を多く含み、角閃石も含む。
6	9036	〃	8.68	7.5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅲ－b	外:入念なナデ 内:ナデ	蛇行する隆帯を貼り付け、叉状工具で深い刻目を施す。沈線による文様は認められず。長石粒・角閃石を含む。
7	1	〃	7.88	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:ナデ	口縁部の可能性もある。無文。焼成は良で硬質。長石粒を多く含む。
8	9071	〃	8.42	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢円	Ⅲ－a	外:入念なナデ 内:　－	胴部片。ヘラによる縦位の刺突。4～5mm程の砂粒を含む。硬質。
9	9035	〃	8.68	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅲ－a	外:ヘラ後ナデ 内:　－	胴部片。叉状工具による浅い連続刺突。4mm程の砂粒・長石粒を含む。
10	9025 9071	〃	8.40 8.42	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅲ－b	外:入念なナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。ヘラによる鋸歯状の組み合わせ文。細砂を多く含み焼成は良で硬質。
11	9019	〃	8.48	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	胴部片。ヘラによる鋸歯状の組み合わせ文。長石粒を多く含み硬質。
12	9011 9029	〃	8.55 8.56	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅲ－b	外:入念なナデ 内:入念なナデ	接合資料。ヘラの先端部による鋸歯状の組み合わせ細沈線文。長石粒、角閃石を多く含み、焼成は良で硬質。
13	35	〃	7.79	7.5YR 3/3 暗褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:ナデ	胴部片。5mm程の砂粒・長石粒・角閃石を含む。硬質。
14	9067	〃	8.68	7.5YR 3/4 暗褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:　－	胴部片。上下位共に粘土紐の接合面で剝脱。6～8mm程の粘土紐が観察できる。砂粒を多く含む。無文。
15	9033	〃	8.54	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:ナデ	胴部片。接合面で剝脱。長石粒・角閃石を多く含み硬質。無文。
16	9005	〃	8.68	7.5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:条痕	接合面で剝脱。無文。長石粒・角閃石を多く含み硬質。
17	9035	〃	8.68	5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:条痕	下位の胴部片。無文。砂粒を多く含む。硬質。
18	34	〃	7.79	5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅲ－b	外:横位条痕 内:横位条痕	胴部片。無文。内面では粘土紐の接合面が部分的に残される。砂粒多く焼成は良。硬質。
19	9098	〃	8.53	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。無文。長石粒を多く含み、金雲母も含まれる。
20	9004	〃	8.73	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅲ－a b	外:条痕 内:ナデ	底部片。乳房状突起の感あり。砂粒を多く含む。
21	9072	〃	8.42	7.5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅲ－a b	外:縦位の条痕 内:ナデ	底部片。乳房状突起の尖底。微砂粒を含む。
22	9044	〃	8.68	7.5YR 4/3 褐	鉢円		外:横位の条痕 内:ナデ	器肉厚く9～10mm程で重い。ヘラの先端による沈線の直行する組み合わせ文。砂粒、8mm程の小礫を含む。

表3　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－2

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
27	8210	Z－21	7.65	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:条痕	口唇部に刺突。無文。細砂粒を多く含む。硬質。
28	8222	A－21	7.46	5YR 6/3 にぶい橙	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:ナデ	口唇部に叉状工具による深い連続刺突。無文。細砂粒を含み角閃石も含まれる。硬質。
29	8186	A－23	7.38	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に叉状工具による浅い連続刺突。多量の長石粒を含む。
30	8133	A－24	7.01	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に叉状工具による連続刺突。多量の長石粒を含む。小型土器で器肉も薄い。
31	－	A－23	－	5YR 3/3 暗赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部内面寄りに叉状工具による浅い連続刺突。口縁下位に刻目刺突。長石粒多し。
32	－	A－21	－	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:条痕	口唇部に叉状工具による連続刺突。口縁部直下に深い刻目突帯。
33	8274	Z－22	7.82	5YR 6/6 橙	鉢円	Ⅲ－a	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に叉状工具による連続刺突。口縁部直下にも同工具による刻目突帯。突帯より頸部にかけて縦位の連続刺突。砂粒多く軟質
34	8071	Z－22	7.21	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇部に叉状工具による連続刺突。頸部に同工具による刻目突帯を1条巡らす。
35	8245	Z－22	7.77	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:条痕 内:ナデ	口唇部に叉状工具による連続刺突。口縁部直下にも同工具による刻目突帯。長石粒を多く含む。
36	174	A－24	7.42	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇部内面に連続刺突。口唇端部に連続刺突。口縁端部に叉状工具による連続刺突。長石粒＞角閃石＞石英粒。硬質。
37	－	A－23	－	5YR 5/8 明暗褐	鉢円	Ⅳ	外:工具ナデ 内:工具ナデ	口縁端部に貼付突帯。突帯上に叉状工具による連続刺突刻目。屈曲部に刺突。斜位の細沈線。長石粒多し。硬質。
38	144	A－23	7.71	5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ	外:横位条痕 内:ナデ	口唇部・口縁端部に叉状工具による連続刺突。屈曲部に縦位の沈線。砂粒多し。硬質。
39	8127	A－24	7.04	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ	外:ナデ 内:ナデ	口縁端部に貼付突帯。突帯上に刺突。屈曲部に斜位の沈線。砂粒及び長石粒多し。硬質。
40	－	A－21	－	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ	外:ナデ 内:ナデ	口縁端部に連続刺突の貼付突帯。屈曲部に縦位のヘラ描き沈線。長石粒を多量に含む。
41	－	A－21	－	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅳ	外:入念なナデ 内:ナデ	口縁部に幅広の貼付突帯。突帯上に叉状工具による連続刺突を2条巡らす。屈曲部に鋸歯状の沈線。焼成良好。硬質。
42	358	A－21	7.64	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ	外:ナデ 内:ナデ	口縁端部に叉状工具の連続刺突をもつ貼付突帯。肩部も同様。屈曲部に縦位のヘラ沈線。胴部は斜位の沈線。硬質。
43	8287	Z－22	7.54	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅲ－a	外:ナデ 内:ナデ	口縁端部に貼付突帯。口唇部と突帯上に叉状工具の連続刺突。屈曲部に直行する突帯を施し同様に刺突。焼成良好で硬質。法量大。
44	8138	A－24	7.17	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	貼付突帯が屈曲し、叉状工具による連続刺突が付く。接合面で剥脱。長石粒多し。
45	153	A－23	7.33	7.5YR 5/6 明褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:ナデ	蛇行する貼付突帯。突帯上に叉状工具による連続刺突。長石粒多し。やや軟質。
46	8259	Z－22	7.84	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	肩部に連続刺突を持つ貼付突帯。ヘラ沈線。
47	83	A－21	6.76	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:ナデ	肩部に幅広の貼付突帯。叉状工具による連続刺突。ヘラ沈線による鋸歯文。接合面が観察される。長石粒多し。
48	8207	Z－22	7.76	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	屈曲部にヘラ描き沈線。屈曲する貼付突帯の痕跡あり。焼成良好硬質。砂粒多し。
49	8003 4419 2318	A－24 Y－32 Y－32	7.30 7.89 7.89	7.5YR 3/3 暗褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。肩部に細い隆帯。突帯より大きめの叉状工具の連続刺突。斜位の細沈線。焼成良好。硬質。
50	－	A－21	－	5YR 3/4 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:条痕	口径 260mm。口唇部と2条の突帯上に叉状工具による連続刺突、屈曲部に斜位のヘラ沈線。肩部より胴部へY字状の細沈線。
51	8281 8287	Z－22 Z－22	7.37	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:条痕	50と同一個体の可能性が高い。頸部の屈曲が大きい。焼成良好。硬質。

表4　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－3

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
52	8249	Z－22	7.62	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	突帯上に叉状工具による連続刺突。斜位の細沈線文。硬質。
53	8166	A－24	7.34	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	肩部にやや幅広の突帯。叉状工具による連続刺突。屈曲部に鋸歯状ヘラ沈線。胴部は縦位。砂粒多し。
54	8066	A－23	7.17	10YR 6/4 にぶい黄橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	肩部幅広の突帯に斜位の刻目。接合面で剝脱。砂粒多し。
55	73	A－21	6.61	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	微隆線上に叉状工具による連続刺突。細砂粒多し。やや軟質。
56	180	A－24	7.53	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	49と同種の細沈線。同一個体の可能性あり。
57	－	A－21	－	2.5YR 6/2 灰赤	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。接合面で剝脱。器内薄し。硬質。
58	8300	A－21	7.55	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。沈線の接触部。硬質。薄手。
59	8210	Z－21	7.65	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。接合位置明瞭。硬質。薄手。
60	8248	Z－22	7.54	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:入念なナデ	胴部片。細沈線。
61	－	A－21	－	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。やや硬質。
62	8284	Z－21	7.46	2.5YR 5/2 灰赤	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。硬質。薄手。
63	8264	Z－22	7.79	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。硬質。薄手。長石粒多し。
64	8235	A－20	7.52	5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。ヘラ沈線。やや厚手。硬質。
65	8282	A－21	7.76	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。硬質。薄手
66	361	A－21	7.60	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:横位の条痕	胴部片。硬質。薄手。
67	8164	A－24	7.59	10YR 5/3 にぶい黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	底部片（尖底）。砂粒多し。硬質。
68	8304	Z－22	7.28	5YR 3/3 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	底部片（尖底）。砂粒多し。硬質。
69	43	A－21	6.70	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	ⅩⅤ	外:ナデ 内:ナデ	口唇内端に隆帯貼付。刻目を施す。外面は刻目と同一工具による鋸歯文。長石粒を主体とした砂粒を多く含む。硬質。
70	57	A－21	6.41	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	ⅩⅤ	外:ナデ 内:ナデ	69と同一個体。砂粒を多く含み器面はザラザラしている。
71	8003 8004	A－23 A－23	7.30 7.27	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	ⅩⅤ	外:ナデ 内:ナデ	69と同一の個性を示す。口唇内端の隆帯がやや下がる。硬質。
72	－	A－23	－	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	ⅩⅤ	外:ナデ 内:ナデ	69と同一の個性を示す。外面に口縁端部より直行する三角突帯。
73	－	A－22	－	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	ⅩⅤ	外:ナデ 内:ナデ	直行する三角突帯。砂粒多し。
74	90	A－21	6.58	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	ⅩⅥ	外:ナデ 内:一部条痕	屈曲部に横走する1条の三角突帯。上位は鋸歯文、下位は不規則な沈線。砂粒多し。
75	363	A－21	7.25	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	ⅩⅥ	外:ナデ 内:ナデ	74と同一の個性を示す。図は上下逆転の可能性が高い。砂粒多し
76	182	A－24	7.26	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	ⅩⅥ	外:ナデ 内:ナデ	74と同一の個性を示す。横走する三角突帯はやや低め。鋭いヘラで鋸歯文を描く。

表5　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－4

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
77	8155	A－24	7.26	5YR 5/4 にぶい赤褐		Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部は平坦。山形口縁の可能性大。ヘラによる沈線文。細砂粒多し。やや軟質。
78	8055 8062	A－24 A－24	7.33 7.32	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。口径228mm。山形口縁。規則性のない沈線文。細砂粒。器面はザラザラ。
79	8154	A－24	7.18	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	78と同一の個性を示す。
80	8160	A－24	7.19	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。砂粒多く器面はザラザラ。硬質。
81	8176	A－23	7.19	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	丸味をもつ口唇部。砂粒多く器面はザラザラ。縦・横位の沈線間を斜位の短沈線で埋める。
82	8139	A－24	7.24	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。81と同じ特徴を持つ。細砂粒を含む。やや軟質。
83	8103	A－23	7.31	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	ⅩⅦ	外:入念なナデ 内:　－	部位不明。浅い沈線(繊維質工具)。微砂粒。
84	802	A－23	7.34	7.5YR 6/6 橙	鉢 円	ⅩⅦ	外:入念なナデ 内:　－	83と同一個体の可能性あり。部位不明。
85	8021	A－23	7.34	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	ⅩⅦ	外:入念なナデ 内:　－	83と同一個体の可能性あり。口縁部と思われるが不確実。
86	8050	A－24	7.49	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	波状口縁。区画文間に連続刺突。文様帯肥厚。5mm程の砂粒と少量の金雲母を含む。薄手でやや軟質。
87	8189	Z－22	7.87	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。沈線による3本1組の編み籠文。口唇部に連続刺突。多量の砂粒を含む。
88	－	A－27	－	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。区画文間に連続刺突(半截竹管)。薄手、硬質。
89	9081	A－21	8.34	2.5YR 4/6 赤　褐	鉢 円	Ⅳ	外:条痕 内:条痕	底部（接地面)。整形は雑。
90	8182 8177	A－23 A－23	7.44 7.30	5YR 5/6 明赤褐	甕 円	ⅩⅧ	外:縦位のナデ 内:ナデ	底部。上げ底。
91	8001	A－23	7.21	7.5YR 5/4 にぶい褐	甕 円	ⅩⅧ	外:不明 内:不明	底部。脚台。上げ底。
92	－	A－23	－	7.5YR 6/6 橙	甕 円	ⅩⅧ	外:縦位ハケナデ 内:ハケナデ	底部。脚台付き上げ底。長石粒を主体とし、砂粒多く、器面ザラザラ。重量感あり。
93	－	A－27	－	5YR 4/5 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦と文様帯に間のびした押し引き。薄手、硬質。角閃石多し。
94	－	A－27	－	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	浅く間のびした押し引き。硬質。砂粒多くザラザラ。
95	7030	A－26	6.60	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇部と文様帯に斜位の連続刺突。半截竹管。外面にススト付着。細砂粒多し。
96	7055	A－27	7.04	10R 4/4 赤　褐	鉢 円	Ⅺ	外:工具ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。細沈線文。斜位の連続刺突。薄手。硬質。長石粒多し。
97	－	A－26	－	2.5YR 6/5 明赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	96と同一の個性を示す。多量の金雲母を含む。
98	－	A－26	－	2.5YR 6/5 明赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	96と同一の個性を示す。多量の金雲母を含む。
99	－	A－27	－	7.5YR 3/6 にぶい褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に方向の異なる2条の連続刺突。区画沈線文間に斜位の連続刺突。103と同一個体の可能性大。
100	－	A－27	－	7.5YR 3/6 にぶい褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	縦位の区画沈線。焼成前の穿孔。103と同一個体の可能性大。
101	－	A－26	－	5YR 3/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	区画線文間に連続刺突(半截竹管)。外面にススト付着。薄手、硬質

表6　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－5

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
102	－	A－26	－	2.5YR 4/6 赤褐	鉢 角	XI	外:ナデ 内:条痕	区画線文間に連続刺突(半截竹管)。補修孔1個。薄手、やや軟質
103	7047	A－27	－	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢 円	XI	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。区画線文間に連続刺突。文様帯肥厚。焼成前の穿孔。薄手、やや軟質。
104	－	A－26	－	2.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 円	XI	外:ナデ 内:ナデ	区画線文間に連続刺突(半截竹管)。口唇部にも施す。薄手、やや軟質。
105	－	A－27	－	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	XI	外:ナデ 内:ナデ	区画線文間に連続刺突(半截竹管)。薄手、やや軟質。
106	－	A－27	－	7.5YR 6/6 橙	鉢 角	XI	外:ナデ 内:ナデ	区画線文間に連続刺突(半截竹管)。薄手、やや軟質。
107	－	A－25 A－26	－	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	XI	外:工具ナデ 内:工具ナデ	波状口縁。文様帯肥厚。間のびした押し引き文で構成。細沈線も施す。砂粒多し。
108	－	A－26 A－27	－	2.5YR 4/6 赤褐	鉢 角	XI	外:条痕 内:工具ナデ	口縁部文様帯肥厚。口唇部は連続刺突と沈線。下位にも刺突。細線による鋸歯文。外面にスス付着。金雲母。
109	－	A－26	－	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	XI	外:条痕 内:条痕後ナデ	108と同一の個性を示す。薄手、硬質。
110	130	A－26	7.02	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	XI	外:条痕 内:ナデ	108と同一の個性を示す。
111	122	A－27	7.00	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	IX－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。構成は108に類似。下位の沈線は連続刺突の可能性もある。
112	－	A－27	－	2.5YR 6/3 にぶい橙	鉢 円	IX－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。山形口縁の可能性あり。薄手、硬質。
113	－	A－27	－	2.5YR 4/6 赤褐	鉢 円	IX－b	外:入念なナデ 内:ナデ	やや外傾する口唇部。沈線による区画文間に短沈線を施す。外面にスス付着。
114	7063	A－27	6.98	2.5YR 4/2 灰赤	鉢	IX－b	外:入念なナデ 内:ナデ	口唇部平坦。沈線(深い)による鋸歯文。
115	7011	A－26	6.88	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	IX－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。沈線による3本1組の編み籠文。外面にスス付着。少量の金雲母。
116	－	A－27	－	5YR 6/3 にぶい橙	鉢	－	外:工具ナデ 内:－	胴部片。沈線による鋸歯文。硬質。
117	－	A－27	－	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	IX	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。沈線横走。
118	－	A－27	－	2.5YR 6/6 橙	鉢	IX	外:ナデ 内:ナデ	117と同一の個性を示す。肥厚帯及び下位に平行沈線文。少量の金雲母を含む。
119	1308 2096	Z－30 Z－31	7.94 7.22	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	IV	外:－ 内:－	口唇部に叉状工具による連続刺突。屈曲部に縦位の細沈線。器肉は厚く重量感あり。長石粒多し。焼成良好。硬質。
120	4405	Y－31	7.83	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	III－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	口唇部に叉状工具による連続刺突。屈曲部に同工具による横位の連続刺突。硬質。
121	1326	Y－30	7.90	5YR 6/6 橙	鉢 円	III－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に叉状工具による連続刺突。無文。スス付着。細砂粒多く硬質。
122	－	Z－30	－	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	III－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に叉状工具による連続刺突。屈曲部に斜位(蛇行)の隆帯。隆帯上に叉状工具による連続刺突。
123	2008	Z－31	7.40	2.5YR 4/6 赤褐	鉢 円	III－b	外:条痕後ナデ 内:条痕	口縁直下に小突帯。突帯上に叉状工具による連続刺突。微砂粒。
124	931	A－30	7.19	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	III－b	外:入念なナデ 内:条痕後ナデ	口唇端部と屈曲部に突帯。突帯上に同一の叉状工具による連続刺突。長石粒多し。硬質。
125	3462	Y－32	7.74	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	III－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇端部と屈曲部に突帯。突帯上に同一の叉状工具による連続刺突。やや軟質。
126	2128	Z－31	7.79	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	III－b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	口縁直下に蛇行する突帯。口唇内端と突帯上に叉状工具による連続刺突。硬質

表7　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－6

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
127	2857	Y－32	7.94	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅲ－b	外:横ナデ 内:ナデ	口縁部直下と屈曲部に突帯。同一の叉状工具で連続刺突。金雲母を含む。
128	2845	Y－32	7.82	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:横位条痕 内:ナデ	口縁部直下と屈曲部(蛇行)に突帯。同一の叉状工具で連続刺突。金雲母少量。
129	4424	Y－32	7.00	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:横ナデ 内:条痕後ナデ	口縁部直下と屈曲部に突帯。突帯の上下位に連続刺突。やや軟質
130	2681	Y－32	8.09	2.5YR 3/6 暗赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:横ナデ 内:条痕後ナデ	口唇端部と屈曲部に突帯。砂粒多し。硬質。
131	9082	－	7.48	7.5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅲ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇内端に刺突。屈曲部に突帯。叉状工具による連続刺突。小型土器。
132	793	Y－30	7.94	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	突帯はやや下がる。口唇部と突帯に連続刺突。刺突具は異なる。やや軟質。
133	3707	Z－33	7.45	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅲ－b	外:粗のナデ 内:入念なナデ	口縁端部に突帯。焼成良く硬質。金雲母を含む。
134	1152	Z－30	7.75	－ /	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	
135	548	Z－30	7.89	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突具は貝腹縁。屈曲部は深いヘラ沈線。金雲母を含む。硬質。
136	965	A－30	6.90	－ /	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:ナデ	
137	1335	Z－30	7.70	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突具は貝腹縁部か？少量の金雲母を含む。硬質で光沢あり
138	1260	Z－30	7.70	5YR 3/3 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突具は貝腹縁部か？屈曲部の沈線はヘラ。硬質で光沢あり
139	864	A－30	7.00	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:横位条痕 内:横位条痕	連続刺突は叉状工具。接合面明瞭。薄手、硬質。
140	2008	Z－31	7.40	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	口唇部はヘラ刻み。突帯上は叉状工具の連続刺突。金雲母を多量に含む。薄手、硬質。
141	605	Z－30	8.00	5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	連続刺突は半截竹管か？砂粒多し。ザラザラしている。
142	4567	Y－31	8.00	2.5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突は半截竹管か？硬質で光沢あり。
143	2437	Z－31	7.50	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－b	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	突帯上に2条の連続刺突。肩部に横走する突帯と直行する突帯にも連続刺突。
144	612 630	Y－30 Y－30	7.96 8.10	5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－b	外:条痕 内:条痕	接合資料。口唇部に円盤状の貼付。叉状工具で連続刺突。口縁部と肩部に幅広の突帯。
145	－	Z－30	－	7.5YR 2/2 黒褐	鉢円	Ⅳ－a	外:横位条痕 内:条痕	連続刺突は半截竹管。復元口径 166mm。肩部の突帯は幅広。頸部の屈曲強し。硬質。
146	3255	Y－31	7.70	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突は半截竹管。角閃石多し。硬質。
147	1449	Y－30	7.00	5YR 2/2 黒褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突は叉状工具。細沈線。砂粒多し。硬質で光沢あり。
148	2903 3679 3704 2895 2729	Y－30 Z－33 Z－32 Y－33 －	7.30 7.40 7.70 7.80 7.90	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－b	外:条痕 内:条痕	接合資料。幅広突帯。連続刺突は貝腹縁部か？金雲母多し。軽量焼成良好。
149	2876	Z－32	7.60	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突は半截竹管。接合面明瞭。金雲母少量。ザラザラ。
150	2791	Z－31	7.10	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	連続刺突は叉状工具か？細砂粒。

表8　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－7

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
151	883	Z－29	7.60	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	連続刺突は叉状工具か？砂粒多く器面ザラザラ。硬質。
152	2214	Z－32	7.30	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	接合面明瞭。連続刺突は半截竹管。砂粒多く器面ザラザラ。硬質
153	4777	Y－32	7.13	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	復元口径106mm。屈曲部に細沈線。角閃石。薄手、硬質。
154	3397	Y－32	7.61	2.5YR 5/2 灰赤	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:ナデ	接合面明瞭。連続刺突は半截竹管。砂粒多く金雲母を含む。硬質ザラザラ。
155	1662	Z－30	6.74	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－b	外:ナデ 内:ナデ	蛇行突帯。連続刺突は叉状工具。少量の金雲母を含む。硬質。
156	3508	Z－31	7.22	2.5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－b	外:入念なナデ 内:条痕	蛇行突帯。連続刺突は貝工具か？長石粒多し。焼成は良く硬質で光沢あり。
157	1038	Z－30	6.94	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	連続刺突は叉状工具。口唇部の刺突は叉状工具を寝かせて施す。やや厚手、硬質。
158	3088	Y－31	7.97	2.5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－b	外:ナデ 内:条痕	連続刺突は叉状工具か？
159	3143	Y－32	7.64	7.5YR 3/1 黒褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	屈曲部細沈線。角閃石多し。スス付着。硬質。
160	2452	Z－31	7.32	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	肩部の細沈線。薄手。金雲母多し。硬質。
161	614	Y－30	7.94	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	肩部片。連続刺突は叉状工具。接合面で剝脱。砂粒多し。硬質。
162	1280	Z－29	7.37	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅲ－b	外:入念なナデ 内:条痕	突帯上はヘラ刻目。ヘラによる短沈線の連続文。やや厚手、硬質スス付着。
163	4528	Z－30	7.54	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅴ	外:条痕 内:粗の条痕	幅広の隆帯。連続刺突は叉状工具を寝かせて施す。多量の金雲母を含む。
164	3433	Z－31	7.16	7.5YR 2/2 黒褐	鉢円	Ⅴ	外:ナデ 内:条痕後ナデ	口唇部と幅広の隆帯の上位と下位に斜位の刺突(押し引き状)。薄手、硬質。
165	1340	Z－30	7.72	10YR 2/2 黒褐	鉢円	Ⅴ	外:条痕後ナデ 内:ナデ	口唇部は沈線を巡らす。連続刺突はヘラ。金雲母多し。薄手、硬質。
166	2358	Z－31	7.89	5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅴ	外:ナデ 内:工具ナデ	口唇部突起には刺突。連続刺突は半截竹管。薄手、硬質。
167	2724	Z－32	7.62	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅴ	外:ナデ 内:条痕後ナデ	突帯は口唇部内面まで達す。連続刺突は叉状工具。砂粒多くザラザラ。
168	4295	Z－31	7.01	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅴ	外:ナデ 内:ナデ	ヘラによる刻目。口唇内側は内傾。微砂粒多く硬質。
169	3705	Z－33	7.38	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突は貝工具。長石粒、角閃石多し。薄手、硬質。
170	616	Y－30	8.10	10YR 5/3 にぶい黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:粗の条痕 内:条痕	連続刺突は叉状工具。砂粒多くザラザラ。薄手、硬質。
171	4709	Y－32	6.93	10YR 5/2 灰黄褐	鉢円	Ⅴ	外:ナデ 内:ナデ	幅広突帯。172と同一の個性を示す。復元口径170mm。
172	3237	Y－31	7.55	10YR 4/2 灰黄褐	鉢円	Ⅴ	外:ナデ 内:ナデ	幅広突帯。刻目はヘラの先端。復元口径200mm。長石粒、金雲母を含む。薄手、硬質。
173	4533	Z－31	7.92	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:ナデ	口唇部、口縁部に3条の連続刺突(叉状工具)。肩部も同様。厚手硬質。復元口径230mm。
174	－	A－30	－	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。スス付着。薄手、硬質。長石粒多し。
175	－	Z－30	－	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。 長石粒＞石英粒＞角閃石

表9　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－8

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
176	2223	Z－31	7.87	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕後ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。金雲母少量。
177	2547	Z－31	7.49	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面で剝脱。内外面共にスス付着。角閃石多し。
178	3294	Z－31	7.24	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕?	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。金雲母多し。
179	2256	Y－31	7.81	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。
180	2626	Z－31	7.07	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。少量の金雲母・角閃石を含む。
181	1257	Z－29	7.08	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。 長石粒＞石英粒＞角閃石＞金雲母
182	4613	Z－31	6.93	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。やや厚手、硬質。砂粒多くザラザラ。角閃石多し。
183	3189	Y－31	7.89	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。砂粒多し。接合面で剝脱。
184	3359	Z－31	7.33	7.5YR 4/3 褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。砂粒多し。接合面で剝脱。スス付着。
185	4239	Z－32	5.98	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:入念なナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。長石粒多く角閃石少量
186	2161	Z－31	7.76	5YR 5/2 灰褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。
187	2777	Y－32	7.49	5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。 長石粒＞石英粒＞角閃石＞金雲母
188	3039	Z－32	7.49	5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。
189	2208	Z－31	7.91	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:縦位条痕 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。内面にスス付着。長石粒多し。
190	3690	Z－32	7.35	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面で剝離。微砂粒。
191	1965	Z－31	7.65	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:入念なナデ 内:ヘラナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。光沢あり。微砂粒。
192	1366	Y－30	7.91	2.5YR 6/6 橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面で剝離。微砂粒。
193	－	Z－30	－	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。微砂粒。
194	2943	Z－32	7.51	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面明瞭。微砂粒。
195	1322	Z－30	7.57	10YR 6/2 灰黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面で剝脱。長石粒＞角閃石
196	2865	－	7.74	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。内面にスス付着。微砂粒。
197	773	Y－32	8.02	2.5YR 5/2 灰赤	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。長石粒、石英粒多し。器面ザラザラ。
198	4825 4817	Y－32 Y－32	6.51 6.99	5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。多量の金雲母を含む。外面にスス付着。
199	4806	－	7.07	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:縦位条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。少量の金雲母を含む。外面にスス付着。
200	4796	Y－32	6.93	10YR 5/3 にぶい黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。少量の長石粒。

表10　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－9

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
201	2479	Z－31	7.64	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。内外面にスス付着。接合面明瞭
202	－	Y－30	－	5YR 4/8 赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。長石粒＞角閃石
203	4020	Y－32	7.27	5YR 4/6 赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面明瞭。 長石粒＞石英粒＞金雲母
204	3181	Y－31	－	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:ヘラナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。 長石粒＞石英粒＞金雲母
205	－	Z－30	－	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。 長石粒＞角閃石＞金雲母
206	4788	Y－32	6.97	10YR 5/2 灰黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:ヘラナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。外面にスス付着。多量の金雲母を含む。
207	4531	Z－30	7.96	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。粘土紐の接合面が明瞭に残る。多量の金雲母を含む。
208	2949	Y－32	7.68	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面で剥脱。微砂粒使用。
209	1280	Z－29	7.37	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。砂粒多くザラザラ。
210	－	Y－32	－	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:工具ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。粘土紐の接合面が明瞭に残る。多量の金雲母を含む。
211	3077	Y－32	7.53	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。接合面で剥脱。金雲母を含む。
212	1448	Y－30	7.10	5YR 3/2 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。多量の金雲母を含む。接合面明瞭。
213	4797	Y－32	6.86	5YR 4/2 灰褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。多量の金雲母を含む。
214	1376	Y－30	7.92	5YR 3/3 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:縦位条痕 内:粗の条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。底部に近い部分と思われる。角閃石少量。
215	4403	Y－31	7.98	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。 長石粒＞石英粒＞金雲母＞角閃石
216	3174	Y－32	7.82	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。やや軟質。内面の整形が雑で接合面が凹凸をなす。
217	3338	Y－32	7.71	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。薄手、硬質。外面にスス付着。
218	4040	Y－32	7.04	2.5YR 4/3 暗赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	底部近く。薄手、やや軟質。石英粒多し。
219	－	Y－32	－	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	底部近く。薄手、やや軟質。石英粒多し。
220	1882	Z－31	7.54	5YR 5/2 灰褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	底部近く。薄手、硬質。
221	420	Z－31	7.95	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕 内:条痕	底部（接地面）。小型土器の可能性あり。
222	4808	－	7.00	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	底部（接地面）。砂粒を多量に含む。金雲母少量。
223	2062	Z－31	7.90	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅳ－a	外:条痕後ナデ 内:ナデ	底部（接地面）。内面に接合時の爪痕が残る。
224	－	Z－32	－	10YR 5/2 灰黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:ナデ	底部（接地面）。細砂粒多し。
225	1508	Z－30	6.83	10YR 5/2 灰黄褐	鉢円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:－	底部（接地面）。長石粒多し。

表11　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－10

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
226	4776 4787 4808	Y－32	7.27 6.53 7.00	10YR 5/2 灰黄褐	鉢	Ⅳ－a	外:工具ナデ	接合資料。胴部片。細沈線文。薄手、硬質。外面にスス付着。多量の金雲母を含む。
	4798 4819 4795		7.21 6.95 7.23		円		内条痕	
227	4050	Y－32	7.62	2.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	Ⅳ－a	外:工具ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。沈線は波状。多量の砂粒を含む
228	3578	Z－32	7.59	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅳ－a	外:条痕 内:粗の条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。外面に二次焼成の痕跡あり。
229	3554	Z－32	7.46	2.5YR 4/6 赤　褐	鉢 円	Ⅳ－a	外:条痕一部ナデ 内:条痕	底部(接地面)。薄手、硬質。内面の条痕整形は底面より回転しながら上位へ進む。
230	3369	Y－31	7.62	5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	Ⅳ－a	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線文。薄手、硬質。
231	2879	Z－32	7.69	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－a	外:横位条痕 内:横位条痕	文様帯肥厚。棒状工具による縦位の刻目。硬質。砂粒多し。
232	2993	Z－32	7.45	5YR 5/8 明赤褐	鉢 円	Ⅵ－a	外:条痕後ナデ 内:横位条痕	文様帯肥厚。棒状工具による縦位の刻目。口唇部はナデの後に刻目を施す。少量の金雲母を含む。
233	3206	Z－32	7.53	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅵ－a	外:横位条痕 内:横位条痕	文様帯肥厚。棒状工具による縦位の刻目。口唇部はナデの後に刻目を施す。砂粒多し。
234	3352	Y－31	7.52	5YR 5/8 明赤褐	鉢 円	Ⅵ－a	外:横位条痕 内:横位条痕	文様帯肥厚。棒状工具による縦位の刻目。砂粒多く器面はザラザラ。復元口径154mm。
235	3464 3387	Y－32 Y－32	7.71 7.72	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	Ⅵ－a	外:横位条痕 内:横位条痕	文様帯肥厚。棒状工具による縦位の刻目。口唇部はナデの後に刻目を施す。外面にスス付着。復元口径180mm。
236	3622	A－32	7.01	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－b	外:横位条痕 内:横位条痕	文様帯肥厚。棒状工具による斜位の刻目。口唇部はナデの後に刻目を施す。内面に刺突。
237	3836	Z－32	7.18	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－a	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。棒状工具による斜位(内側へ)の刻目。口唇部はナデの後に刻目を施す。外面にスス付着。
238	3333	Z－31	7.51	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅵ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。ヘラ状工具による刻目。不規則な沈線文。外面にスス付着。
239	726	Y－32	7.82	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。棒状工具による縦位の刻目。口唇部はナデの後に刻目を施す。細沈線を施す。
240	3505	Z－31	7.13	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅵ－b	外:条痕 内:条痕	文様帯肥厚。棒状工具による斜位の刻目。内面に刺突。口唇部はナデの後に刻目を施す。外面にスス付着。
241	3643	Y－31	7.15	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－c	外:条痕 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部に沈線と連続刺突。工具不明。外面にスス付着。
242	777	Y－32	7.98	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－c	外:横位条痕 内:条痕	文様帯肥厚。口唇部に沈線と連続刺突。工具不明。外面にスス付着。
243	3283	Y－32	7.69	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－c	外:条痕 内:条痕後ナデ	口唇部と口縁部に叉状工具による連続刺突。薄手。やや軟質。微砂粒を含む。
244	3408	Y－32	7.77	2.5YR 6/3 にぶい橙	鉢 円	Ⅵ－c	外:横位条痕 内:条痕	文様帯肥厚。叉状工具による連続刺突。薄手。硬質。
245	3509	Z－31	7.07	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅵ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。ヘラによる3条の連続刺突。沈線文。
246	3640	Z－32	7.41	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅶ－a	外:ナデ 内:ナデ	幅広突帯。口唇部、突帯上、頸部に連続刺突。薄手、硬質。
247	727	Z－32	7.92	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅶ－a	外:ナデ 内:ナデ	幅広突帯。口唇部は連続刺突。端部は斜位の刻目。
248	2740	Y－32	7.44	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅶ－a	外:ナデ 内:条痕	幅広突帯。口唇部は連続刺突。端部も刺突。
249	2518	Z－31	7.04	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅶ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	幅広突帯。口唇部に3条の連続刺突。端部に2条の連続刺突。刺突具はヘラ。下位に組み合わせ文。硬質。

表12　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－11

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
250	1439	Z－30	7.23	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅵ－b	外:条痕 内:横条痕	文様帯肥厚。貝殻腹縁の刺突。
251	885	Z－30	－	2.5YR 5/8 明赤褐	鉢 円	Ⅶ	外:条痕 内:ナデ	幅広突帯。口唇部と端部に叉状工具による連続刺突。文様帯肥厚 連続刺突（刺突具不明）。
252	2985	Y－32	7.44	2.5YR 4/6 赤 褐	鉢 円	Ⅵ－c	外:ナデ 内:ナデ	外面スス付着。
253	2968	Z－32	7.57	2.5YR 3/4 暗赤褐	鉢 円	Ⅵ－d	外:条痕 内:条痕	文様帯肥厚。貝殻腹縁（？）の連続刺突。外面スス付着。復元口径220mm。
254	2180	Z－31	7.56	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇部は沈線文と綾杉文。斜行突帯。
255	3303	Y－32	7.67	5YR 3/4 暗赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内: －	口唇部文様は254と類似。 屈曲部に沈線の組み合せ文。外面にスス付着。
256	-	Z－32	－	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に横走する２条沈線。
257	3690	Z－32	－	5YR 3/4 暗赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇部に横走する３条沈線。屈曲部に幅広の突帯。 260と同一個体の可能性高い。
258	3302	Y－32	7.91	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:条痕 内:条痕	外傾する幅広の口唇部に斜位のヘラ刻目。
259	3465	Y－32	7.75	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅵ－c	外:条痕 内:条痕	肥厚した口唇部に間のびした押し引き。砂粒多し。
260	3115	Y－32	7.73	5YR 3/4 暗赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	257と同一個体。
261	4082	Y－32	7.06	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅵ－c	外:ナデ 内:ナデ	口唇部へ棒状工具による刻目。口縁端より屈曲部へかけ沈線文。 復元口径120mm。
262	－	Z－30	－	2.5YR 6/6 橙	壺 円	Ⅶ－a	外:入念なナデ 内:条痕後ナデ	文様帯肥厚。６mm幅の刺突具で編み籠風の押し引き。細砂粒、少量の金雲母を含む。焼成良く硬質。
263	3893	A－32	6.62	5YR 5/2 灰 褐	鉢 ?	Ⅶ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	内面の屈曲角度より壺形土器の可能性がある。微砂粒を多く含む 硬質。
264	4333	A－31	6.26	7.5YR 4/2 灰 褐	鉢	Ⅶ－a	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。山形口縁。直線的文様構成。口唇部へも押し引き。 スス付着。厚手、やや軟質。
265	－	Z－30	－	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－a	外:条痕後ナデ 内:ナデ	押し引きがやや間のびし、連続刺突状を呈す。
266	3185	A－33	7.44	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	肥厚口縁の可能性大。連続刺突（？）で編み籠文。 長石粒＞角閃石＞。やや軟質。
267	585	Z－29	7.58	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:入念なナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。部分的に方向転換。口縁部施文。 薄手、硬質。
268	1624	A－30	6.74	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。部分的に方向転換。内面に縦沈線 薄手、硬質。
269	4539	A－31	7.07	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－a	外:ナデ 内:条痕	文様帯肥厚。山形口縁。押し引きにやや間のびした感がある。薄 手、硬質。外面にスス付着。
270	4593	Z－31	7.07	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。硬質。
271	1238	Z－30	7.73	5YR 4/6 赤 褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。沈線による区画文。
272	1781	A－30	6.61	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。口唇部施文。内面縦位の細沈線。 砂粒多く含む。
273	4389	A－31	－	5YR 4/2 灰 褐	鉢	Ⅶ－b	外:条痕 内:ナデ	間のび押し引き。薄手、硬質。スス付着。
274	2355	Z－32	－	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－a	外:条痕後ナデ 内:ナデ	やや間のびした編み籠風の押し引き。薄手、硬質。間のび押し引 き。口唇部施文。

表13　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－12

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
275	4225	A－32	6.31	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	スス付着。間のび押し引き。口唇部施文。山形口縁。
276	382	Z－31	8.00	5YR 2/2 黒褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	スス付着。薄手、硬質。
277	4672	Z－31	7.55	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。山形口縁。施文が直線的に規格性を示す。薄手、長石粒多し。
278	1322	Z－30	7.57	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:工具ナデ	間のび押し引き。厚手、硬質。
279	－	Z－32	－	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:工具ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。山形口縁。厚手、硬質。
280	1954	Z－31	7.65	5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。山形口縁。口縁部若干肥厚。薄手硬質。砂粒多し。
281	4848	Z－32	6.65	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。砂粒多く器面ザラザラ。薄手、軟質。
282	622	Y－30	8.11	10YR 2/2 黒褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。山形口縁で突起がつく。口縁部若干肥厚。薄手、硬質。
283	1067	A－30	6.77	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部斜位の刻目。内面に縦位の沈線。やや軟質。
284	－	Z－30	－	5YR 5/8 明赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。微砂粒多し。外面にスス付着。やや軟質。
285	2320	Z－32	7.92	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。連続刺突風。微砂粒多し。外面にスス付着。やや軟質。
286	1151	A－29	7.15	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。連続刺突風。内外面共にスス付着。薄手、硬質
287	－	－	－	10YR 4/2 灰黄褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。連続刺突風。外面にスス付着。薄手、硬質。
288	1389 4388	Z－30 A－31	－	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:条痕 内:条痕後ナデ	接合資料。文様帯肥厚。間のび押し引き。連続刺突風。山形口縁スス付着。
*289	－	A－31	－	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内: －	文様帯肥厚。間のび押し引き。連続刺突風。
290	1862 1779	A－30 A－30	6.03 6.34	10YR 5/2 灰黄褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	接合資料。文様帯肥厚。間のび押し引き。円形の補修孔、外面にスス付着。内面に浅い沈線。
291	3242 3873	A－33 A－31	7.13 6.65	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。文様帯肥厚。間のび押し引き。山形口縁、突起。スス付着。
292	4232	A－32	6.75	7.5YR 4/3 褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。3mm程の砂粒多し。器面ザラザラ
293	3643	Y－31	7.15	5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	文様帯肥厚。口唇部平坦。硬質。長石粒多し。
294	1423	Z－30	7.01	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:条痕 内:ナデ	ヘラ状工具による間のび押し引き。内面に浅い沈線。
295	1715	A－30	7.23	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部刻目。内面に浅い沈線。外面にスス付着やや軟質。
296	569	Z－30	7.41	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。内面施文。外面にスス付着。やや軟質。
297	2605	Z－32	7.82	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。やや軟質。長石粒多し。
298	4669	Z－31	7.53	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。間のび押し引き。口唇部短沈線。
299	2690	A－33	7.23	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。間のび押し引き。薄手、やや軟質。

表14　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—13

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
300	3368	Y－31	7.48	5YR 7/4 にぶい橙	鉢	Ⅶ－b	外:工具ナデ 内:工具ナデ	口縁部下段肥厚。口唇部平坦。間のびし連続刺突様の押し引き。301～304同一個体。
301	4664	Z－31	6.78	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:工具ナデ 内:工具ナデ	山形口縁。口縁部下段肥厚。口唇部平坦。間のびし連続刺突様の押し引き。スス付着。
302	4624	Z－31	6.96	5YR 6/6 橙	鉢	Ⅶ－b	外:工具ナデ 内:工具ナデ	口縁部下段肥厚。口唇部平坦。間のびし連続刺突様の押し引き。
303	1746	A－30	6.33	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:工具ナデ 内:工具ナデ	口縁部下段肥厚。口唇部平坦。間のびし連続刺突様の押し引き。
304	4628	Z－30	7.41	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:工具ナデ 内:工具ナデ	口縁部下段肥厚。口唇部平坦。間のびし連続刺突様の押し引き。スス付着。厚手、硬質。
305	2964	A－32	7.21	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。スス付着。
306	4304	A－31	6.24	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部突起。内面施文。砂粒多し。
307	2522	Z－31	7.02	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突。口唇部施文。内面施文。やや軟質。
308	4230	A－32	6.70	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突。口唇部施文。スス付着、薄手、やや軟質。
309	3797	A－32	6.70	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。押し引き。口唇部施文。スス付着。長石粒多し。
310	2578	A－33	7.31	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突。口唇部施文。内面浅い細沈線。少量の金雲母を含む。
311	－	－	－	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b'	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突。内面浅い細沈線。スス付着
312	4567 4576 4577	Y－31 Z－31 Z－31	8.02 7.18 7.22	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:入念なナデ 内:ナデ	接合資料。復元口径110mm。上面は方形で胴部に最大径あり。口縁部若干肥厚。山形口縁。間のび押し引き。薄手、硬質。外面にスス付着。微砂粒含む。
313	1765 1804 3276 3729 3938	A－30 A－30 Z－31 Z－32 Z－32	6.32 6.52 7.50 7.13 7.10	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:条痕 内:条痕	接合資料。復元口径160mm。文様帯肥厚。連続刺突。口唇部施文。やや軟質。砂粒多くザラザラしている。金雲母含む。
314	－	Z－30	－	5YR 6/2 灰褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	押し引きの間のびが著しく、沈線的状態。口唇部施文。外面にスス付着。山形口縁。315、316、318、319と同一個体？
315	1129	Z－29	7.23	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	押し引きの間のびが著しく、沈線的状態。口唇部施文。山形口縁
316	2038	Z－31	7.80	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	押し引きの間のびが著しく、沈線的状態。口唇部施文。外面にスス付着。山形口縁。
317	2390	Z－32	7.29	5YR 5/4 にぶい褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	押し引きの間のびが著しく、沈線的状態。薄手、硬質。
318	1238	Z－30	7.73	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	押し引きの間のびが著しく、沈線的状態。
319	504	A－30	7.23	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	押し引きの間のびが著しく、沈線的状態。314、315、316、318と同一個体の可能性が高い。
320	3947	A－31	6.64	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	波状口縁。区画線文間に間のびした押し引き。薄手、やや軟質。微砂粒含む。
321	3480	Z－32	7.00	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。文様帯肥厚。厚手、やや軟質。長石粒多し。外面スス付着。322、326と同一個体の可能性高い。
322	4827	Z－31	6.57	2.5YR 4/2 灰赤	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	321、326と同一個体の可能性がある。
323	1108	Z－30	7.55	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	間のび押し引き。口唇部施文。薄手、やや軟質。内面に浅い縦沈線。波状口縁。

表15　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－14

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
324	2549	Y－32	7.78	5YR 5/2 灰褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。口唇部施文。薄手、やや軟質。砂粒多く器面ザラザラ。328と同一個体の可能性高い。
325	－	A－31	－	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	間のび押し引き。山形口縁。薄手、硬質。少量の金雲母含む。
326	4670 4745	Z－31 Z－32	7.49 6.94	2.5YR 4/2 灰赤	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。間のび押し引き。山形口縁。厚手、やや軟質。復元口径200mm。外面スス付着。
327	－	Y－30	－	5YR 4/1 褐灰	鉢	Ⅶ－b	外:横位条痕 内:条痕	間のび押し引き。口唇部施文。薄手、硬質。内面に浅い縦沈線。
328	4141 1949	A－31 A－31	7.93 6.88	7.5YR 4/2 灰褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。間のび押し引き。口唇部施文。内面に浅い縦沈線。薄手、やや軟質。復元口径184mm。砂粒多し。 324と同一個体か？
329	4512	Y－31	8.01	2.5YR 2/1 赤黒	鉢 円	Ⅶ－b	外:条痕 内:条痕	間のび押し引き。口唇部施文。文様帯肥厚。薄手、硬質。
330	4786	A－31	6.71	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	幅5mm程の工具で3本1組の編み籠文。口唇部斜位の刻目
331	4288 4275	Z－31 Z－31	6.86 7.00	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。3本1組の編み籠文。口唇部斜位の刻目。山形口縁。部分的に間のび押し引きがみられる。文様帯肥厚。
332	4785	A－32	6.73	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	3本1組の編み籠文。部分的に間のび押し引きがみられる。文様帯肥厚。 334と接合。
333	－	－	－	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。口唇部斜位の刻目。部分的に間のび押し引きが残る。 331、332、334と同一個体の可能性高い。
334	4784	A－31	6.66	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部斜位の刻目。部分的に間のび押し引き残る。厚手、やや軟質。 332と接合。
335	4462	Z－30	8.21	5YR 6/4 にぶい橙	壺 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:条痕	文様帯肥厚。部分的に間のび押し引き残る。薄手、やや軟質。
336	4381	A－31	－	2.5YR 6/4 にぶい橙	?	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。肥厚部に間のび押し引き。硬質。
337	4288	Z－31	6.86	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	壺	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。薄手、硬質。
338	1723	A－30	6.34	2.5YR 6/4 にぶい橙	壺 ?	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。胴部は条痕。 長石粒＞石英粒＞角閃石
339	3439 3459	Z－32 Z－31	7.81 7.23	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。間のび押し引き。3本1組の編み籠文。文様帯肥厚。口唇部施文。胴部は条痕。山形口縁。外面にスス付着。
340	－	Z－31	－	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き。
341	4353	A－31	6.15	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	口唇部施文。間のび押し引き。
342	1714 4538	A－30 A－31	6.40 6.85	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	部分的に間のび押し引き。長石粒多し。
343	1771	A－30	6.30	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	部分的に間のび押し引き。内面にスス付着。長石粒多し。
344	－	－	－	2.5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:条痕	文様帯肥厚。間のび押し引き。厚手、やや軟質。外面にスス付着
345	3867 4382 4384 4387 3130	A－32 A－31 A－31 A－31 Z－31	6.60 7.04	10R 3/3 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。文様帯肥厚。部分的に間のび押し引き。厚手、やや軟質。復元口径172mm。外面にスス付着。346と同一個体の可能性高い。
346	2481 2571	Z－31 Z－31	7.53 7.15	2.5R 4/2 灰赤	鉢 円	Ⅸ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。文様帯肥厚。部分的に間のび押し引き。厚手、やや軟質。復元口径178mm。外面にスス付着。
347	4002	Z－32	7.04	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－a	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。部分的に間のび押し引き。厚手、やや軟質。口唇部施文。復元口径168mm。外面にスス付着。

表16　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－15

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
348	4832	－	6.60	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:条痕	文様帯肥厚。口唇部施文。波状口縁。厚手、やや軟質。金雲母多し。内外面にスス付着。
349	4379	A－31	8.21	5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:条痕	部分的に押し引き。薄手、やや軟質。 長石粒多し。
350	1827	A－30	6.25	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ－a	外:ナデ 内:入念なナデ	部分的に押し引き、薄手硬質。長石粒>石英粒>角閃石。 354と同一個体の可能性高い。
351	－	A－30	－	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:条痕	押し引きの痕跡なし。厚手、やや軟質。内外面にスス付着。 長石粒>石英粒>角閃石
352	4379	A－31	6.41	5YR 6/6 橙	鉢	Ⅸ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	5mm程の工具使用。内面に浅い縦位沈線。外面にスス付着。長石粒多し。薄手、やや軟質。
353	4379	A－31	6.41	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	5mm程の工具使用。内面に浅い縦位沈線。長石粒多し。薄手、やや軟質。 352、357と同一個体の可能性あり。
354	1757	A－30	6.16	5YR 6/3 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ－a	外:ナデ 内:条痕後ナデ	山形口縁。薄手、硬質。外面にスス付着。長石粒多し。 350と同一個体の可能性高い。
355	4706	Z－32	6.50	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	薄手、やや軟質。長石粒多し。 357と同一個体の可能性あり。
356	4827	ベルト	9.00 ?	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	Ⅸ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	薄手、やや軟質。長石粒多し。 357と同一個体の可能性あり。
357	4381 4385	A－31 A－31	－ －	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ－a	外:条痕後ナデ 内:条痕	接合資料。薄手、やや軟質。長石粒多し。軽量。外面にスス付着 復元口径234mm。
358	2233 3808	Z－32 A－32	7.37 6.71	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。文様帯肥厚。口唇部施文。叉状工具で間のび押し引き 内面縦位の沈線。外面にスス付着。
359	3364	Z－32	6.87	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内: －	文様帯肥厚。叉状工具で間のび押し引き。外面にスス付着。358と同一個体の可能性。
360	2807	A－33	7.30	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 円	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。叉状工具で間のび押し引き。外面にスス付着。358と同一個体の可能性。
361	482	A－31	7.15	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。叉状工具で間のび押し引き。外面にスス付着。 358と同一個体の可能性。
362	3605	Z－32	7.56	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	直線化した編み籠文。口唇部施文。焼成前の穿孔。内面に浅い細沈線。薄手、硬質。
363	3620 4090 3950	A－32 A－31 A－32	6.90 6.57 6.67	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	直線化した編み籠文。口唇部施文。焼成前の穿孔。内面的に浅い細沈線。薄手、硬質。 362と同一個体の可能性高い。
364	4783	A－31	6.64	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	直線化した編み籠文。口唇部施文。金雲母含む。
365	3733	A－32	6.75	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	直線化した編み籠文。口唇部施文。焼成前の穿孔。内面に浅い細沈線。薄手、硬質。 362と同一個体の可能性高い。
366	1949	A－31	6.88	2.5YR 4/6 赤褐	鉢 角	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着。長石粒多し。
367	3118 3798	A－32 A－32	6.96 6.91	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。文様直線化。内面縦位の細沈線。薄手、硬質。
368	3559	Z－32	7.19	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部尖り気味。文様直線化。厚手、硬質。
369	4073	A－32	6.90	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	362と同一個体の可能性高い。焼成前の穿孔。
370	1952	A－31	7.00	7.5YR 6/6 橙	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	直線化。3本1組。口唇部施文。硬質。長石粒多し。
371	3035	Z－32	6.87	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。硬質。内外面にスス付着。
372	697	Z－32	7.70	5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。山形口縁。施文後ナデ。硬質。内面に縦位の浅い沈線。

表17　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－16

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
373	2115	Z－32	7.24	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。硬質。長石粒多し。内面にスス付着。
374	879 1656	Y－29 Z－30	7.80 6.89	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。文様直線化。口唇部施文。硬質。内面に縦位の浅い沈線。長石粒多し。
375	1285	Z－30	7.95	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。やや外反する口縁形。硬質。外面にスス付着。
376	1833	A－30	6.21	5YR 3/3 暗赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着。
377	1938	Z－31	7.66	7.5YR 4/4 褐	鉢 円	Ⅸ－c	外:ナデ 内:条痕	鋭い施文具による細沈線。口唇部指頭押圧。金雲母多し。外面にスス付着。
378	3943	Z－32	7.00	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着。軽量。
379	759	Z－32	7.63	7.5YR 4/2 灰褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:条痕	文様直線化。丸味の口唇部。内面に縦位の浅い沈線。硬質。砂粒多し。
380	2177	Z－31	7.56	7.5YR 3/3 暗褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。丸味の口唇部。外面にスス付着。硬質。砂粒多し。
381	3578	Z－32	7.59	5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。丸味の口唇部。外面にスス付着。内面に縦位の浅い沈線。
382	3709	Z－32	6.95	5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。文様帯肥厚。長石粒多し。
383	2434	Z－31	7.34	7.5YR 3/3 暗褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。山形口縁。内面縦位の浅い沈線。
384	－	－	－	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。文様直線化。口唇部施文。山形口縁、内面縦位の浅い沈線。外面にスス付着。
385	4236	Z－32	7.37	7.5YR 2/2 黒褐	鉢 角	Ⅸ－a	外:ナデ 内:入念なナデ	幅広の短沈線を波状に描く。口唇部施文。スス付着。 387と同一個体の可能性高い。
386	－	Z－33	－	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－a	外:ナデ 内:入念なナデ	幅広の短沈線を波状に描く。 387と同一個体の可能性高い。
387	3893 3910 3912	A－32 Z－32 Z－32	6.62 7.28 7.23	7.5YR 3/3 暗褐	鉢 角	Ⅸ－a	外:ナデ 内:入念なナデ	接合資料。幅広の短沈線を波状に描く。口唇部施文。スス付着。山形口縁。
388	4020	Z－33	7.01	2.5YR 4/2 灰赤	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:条痕	口縁部外反。文様直線化。口唇部斜位刻目。薄手、硬質。外面にスス付着。
389	3998 4020	Z－33 Z－33	7.06 7.01	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:条痕	接合資料。口縁部外反。文様直線化。口唇部斜位刻目。薄手、硬質。外面にスス付着。 388と同一個体の可能性高い。
390	1921 2297	Z－31 Z－31	 7.23	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:条痕後ナデ	接合資料。口唇部尖り気味。薄手、硬質。外面にスス付着。復元口径144mm。
391	1497	A－30	6.43	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。長石粒多し。
392	2969	Z－32	7.49	2.5YR 2/2 極暗赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内: －	文様直線化。口唇部施文。砂粒多し。外面にスス付着。
393	1246	A－29	7.13	5YR 2/2 黒褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い細沈線。外面にスス付着。
394	421 913 3073	Z－31 Z－30 Z－31	7.93 7.10 7.20	2.5YR 2/2 極暗赤褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。口縁部外反。文様直線化。口唇部斜位刻目。薄手、硬質。外面にスス付着。 388と同一個体の可能性高い。
395	1142	A－30	7.08	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。内面に縦位の浅い細沈線。口唇部丸味を呈す。
396	－	－	－	5YR 4/6 赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い細沈線。外面にスス付着。 356と同一個体の可能性高い。

表18　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—17

No.	取上No.	出土器	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
397	1150	Z−30	7.95	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い細沈線。外面にスス付着。 356と同一個体の可能性高い。
398	606	Z−30	7.99	5YR 4/2 灰褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い細沈線。外面にスス付着。
399	617	Y−30	8.03	7.5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。硬質。
400	936	Z−30	7.16	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢 円	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。やや軟質。
401	−	A−30	−	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部丸味を呈す。やや軟質。
402	4783	A−31	6.64	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。やや軟質。外面にスス付着。
403	2810	Z−31	7.17	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。硬質。
404	−	Y−30	−	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。硬質。外面にスス付着。山形口縁。
405	4070	A−31	6.62	5YR 4/2 灰褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。硬質。外面にスス付着。山形口縁。砂粒多く器面ザラザラ。
406	4258 4207 4754 4277 4253 2647 4261 4279 4249 4603	Z−31 Z−31 A−31 Z−31 Z−31 Z−31 Z−31 Z−31 Z−31 Z−31	7.00 7.06 6.86 6.98 7.02 7.35 7.01 6.98 6.95 7.04	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。文様帯肥厚。口唇部施文，深い沈線。文様直線化。綾杉文。やや軟質。金雲母多し。外面にスス付着。 復元口径230mm。
407	3908	Z−32	7.02	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。内面に縦位の浅い沈線。滑石(?)混入。軽量。408、409と同一個体の可能性高い。
408	2584	Z−31	7.38	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。内面に縦位の浅い沈線。滑石(?)混入。軽量。407、409と同一個体の可能性高い。
409	3956	Z−32	7.09	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ−d	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。内面に縦位の浅い沈線。滑石(?)混入。軽量。407、408と同一個体の可能性高い。
410	996	Z−30	7.49	5YR 5/2 灰褐	鉢 円	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	409と同一の個性を示す。施文が逆。外面にスス付着。軽量。
411	3202	Y−32	7.62	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。綾杉文。長石粒、貝殻片混入。軽量。
412	778	Y−31	8.02	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅸ−c	外:条痕 内:条痕	口唇部施文。山形口縁。軽量。
413	4098	A−32	6.44	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅸ−c	外:条痕後ナデ 内:工具ナデ	文様直線化。綾杉文。長石粒、貝殻片混入。軽量。内面黒灰色。
414	3812	A−32	7.08	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。山形口縁。硬質。
415	2773	Z−31	7.38	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	口唇部施文。幅広の工具使用。長石粒、貝殻片混入。軽量。外面にスス付着。
416	3707	Z−33	7.45	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ−c	外:ナデ 内:工具ナデ	文様直線化。綾杉文。長石粒、貝殻片混入。軽量。内面にスス付着。
417	1472	Y−30	7.81	10YR 6/4 にぶい黄橙	鉢 角	Ⅸ−c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。綾杉文。口唇部施文。
418	1050	A−30	7.37	7.5YR 6/6 橙	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。長石粒多し。

表19　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－18

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
419	2330	Z－30	7.72	10YR 3/4 暗褐	鉢角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。やや外反する口縁形。内外面に多量のスス付着。
420	3248 2838	Z－32 Y－33	7.20 8.04	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢角	Ⅸ－c	外:条痕 内:条痕	接合資料。山形口縁、突起。幅広の工具使用。口唇部施文。厚手硬質。長石粒多し。
421	2495	Z－31	7.30	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。薄手、硬質。外面に多量のスス付着。砂粒多く器面ザラザラ。
422	929	Z－30	7.67	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。焼成前の穿孔(4個)あり。口唇部施文。厚手、硬質。外面にスス付着。
423	2050	Z－31	6.65	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様直線化。文様幅がかなり狭くなる。内面に縦位の浅い沈線。砂粒多し。
424	567	Z－30	7.64	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:入念なナデ 内:ナデ	文様直線化。内面に縦位の浅い沈線。硬質。
425	1334	Y－30	7.57	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－b	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	文様直線化。文様幅がかなり狭くなる。内面に縦位の浅い沈線。口唇部施文。
426	－	A－31	－	7.5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。内面に縦位の浅い沈線。砂粒多く器面ザラザラ。厚手、やや軟質。重量あり。
427	1742	A－30	6.25	5YR 3/3 暗赤褐	鉢円	Ⅸ－b	外:入念なナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。やや外反する口縁形。外面にスス付着砂粒多く器面ザラザラ。硬質。
428	3947	A－31	6.64	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。文様帯肥厚。外面にスス付着。貝殻片混入。軽量。
429	1795	A－30	6.20	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:入念なナデ	文様直線化。口唇部施文。やや外反する口縁形。内面接合面明瞭427と同一個体の可能性高い。外面にスス付着。
430	3634	Z－32	7.06	7.5YR 6/6 橙	鉢角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。文様帯肥厚。貝殻片混入。軽量。428、433と同一個体の可能性高い。
431	4234	A－32	6.72	2.5YR 4/2 灰赤	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。硬質。外面にスス付着。
432	3057	Z－32	7.31	5YR 2/2 黒褐	鉢	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着。
433	4323	A－31	6.46	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様直線化。口唇部施文。文様帯肥厚。外面にスス付着。 428、430と同一個体の可能性高い。
434	421	Z－31	7.93	7.5YR 2/2 黒褐	鉢角	Ⅸ－b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様直線化。口唇部施文。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
435	2848 3230	Z－32	7.44	10YR 5/3 にぶい黄褐	鉢角	Ⅸ－b	外:入念なナデ 内:入念なナデ	山形口縁。文様直線化。口唇部施文。薄手、硬質。円形補修孔。434と同一個体の可能性高い。
436	3814	A－32	6.73	7.5YR 2/2 黒褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面縦位の浅い沈線。外面に多量のスス付着。
437	2847	Y－32	7.90	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。厚手、やや軟質。
438	1169	A－30	6.52	5YR 4/4 暗赤褐	鉢角	Ⅸ－c	外:入念なナデ 内:ナデ	山形口縁。区画文描く。口唇部施文。薄手、硬質。少量の金雲母含む。外面にスス付着。
439	3164	A－33	7.20	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢円	Ⅸ－d	外:条痕 内:ナデ	沈線間が広がり、区画文様を呈す。口唇部施文。文様帯の最下位に連続刺突。やや軟質。外面にスス付着。
440	3992	Z－32	7.02	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢角	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	幅広の浅い沈線。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
441	4162	Z－32	7.88	10YR 3/3 暗褐	鉢角	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	440と同一の個性を示す。
442	3973 3986 2958	Z－32	6.98 7.02 7.21	10YR 2/3 黒褐	鉢角	Ⅸ－c	外:ナデ 内:多痕後ナデ	接合資料。山形口縁。幅広の浅い沈線。 440、441、443と同一個体の可能性高い。
443	4019	Z－32	6.89	5YR 5/6 明赤褐	鉢角	Ⅸ－c	外:ナデ 内:条痕後ナデ	山形口縁。外面にスス付着。他は440と同一の個性を示す。

表20　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－19

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
444	4139	A－31	7.90	5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅸ－c	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。薄手、硬質。
445	3654	Z－32	7.27	5YR 4/2 灰褐	鉢 円	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部平坦。内面に縦位の浅い沈線。硬質。砂粒多く器面ザラザラ。外面にスス付着。
446	－	Z－30	－	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。硬質。
447	2283	Z－31	7.84	5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅸ－c	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。
448	738	Y－32	7.99	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部平坦。硬質。
449	2435	Z－32	7.31	2.5YR 2/2 極暗赤褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
450	2560 2522	Z－31	7.17 7.01	10YR 2/2 極暗赤褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:工具ナデ	接合資料。文様直線化。口唇部施文。薄手、硬質。
451	4369	A－31	6.14	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 円	Ⅸ－c	外:工具ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。
452	2385 2601	Z－32 A－30	7.22 7.17	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－c	外:ナデ 内:工具ナデ	文様直線化。口唇部施文。薄手、やや軟質。外面にスス付着。
453	2154	Z－31	7.37	5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。貝殻片を含む。外面にスス付着。
454	2516	Z－32	7.11	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ－c	外:ナデ 内:条痕後ナデ	文様直線化。厚手、やや軟質。長石粒多し。
455	2536	Z－32	7.50	5YR 2/2 黒褐	鉢 角	Ⅸ－c	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着。
456	1787	A－30	6.25	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:粗のナデ 内:条痕後ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着。
457	3576	Z－32	7.49	10YR 2/2 黒褐	鉢 角	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。文様直線化。口唇部施文。外面にスス付着
458	1800	A－30	6.67	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅸ－d	外:ナデ 内:条痕後ナデ	文様直線化。口唇部施文。口縁部若干肥厚。薄手、硬質。外面にスス付着。
459	2353	Z－31	7.20	2.5YR 4/2 灰赤	鉢	Ⅸ－d	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。
460	4641	Z－31	7.60	2.5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－d	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。
461	1814	Z－31	6.33	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－d	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部施文。薄手、硬質。外面にスス付着。
462	－	Z－31	－	5YR 5/2 灰褐	鉢 円	Ⅸ－d	外:条痕 内:条痕後ナデ	文様直線化及び単純化。口唇部施文。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。復元口径166mm。
463	2088	A－31	6.67	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ－d	外:条痕 内:ナデ	文様直線化。薄手、硬質。砂粒多し。
464	594 1046	Z－29 A－30	7.55 7.59	2.5YR 4/2 灰赤	鉢 角	Ⅸ－d	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化及び単純化。薄手、硬質。外面にスス付着。
465	1462	Z－29	6.83	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ－c	外:条痕 内:粗のナデ	文様直線化及び単純化。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。金雲母含む。復元口径100mm。
466	1332	Y－30	7.99	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。横位の平行沈線文。硬質。長石粒多し。外面にスス付着。
467	1875	Z－31	7.83	5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ－a	外:粗のナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。斜位の平行沈線文。硬質。
468	432	Z－31	7.87	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅹ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。横位の平行沈線文。内面に縦位の浅い沈線。補修孔が途中で止まる。

表21　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－20

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
469	717	Z－32	7.77	2.5YR 4/6 赤褐	鉢 角	Ⅹ－a	外:粗のナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。斜位の平行沈線文。硬質。 467と同一個体の可能性高い。
470	－	－	－	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅹ－b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。横位の平行線文。内面に縦位の浅い沈線。硬質。外面にスス付着。
471	1567	A－30	6.57	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅹ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。器肉は極めて薄い。文様は単純化。外面にスス付着
472	1886	A－31	7.04	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅹ－a	外:入念なナデ 内:ナデ	口唇部施文。斜位の平行線文。微細な粘土を使用し、多量の金雲母を含む。
473	901	Z－29	7.43	5YR 4/2 灰褐	鉢 円	Ⅹ－b	外:ナデ 内:ナデ	横位の平行線文。口唇部平坦。長石粒多し。
474	949	Z－29	7.24	2.5YR 4/2 灰赤	鉢 円	Ⅶ	外:ナデ 内:条痕	文様帯肥厚。口唇部と口縁部に間のび押し引き。4mm程の砂粒を含む。やや軟質。
475	901	Z－29	7.43	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅹ－b	外:ナデ 内: －	平行沈線文。薄手、軟質。軽量。外面にスス付着。
476	1637	Z－30	6.91	7.5YR 6/6 橙	鉢 円	Ⅹ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文（刺突）。胴部に施文（平行沈線文）。薄手、硬質。
477	482	A－31	7.15	10YR 6/3 にぶい黄橙	鉢 円	Ⅹ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。平行沈線文。焼成前の穿孔。多量のサンゴ片を混入
478	2770	Z－31	7.44	7.5YR 6/6 橙	鉢	Ⅹ－c	外:ナデ 内:ナデ	縦位の平行沈線。良質な微細粘土を使用。軟質。 479と同一個体の可能性高い。
479	3926	Z－32	6.90	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅹ－c	外:ナデ 内:ナデ	縦位の平行沈線。良質な微細粘土を使用。軟質。内面にスス付着
480	－	－	－	5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部、口縁端部、口縁下端に連続刺突。その間を細沈線で繋ぐ薄手、やや軟質。外面にスス付着。
481	570	Z－30	7.77	5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。 480と同一個体の可能性高い。
482	523	Z－30	7.66	5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅺ	外:工具ナデ 内:ナデ	沈線間に連続刺突。基本的には480と同一と思われる。
483	2231	Z－32	7.40	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:条痕	押し引きと連続刺突による文様構成。厚手、硬質。 485と同一個体の可能性高い。
484	713	Z－32	7.73	5YR 6/3 にぶい橙	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。斜位の連続刺突。内面に縦位の浅い細沈線。
485	3601	Z－33	7.49	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:条痕	山形口縁。押し引きと連続刺突による文様構成。厚手、硬質。483と同一個体の可能性高い。
486	230 229	Z－30	8.10 8.01	7.5YR 3/1 黒褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突での文様構成。厚手、やや軟質。角閃石多し。
487	374	A－31	7.83	2.5YR 6/6 橙	鉢 角	ⅩⅢ	外:ナデ 内:ナデ	縦位のコブ状突起。縦方向の連続刺突。砂粒多し。器面ザラザラ
488	3919	Z－33	7.22	5YR 2/2 黒褐	鉢 角	ⅩⅢ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。縦位のコブ状突起。口唇部施文。縦方向の連続刺突。外面に多量のスス付着。
489	647 597 2038 2040	Y－30 Y－30 Z－31 Z－31	7.99 8.09 7.80 7.80	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。山形口縁。口唇部施文。細沈線による区画文間を連続刺突で充塡。補修孔。内面にも口縁部と平行して施文。外面に多量のスス付着。同一個体と思われる資料も示す。
490	687	A－31	7.34	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	区画文間を間のび押し引きで充塡。口唇部の刺突は3列。薄手、硬質。
491	3879 3927 4176 4177	Z－33 Z－32 Z－32 Z－32	7.23 7.20 7.84 7.81	10YR 5/3 にぶい黄褐	鉢 円	Ⅺ	外:ナデ 内:条痕	接合資料。口縁形ラッパ状。口唇部施文。横走する沈線間に綾杉状に施文。間のび押し引き。頸部は浅い短沈線。外面にスス付着硬質。復元口径220mm。
492	3681 1874	Z－33 Z－31	7.42 7.81	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:条痕 内:条痕後ナデ	接合資料。文様帯肥厚。斜行する沈線間に施文。間のび押し引き補修孔。硬質。内外面にスス付着。

表22　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－21

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(色)	器種	類別	調整	備考
493	1172	A－30	6.57	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	内面に縦位の浅い沈線。口唇部施文。間のび押し引き。薄手、硬質。
494	2560	Z－31	7.17	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。間のび押し引き。少量の金雲母含む。薄手、硬質。微砂粒多し。
495	3994 4006	Z－32	7.11 6.99	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅺ	外:入念なナデ 内:条痕後ナデ	文様帯肥厚。区画文間を充塡。 497と同一個体の可能性が高い。軽量。長石粒多し。
496	－	A－23	－	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅹ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。
497	－	－	－	5YR 5/2 灰褐	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:条痕後ナデ	大型土器。文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き。内面に沈線。外面にスス付着。軽量。長石粒多し。 495と同一個体。
498	1134	Z－29	7.11	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。叉状工具で連続刺突。口唇部も同工具で施文。山形口縁。薄手、硬質。長石粒多し。
499	482	A－31	7.15	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き。山形口縁。硬質。長石粒＞石英粒
500	－	A－32	－	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。間のび押し引き。山形口縁。角閃石を多く含む。
501	2124	A－31	7.30	7.5YR 4/2 灰褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き。山形口縁。項部は抉り入り。薄手。硬質。器面ザラザラ。
502	1040	A－30	7.25	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き。薄手、硬質。長石粒多し。少量の金雲母含む。
503	－	A－29	－	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	胴部に複合鋸歯文施文。間のび押し引き。角閃石多し。器面ザラザラ。
504	901	Z－29	7.43	7.5YR 4/2 灰褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。鋭利な工具で施文。間のび押し引き。山形口縁。コブ状突起。薄手、硬質。内外面にスス付着。
505	758 2225 752 760 2184 2077	Z－32 Z－32 Z－32 Z－32 Z－32 Z－31	7.66 7.46 7.87 7.65 7.65 7.59	5YR 4/2 灰褐	鉢 円	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。細沈線による区画文。間のび押し引き。胴部、口唇部施文。外面にスス付着。復元口径155mm。長石粒＞角閃石。文様帯は肥厚せず。
506	－	Z－32	－	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:入念なナデ 内:ナデ	接合面明瞭。鋭利な工具で施文。硬質。長石粒＞角閃石。
507	860	A－30	7.09	2.5YR 3/4 暗赤褐	鉢	Ⅺ	外:入念なナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。鋭利な工具で施文。連続刺突。硬質。外面にスス付着。
508	596	Z－30	7.49	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:入念なナデ	大型土器？　鋭利な工具で施文。間のび押し引き。やや軟質。軽量。
509	1061	Z－30	7.11	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。鋭利な工具で施文。間のび押し引き。やや軟質長石粒＞石英粒
510	－	－	－	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。間のび押し引き。やや軟質。砂粒多し。
511	－	A－32	－	10R 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。鋭利な工具で施文。間のび押し引き。硬質。光沢あり。
512	473 465	Z－31 Z－32	7.92 7.84	10R 4/4 赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。文様帯肥厚。山形口縁。左右比対称。口唇部施文。鋭利な工具で施文。薄手、硬質。光沢あり。8号集石遺構に共伴。
513	484	A－31	7..41	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。鋭利な工具で施文。間のび押し引き。薄手、硬質。光沢あり。 514と同一個体の可能性高い
514	486	A－31	7.43	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。山形口縁。口唇部施文。鋭利な工具で施文。薄手。硬質。光沢あり。 513と同一個体の可能性高い。
515	482	A－31	7.15	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	焼成前の穿孔（5個）。縦方向の区画文。連続刺突。やや軟質。
516	239	Z－29	8.14	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部平坦。鋭利な工具で施文。間のび押し引き。

表23　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－22

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
517	1712 3523	A－30 Z－32	6.52 6.96	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。口唇部平坦。先端部は四角形と三角形の工具で施文。間のび押し引き。胴部施文。薄手、硬質。
518	—	Z—32 ドキダマリ	6.93	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	大型土器。山形口縁。文様帯若干肥厚。口唇部、胴部施文。間のび押し引き。長石粒多し。14号集石遺構に共伴。
519	3347	A－32	6.82	5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。山形口縁。文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き内面にスス付着。厚手、硬質。
520	—	A・Z	—	5YR 2/2 黒　褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	鋭利な工具で施文。間のび押し引き。外面にスス付着。薄手、硬質。長石粒多し。
521	—	Z—32 ドキダマリ	6.95	2.5YR 3/4 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。口唇部施文。外面にスス付着。薄手、硬質。金雲母多く含む。14号集石遺構に共伴。復元口径235＋α㎜。
522	595	Z－29	7.67	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:条痕後ナデ	山形口縁。口唇部施文。間のび押し引きと連続刺突。文様帯の肥厚認められず。薄手。やや軟質。
523	971	A－29	7.33	2.5YR 6/8 橙	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部施文。間のび押し引きと連続刺突。文様帯の肥厚認められず。薄手、やや軟質。外面にスス付着。
524	—	A-26・ 27採集	—	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。口唇部施文。連続刺突。薄手、硬質。外面にスス付着。長石粒＞石英粒。
525	644	Y－30	8.03	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。口唇部施文。間のび押し引き。やや軟質
526	—	A・Z	—	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。鋭利な工具で施文。押し引き。胴部施文。薄手、硬質。
527	202	A－29	7.98	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	鋭利な工具で施文。連続刺突。外面にスス付着。砂粒多く器面ザラザラ。薄手、硬質。
528	—	—	—	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:入念なナデ	山形口縁。口唇部にコブ状突起。口唇部連続刺突。文様帯肥厚。密な区画文間に連続刺突充塡。薄手、硬質。
529	—	—	—	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	文様帯肥厚。先端部の丸い工具で連続刺突充塡。薄手、硬質。外面にスス付着。金雲母を含む。
530	1024 2773	A－30 Z－31	6.79 7.37	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:工具ナデ 内:ナデ	接合資料。山形口縁。口唇部に1条の沈線。文様帯肥厚せず。間のび押し引き。薄手、硬質。外面にスス付着。
531	308	Y－30	8.19	5YR 4/2 灰　褐	鉢 円	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部と胴部に連続刺突。補修孔。内面に縦位の浅い沈線。外面にスス付着。
532	— 2279	A—32 Z－32	— —	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	文様帯肥厚。口唇部施文。連続刺突。薄手、硬質。528、534と同一個体の可能性高い。
533	667	Z－31	7.63	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	区画文間に連続刺突。薄手、硬質。
534	701	Z－32	7.73	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	528と接合。532とも同一個体の可能性高い。口唇部、胴部施文。コブ状小突起。薄手、硬質。砂粒多し。長石粒＞石英粒。
535	3061 3185 2645	Z－32 A－33 Z－33	6.88 7.44 7.88	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	接合資料。山形口縁。文様帯肥厚。口唇部、及び外面押し引き内外面共に入念にナデ消され、光沢のある器面を呈す。金雲母多く含む。硬質。内外面にスス付着。
536	2699 3715	Z－33 A－32	7.51 6.96	2.5YR 4/6 赤　褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	接合資料。文様帯肥厚。連続刺突。施文具の先端部は方形。口唇部沈線。光沢あり。硬質。長石粒多し。
537	515	A－31	7.26	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。口唇部押し引き。区画沈線が接近。連続刺突で充塡。砂粒多し。
538	3431	Z－31	7.23	7.5YR 3/2 黒	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	山形口縁。口唇部施文。間のび押し引き。内外面にスス付着。長石粒多し。 535と同一個体の可能性高い。
539	391	A－32	7.68	5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:入念なナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部平坦。区画文間に連続刺突充塡。胴部施文。金雲母多量に含む。砂粒多く器面ザラザラ。
540	—	—	—	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	一括資料。文様帯肥厚。口唇部平坦。区画文間に間のび押し引き充塡。胴部施文。薄手、砂粒多し。底部径57㎜。
541	752	A－32	7.35	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。胴部施文。内面にスス付着。薄手、硬質。

表24　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－23

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
542	709	Z－32	7.67	7.5YR 6/3 にぶい褐	?	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	直行する器形で山形口縁を呈す。接合面明瞭。間のび押し引きと連続刺突。少量の金雲母含む。やや軟質。
543	937	A－30	7.24	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	537と同一個体の可能性高い。外面にスス付着。
544	332	A－29	7.70	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢角	Ⅺ	外: － 内:ナデ	山形口縁。文様帯肥厚。口唇部に連続刺突施文。間のび押し引き長石粒多し。風化が著しい。
545	－	－	－	7.5YR 4/3 褐	鉢	Ⅺ	外:工具ナデ 内:ナデ	薄手、硬質。外面にスス付着。砂粒多く器面ザラザラ。
546	482	A－31	7.15	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	やや幅広の沈線間に斜位の連続刺突。長石粒多し。547と同一個体の可能性高い。
547	－	A26・27 採集	－	5YR 5/8 明赤褐	鉢角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部は指頭押圧による波状の可能性高い。内面に縦位の浅い沈線。546と同一個体の可能性高い。
548	473	Z－31	7.92	2.5YR 6/4 にぶい橙	鉢円	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部連続刺突。沈線間は間のび押し引き。方向転換あり。薄手、やや軟質。外面にスス付着。復元口径158mm
549	－	A－32	－	5YR 2/1 黒褐	鉢	Ⅺ	外:工具ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。胴部沈線間に連続刺突。間のび押し引き。薄手、硬質。
550	520	A－31	7.36	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突。文様帯肥厚せず。間のび押し引き。薄手、硬質砂粒多く器面ザラザラ。
551	509	A－30	7.18	7.5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突。先端方形の工具使用。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
552	839	Y－30	7.90	10YR 3/1 黒褐	鉢角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。間のび押し引きと連続刺突。薄手、硬質。外面にスス付着。長石粒＞金雲母
553	－	A29・30	－	5YR 3/3 暗赤褐	鉢角	Ⅸ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部㊧平坦、㊨沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。長石粒多し。
554	715	Z－32	7.71	7.5YR 4/2 灰褐	鉢角	Ⅺ	外: － 内: －	口唇部平坦。間のび押し引き。薄手、硬質。外面にスス付着。長石粒＞金雲母。552と同一個体。
555	760	Z－32	7.76	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅶ－b	外:ナデ 内:ナデ	口縁部、口唇部、内面に叉状工具で間のび押し引き。焼成前の刺突貫通せず。やや軟質。
556	－	Z－30 下	－	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢角	Ⅺ	外:工具ナデ 内:ナデ	山形口縁。口唇部施文。間のび押し引き。やや軟質。長石粒多し
557	2075	A－32	7.27	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢角	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:条痕	山形口縁。口唇部コブ状突起。文様帯肥厚せず。口唇部、胴部施文。沈線間は連続刺突。薄手、硬質。
558	8159	A－24	7.22	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	連続刺突。風化が著しい。長石粒多し。
559	4135	Z－32	7.96	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突、間のび押し引き。鋭利な工具使用。薄手、硬質長石粒多し。
560	1949 482	A－31 A－31	6.88 7.15	5YR 6/6 橙	鉢円	Ⅺ	外:ナデ 内:条痕	接合資料。接合面明瞭。大型土器。文様帯若干肥厚。口唇部間のび押し引き。胴部施文。やや軟質。
561	1907	Z－32	7.23	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突、沈線施文。硬質。長石粒多し。
562	7059	A－27	6.93	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	山形口縁。口唇部間のび押し引き。やや軟質。長石粒多し。
563	3582	Z－32	7.04	7.5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅺ	外:条痕 内:条痕後ナデ	外開きの口縁形。間のび押し引き。口唇部も同工具使用。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。
564	625	Y－30	8.08	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部間のび押し引き。薄手、硬質。長石粒多し。
565	－	A－27	－	5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅺ	外:条痕後ナデ 内:条痕	沈線間は連続刺突。薄手、やや軟質。長石粒＞角閃石
566	1519 1593 653	Z－29 Z－29 Z－31	6.87 6.50 7.66	2.5YR 4/2 灰赤	鉢角	ⅩⅣ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	接合資料。文様帯肥厚。口唇部、胴部施文。薄手、硬質。外面にスス付着。

表25　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—24

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
567	2245	Z−32	7.58	5YR 5/2 灰褐	鉢 角	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部連続刺突。薄手、硬質。外面にスス付着。566と同一の個性を示す。
568	1979 257	Z−31 Y−29	7.43 8.18	5YR 5/2 灰褐	鉢 角	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。間のび押し引きで胴部区分。硬質。砂粒多く器面ザラザラ。外面にスス付着。
569	2742	Z−33	7.31	5YR 4/2 灰褐	鉢 角	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	568と同一個体の可能性高い。
570	1883 1011	Z−31 A−30	7.69 6.88	7.5YR 7/4 にぶい橙	鉢 角	XI	外:ナデ 内:入念なナデ	接合資料。文様帯肥厚。口唇部工具による刻目。太目の沈線による区画。口縁端部押し引き。厚手、やや軟質。14号集石遺構共伴。
571	4340	Z−31 土手	6.78	7.5YR 6/3 にぶい褐	鉢 角	X−b	外:ナデ 内:工具ナデ	完形土器。沈線による規格文。口唇部工具による刻目。長石粒多く、魚骨、貝殻片混入。やや軟質。外面にスス付着。
572	352	A−32	7.35	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢 角	XI	外:入念なナデ 内:入念なナデ	接合資料。文様帯若干肥厚。山形口縁で文様帯が4分される。頂部直下は連続刺突。薄手、硬質。10号集石遺構に共伴。
573	3916	Z−32	7.16	7.5YR 2/2 黒褐	鉢 角	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部間のび押し引き施文。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質砂粒多く器面ザラザラ。
574	2514	A−32	7.32	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 角	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突。やや軟質。金雲母含む。
575	3701	Z−32	7.14	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部斜位の刻目。薄手、やや軟質。外面にスス付着。長石粒>石英粒>角閃石>金雲母
576	2409 4278 4390	Z−31 Z−31 A−31	6.56 7.81 7.55	7.5YR 3/1 黒褐	鉢 角	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	573と同一個体（接合）。
577	482	A−31	7.15	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	直行する斜沈線で格子文を描く。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
578	352	A−32	7.35	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	XⅣ	外:ナデ 内:入念なナデ	口唇部の頂部を中心に斜行する平行細沈線。硬質。
579	2415	Z−32	7.46	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	577と同一個体（接合）。
580	3842	Z−32	7.05	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	XⅣ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。
581	1802 2860	A−30 Z−31	6.56 7.81	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢 角	XⅣ	外:入念なナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。口唇部連続刺突。内面に縦位の浅い沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。
582	2430	Z−32	7.16	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	XⅣ	外:入念なナデ 内:入念なナデ	口唇部斜位の刻目。文様帯若干肥厚。内外面にスス付着。薄手、硬質。復元口径142mm
583	1960	A−32	7.16	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 円	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	浅い細沈線。外面にスス付着。薄手、硬質。
584	2086	A−31	5.64	5YR 4/1 褐灰	鉢	Ⅸ−b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様直線化。深い細沈線。外面にスス付着。硬質。
585	966	A−30	6.94	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:条痕後ナデ 内:ナデ	文様直線化。深い細沈線。外面にスス付着。硬質。微砂粒。584と同一の個性示す。
586	2091	A−31	6.73	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。深い細沈線。硬質。585と同一の個性を示す。
587	3322 3142 3207	Z−32 Z−32 Z−32	7.74 7.70 7.74	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部斜位の連続刺突。内面に3本の縦位の浅い細沈線。内面にスス付着。薄手、硬質。
588	1024	A−30	6.79	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:工具ナデ	口唇部尖り気味。硬質。長石粒多し。
589	2081	Z−31	7.38	5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内: −	文様直線化。細沈線。硬質。長石粒>石英粒
590	−	−	−	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。細沈線。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。

表26　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—25

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
591	3539	A−32	7.10	5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。細沈線。口唇部丸味を呈す。薄手、硬質。外面にスス付着。
592	482	A−31	7.15	5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内: —	深い細沈線。やや軟質。
593	1514	A−30	6.96	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部押し引き。砂粒多く器面ザラザラ。
594	1479	Z−29	6.91	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部押し引き。砂粒多く器面ザラザラ。593と同一個体の可能性高い。
595	1964	A−32	7.17	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	縦位に突帯。口唇部連続刺突。外面にスス付着。砂粒多く器面ザラザラ。
596	3793	A−32	7.14	5YR 4/2 灰褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	縦位に突帯。口唇部連続刺突。外面にスス付着。砂粒多く器面ザラザラ。595と同一個体の可能性高い。
597	1733	A−30	6.49	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	横位に突帯を巡らす。上下位に細沈線。厚手、硬質。突帯にスス付着。
598	—	A−29	—	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。複合鋸歯文。薄手。硬質。砂粒多し。
599	780	Y−31	8.00	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。複合鋸歯文。口唇部間のび押し引き。薄手、やや軟質。
600	881	Z−29	7.87	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。複合鋸歯文。口唇部間のび押し引き。薄手、やや軟質。599と同一個体の可能性高い。
601	243	Z−29	7.99	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。複合鋸歯文。薄手、硬質。金雲母多く含む。砂粒多く器面ザラザラ。
602	2271	Y−31	7.87	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部連続刺突。薄手、硬質。
603	—	A−31	—	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部平坦。薄手、硬質。外面にスス付着。
604	205	A−29	7.80	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部平坦。文様帯若干肥厚。砂粒多く器面ザラザラ。
605	200	A−29	7.85	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様直線化。口唇部平坦。文様帯若干肥厚。砂粒多く器面ザラザラ。604と同一個体の可能性高い。
606	—	—	—	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯肥厚。文様直線化。複合鋸歯文。薄手、硬質。
607	388	A−31	8.01	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。幅広の沈線間に連続刺突。砂粒多く器面ザラザラ。
608	—	—	—	5YR 5/8 明赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	器形不明。間のび押し引きで文様帯区分。細沈線文。金雲母少量含む。薄手、やや軟質。
609	277	Y−30	8.16	5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	幅広の沈線で文様帯区分。細沈線。薄手、硬質。砂粒多く含む。外面にスス付着。
610	4020	Y−33	7.01	5YR 3/2 暗赤褐	鉢 角	Ⅺ	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に1条の沈線。口縁端部は連続刺突。幅広の沈線で文様帯区分。薄手、硬質。609と同一個体の可能性高い。外面スス付着
611	588	Z−31	8.03	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	口縁端部は間のび押し引き。硬質。外面にスス付着。
612	517	A−31	7.22	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅺ	外:条痕 内:条痕	文様帯若干肥厚。口唇部平坦。沈線間間のび押し引き。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
613	939	Z−29	7.15	5YR 7/6 橙	壺?		外:ナデ 内:ナデ	壺形土器の可能性がある。内面の接合面明瞭。軟質。
614	1132	Z−30	7.74	7.5YR 6/8 橙	?		外:ナデ 内:ナデ	外耳? 軟質。
615	3457	A−33	7.03	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突。短沈線の複合文。内面の接合面明瞭。外面にスス付着。砂粒多く器面ザラザラ。

表27　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—26

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
616	738	Y−32	7.99	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	小型土器。口唇部尖り気味。細沈線。
617	2447	Z−32	7.18	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:工具ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。細沈線。硬質。
618	4571	Z−31	7.28	5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。細沈線。硬質。
619	2262	Z−32	7.52	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部尖り気味。細沈線。軟質。接合面で剝脱。外面にスス付着
620	1158	A−30	6.73	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部連続刺突。補修孔1個。焼成前の穿孔2個。硬質。
621	3800	A−32	7.40	7.5YR 3/3 暗褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部斜位の刻目。細沈線。外面に多量のスス付着。砂粒を多く含む。
622	1158	A−30	6.96	7.5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅸ−b	外:条痕 内:条痕	細沈線。外面に多量のスス付着。薄手、硬質。
623	3693	Z−32	7.36	2.5YR 5/6 明赤褐	壺	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	壺形土器の可能性あり。口唇部尖り気味。細沈線。口唇部沈線。硬質。魚骨を含む。
624	1611	Z−30	6.70	5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ−b	外:工具ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部平坦。細沈線。薄手、やや軟質。
625	1142 1145	A−30 A−30	7.08 7.10	5YR 5/8 明赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部短沈線。薄手、やや軟質。外面にスス付着。
626	—	A−31	—	7.5YR 6/6 橙	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部刺突。最大径は胴部。薄手、やや軟質。
627	3587	A−32	6.94	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部刺突。最大径は胴部。薄手、やや軟質。626と同一個体の可能性が高い。
628	3524	Z−32	7.16	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	内面の接合面明瞭。薄手、軟質。軽量。
629	762	Z−32	7.82	7.5YR 7/4 にぶい橙	鉢	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	内面の接合面明瞭。薄手、軟質。軽量。628と同一の個性を示す。
630	4460	Z−30	8.02	7.5YR 5/2 灰褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部間のび押し引き。薄手、硬質。
631	2928	A−33	7.12	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:工具ナデ 内:ナデ	山形口縁。口唇部平坦。左端に焼成前の穿孔。薄手、硬質。
632	133	Z−29	7.90	5YR 6/3 にぶい橙	鉢 角	Ⅸ−b	外:工具ナデ 内:ナデ	口唇部平坦。薄手、硬質。631と同一個体の可能性高い。
633	—	—	—	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	薄手、やや軟質。
634	232	Z−30	8.08	5YR 3/4 暗赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。薄手、やや軟質。
635	2645	Z−33	7.88	5YR 3/4 暗赤褐	鉢 角	Ⅸ−b	外:ナデ 内:ナデ	文様帯若干肥厚。口唇部沈線。
636	4266	Z−31	7.00	5YR 4/3 にぶい赤褐			外:ナデ 内:ナデ	V字状の突帯。突帯上と接合部に押し引き。
637	641	Y−30	8.10	5YR 6/6 橙	壺		外:ナデ 内:ナデ	壺形土器の可能性あり。刻目突帯。
638	4529	Z−30	7.51	5YR 6/4 にぶい橙	?		外:ナデ 内:ナデ	刻目突帯。
639	1328	Y−30	7.90	5YR 4/6 赤褐	鉢 円		外:ナデ 内:ナデ	橋状把手。
640	−	Z−30	−	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ 内:条痕後ナデ	口唇部に突帯貼り付け。突帯上に短沈線を横位に施す。薄手、硬質。

表28　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—27

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
641	381	Z−31	7.99	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	焼成前の穿孔。口縁端は叉状工具による連続刺突。金雲母を少量含む。硬質。
642	2320	Z−32	7.92	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢	Ⅸ	外:条痕 内:条痕	頂部が抉りの山形口縁。口唇部施文。
643	2437	Z−31	7.64	5YR 3/4 明赤褐	鉢	Ⅸ	外:条痕 内:条痕	口唇部。内外面施文。硬質。
644	2939	Y−32	7.89	7.5YR 6/6 橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	把手。先端部方形の施文具。内外面施文。
645	4841	−	6.83	2.5YR 6/6 橙	壺	Ⅷ	外:ナデ 内:ナデ	壺形土器の人面把手の可能性がある。施文はすべて押し引き。
646	4268	Z−31	6.97	2.5YR 7/6 橙		Ⅷ	外:ナデ 内:ナデ	獣面把手(猪か?)の可能性がある。鼻、目、耳。連続刺突。砂粒多くザラザラ
647	7027	A−26	6.63	5YR 6/6 橙	壺	Ⅸ	外:ナデ 内:ナデ	器種不明。穴は貫通。軟質。貫通した穴を持つことより、壺形土器の口縁部の可能性がある。
648	832	Y−30	7.89	2.5YR 5/6 明赤褐	?	Ⅶ	外:ナデ 内:条痕	突帯上に短沈線。硬質。
649	2710	Z−32	7.83	2.5YR 5/6 明赤褐	?	Ⅶ	外:ナデ 内:ナデ	突帯上に間のび押し引き。接合面明瞭
650	4426	Y−32	7.39	2.5YR 5/8 明赤褐	?	Ⅶ	外:ナデ 内:ナデ	突帯上に間のび押し引き。接合面明瞭。649と同一個体の可能性高い。
651	1259	Z−30	7.57	5YR 6/6 橙			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。多量の角閃石を含む。
652	2468	Z−32	7.33	5YR 5/8 明赤褐			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。長石粒を多く含む。
653	2463	Z−32	7.33	5YR 5/8 明赤褐			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。長石粒を多く含む。
654	1871	A−31	7.17	7.5YR 4/2 灰褐			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。金雲母を多く含む。
655	1425	Y−30	7.74	5YR 5/3 にぶい赤褐			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。砂粒を多く含む。
656	562	Z−30	7.94	5YR 6/4 にぶい橙			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。長石粒を多く含む。
657	4848	−	6.65	5YR 5/6 明赤褐			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。長石粒を多く含む。
658	4764	Y−31	7.51	5YR 6/4 にぶい橙			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。Ⅳ類の底部を再利用。完形品。
659	2241 3495	Z−31 Z−32	7.34 7.54	5YR 6/6 橙			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。接合資料。長石粒を多く含む。
660	2290	Z−31	7.38	10R 5/6 赤			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。長石粒>金雲母。
661	−	Z−30	−	2.5YR 6/6 橙			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。Ⅸ類の再利用。砂粒を多く含む。
662	2050	Z−31	6.88	2.5YR 3/1 暗赤灰			表:研磨 裏:研磨	メンコ型土製品。ほぼ完形品。
663	4498	Z−31	7.55	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢円	Ⅰ−b	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。横走する沈線の施文後、斜位の短沈線を施文。硬質。多量の角閃石混入。
664	−	A−21	−	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅰ−b	外:ナデ 内:条痕後ナデ	胴部片。硬質。多量の角閃石混入。
665	9093	−	8.36	5YR 2/1 黒褐	鉢円	Ⅰ−b	外:条痕後ナデ 内:条痕	胴部片。硬質。多量の角閃石混入。

表29　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表－28

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
666	－	A－21	－	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕後ナデ	胴部片。接合面で剥脱。硬質。多量の角閃石混入。
667	－	A－21	－	5YR 4/8 赤褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:ヘラナデ 内:ヘラ	胴部片。接合面で剥脱。硬質。多量の角閃石混入。
668	－	A－21	－	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	胴部片。硬質。多量の角閃石混入。
669	8261	Z－22	7.60	5YR 5/8 明赤褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	胴部片。硬質。砂粒を多く含む。
670	8292	Z－22	7.33	7.5YR 3/1 黒褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	胴部片。硬質。多量の角閃石混入。
671	8293	Z－22	7.55	2.5YR 3/1 暗赤灰	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	胴部片。硬質。多量の角閃石混入。
672	171	A－24	7.31	10YR 3/3 暗褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	ヘラ状工具による施文。やや軟質。長石粒多し。少量の金雲母を含む。
673	8272	Z－22	7.72	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	ヘラ状工具による施文。硬質。
674	8150	A－25	7.08	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅰ－b	外:条痕 内:条痕	硬質。細礫を多く含む。
675	2133	Z－31	7.55	5YR 4/2 灰褐	鉢	Ⅱ	外:ナデ 内:条痕後ナデ	口縁部は貼り付け突帯により肥厚。貝の腹縁で施文？硬質。波状口縁の可能性あり。677と同一個体と思われる。
676	3077	Y－33	7.53	5YR 3/2 暗赤褐	鉢	Ⅱ	外:ナデ 内:条痕	口縁部は貼り付け突帯により肥厚。貝の腹縁で施文？硬質。波状口縁の可能性あり。677と同一個体と思われる。
677	3434	Y－32	7.68	2.5YR 3/3 暗赤褐	鉢	Ⅱ	外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	波状口縁。口縁部外反。口縁は貼り付け突帯により肥厚。工具は貝の腹縁部か？硬質。
678	2877	Z－32	7.15	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅴ	外:ナデ 内:ナデ	幅広で平坦な突帯。突帯は半截竹管で連続刺突。薄手、硬質。砂粒を多く含む。
679	4427	Y－33	7.39	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅴ	外:ナデ 内:工具ナデ	2条の幅広突帯。突帯は斜位の細沈線を刻む。薄手、硬質。長石粒、金雲母多し。
680	1503	Z－30	7.05	5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅴ	外:ナデ 内:条痕	屈曲部に幅広突帯。突帯は斜位の刻目。内面の接合面明瞭。薄手硬質。長石粒＞金雲母
681	2859	Y－32	7.82	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢 円	Ⅴ	外:ナデ 内:条痕	胴部片。細沈線で施文。薄手、硬質。接合面で剥脱。内面の接合面明瞭。外面にスス付着。
682	4014	Y－33	7.45	2.5YR 6/6 橙	鉢 角	Ⅵ－b	外:入念なナデ 内:ナデ	口唇部に3条の沈線と連続刺突。外面の突帯には「八」の字状の押圧。薄手、硬質。光沢あり。
683	－	Z－30	－	5YR 2/2 黒褐	鉢 円	Ⅵ－b	外:ナデ 内:条痕	口縁部三角肥厚。口唇内端より縦位の貼り付け突帯。施文は連続刺突。薄手、硬質。
684	3100	Z－31	7.26	2.5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅵ－b	外:ナデ 内:ナデ	686と同一の個性を示す。
685	3254	Y－31	7.42	2.5YR 4/6 赤褐	鉢	Ⅵ－b	外:ナデ 内:条痕	屈曲部に低い幅広突帯。突帯上に連続の短沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。
686	4204	Z－31	7.15	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢 角	Ⅵ－b	外:ナデ 内:ナデ	口唇部に3条の細沈線。内面から口縁部まで縦位の貼り付け突帯。中央に1条の沈線。硬質。
687	3616	Y－31	7.20	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢	Ⅵ－b	外:ナデ 内:条痕	屈曲部に低い幅広突帯。突帯上に連続の短沈線。薄手、硬質。外面にスス付着。 685と同一個体の可能性高い。
688	4065	Z－33	6.95	7.5YR 5/3 にぶい褐	鉢	Ⅸ	外:条痕 内:条痕	胴部片。やや軟質。外面にスス付着。
689	2112	Z－31	7.35	7.5YR 4/2 灰褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。外面にスス付着。
690	233	Z－30	8.13	7.5YR 3/1 黒褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。沈線による複合鋸歯文。薄手、硬質。

表30　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—29

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
691	—	—	—	5YR 3/3 暗赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。複合鋸歯文。薄手、硬質。少量の金雲母を含む。
692	2184	Z−32	7.65	5YR 4/1 褐灰	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。鋸歯文。薄手、硬質。内外面にスス付着。
693	2748	Z−32	7.54	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ	外:ナデ 内:ナデ	胴部片。硬質。長石粒多し。
694	3050 3076	Z−32 Z−32	7.28 7.38	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢	Ⅸ	外:条痕 内:条痕	胴部片。条痕調整の状態からⅨ類土器の可能性が高い。少量の金雲母を含む。
695	2930	A−33	7.2	5YR 6/6 橙	鉢		外:条痕 内:条痕	胴部片で底部に近い。薄手、硬質。金雲母を多く含む。外面にスス付着。
696	4770	Y−32	7.51	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。複合鋸歯文。硬質。
697	467	Z−32	7.84	5YR 5/2 灰褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。複合鋸歯文。薄手、硬質。金雲母を多く含む。
698	2580	Y−32	7.86	5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢		外:条痕後ナデ 内:条痕後ナデ	胴部片。縦位の平行沈線。薄手、硬質。長石粒>金雲母
699	1383	Y−30	7.81	5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢		外:工具ナデ 内:ナデ	胴部片。入組み文。薄手、硬質。外面にスス付着。
700	526	A−30	7.59	5YR 6/6 橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。複合鋸歯文。薄手、硬質。長石粒>金雲母
701	589	Z−29	8.0	5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:条痕後ナデ 内:ナデ	胴部片。平行線文。薄手、硬質。金雲母を多く含む。
702	504	A−30	7.23	7.5YR 6/6 橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	胴部片。接合面明瞭。やや軟質。
703	7057	—	—	5YR 5/6 明赤褐	鉢円	Ⅳ	外:縦位条痕 内:条痕	尖底に近い丸底。接合面で剥脱。硬質。
704	7055	A−27	7.04	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ? 内: −	長石粒多く器面ザラザラ。接地面の外周部約10mm幅か?比高し、上げ底状を呈す。貼り付けか?
705	94	A−26	6.76	5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。薄手、硬質。砂粒多く器面ザラザラ。
706	482	A−31	7.15	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢		外:条痕 内:ナデ	上げ底状。中央部は削り取り。やや軟質。サンゴ粒、貝殻片を混入。
707	7077	A−27	6.77	2.5YR 4/6 赤褐	底		外:条痕 内:ナデ	平底。焼台様の圧痕あり。硬質。
708	2541 2603 2645	Z−33 Z−33 Z−33	7.88	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	張り出し。上げ底状で中央部は削り出し。硬質。
709	2597	Z−31	7.42	5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	やや張り出し気味。硬質。砂粒多し。少量の金雲母を含む。
710	2280	Z−30	7.55	7.5YR 5/2 灰褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。やや軟質。
711	842	A−30	7.19	7.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。薄手、硬質。内外面にスス付着。
712	2828	—	7.38	5YR 5/2 灰褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底（中央部僅かに凹面）。砂粒多く器面ザラザラ。
713	2306	Z−31	7.92	2.5YR 4/1 赤灰	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。砂粒多く内面ザラザラ。
714	2691	—	7.22	7.5YR 6/8 橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。軟質。
715	2991	Z−31	7.39	5YR 5/2 灰褐	鉢		外:ナデ 内:条痕	平底（中央部僅かに凹面）。

表31　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—30

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	色調(表)	器種	類別	調整	備考
716	1704	A−30	6.61	7.5YR 6/4 にぶい橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	薄手、やや軟質。軽量。
717	2126	Z−31	7.27	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。薄手、硬質。外面にスス付着。
718	2610	Z−30	7.88	5YR 6/6 橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。硬質。外面にスス付着。
719	1140	Z−30	7.83	5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:条痕後ナデ	平底。硬質。
720	1968	Z−31	7.63	5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底（中央部僅かに凹面）。
721	2678	Z−33	7.39	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底(中央部僅かに凹面)。薄手、硬質。外面にスス付着。
722	755	Z−31	7.82	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	鉢		外:条痕 内:ナデ	上げ底状。硬質。
723	1515	Z−30	6.36	5YR 3/2 暗赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底。外面に多量のスス付着。
724	1637	Z−30	6.91	7.5YR 5/4 にぶい褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底(中央部僅かに凹面)。やや軟質。軽量。
725	846	Z−29	7.40	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	上げ底状。やや軟質。角閃石を含む。
726	759	Z−32	7.63	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	上げ底状。内面の接合面明瞭。薄手、硬質。長石粒多し。
727	519	A−30	7.41	7.5YR 7/4 にぶい橙	鉢		外:条痕 内:ナデ	平底。砂粒多く器面ザラザラ。
728	1410	A−30	6.88	2.5YR 5/6 明赤褐	鉢		外:条痕 内:条痕	平底。薄手、硬質。
729	546	Z−31	7.94	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	上げ底状。砂粒多し。
730	1881	Z−31	7.39	5YR 5/3 にぶい赤褐	鉢		外:ナデ 内:ナデ	平底(中央部僅かに凹面)。砂粒多し。内外面にスス付着
731	2848	Z−31	7.88	2.5YR 5/8 明赤褐	鉢		外:条痕 内:ナデ	平底。薄手、硬質。 長石粒＞金雲母
732	3210	Z−31	7.74	2.5YR 6/6 橙	鉢		外:ナデ 内:ナデ	上げ底状(外周に幅17mmの比高帯)。内外面にスス付着。
733	4087	Y−32	6.87	2.5YR 5/6 明赤褐	甕	XⅨ	外:ハケナデ 内:粗のハケナデ	胴張りの甕形土器。薄手、硬質。砂粒多し。外面にスス付着。
734	8050	A−25	7.49	7.5YR 6/6 橙	甕	XⅨ	外:ハケ目 内:ヘラケズリ	やや厚手。砂粒多し。
735	217	A−30	7.82	5YR 5/3 にぶい赤褐	甕	XⅨ	外:ハケ目 内:ヘラケズリ	口唇内面に段がつく。厚手、硬質。長石粒多し。
736	4266	Z−31	7.01	10YR 7/4 にぶい黄橙	埦	XX	外:ハケ目 内:研磨	内面黒色土器。良質の粘土使用。
737	4266	Z−31	7.01	10YR 6/4 にぶい黄橙	埦	XX	外:ハケ目 内:研磨	内面黒色土器。埦の底部片。良質の粘土使用。
738	−	−	−	10YR 4/1 褐灰		XXⅠ	外:タタキ 内:タタキ	類須恵器。
739	−	A−23	−	5YR 5/2 灰褐	壺	XXⅠ	外:ナデ 内:ナデ	類須恵器。口縁部。
740	−	−	−	N 5/0 灰	壺	XXⅠ	外:タタキ 内:タタキ	類須恵器。内面は格子目タタキの後ナデ

表32　下山田Ⅱ遺跡出土土器観察表—31

No.	取上No.	出土区	レベル	色調(表)	器種	類　別	調　　整	備　　考
741	—	—	—	N　4/0 灰		XXI	外：タタキ 内：タタキ	類須恵器。
742	—	—	—	10YR 褐灰		XXI	外：タタキ 内：タタキ	類須恵器。
743	—	—	—	10YR 褐灰		XXI	外：タタキ 内：タタキ	類須恵器底部。

【註】

1）No.（　）は，本文，実測図及び図版に示した番号であり，それらと一致している。

2）取り上げNo.は，発掘調査時点で記録した番号である。

3）出土区の「1地点」は，第1地点（0区～17区）を示す。

4）色調は，『新版　標準土色帖』農林省農林水産技術会議事務局　監修　によった。
財団法人　日本色彩研究所　色票監修
土器の表（外面）のみを対象とし，白色蛍光灯下における対応である。色調サンプルの中間色にある場合は主観に基づいて所属させた。

5）器種の，「鉢」＝（鉢形土器）に記した「円」と「角」については上面観を示したもので上面が丸いものについては「円」，方形のものについては「角」で表示している。なお，山形口縁をもつものは一括して「角」の範疇で示した。

6）調整については，条痕（貝殻条痕も含む）のままの場合「条痕」，条痕整形の後，特に撫でて仕上げた場合「条痕後ナデ」と記載した。また，規則的な平行線の調整痕の残る場合には「工具ナデ」と表記している。

7）備考では上記の情報の他，実測段階において認められた特筆すべき点（文様，胎土，焼成等）を記入した。胎土の混和材の大小・多少は主観に基づく観察であるが，基本的に大小は，砂粒＞細砂粒＞微砂粒の3段階に，多少は，多量＞多く含む＞含む＞若干含むの4段階に分けた。鉱物については明らかなものだけを記してある。また，「多量のスス付着」の記載があるものは，吹きこぼれ，焦げつきの可能性が考えられる。

4）出土遺物―石器

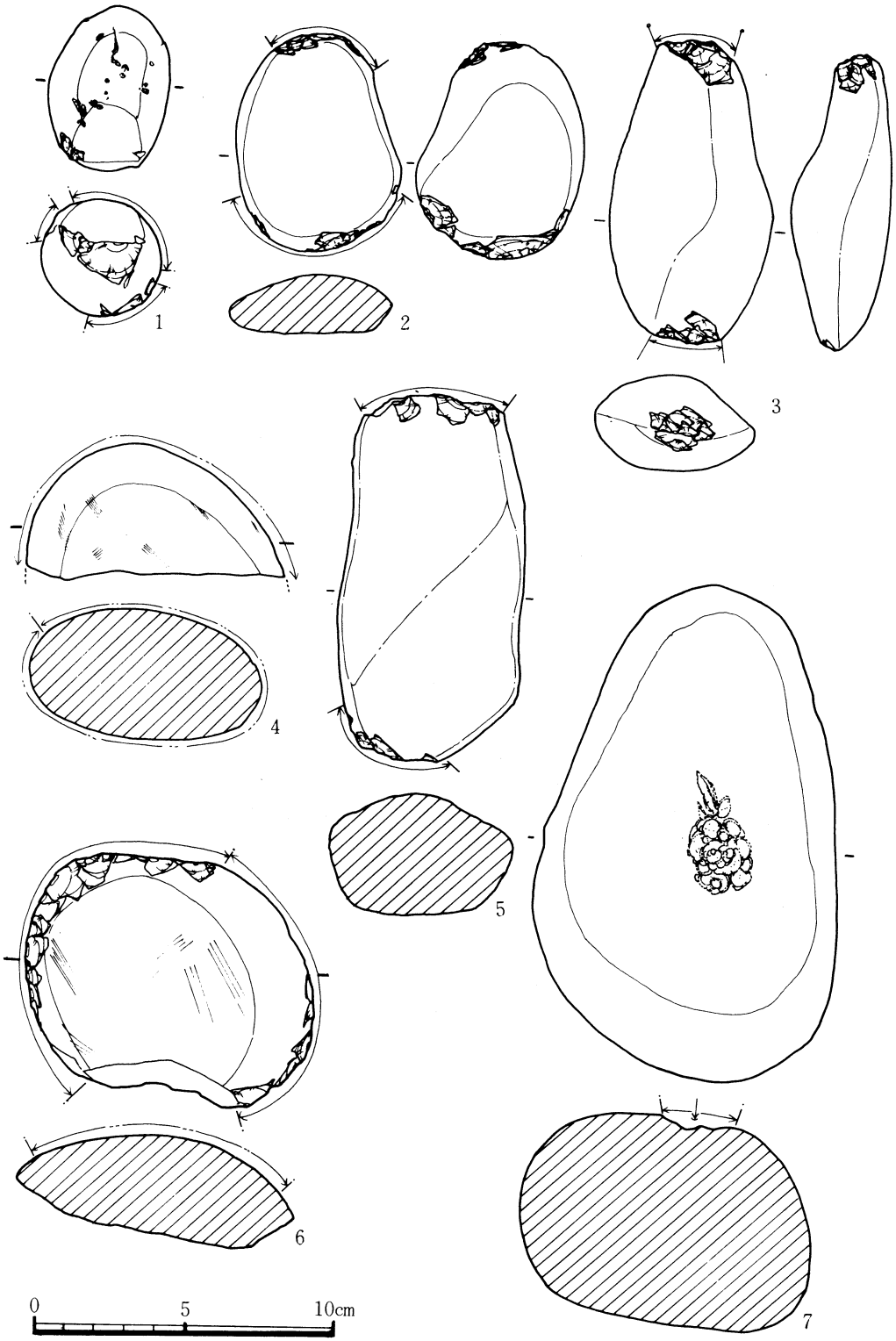
第２地点，第３地点から出土した石器は，叩石（ハンマー）・磨石・凹石・局部磨製石斧・磨製石斧・打製石斧・台石・石皿・クガニ石・砥石・掻器・削器・両面石器・擦切石器・楔形石器（ピーエスエス・キーユ）・石核それに剥片である。これは，予想を上まわる器種の組み合せの豊さであった。

素材となった石材は，砂岩・頁岩・ホルンフェルス・輝緑岩・ヒン岩・粘板岩・千枚岩・チャート・黒曜石である。なかでも，最も多く用いられたのは砂岩であり，輝緑岩がそれに次いでいる。それらは，叩石，磨石，凹石等に多く利用されている。

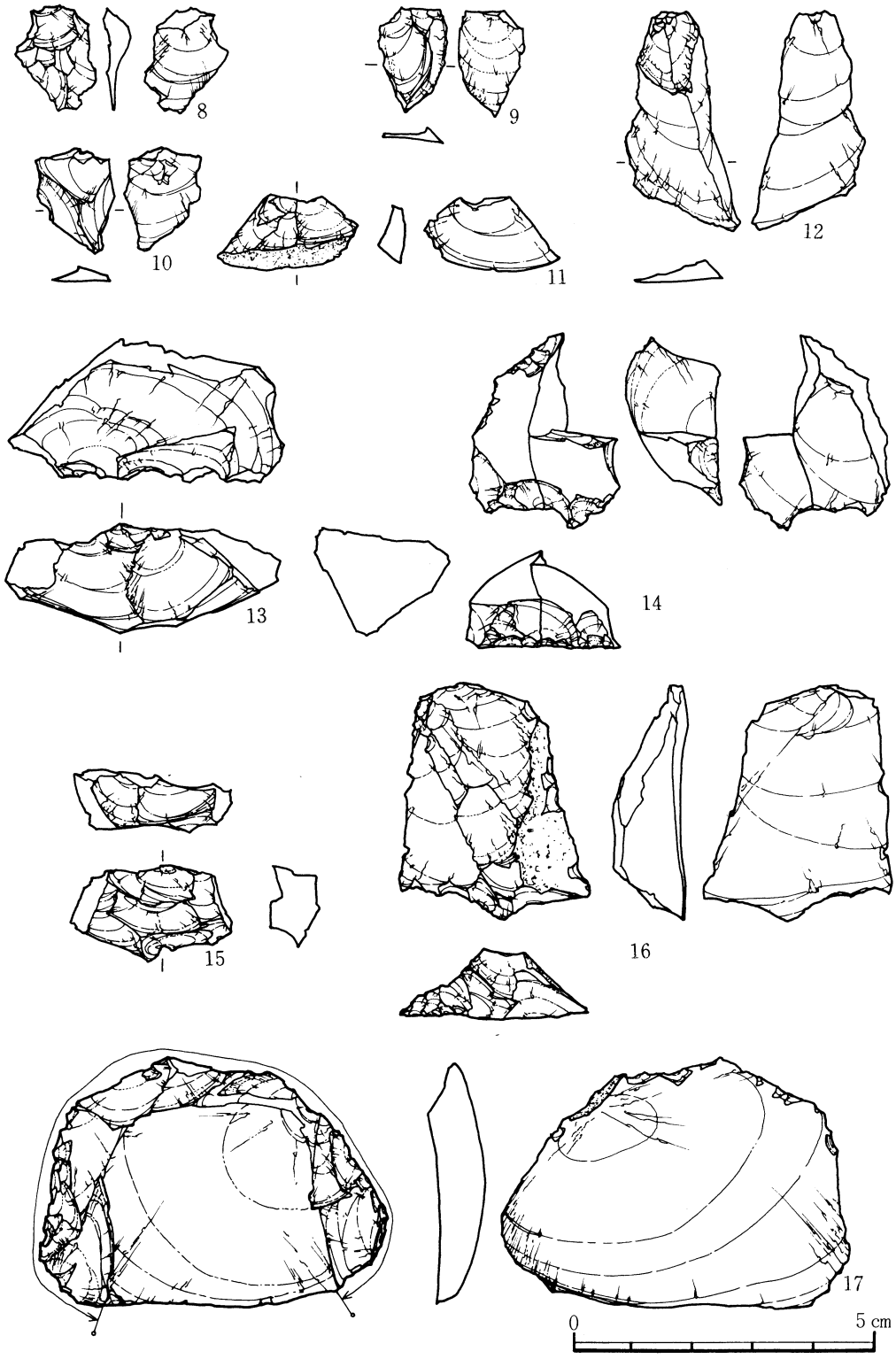
石　器

表33　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表―１（20～24区）

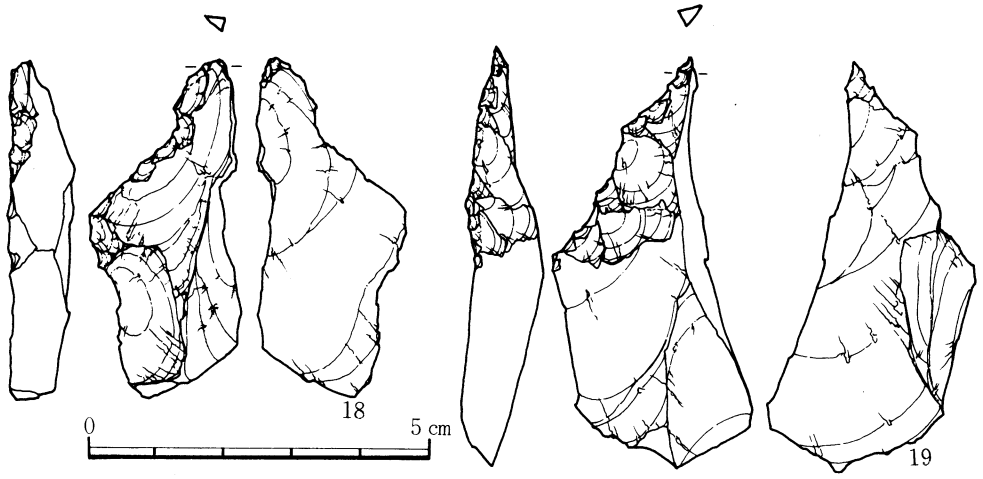
報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)	石　　材	名　　称
1	―	A－21	―	113	砂岩	叩石
2	8124	A－23	7.28	115	頁岩	叩石
3	359	A－21	7.59	200	砂岩	叩石
4	8032	A－24	7.15	210	砂岩	磨石
5	160	A－24	7.72	430	砂岩	叩石
6	8137	A－24	7.19	369	粗粒砂岩(石英粒多い)	叩石・磨石
7	8270	Z－22	7.78	1614	砂岩	凹石
8	8101	A－24	7.18	0.8	黒曜石	剥片
9	8100	A－24	7.14	0.5	黒曜石	剥片
10	8078	A－24	7.20	0.8	黒曜石	剥片
11	8077	A－24	7.08	1.0	黒曜石	剥片
12	47	A－20	6.40	2.8	石英質	剥片
13	140	A－23	7.56	17.5	チャート	石核
14	71	A－22	6.12	10.5	チャート	掻器
15	8123	―	7.17	3.6	黒曜石	石核
16	155	A－24	7.58	14.2	チャート	掻器
17	―	―	―	25.2	ホルンフェルス	削器
18	―	―	―	8.7	石英質	石錐
19	―	―	―	17.0	チャート	石錐
94	176	A－24	7.38	65	輝緑岩？	石斧？(磨製)
97	362	A－21	7.23	50	頁岩(粘板岩に近い)	石斧(磨製)



第96図　石器-1(第1地点)



第97図　石器-2(第１地点)



第98図　石器-3(第1地点)

第34　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表－2(26～28区)

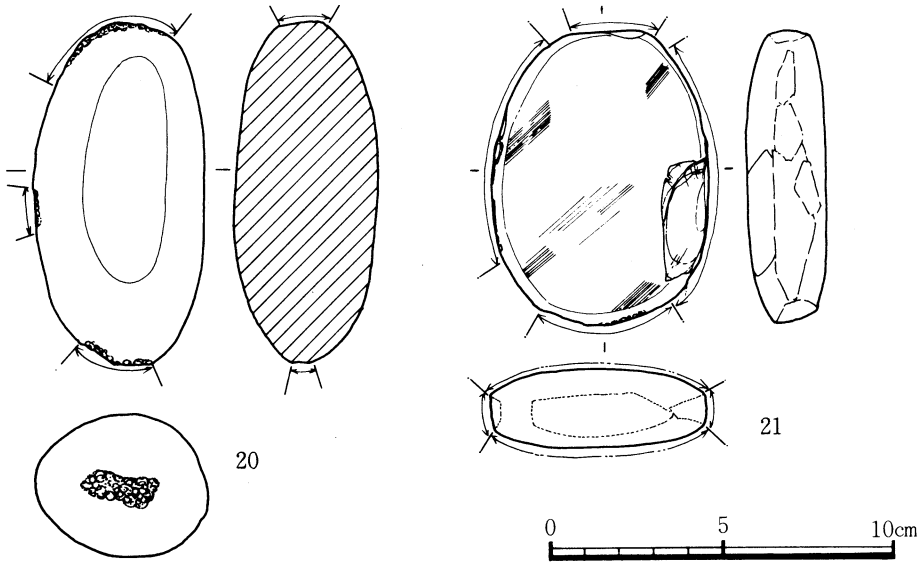
報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)	石　　材	名　　称
20	—	A－27	下部	284	砂岩	叩石
21	7051	A－27	7.00	195	砂岩	叩石・磨石
108	7040	A－26	6.99	42	砂岩	擦切石器

利用石材で注目されるのは，黒曜石である。島内での黒曜石の産出の確認はなく，おそらく島外からの持ち込んだものと思われる。その他の石材は，島内で産することが確認されておりそこを基点に供給されたものと判断できる。

石核石器では，叩石が最も多く，小円礫を素材とし長軸方向の下端を中心に利用し，また，上端も利用したものが多く見られる。したがって，素材の選択に充分な注意が注がれたことがうかがえる。それらは，**3・5・40**等に代表される。また，叩石・磨石，叩石・磨石・凹石等の複数の機能を備えたものも認められる。特に，叩石・磨石・凹石の3つの機能を持つ石器は一定の特長的形状が認められる。それらは，**52・55**に代表され，〝石ケン〟状の形状を呈し，側縁部が叩石・表裏の平坦面が磨石面，両磨石面のほぼ中央部に凹部を備えている。

いずれにしても，叩石の占める率は大きく，ハンマーを多く必要とした本遺跡のあり方が注目される。

黒曜石を素材としたものは，剥片4点，石核が1点である。特に，**15**で示した石核の存在は注目される。石核は，小型で，残核に近い状況であり，最終剥離面はフィンジクラフチャーを



第99図　石器-4(第3地点)

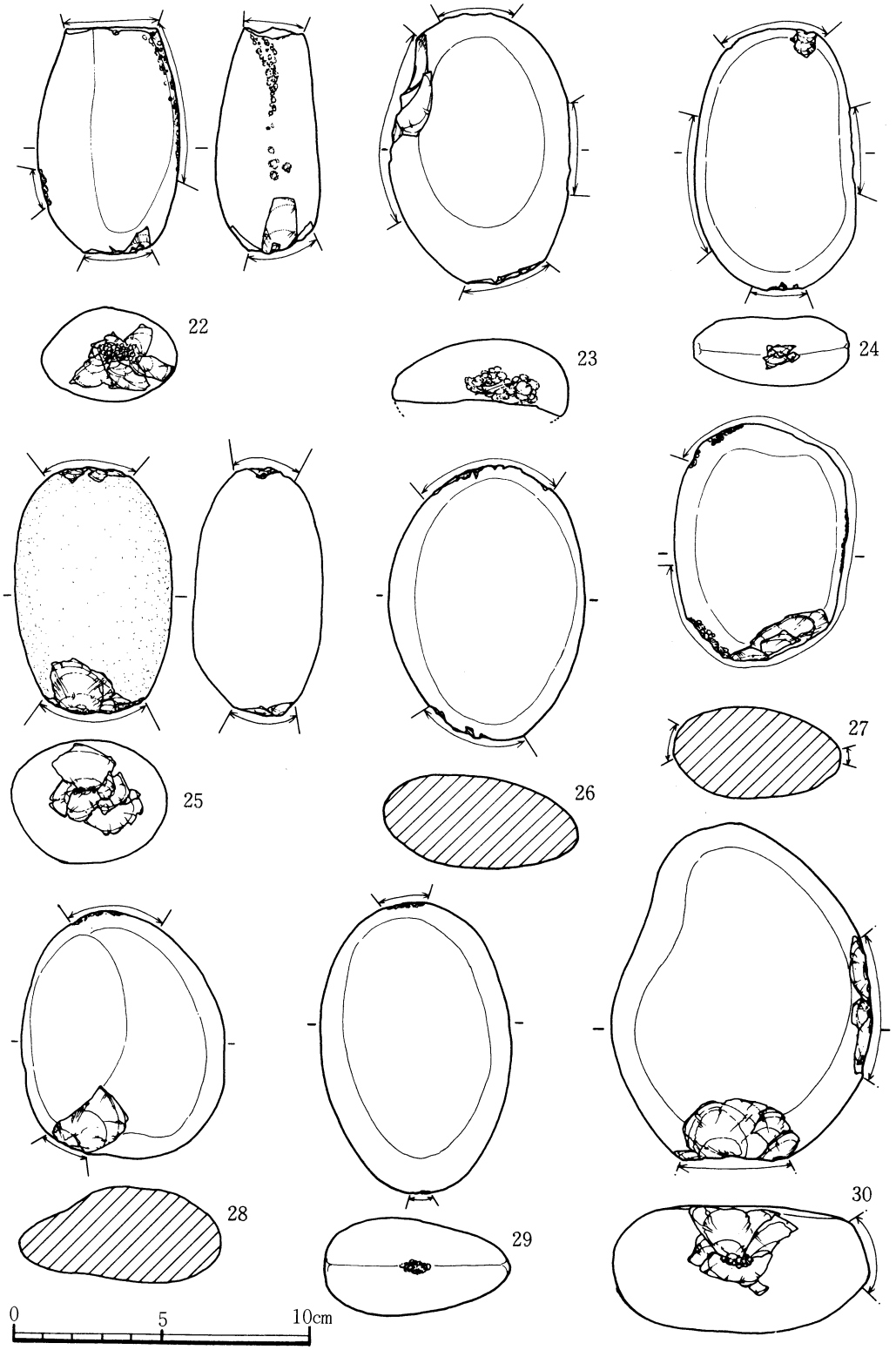
生じ，その時点で放棄された可能性が高い。フィンジクラフチャーを生じた剥離面を最終作業面と考えて，図示しているが，その考えに基づいて判断すると，打面は転位する多面体石核の形態が想定される。また，黒曜石の剥片 **8**～**11** の背面に残される剥離方向も一定方向ではなく，各方向からの切り合いが認められ，打面転位をする石核より剥出されている作業工程のあったことを裏づけている。

13の石核は，島内産のチャートを使用したもので，打面は平坦である。

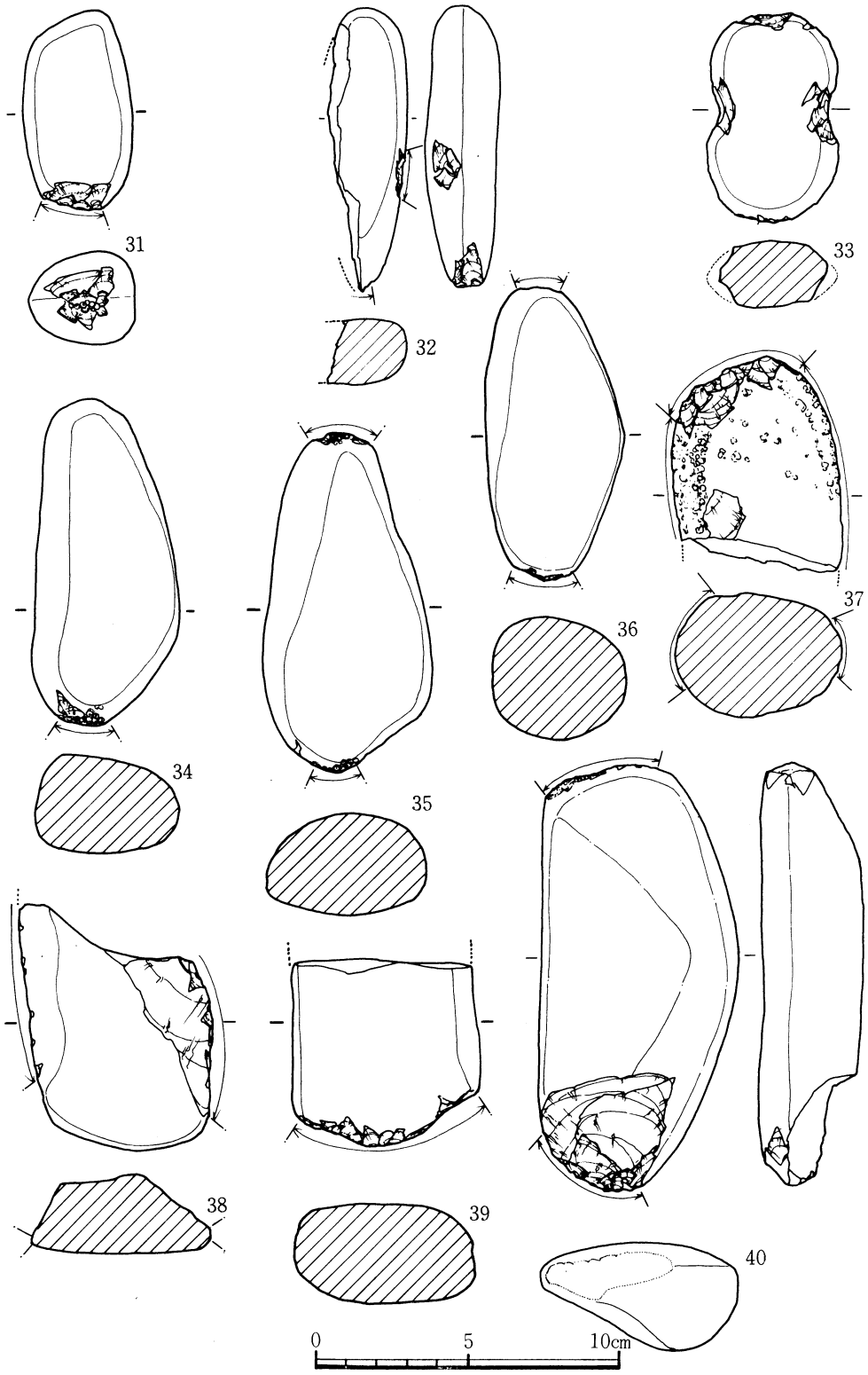
14・16は，厚手の剥片を用い，主要剥離面方向から刃部調整剥離を行った掻器で，共通した製作工程で作出されたことを裏づけている。

17は，ナチュラル・プラットホームの石核より剥出した剥片を素材とし，剥片の頭部側を中心に削器に加工したものである。

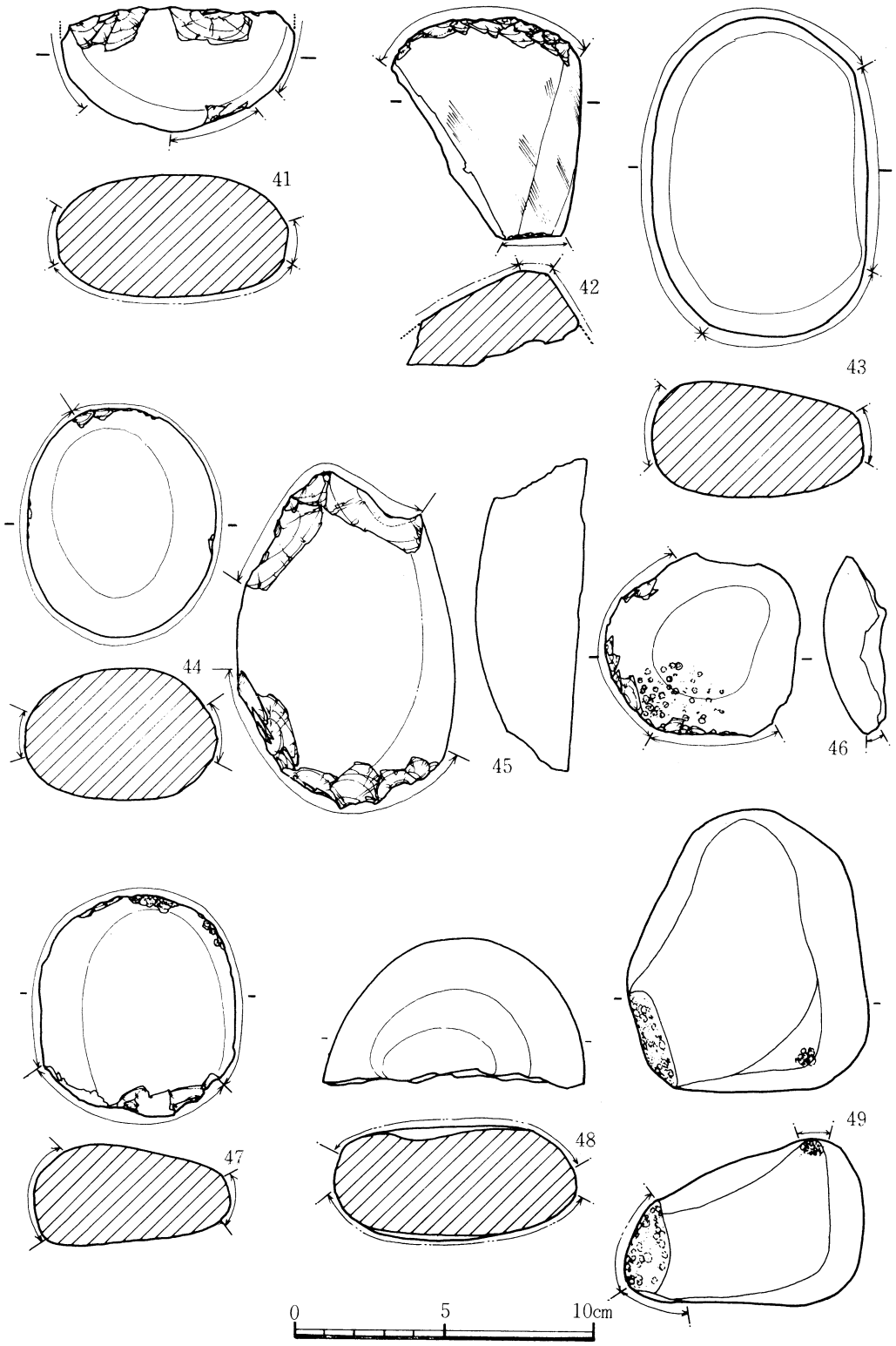
18・19については，石錐として認定している。厚手の不定形剥片を用い，打点側は切断により取り去り，背面の左側縁から先端部へかけて急角度の整形加工を施し（主要剥離面より背面方向へ），鋭利な作業面の作出を行っている。2点共に，前記の作業工程を経て作出されている。



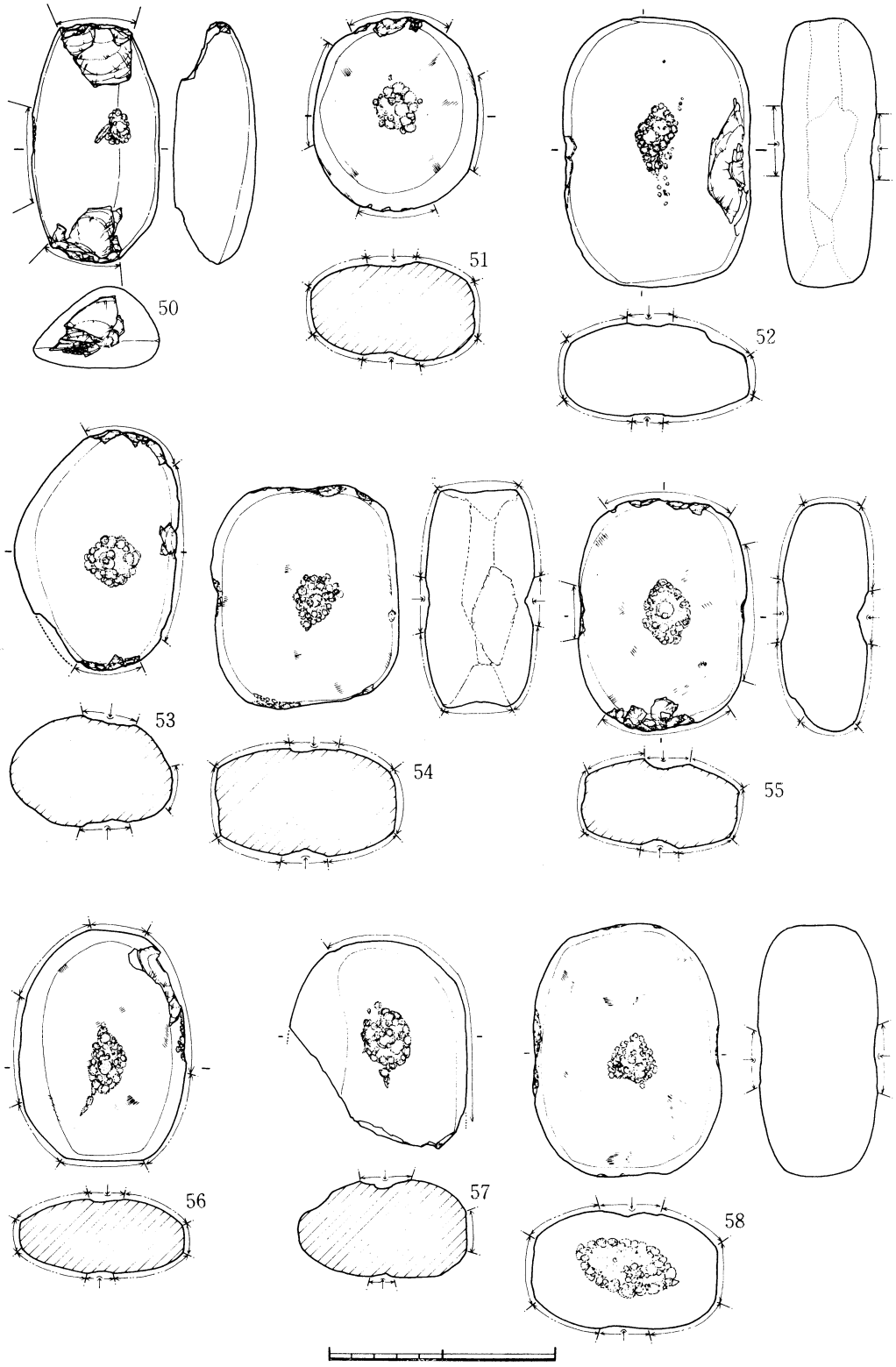
第100図　石器- 5(第 3 地点)



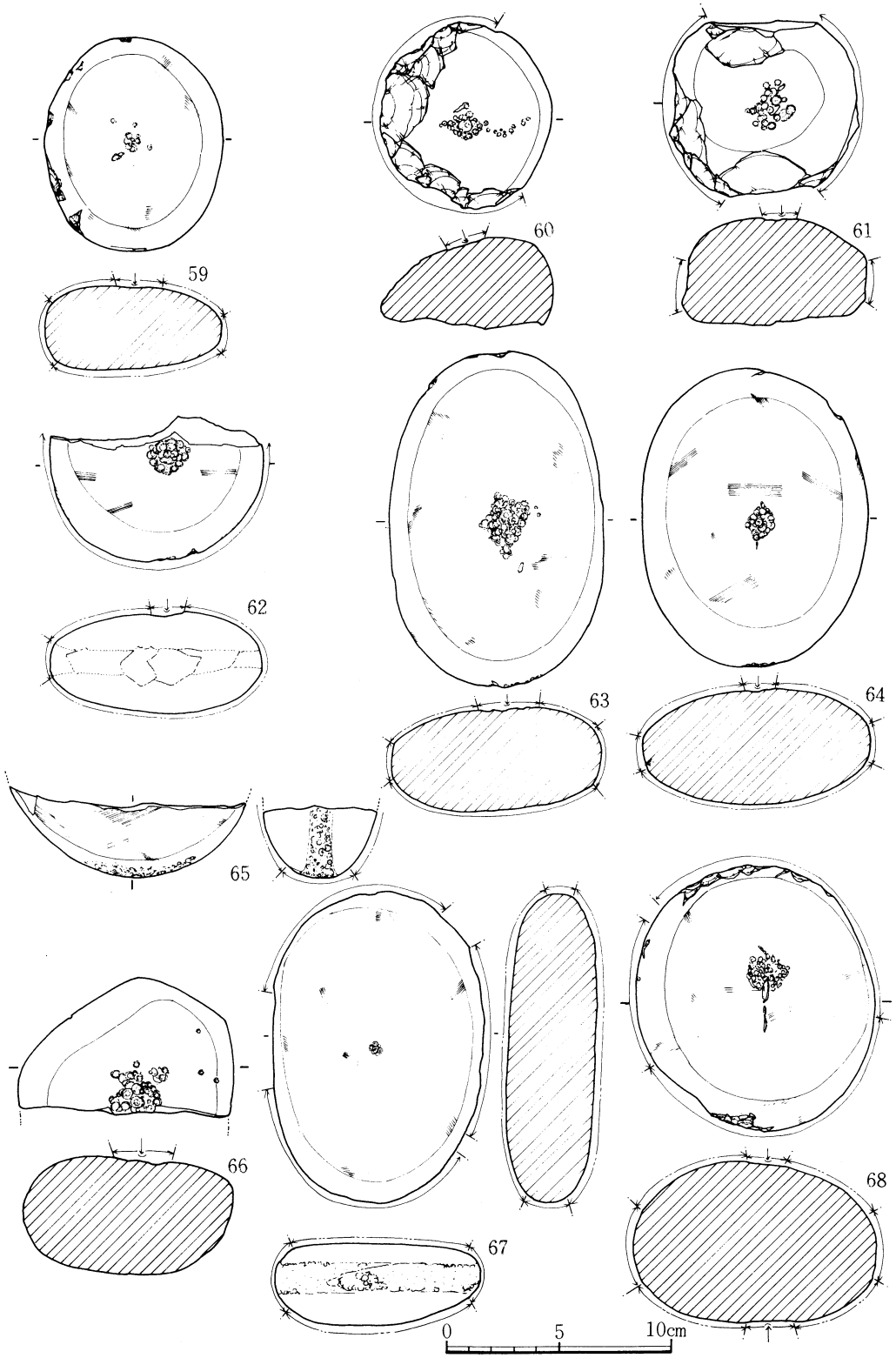
第101図　石器- 6(第 3 地点)



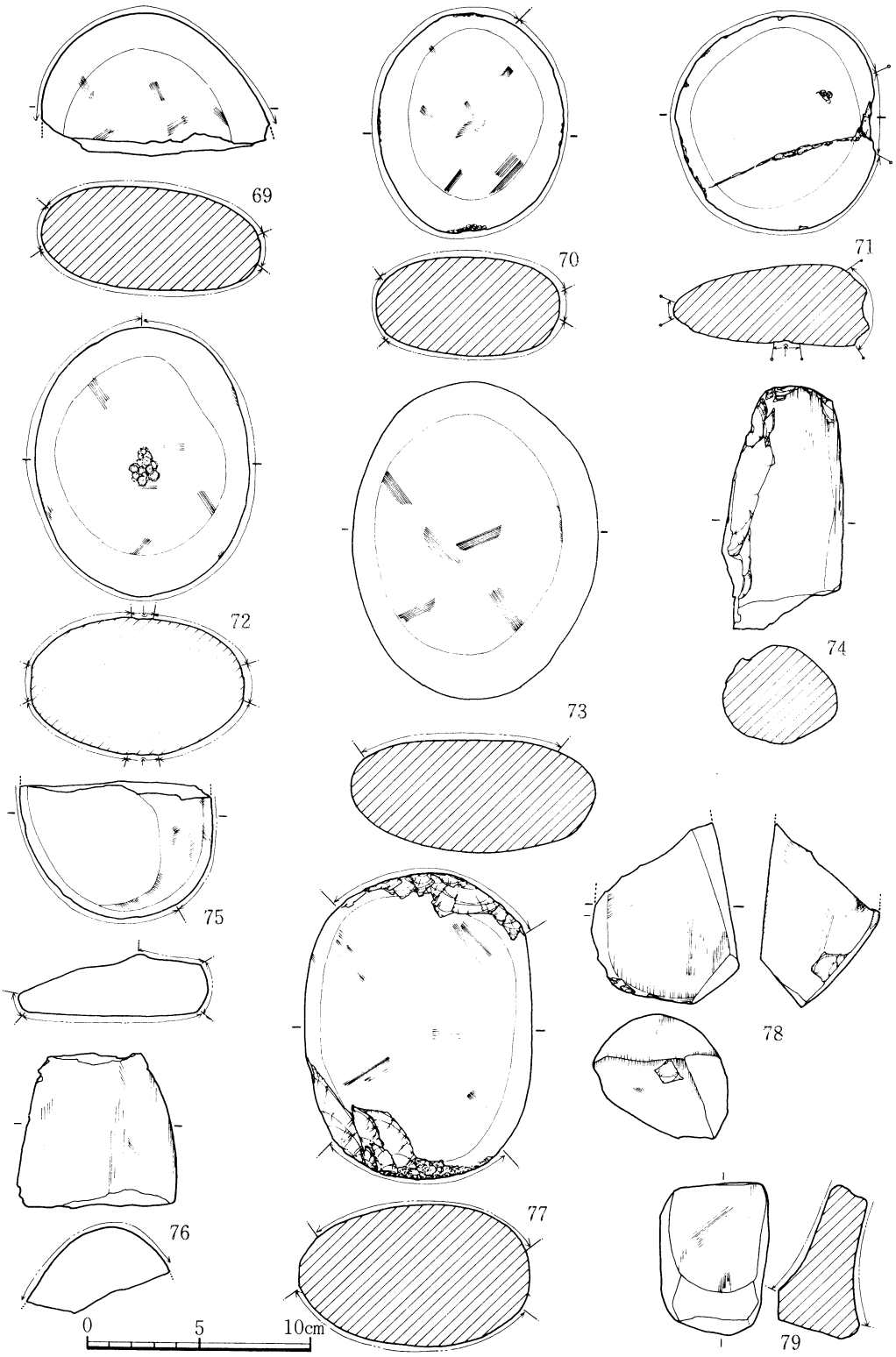
第102図　石器- 7(第 3 地点)



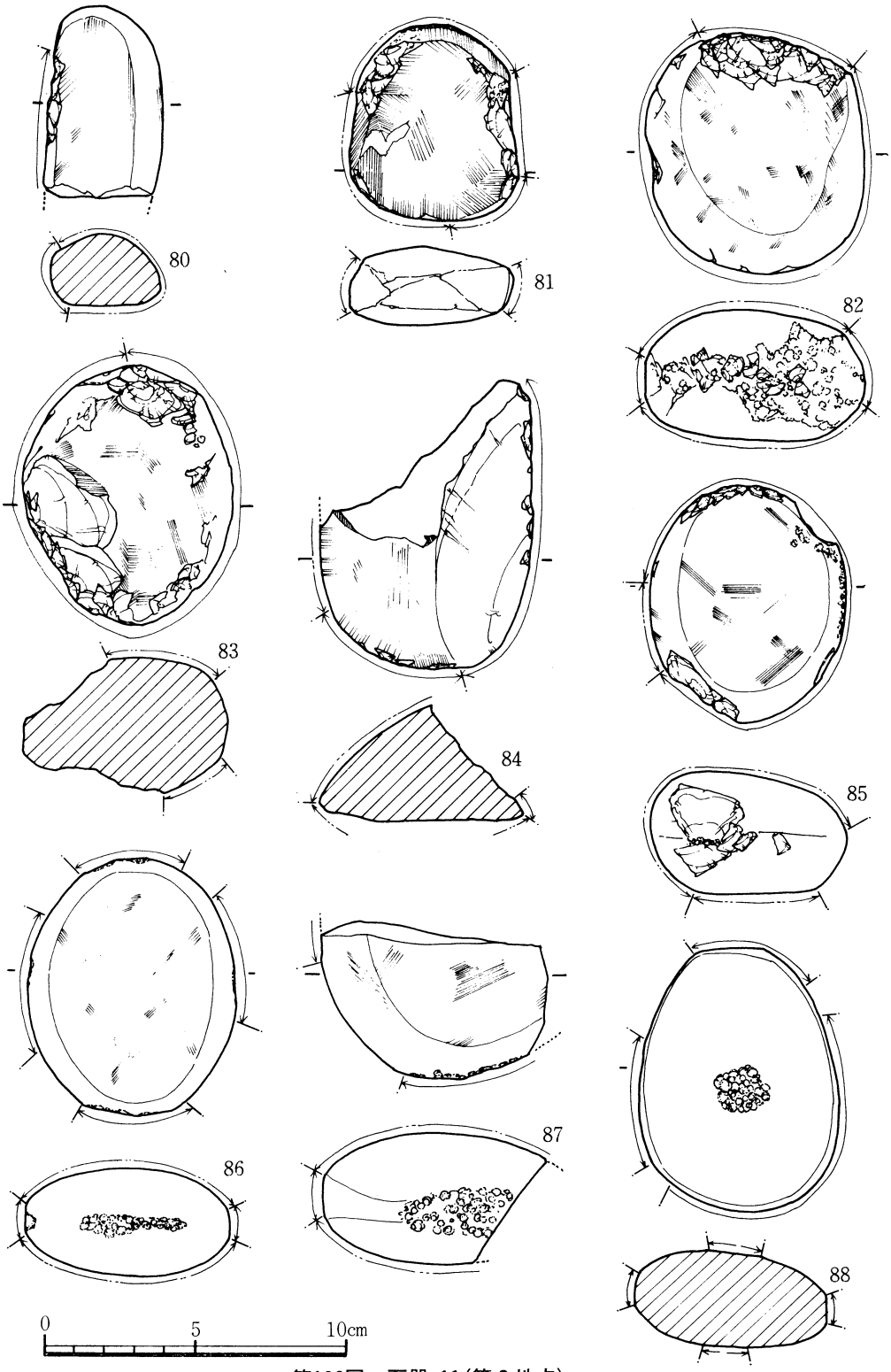
第103図　石器- 8(第 3 地点)



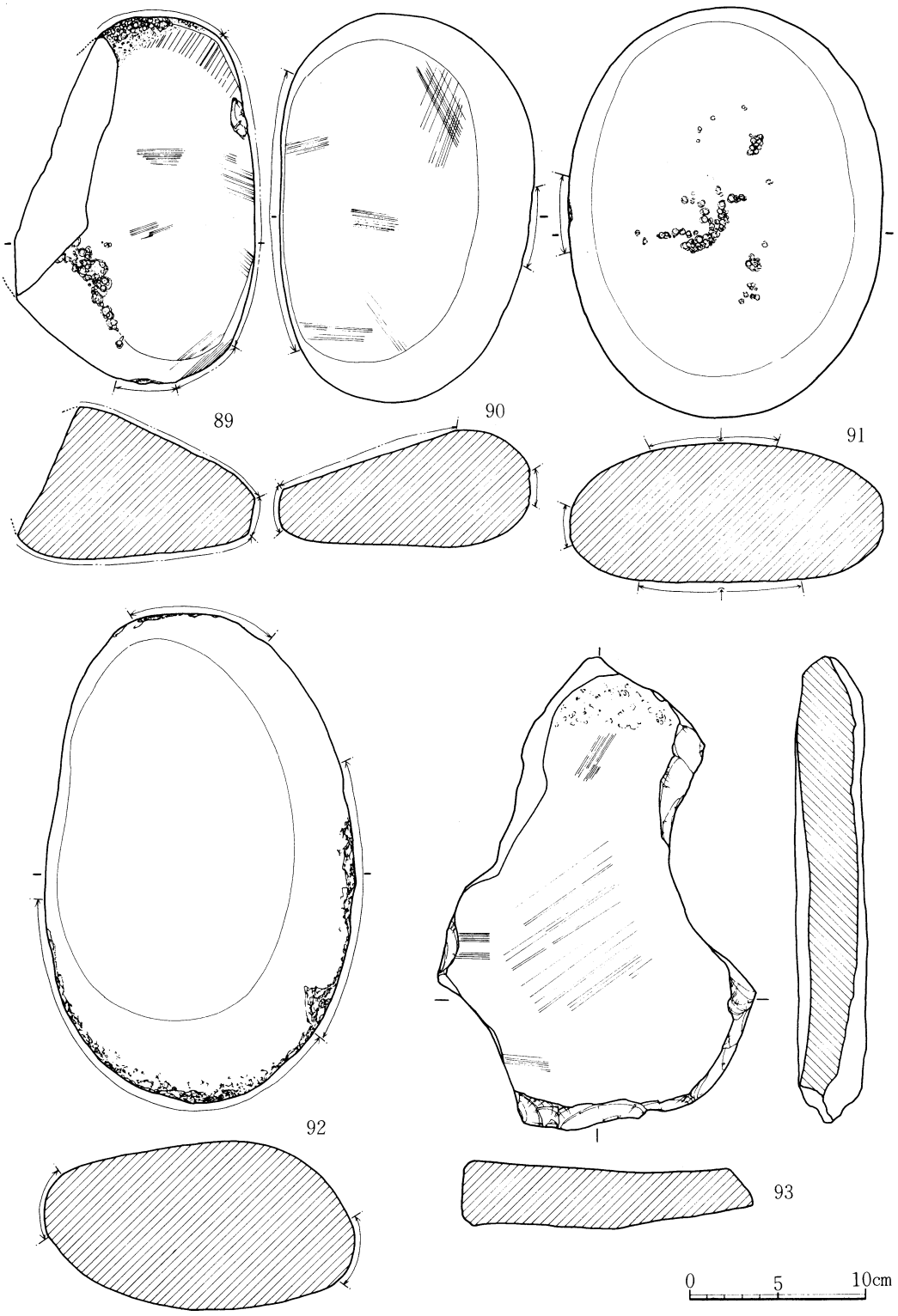
第104図　石器- 9(第 3 地点)



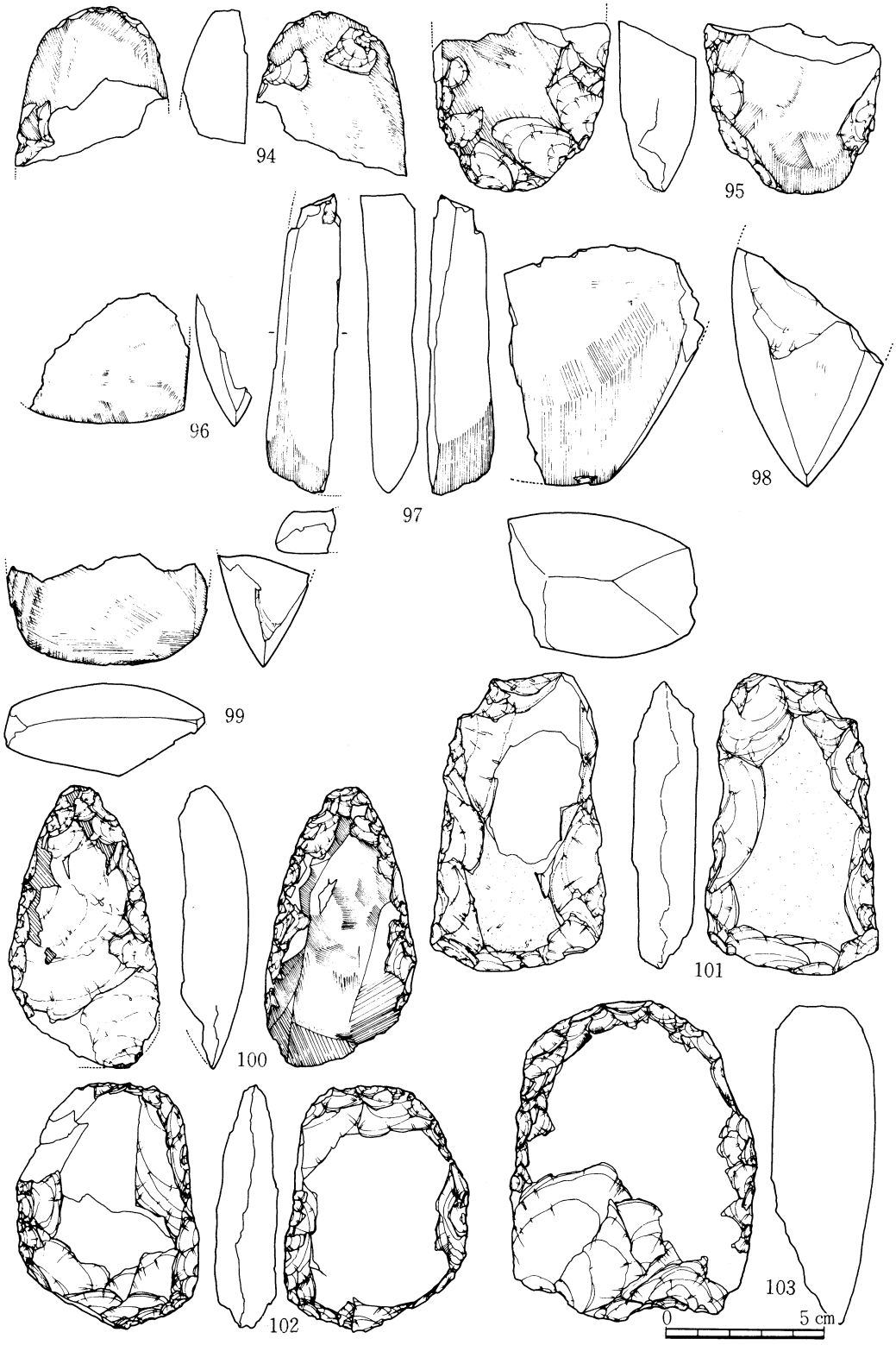
第105図　石器-11（第３地点）



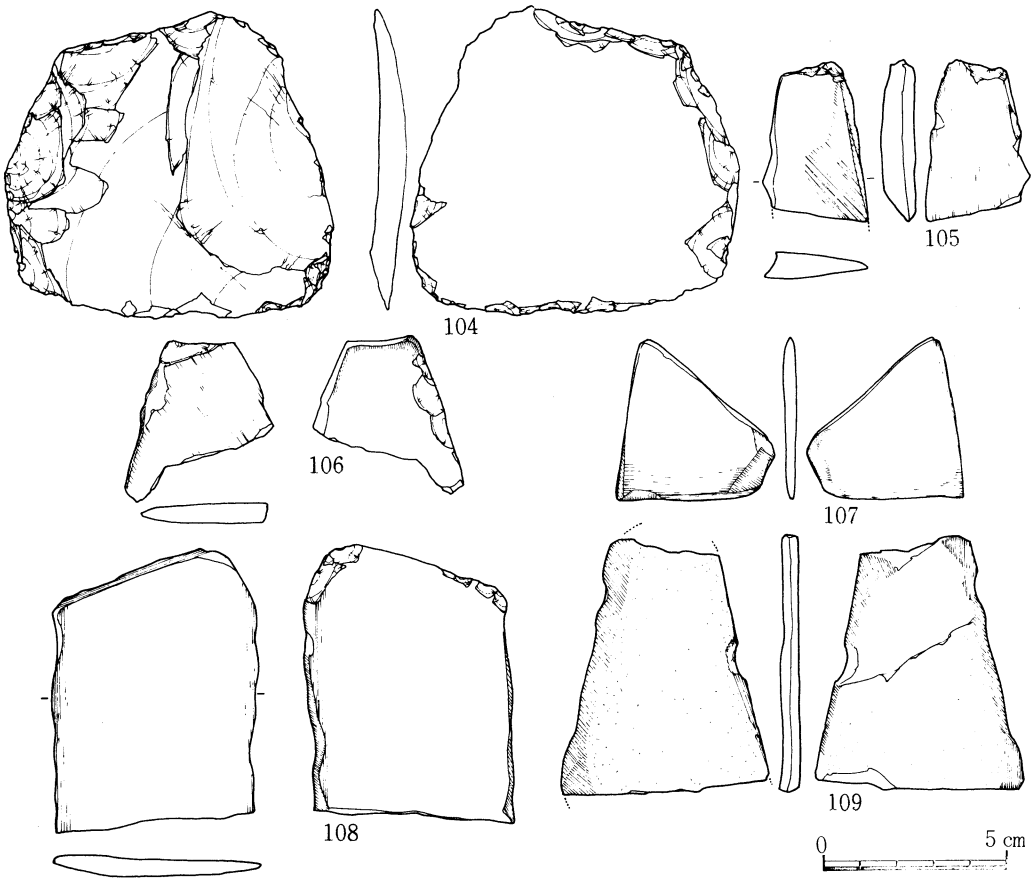
第106図　石器-11(第3地点)



第107図　石器-12(第3地点)



第108図　石器-13(第2・3地点)

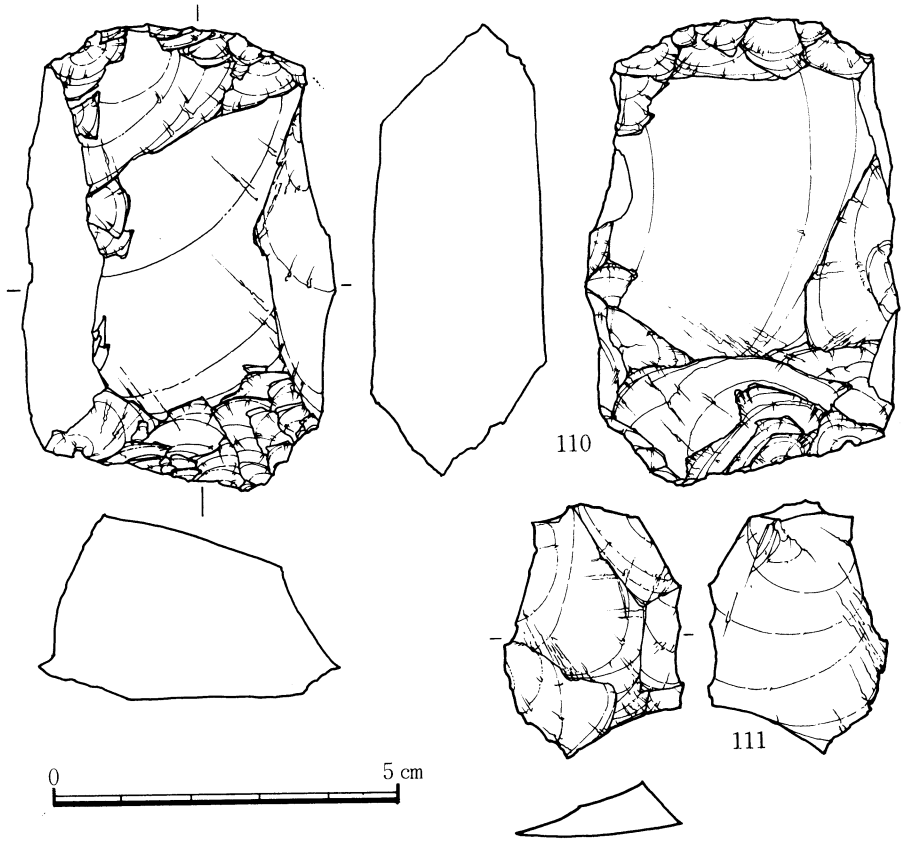


第109図　石器-14(第３地点)

96～**99**の磨製石斧のうちの，**97**を除く３点の刃部は鋭く，入念な研磨により作出している。また，両側縁部も入念に研磨され，体部とは明瞭な稜で区切られる。

105～**109**は，板状の扁平な砂岩を素材としたもので，擦切石器として取扱った。全てに共通し，側縁に平行ないしは斜行する研磨痕が残されている。また，研磨痕を残す側縁の端部は直線状をなし，断面形はＶ字ないしはＵ字状を呈している。したがって，この研磨痕を残す面が作業面と判断し，作業の運動方向を復元想定した結果，擦切のために使用された石器と判断している。

110の左右の剥離面は，明らかに裁断された面であり，大型の楔形石器（ビーエスエス・キーユ）と考えられる。



第110図　石器-15(第３地点)

表35　下山田遺跡出土石器一覧表－３(29～33区)

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)	石　　材	名　　称
22	3292	Z－32	7.72	186	砂岩	叩石
23	383	Z－31	8.08	205	粗粒砂岩(石英粒多い)	叩石
24	3667	Z－32	7.12	213	輝緑岩	叩石
25	3886	Y－32	6.98	255	砂岩	叩石
26	741	Y－32	8.09	258	砂岩	叩石
27	2361	Z－31	7.60	202	砂岩	叩石
28	－	Z－31	－	253	アルコース質砂岩？石英質硬い	叩石・磨石？
29	4349	A－31	6.65	267	砂岩	叩石
30	4134	Z－32	7.99	598	砂岩	叩石
31	3594	Z－32	7.57	103	砂岩	叩石
32	602	Y－30	8.13	88	頁岩	叩石
33	－	Z－29	－	86	砂岩	叩石？石錘？

表36　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表－4（29～33区）

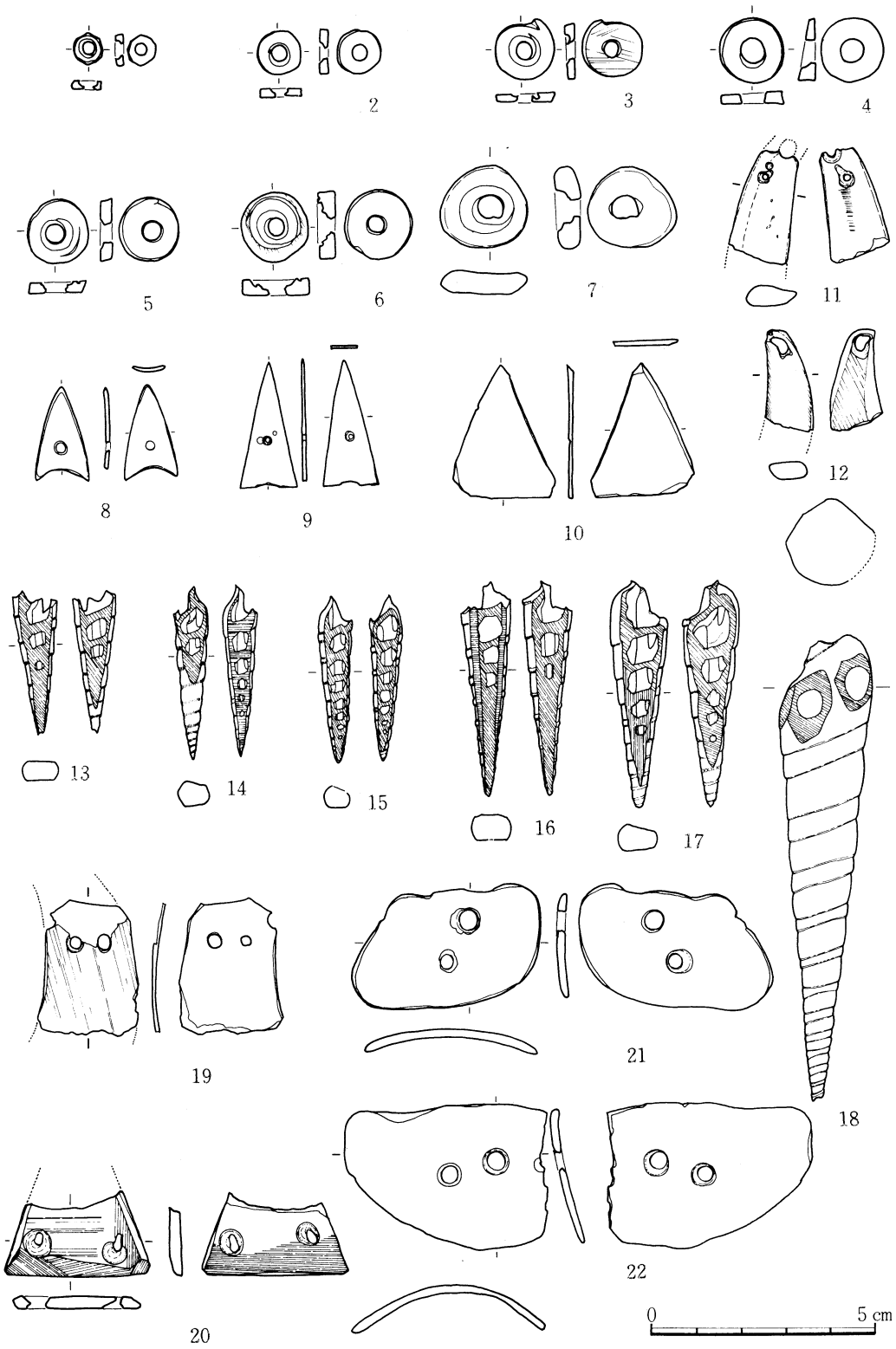
報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)	石　　材	名　　称
34	1797	A－30	6.68	237	砂岩	叩石
35	1064	A－29	7.22	271	砂岩	叩石
36	2152	Z－31	7.91	246	砂岩	叩石
37	2885	Z－31	7.44	237	輝緑岩	叩石？石斧状
38	1668	Z－30	6.69	143	砂岩	叩石
39	384	Z－31	7.89	183	砂岩	叩石？石斧状
40	1276	Z－29	6.62	463	輝緑岩	叩石
41	593	Z－29	8.11	202	粗粒砂岩（石英粒大きい）	叩石・磨石
42	377	Z－31	7.95	184	砂岩	叩石・磨石
43	3489	Z－33	7.60	448	砂岩	叩石
44	631	Y－30	7.98	311	砂岩	叩石
45	618	Y－30	8.07	331	砂岩	叩石
46	348	A－29	7.70	104	砂岩	叩石
47	4238	Z－32	6.37	238	砂岩	叩石
48	4746	A－32	6.98	226	砂岩	叩石・磨石・凹石
49	4245	Y－32	6.71	681	輝緑岩	叩石・磨石
50	—	A－32	—	283	砂岩	叩石（クガニイシ？）
51	1673	Z－30	6.69	401	砂岩	叩石・磨石・凹石
52	1457	Z－30	6.99	828	ヒン岩	叩石・磨石・凹石
53	1330	Y－30	7.92	484	砂岩	叩石・凹石
54	2850	Z－32	7.12	697	砂岩	叩石・磨石・凹石
55	1576	Z－29	6.73	443	砂岩	叩石・磨石・凹石
56	3212	Z－32	7.47	409	砂岩（石英質）	叩石・磨石・凹石
57	4747	A－32	6.79	402	砂岩	叩石・凹石
58	2061	Z－31	7.71	861	砂岩（わりあいに粗粒）	叩石・磨石・凹石
59	784	Z－31	8.11	472	砂岩	叩石・磨石・凹石
60	3725	Z－32	7.25	303	砂岩（石英質，硬い，石英脈付着）	叩石・凹石
61	3557	A－32	6.91	473	砂岩	叩石・凹石
62	3819	Y－33	—	365	砂岩	叩石・磨石・凹石

表37　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表－５（29～33区）

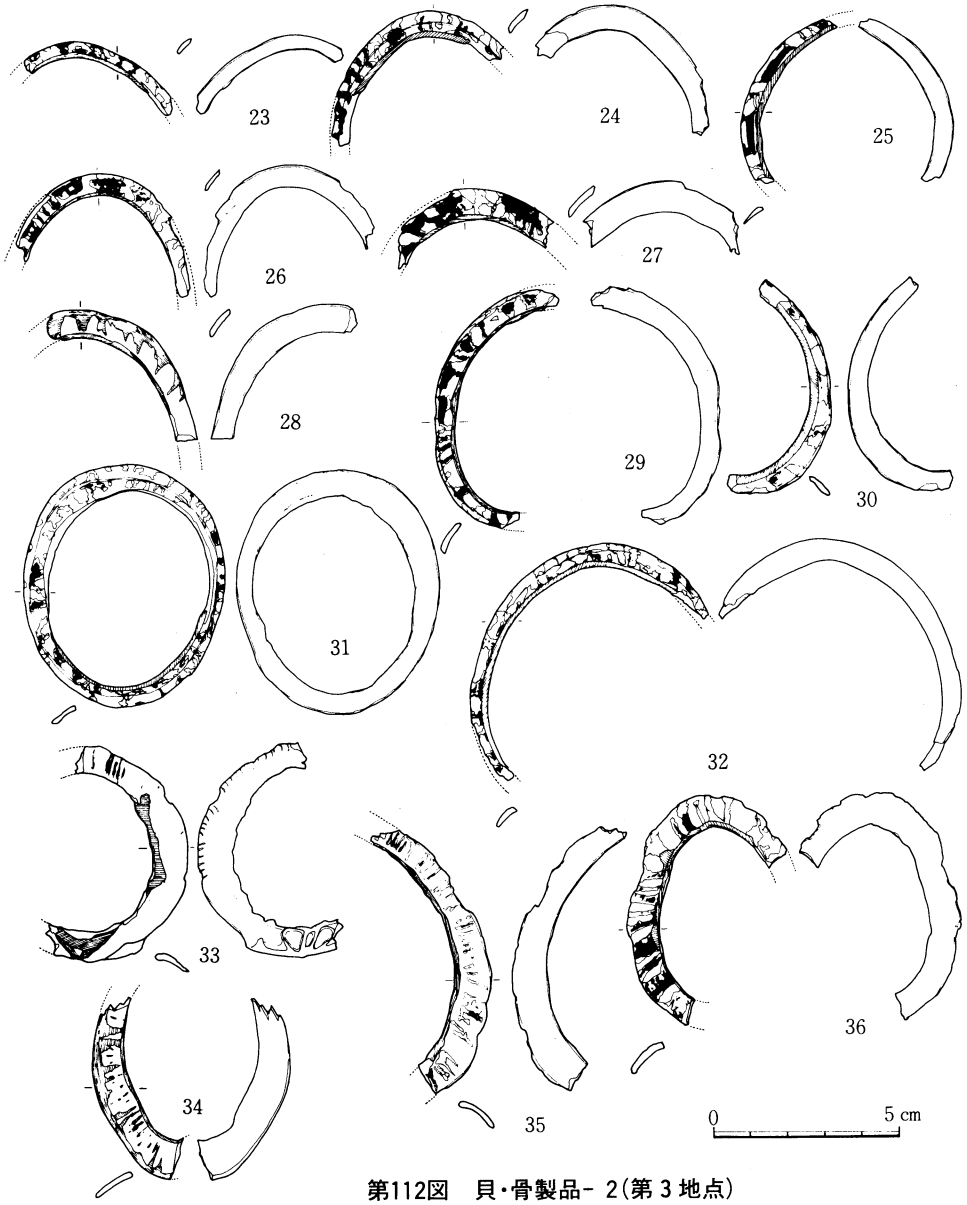
報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)	石　　材	名　　称
63	2798	Y－33	7.73	1078	砂岩(硬い)	叩石・磨石・凹石
64	3032	Z－32	7.11	1050	砂岩(硬い)	叩石・磨石・凹石
65	4244	Y－32	6.85	189	砂岩(硬い,雲母も含む)	磨石・叩石
66	4126	Z－32	8.08	388	砂岩	凹石
67	3274	Z－32	7.05	844	砂岩	叩石・磨石
68	1426	Y－30	7.32	1257	砂岩	叩石・磨石・凹石
69	1804	A－30	6.52	399	砂岩	叩石・磨石
70	3671	Z－32	7.15	523	砂岩(硬質,石英脈付着)	叩石・磨石
71	1919	A－32	7.28	413	砂岩	叩石・凹石
72	1427	Y－30	7.35	1065	火成岩？	叩石・磨石・凹石
73	1347	Y－30	7.61	1234	砂岩	磨石
74	－	11集石	－	356	輝緑岩(風化している)	叩石？石斧状
75	4021	A－32	6.57	194	砂岩	叩石・磨石
76	723	Y－32	8.02	223	砂岩(粗粒,石英粒大きい)	磨石
77	3488	Z－32	7.38	1345	砂岩	叩石・磨石
78	1311	Z－30	7.08	280	砂岩	叩石？石斧状
79	2206	Z－32	7.61	114	砂岩	砥石
80	1068	Z－29	7.28	112	輝緑岩？	叩石・磨石
81	691	A－31	7.19	157	輝緑岩	叩石・磨石
82	3930	Z－33	7.15	448	輝緑岩	叩石・磨石
83	763	Z－32	7.77	390	ホルンフェルス化した砂岩	叩石・磨石
84	1753	A－30	6.83	203	粗粒砂岩(石英質,硬い)	叩石・磨石・石斧状
85	424	Z－31	8.04	269	砂岩	叩石・磨石
86	4434	Z－31	6.45	296	砂岩	叩石・磨石
87	4721	Z－31	7.56	227	砂岩	叩石・磨石
88	4320	A－31	－	288	砂岩(石英質,硬い)	叩石・磨石・凹石
89	4397	31	－	2975	砂岩(石英脈付着)	クガニイシ
90	3501	Z－32	7.83	3261	砂岩(石英質)	石皿？
91	1856	A－30	5.93	5489	ヒン岩	台石

表38　下山田Ⅱ遺跡出土石器一覧表－6（29～33区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)	石　　材	名　　称
92	4396	Z－31	－	7245	ヒン岩	台石
93	4448	A－31	6.22	2300	砂岩	石皿
95	－	－	－	102	輝緑岩	石斧？(局部磨製)
96	4823	－	6.85	29	輝緑岩	石斧（磨製）
98	2797	Y－33	7.72	202	ヒン岩	石斧（磨製）
99	692	A－31	7.10	56	輝緑岩	石斧（磨製）
100	4673	Z－31	7.56	119	輝緑岩	石斧(局部磨製)
101	－	－	－	146	粘板岩	石斧(打製)
102	817	Z－30	7.64	123	千枚岩	円盤状石器
103	1345	Y－30	7.24	412	輝緑岩	石斧(打製)
104	878	A－30	6.93	105	粘板岩	剥片石器
105	1051	Z－29	7.17	16	砂岩	擦切石器？
106	1815	A－30	6.35	14	砂岩	擦切石器？
107	918	Y－30	7.99	11	砂岩	擦切石器？
109	4582	Z－30	7.19	34	砂岩	擦切石器？
110	1325	A－29	6.56	107	チャート	楔形石器
111	－	－	－	10	チャート	剥片



第111図　貝・骨製品－1（第3地点）



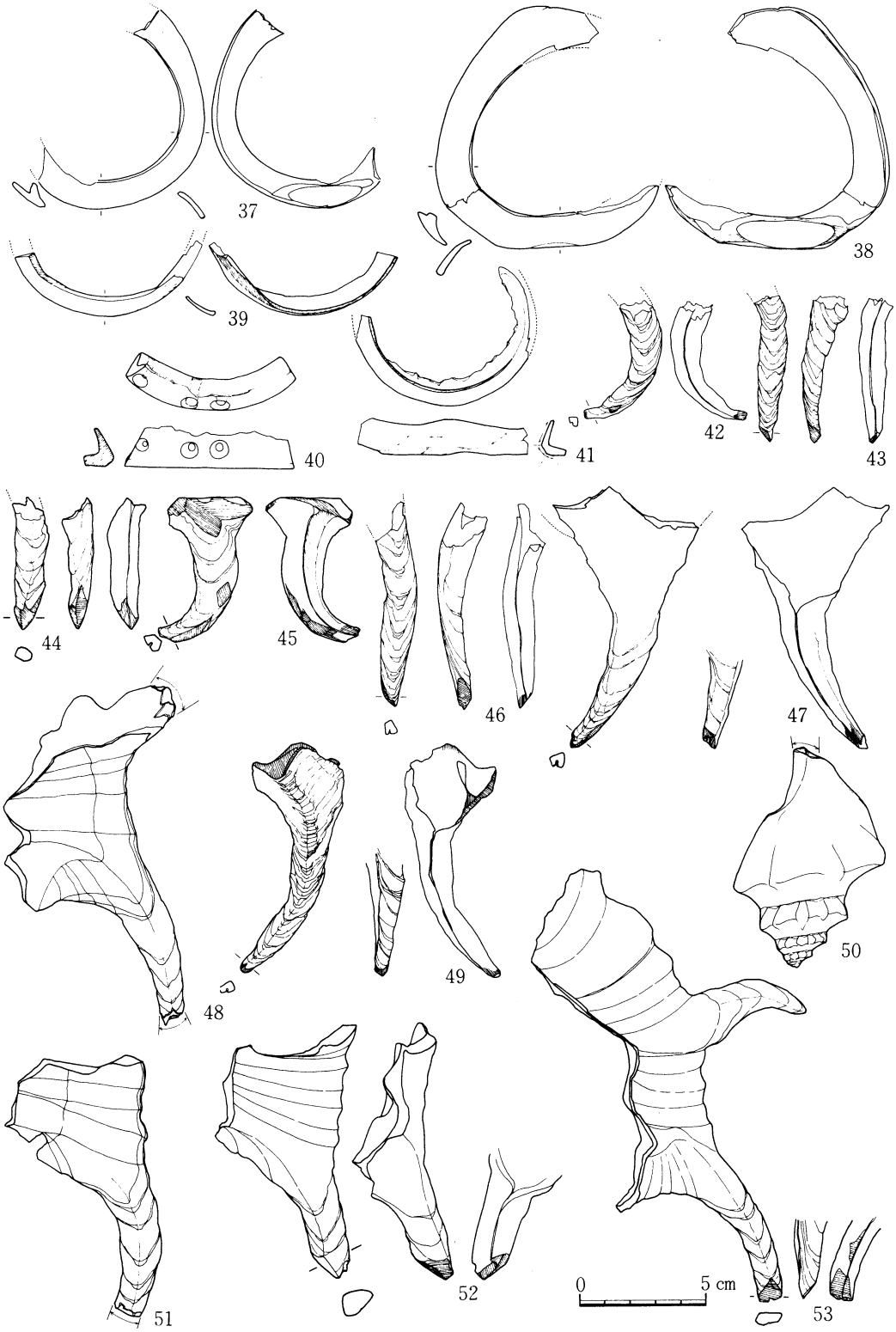
第112図　貝・骨製品－2(第3地点)

5）出土遺物 —— 貝製品・骨製品

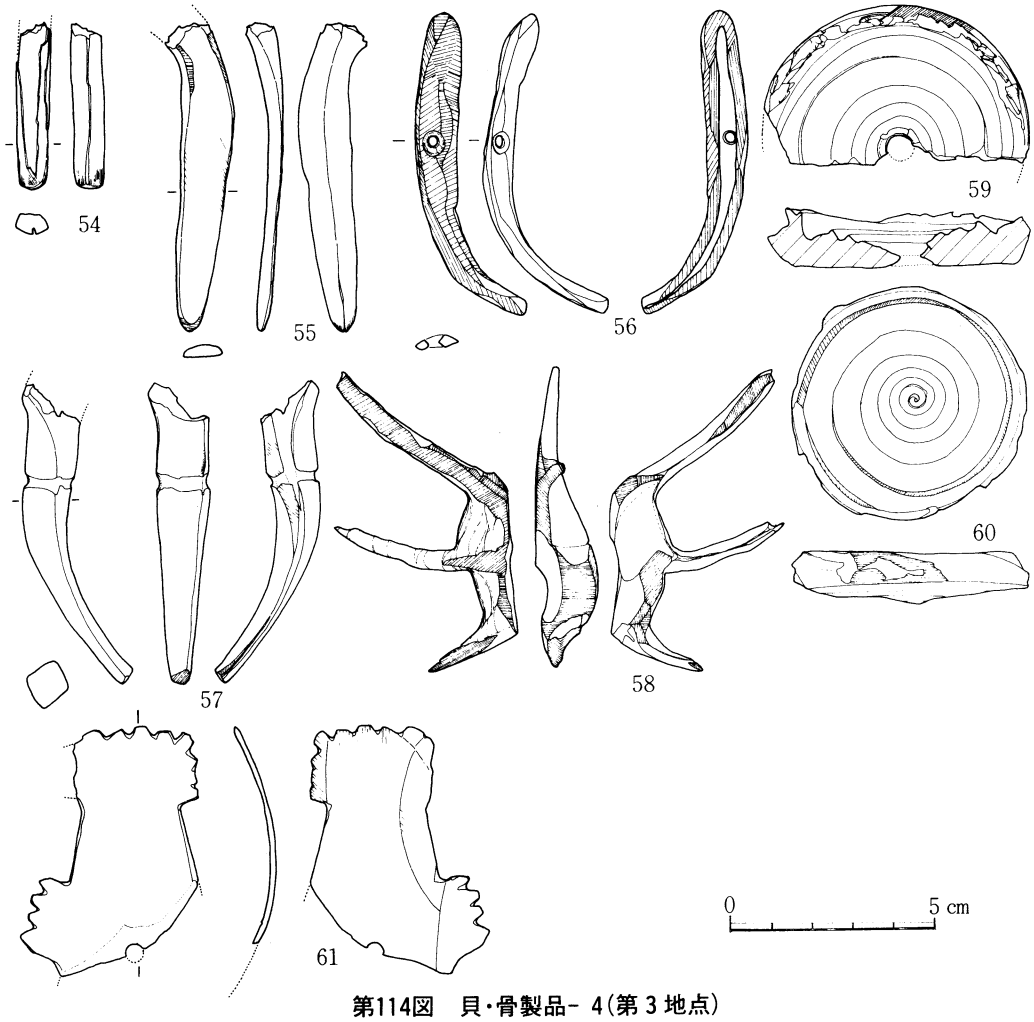
第3地点を中心に，各種多様の貝製品（貝製利器も含む）・骨製品（骨角器も含む）が出土している。

尚，出土品の中には，名称，用途及び素材の明らかにしえないものもあり，分類の都合上，便宜的に記した部分もかなりある。貝製品の場合，垂飾品と利器（容器も含む）に大別でき，骨製品も同様である。

貝製垂飾品は，イモガイの螺塔部に孔を有したビード状（貝小玉）製品・二枚貝を素材とし入念な研磨を加えて製品化した三角形有孔（無孔）垂飾品，タケノコガイの二面を研磨した。



第113図　貝・骨製品－3(第3地点)



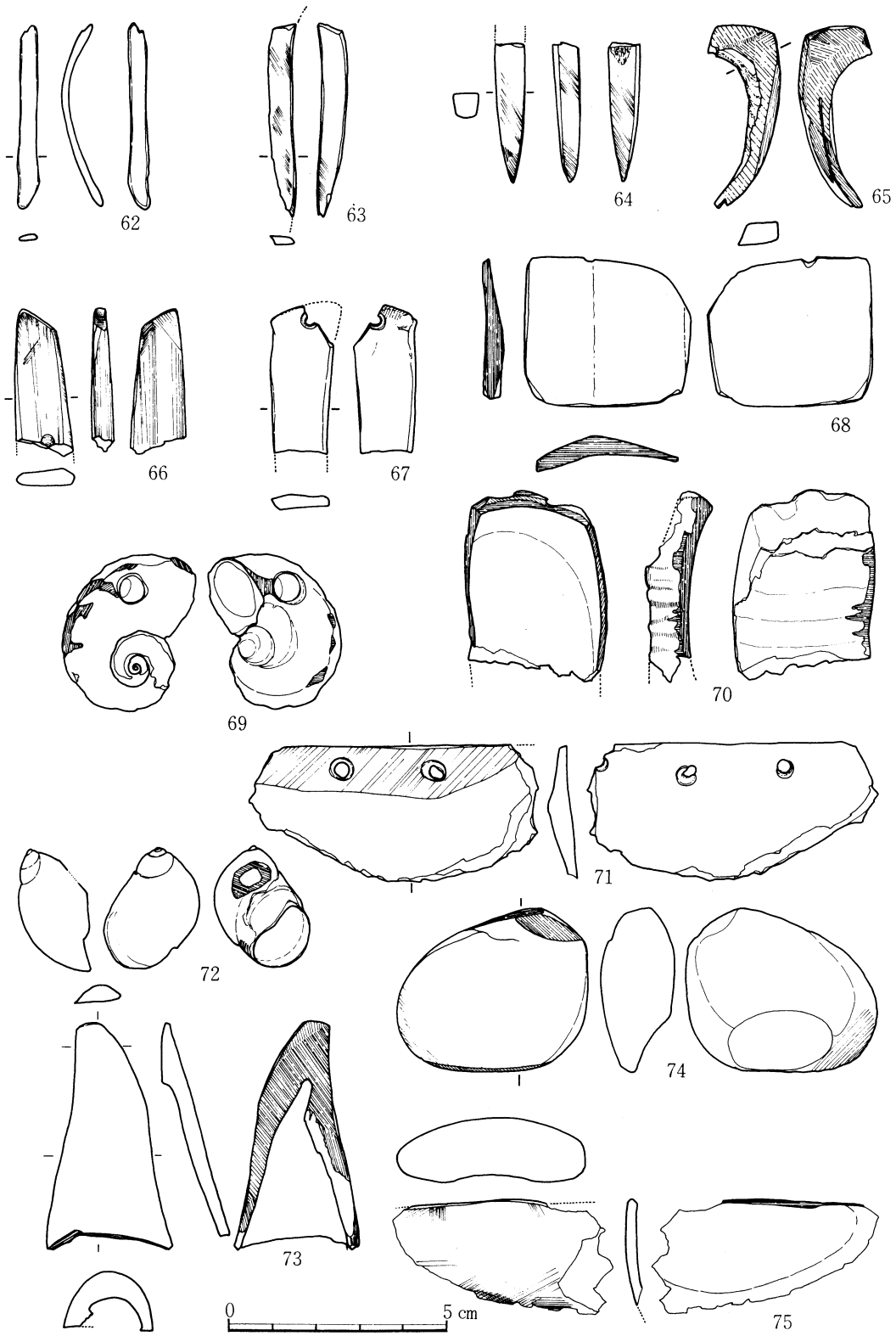
第114図　貝・骨製品－ 4（第 3 地点）

巻貝製垂飾品，ヤコウガイ等の真珠層やメンガイを利用した有孔垂飾品。また，ダイミョウイモガイやヒラサザエ・トミガイ等を研磨したものや、孔を穿った垂飾品等，オオツタノハ・ゴホウラ等の貝輪が見られる。

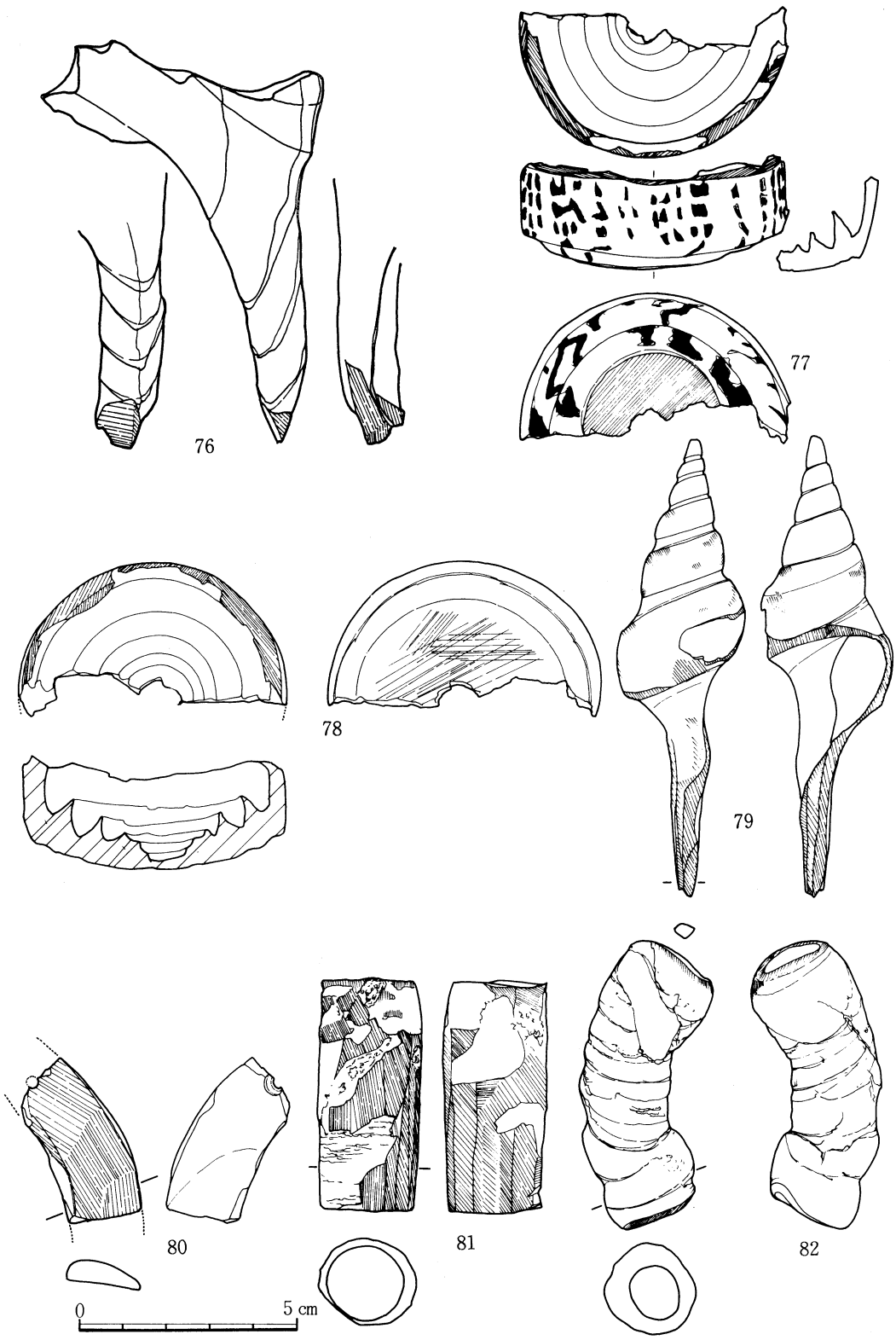
貝製利器では，水字貝の突起部の先端を加工し，刺突具やノミ状製品としたもの，ヤコウガイの体層部を皿状に打割した後，研磨で仕上げた皿状容器や柄を取りつけたヒシャク状容器・クモガイやアンボクロザメガイ等の殻軸を利用した匙状容器がみられる

その他，図示はしなかったが，ヤコウガイの体層部を皿状に打割り，周辺部を敲打製形しただけの粗製の容器が相当数出土している。

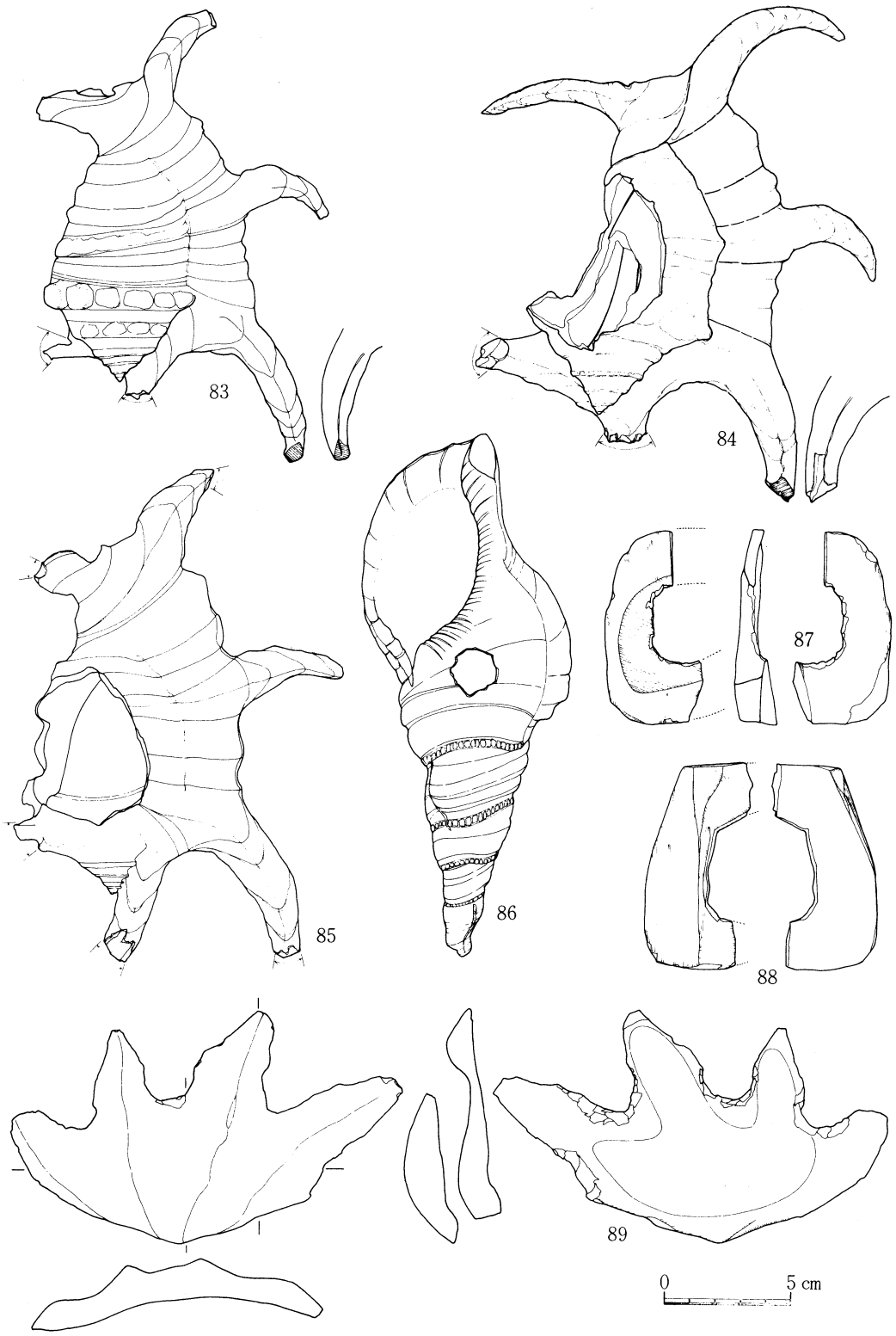
また，体層部に孔を穿った貝殻等も多く出土しているが，意図的に製品化するための作業痕跡が認められないとの判断に立ち，取り上げていない。**86**として図示したホラガイ製容器も内層近くに孔を１つ穿っているが，加熱や貫入等の痕跡は認められず，製品から除去するのがよいのかもしれない。同じように，図示したオオベッコウガサガイの貝輪の中にも，人為的なも



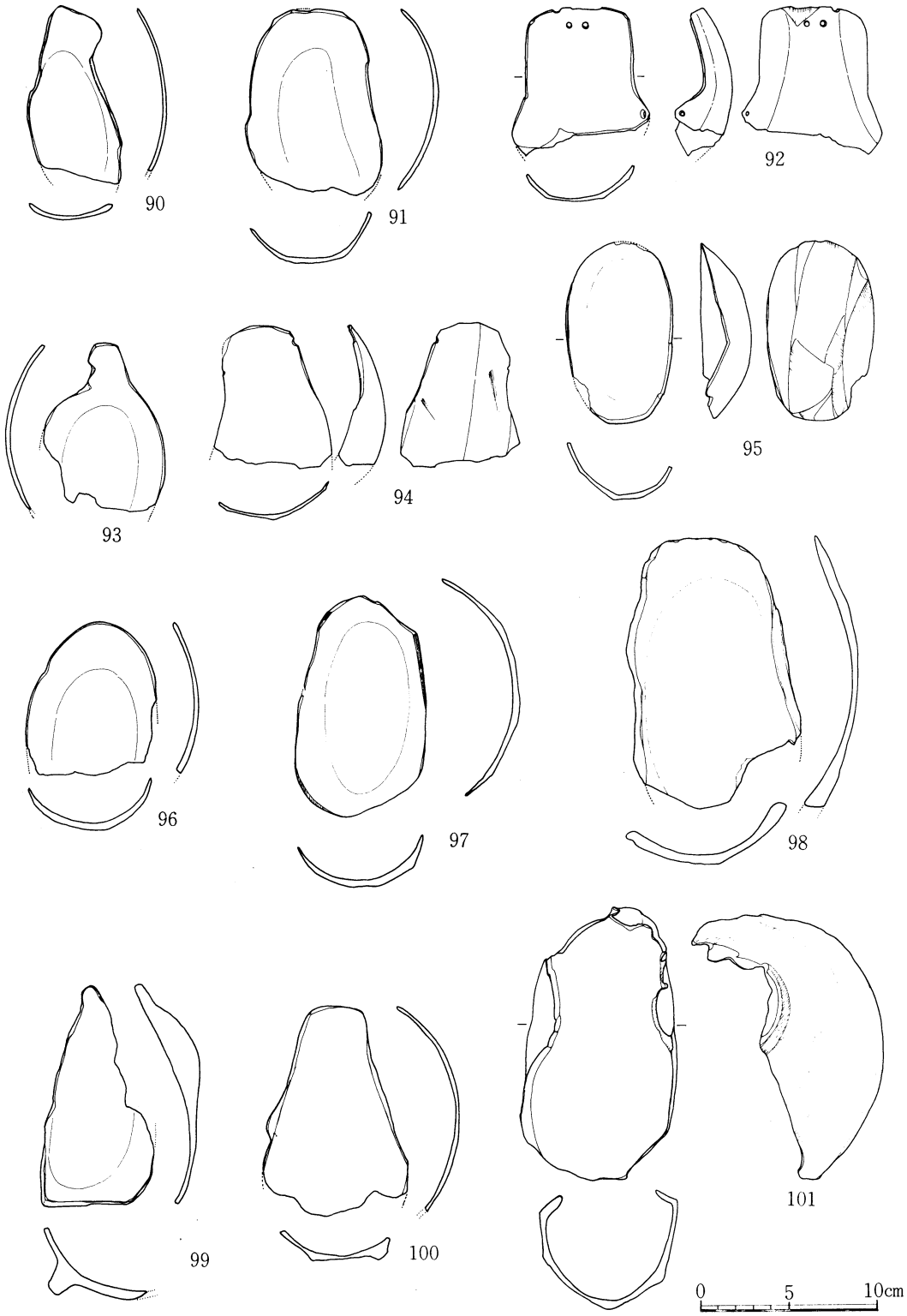
第115図　貝・骨製品－ 5(第 3 地点)



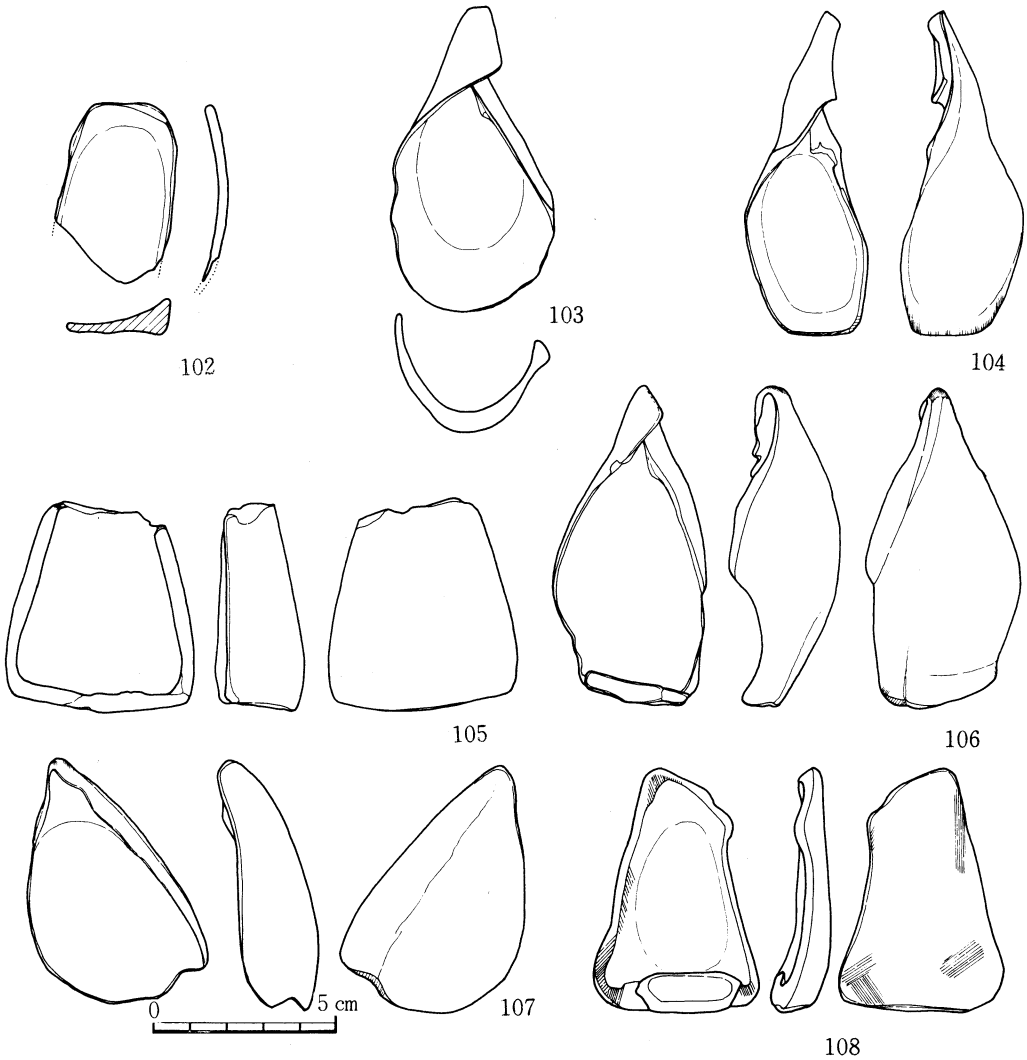
第116図　貝・骨製品－ 6（第 3 地点）



第117図　貝・骨製品－7(第3地点)



第118図　貝・骨製品－ 8（第 3 地点）

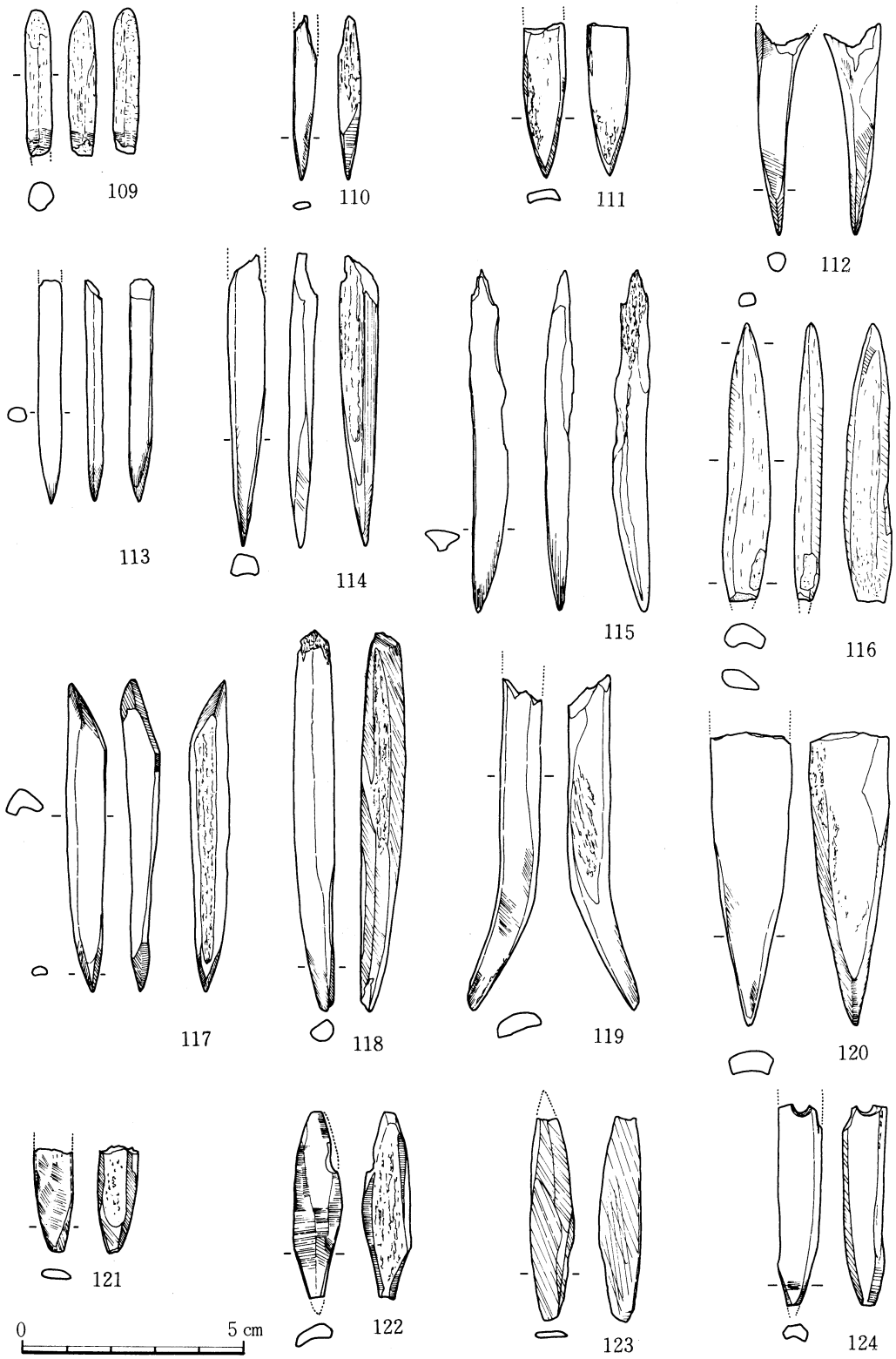


第119図　貝・骨製品－9(第3地点)

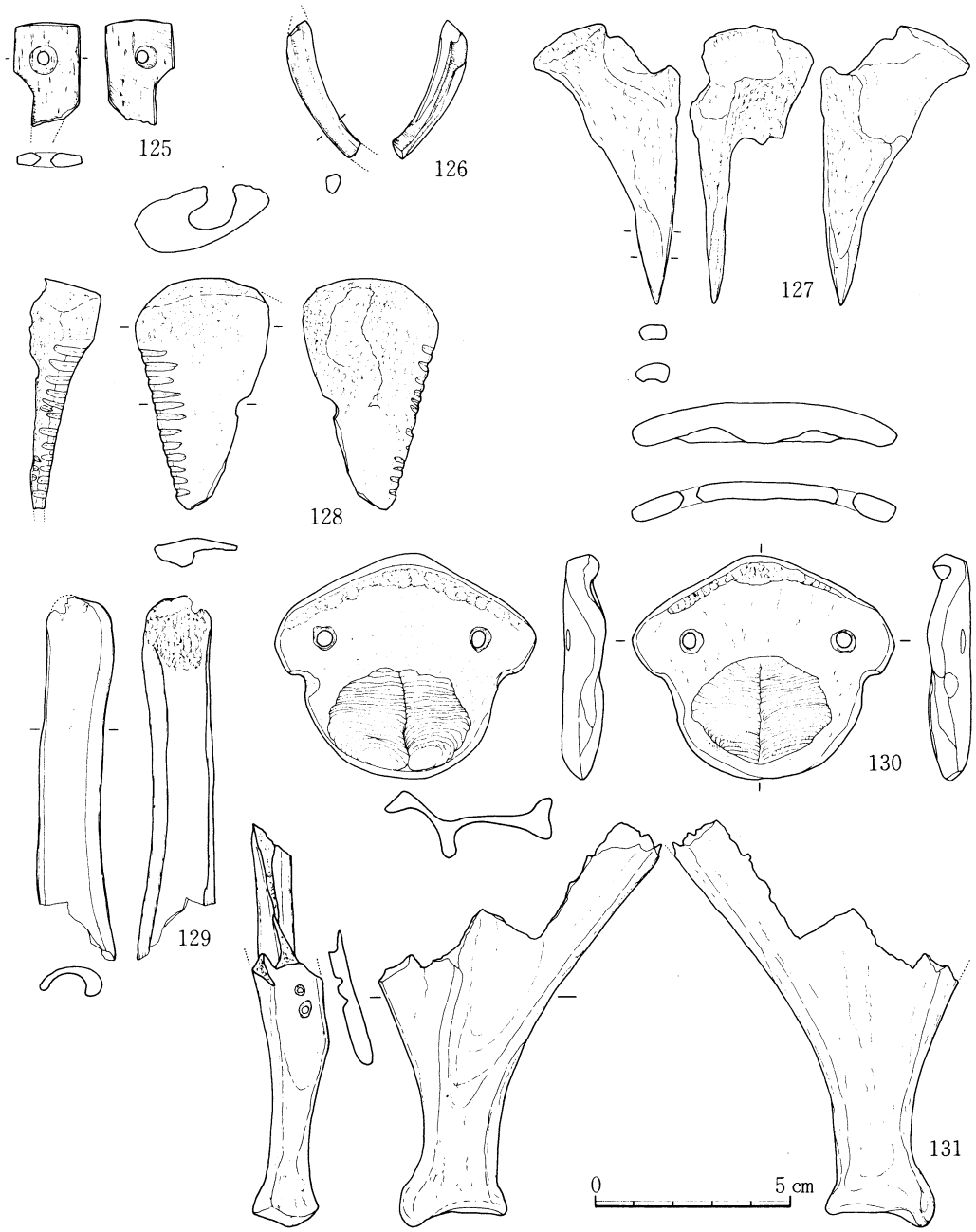
のでなく，自然に剥脱し，貝輪の形状を呈しているものもいくらかは含まれている可能性がある。

水字貝製利器の中で，突起だけを取りはずし，刺突具やメミ状刃部を持つものがある。これらに用いられた突起は，1番突起が3点，2番突起3点，3番突起0点，4番突起0点，5番突起1点，6番突起1点である。ここで，注目されることに2番突起を用いた3点の資料は，全て刺突具的形状を呈し，1番突起を用いたものは，刃部が直線的でノミ状の形状に仕上げられていることである。もともと，1番突起部は器肉の厚い部分で，2番突起部は鋭く直線的な形状を持っており，それらを使用目的に応じて有効に利用したことも考えられる。

検出した水字具の中に，各突起が破損した資料がかなりの量含まれている。詳細なデーターは出ていないが，破損状態を観察すると，突起部をハンマー様に使用した痕跡があり，再考の必要のある資料である。**85**は，その1例である。



第120図　貝・骨製品-10（第３地点）

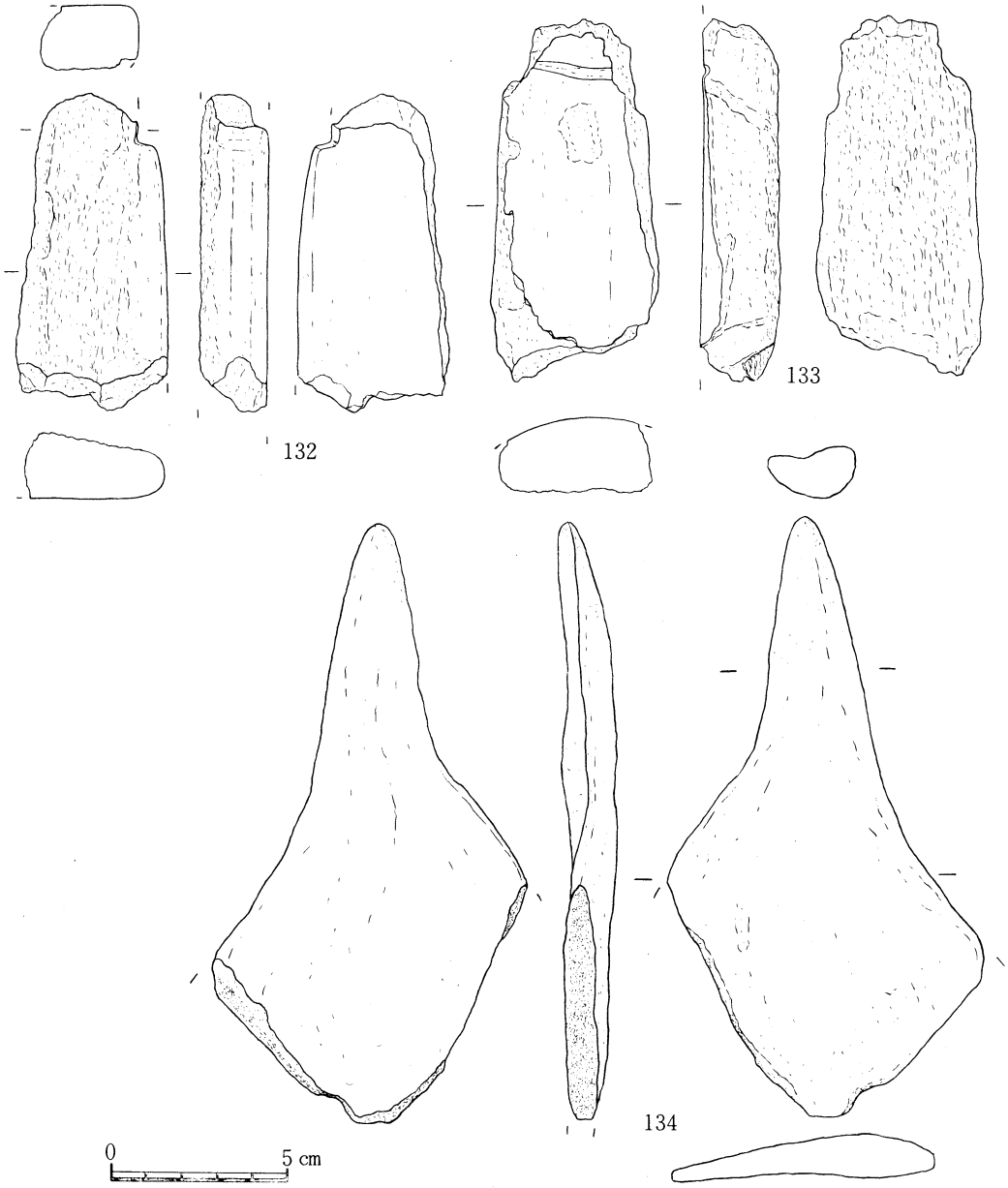


第121図　貝・骨製品-11（第３地点）

81・82の使用目的は，明らかでないが，オオヘビガイ（？）の外殻部をていねいに研磨し筒状に仕上げている。

87・88のゴホウラ製の貝輪の内側部分は，手持ちの砥石で磨いたと思われる研磨痕を残している。

21・22のメンガイは，未だに色を保ち，燈色が目立つ。



第122図　貝・骨製品-12(第3地点)

骨製品では，垂飾品，装飾品よりも，いわゆる利器の方を多く検出した。

109は，下半部に横位の線状痕が観察されるもので，骨鏃の可能性が高い資料で，南島では貴重な資料である。その他，骨針・骨錐・骨製尖頭器・ヘラ状製品等があり，中でも**116**の骨製尖頭器は，厚みのある器体で先端部は尖り，下部は扁平をなすもので，鏃・刺突具的機能を備えたものである。**132**・**133**は，海獣の肋骨を利用したと思われるもので，抉り加工や線刻が施された刀形を呈した刀形骨製品であり貴重な資料と言える。垂飾品及び装飾品では，側縁部に連続した刻みをもち，さらに，中央部に孔を穿ったもの，魚の顎骨に加工を加え，2ケ所に孔を穿ったものなど特殊とも言える製品を検出した。

表-39　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表―1（No.1）

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	名　称	素　材	備　　考
1	―	―	―	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨。周縁部に研磨による面加工。　(高さ)1.5mm×(幅)7.0mm
2	1542	Z－30	7.82	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨。周縁部に研磨。　(高さ)2.0mm×(幅)10.5mm
3	2861	Y－32	7.79	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨。周縁部に研磨。　(高さ)2.0mm×(幅)13.0mm
4	3263	Y－31	7.48	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨。周縁部に研磨。　(高さ)2.5mm×(幅)14.5mm
5	―	―	―	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨。周縁部に研磨。　(高さ)2.5mm×(幅)14.5mm
6	4820	―	6.44	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨。周縁部に研磨、加熱で黒灰色に変化　(高さ)3.5mm×(幅)15.5mm
7	3046	Z－32	7.21	貝製垂飾品	イモガイ	イモガイの螺塔部に1孔を穿つもので、ビード状を呈す。上・下面研磨（?）。周縁部に研磨（?）。　(高さ)5.5mm×(幅)19.5mm
8	2678	Z－33	7.39	貝製垂飾品	二枚貝 ?	底辺はゆるやかな凹形。両側縁は内側より研磨。三角形有孔垂飾品。(長さ)18.5mm×(幅)11.5mm
9	2523	A－32	7.32	貝製垂飾品	二枚貝	底辺は中央部が凹形。両側縁は平坦研磨。穿孔は3ケ所に試み1ケ所貫通。三角形有孔垂飾品。　(長さ)26.5mm×(幅)13.0mm
10	2352	Y－31	7.84	貝製垂飾品？	二枚貝	略三角形。各側縁は平坦研磨。(長さ)29.0mm×(幅)23.5mm
11	445	Z－31	7.75	貝製垂飾品	?	有孔垂飾状。穿孔は2個以上。猪牙状垂飾品の模造か？
12	1964	A－32	7.17	貝製垂飾品	?	有孔垂飾状。穿孔は1個。猪牙状垂飾品の模造か？
13	3107	A－32	7.03	巻貝製垂飾品	タケノコガイ	螺塔部の長軸に沿って表裏から研磨し、平坦面を形成。
14	3811	A－31	6.68	巻貝製垂飾品	タケノコガイ	螺塔部の長軸に沿って表裏から研磨し、平坦面を形成。前溝部を残す39.0mm
15	705	Z－32	7.49	巻貝製垂飾品	タケノコガイ	螺塔部の長軸に沿って表裏から研磨し、平坦面を形成。前溝部を残す36.5mm
16	3475	Z－32	7.02	巻貝製垂飾品	タケノコガイ	螺塔部の長軸に沿って表裏から研磨し、平坦面を形成。前溝部を残す49.5mm
17	3794	A－32	6.73	巻貝製垂飾品	タケノコガイ	螺塔部の長軸に沿って表裏から研磨し、平坦面を形成。前溝部を残す103.0mm
18	4850	―	6.22	巻貝製垂飾品	タケノコガイ	体層部の内唇側に円形の穿孔2個。研磨による穿孔。
19	355	A－32	7.66	有孔垂飾品	ヤコウガイ？	上・下端は欠落。2個の穿孔。真珠層を持つもので光沢あり。弯曲。
20	590	Z－29	7.98	有孔垂飾品	?	頂部欠落。2個の穿孔。穿孔は両面より実施し、くいちがいを生じている。入念な研磨。側縁部では面取り。
21	―	Z－31	―	有孔垂飾品	メンガイ	穿孔は両面より実施。側縁部は研磨整形。(長さ)43.0mm×(幅)27.0mm
22	―	Z－31	―	有孔垂飾品	メンガイ	穿孔は両面より実施。側縁部は研磨整形。右側欠落。(長さ)46.0mm×(幅)33.5mm
23	904	A－30	6.83	貝　輪？	オオベッコウガサガイ	自然剝脱の可能性もある。
24	638	Y－30	7.93	貝　輪	オオベッコウガサガイ	上面を研磨面と判断。
25	1489	Z－30	6.93	貝　輪	オオベッコウガサガイ	上面を研磨面と判断。

表-40　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表－2（No.2）

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	名　称	素　材	備　　考
26	3491	Z－32	7.61	貝　輪？	オオベッコウガサガイ	自然剝脱の可能性もある。
27	3934	Z－32	7.18	貝　輪	オオベッコウガサガイ	上面を研磨面と判断。
28	2017	A－32	7.04	貝　輪	オオツタノハ	入念な研磨により放射肋を取り去りツルツル。
29	3724	Z－32	7.17	貝　輪	オオツタノハ	上面を研磨面と判断。
30	2650	Z－31	7.48	貝　輪？	オオツタノハ	自然剝脱の可能性あり。
31	484	A－31	7.41	貝　輪？	オオツタノハ？	自然剝脱の可能性あり。
32	350	Y－30	8.25	貝　輪	オオツタノハ	上面を研磨面と判断。
33	1467	Z－30	6.91	貝　輪	メンガイ	鉸歯ちょうつがい)はそのまま残される。殻頂まで加工される。敲打整形した後に研磨。　高さ55.0mm
34	2058	Z－31	7.57	貝　輪	オオツタノハ	入念な研磨により放射肋を取り去りツルツル。
35	3583	A－32	6.77	貝　輪	オオツタノハ	入念な研磨により放射肋を取り去りツルツル。
36	1394	A－30	7.02	貝　輪	オオツタノハ	研磨により放射肋の一部を取り去る。
37	－	Z－30	－	貝　輪	ゴホウラ	
38	－	Z－30	－	貝　輪	ゴホウラ	
39	632	Y－30	7.98	貝　輪	サラサバティラ	外殻は全面に研磨。殻底は敲打整形がみられる。殻底側のコーナー部の研磨は顕著で丸味をもつ。
40	3493	Z－32	7.00	垂飾品	サラサバティラ	殻底部を使用し側縁は切断。外殻、切断面、底の内側は入念に研磨。3個の孔はすべて両面より穿つ。　64mm
41	2501	Z－32	7.55	貝　輪	サラサバティラ	外殻は全面に研磨。殻底とコーナー部は特に入念に施す。
42	8209	Z－21	7.58	水字貝製利器	スイジガイ	5番突起？　刺突具と思われ、裏面と側縁に磨耗痕が認められる。
43	3403	A－32	6.81	水字貝製利器	スイジガイ	2番突起。裏面と左側縁に研磨面があり、片刃を呈す。
44	1295	Y－30	8.01	水字貝製利器	スイジガイ	2番突起？全周より研磨。ポイント状の先端部を呈す。刺突具？
45	－	A－26	－	水字貝製利器	スイジガイ	6番突起？切断面は入念に研磨。側縁部も入念。
46	－	Z－30	－	水字貝製利器	スイジガイ	2番突起？43と同様の加工を施す。片刃。片刃の先端部に欠損（剝離痕）がみられる。
47	4590	A－30	6.67	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。敲打による破損痕。やや磨耗。
48	－	－	－	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。敲打による破損痕。
49	2776	Y－33	7.81	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。切断面に研磨。先端部は破損痕。
50	4433	Z－31	－		ミガキボラ	殻軸を敲打具(ハンマー)として使用したと思われる。敲打による破損がみられる。

表-41　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表－3（No.3）

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	名　称	素　材	備　　考
51	－	－	－	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。先端部が破損。その他加工なし。
52	－	－	－	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。裏面と左側縁に研磨面。右側縁部は破損。刺突具か？
53	4592	A－31	6.63	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。縦刃タイプ。表・裏よりノミ状に加工。研磨は両面とも横位。使用痕が残る。
54	698	Z－32	7.71	水字貝製利器	スイジガイ	突起部を取り外し、外殻部を全面研磨。先端部は平坦面をなしている加熱のため灰色に変化。
55	2301	Z－31	7.63	水字貝製利器	スイジガイ	突起部を取り外し、全面研磨。裏面は平坦面に仕上げる。ヘラ状の形状に造り出す。
56	2302	Z－31	7.91	水字貝製利器？	スイジガイ	突起部を取り外し、全面研磨。裏面は溝を残して研磨加工。表面は研磨による面取り加工。穿孔は表より。
57	3389	－	－	水字貝製利器	スイジガイ	突起部を取り外し、全面研磨。外殻は残らない。先端部は平坦面。結束状の抉入加工。
58	4037	Y－32	7.09	利　　器	サソリガイ	3ケ所の突起部を利用している。切断面研磨。突起部の裏面は先端部のみ研磨。表面は研磨により平坦面形成。
59	4419	Y－32	7.88	垂 飾 品？	ダイミョウイモガイ	螺塔部を取り外し、殻底部を使用したもの。研磨加工。中央部は穿孔したと思われる。
60	537	Z－29	7.60	垂 飾 品	ダイミョウイモガイ	螺塔部を取り外し、殻底部を使用したもの。研磨加工。
61	2500	Y－31	7.79	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	真珠層を加工。研磨による抉入加工。全面研磨。
62	3722	Z－32	7.16	？	ヤコウガイ？	全面研磨仕上げ。　41.5mm
63	－	Z－31	－	？	ヤコウガイ？	半損品、研磨仕上げ。
64	729	Z－32	7.92	利　　器	ヤコウガイ	全面研磨。研磨による4面の面取り加工。先端部は四角。錐の頂部に相当する。刺突具か？
65	9084	－	8.51	利　　器	サソリガイ	突起部の一部を利用。全面研磨。研磨による面取り加工。　41.0mm
66	3538	A－32	7.06	利　　器	サソリガイ？	全面研磨。ヘラ状の形状を呈す。穿孔の痕跡があるが貫通せず。
67	－	Y－32	－	垂 飾 品	サソリガイ？	全面研磨。穿孔は両面から。
68	3336	Z－31	7.51	垂 飾 品	二枚貝？	完形品。全面加工。真珠層で整形。
69	－	Z－30	－	垂 飾 品	ヒラサザエ	殻頂部を取り外し＿＿＿に孔を穿つ。＿＿＿も研磨。
70	4375	Z－31	6.58	皿状容器	ヒラサザエ	全周加工。外殻部も研磨。小型の皿状に仕上げる。
71	－	－	－	垂 飾 品	カ　キ	外殻部研磨。2個の孔は両面より穿つ。
72	2249	Y－31	7.47	垂 飾 品	トミガイ	腹部に研磨による孔を穿つ。
73	－	Y－31	7層	利　　器	イモガイ	半截した後，裁断面を研磨。全面研磨。　50mm
74	2335	Z－31	7.34	？	シャコガイ？	全面研磨。
75	2449	Z－31	7.70	利　　器？	ヤコウガイ	上位に稜を設け、研磨。目的不明。

表-42　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表－4（No.4）

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	名　称	素　材	備　　考
76	－	A－21	－	利　　器	イトマキボラ	殻口を取り外し、螺軸は縦位の研磨。先端部欠損。 104.0mm
77	7007	A－26	6.50	垂 飾 品	ダイミョウイモガイ	螺塔部を取り外し、殻底部を利用。底部、切断面研磨。
78	－	－	－	垂 飾 品	ダイミョウイモガイ	螺塔部を取り外し、殻底部を利用。底部、切断面研磨。
79	8217	Z－21	7.66	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起。縦刃に仕上げる。
80	－	Z－31	－	垂 飾 品	スイジガイ	表面研磨。穿孔は裏面から。
81	8057	A－23	7.22	垂 飾 品	ヘビガイ	切断面研磨。表面は研磨による面取り加工。 (長さ)52.0mm×(径)21.5mm
82	8057	A－23	7.22	垂 飾 品	ヘビガイ	切断面研磨。 (長さ)64.5mm×(径)23.0mm
83	1249	Z－29	7.08	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起研磨。2、3番突起敲打による欠損。
84	457	Z－31	－	水字貝製利器	スイジガイ	1番突起研磨。2、3番突起敲打による欠損。
85	－	－	－	水字貝製利器	スイジガイ	1、2、3、4、5番突起敲打による欠損。
86	3724	Z－32	7.17	ホラガイ容器？	ホラガイ	内唇近くに1孔を穿つ。加熱痕跡は認めず。
87	－	Z－30	－	貝　　輪	ゴホウラ	全面研磨。内側縁部は敲打加工。
88	－	Z－31	－	貝　　輪	ゴホウラ	全面研磨。内側縁部は敲打による一次加工の後、研磨。
89	4489	A－31	7.84	利　　器	シ ャ コ	ヒレを全て取り去り、その後研磨。凹部は剝離加工。
90	3878	Z－33	7.35	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	精製（小）
91	4826	－	6.46	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	精製（大）
92	2838	－	－	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	精製（大）有孔
93	3653	Z－32	7.44	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	精製（大）
94	4470	Z－31	7.90	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	精製（大）
95	4553	A－31	6.79	皿状容器	ヤコウガイ	精製（大）
96	493	A－30	7.14	皿状容器	ヤコウガイ	精製（大）
97	3543	Z－32	7.60	皿状容器	ヤコウガイ	粗製（大）
98	－	Z－32	－	皿状容器	ヤコウガイ	粗製（大）
99	496	A－30	7.15	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	粗製（大）
100	3436	Y－32	7.76	ヒシャク状容器	ヤコウガイ	粗製（大）

表-43　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表―5（No.5）

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	名　称	素　材	備　　考
101	2778	Z－32	7.39	皿状容器	ヤコウガイ	精製（大）
102	835	Z－30	7.64	皿状容器	ヤコウガイ	粗製（小）
103	4733	Z－32	6.50	匙状容器	クモガイ	殻軸利用。
104	1434	Z－30	7.34	匙状容器	クモガイ	殻軸利用。
105	―	―	―	匙状容器	アンボンクロザメガイ	殻軸利用。
106	―	―	―	匙状容器	?	殻軸利用。
107	919	Z－29	7.78	匙状容器	?	殻軸利用。
108	577	A－29	7.25	匙状容器	イモガイ	
109	1908	A－32	7.36	骨　鏃		寸づまりの棒状を呈し、先端が尖る。下位に線状痕をもつ。この下位を基部に見立てるなら、骨鏃として捉えることができる。
110	1791	A－30	6.32	骨　錐 骨　針？		先端が尖る。骨の内面をのぞかせ、全形はかなり細い。
111	3704	Z－32	7.37	ヘラ状製品 骨型尖頭器？		先端が尖り板状を呈す。刺突具あるいはヘラ状道具の先端部分他が考えられる。
112	946	A－30	7.13	骨　錐 骨　針		先端が尖り、他端がふくらむ。針、錐といった工具であろう。上位破損面に穿孔を思わせる部分をみるものの判然としない。
113	1167	A－30	6.47	骨　針 骨製尖頭器？		先端が尖る。細長い棒状の形態が特徴的である。針、錐といった工具か？
114	1969	Z－31	7.38	骨製尖頭器		先端が尖り、厚みももたせてある。裏面に髄空部をみせる。
115	2882	Y－32	7.11	骨製尖頭器？		先端が尖る。細長くやや弯曲する。針、錐といった工具か？髪針の軸部の形態にも似るが、本遺跡に髪針完形品はない。
116	4607	Z－31	6.78	骨製尖頭器		先端が尖り、厚みのある器体。裏面には髄空部のくぼみをみせる。下位は扁平。形態からヤス・鏃といった狩猟、漁撈用の刺突具も想起される。その場合、下位の形状は柄との装着に適切なものといえよう。
117	4338	Z－31	6.86	骨製尖頭器 骨 錐 ？		先端尖り、厚みをもたせてある。後端太い。裏面に髄空部をみせる。
118	4659	Z－31	6.71	骨　錐		
119	1470	Z－29	6.83	弯曲刺具		
120	1400	Y－30	7.80	骨　錐		
121	4578	Z－30	7.60	ヘラ状製品 骨 鏃 ？		下位がしまり、小型の葉形を呈す。板状の骨鏃も思わせるが判然としない。あるいは工具か？
122	680	A－31	7.10	ヘラ状製品		下位がしまり、小型の葉形を呈す。板状の骨鏃も思わせるが判然としない。あるいは工具か？
123	4733	Z－32	6.50	ヘラ状製品		下位がしまり、小型の葉形を呈す。板状の骨鏃も思わせるが判然としない。あるいは工具か？
124	1541	Z－30	6.86	針状骨製品		先端に向けて絞り込まれ、尖る様である。他端に穿孔もみられる。縫い針、編み針のような道具を想起させる。
125	3204	Z－31	7.46	装飾品？		骨素材を板状に仕上げ、さらに穿孔を施す。髪針の頭部の可能性もあるが、判然としない。

表-44　下山田Ⅱ遺跡出土貝製品・骨製品観察表－6（No.6）

No.	取上No.	出土区	レベル(m)	名　称	素　材	備　　考
126	803	Z－30	7.60	不明品		表面にエナメル質を残す。獣歯か？　一部、加工痕をみせる
127	4709	Z－32	6.53	骨　錐		上位に関節部分を残し、下位は半截され、さらに丁寧な整形により尖る。
128	3162	Z－31	7.13	装飾品？		獣骨製で板状をなす。側縁に刻み、中央に穿孔をもつ。髪針の頭部の可能性もあるが判然としない。
129	2030	Z－31	7.03	骨　篦？		獣骨を半截したもので、半截部分もよく磨かれている。ヘラ状の道具か？
130	2910	Z－31	7.28	垂飾状製品		魚類顎骨(ハリセンボン？)に2ケ所の穿孔を持つものである。表裏に加工痕も残す。
131	1274	－	－	刺突痕をもつ肩甲骨		獣骨の肩甲骨に貫通しない2点の孔が観察される。狩猟時、あるいは呪術的行為の痕跡か？
132	2787	Y－33	7.72	骨　刀(刀形骨製品)		多孔質の海獣骨を素材とする。 132は片側が鈍い稜状をなし、刀形を呈する。133は類品か？共に表面が黒く焼けている。また、132は片側に抉りが、133は横位線刻がみられる。
133	3331	Y－32	7.84	骨　刀(刀形骨製品)		
134	－	A－26	－	骨　篦？		幅広の骨素材から作り出され、先端が鈍く尖る。ヘラ状の道具か？

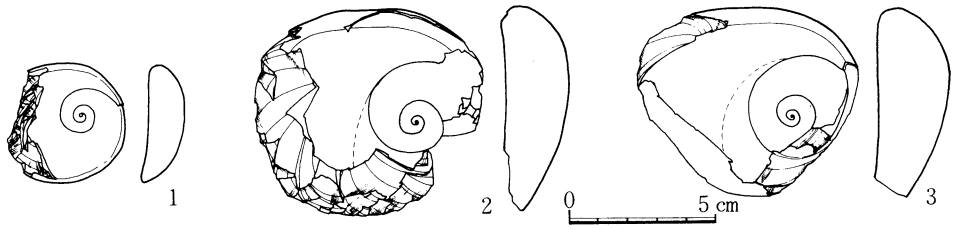
6）出土遺物―螺蓋製貝斧（第123～129図）

総数 180点程出土し，115点について図示している。

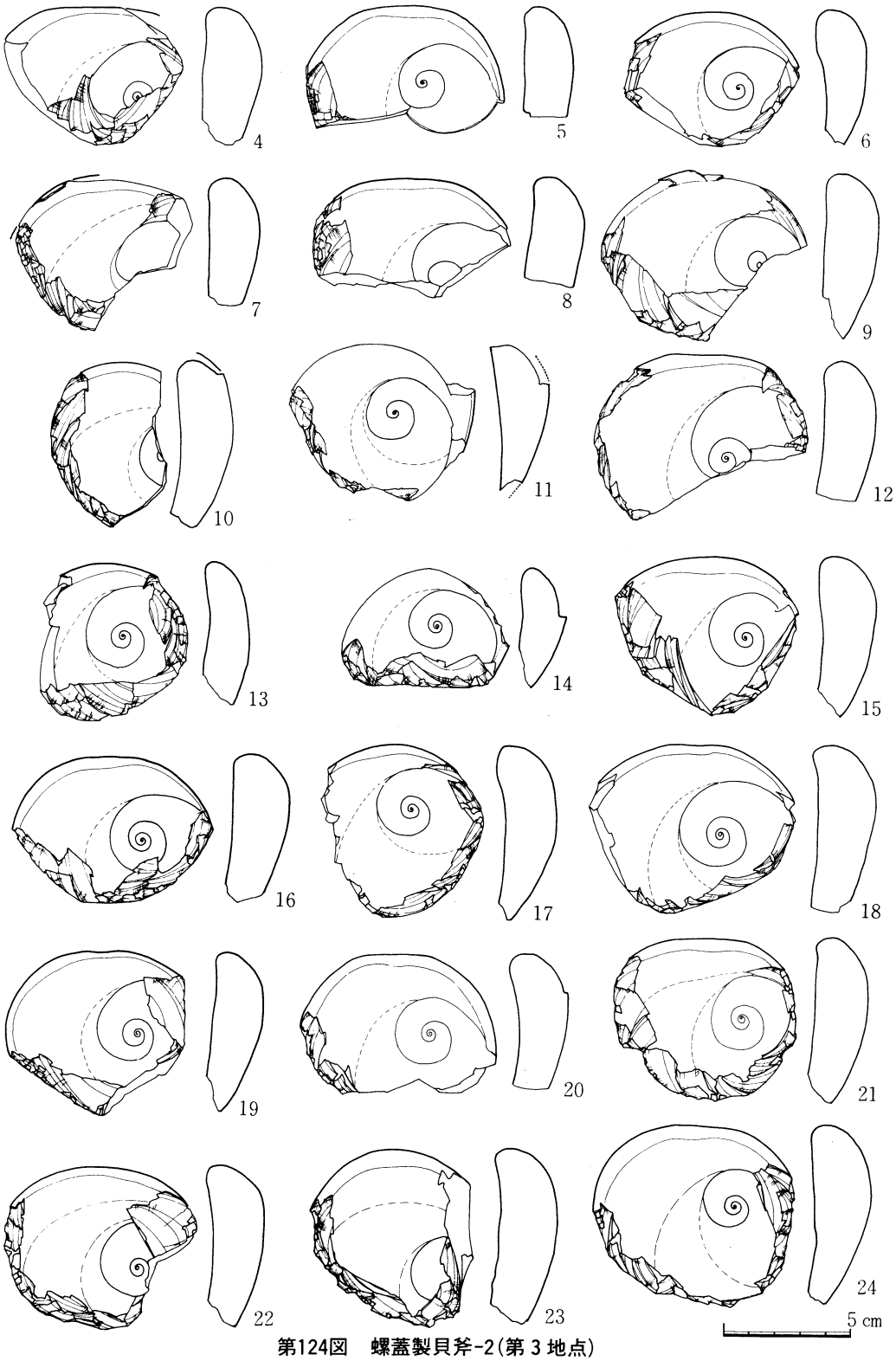
この製品（利器）は，螺蓋を何らかの目的で用いたことにより，螺蓋自体が破損したものであり，それらを対象として取り扱っている。

この製品については，貝刃・貝斧・螺蓋製貝斧・螺蓋利器・ヤコウ貝製スクレイパーと各種の名称で呼ばれ，また，その用途についても名称と応じた区別が行われている。しかし，各種名称で呼ばれてはいるが，刃部ないしは目的部を意図的に造作・作出したと思われるものはほとんど認められず，用いた結果の残存物であることには違いない。言いかえると，使用したことにより，対象物との間に生じた力の反発により螺蓋が潰れ，剥落し，破砕した姿であると言える。

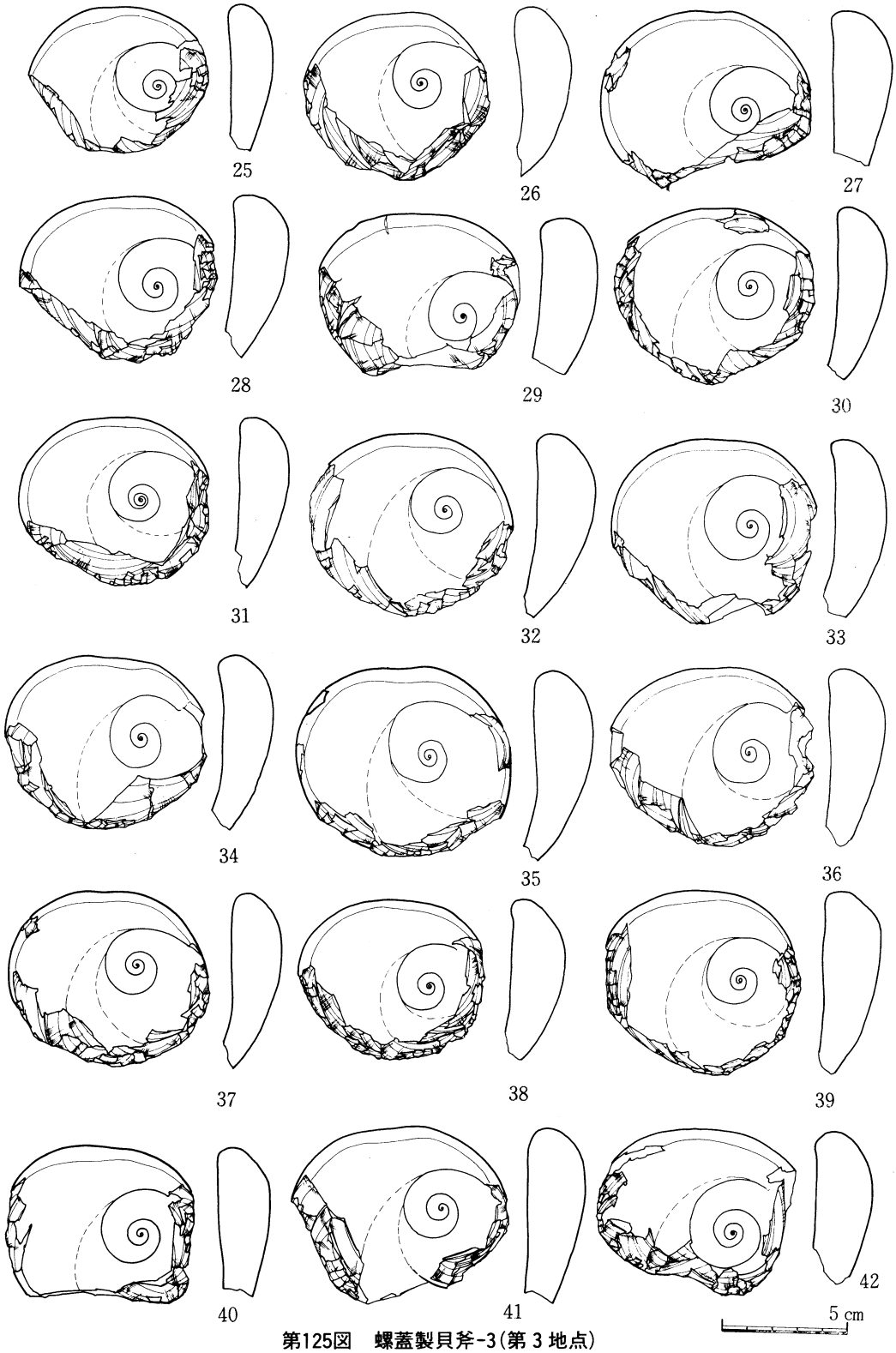
そこで，破損状況から察せられる用途は，敲く，割る・切り取る・剥ぐ・調整する等の多目的に，用いられていたことがうかがえる。



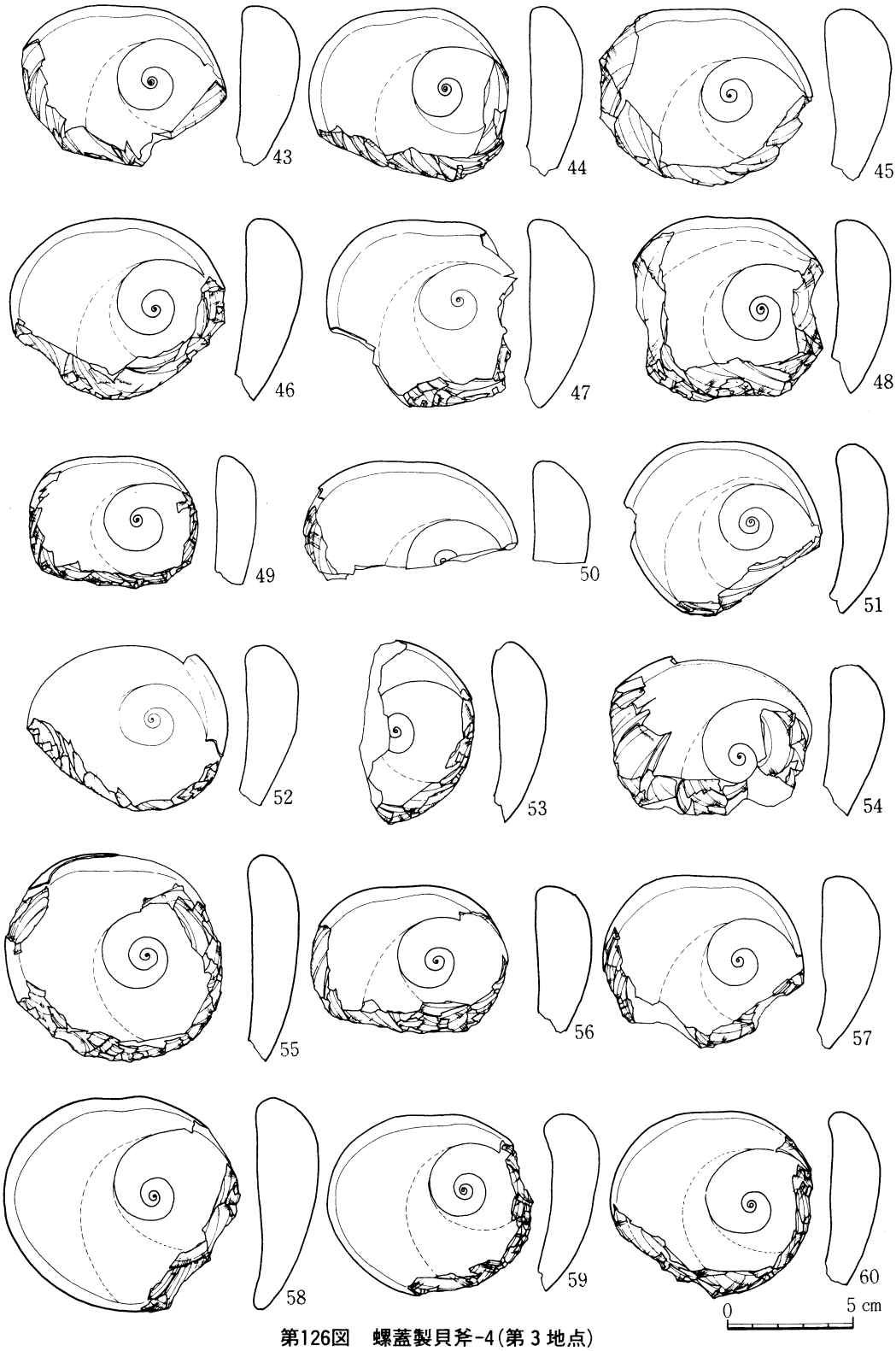
第123図　螺蓋製貝斧-1（第3地点）



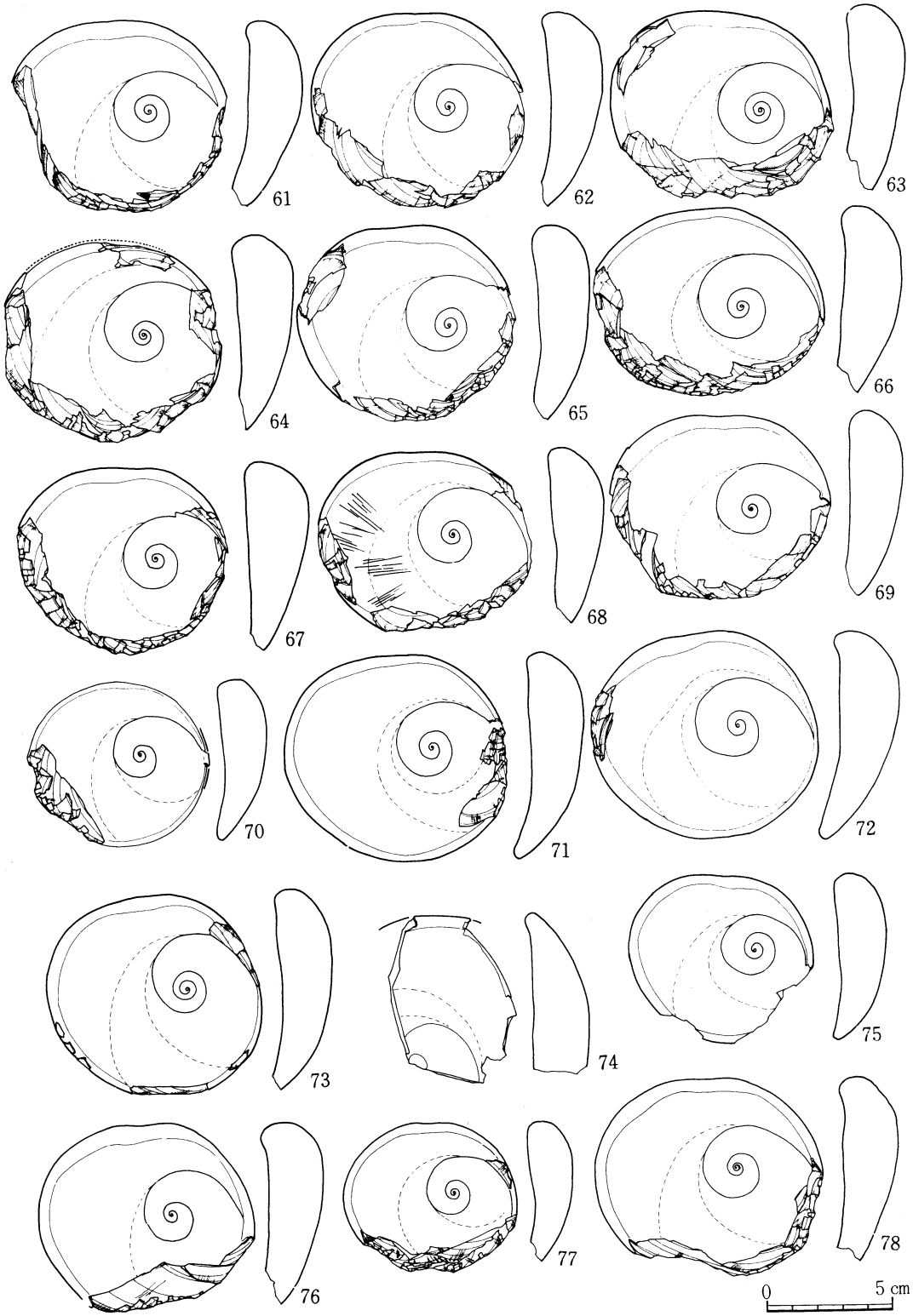
第124図　螺蓋製貝斧-2(第3地点)



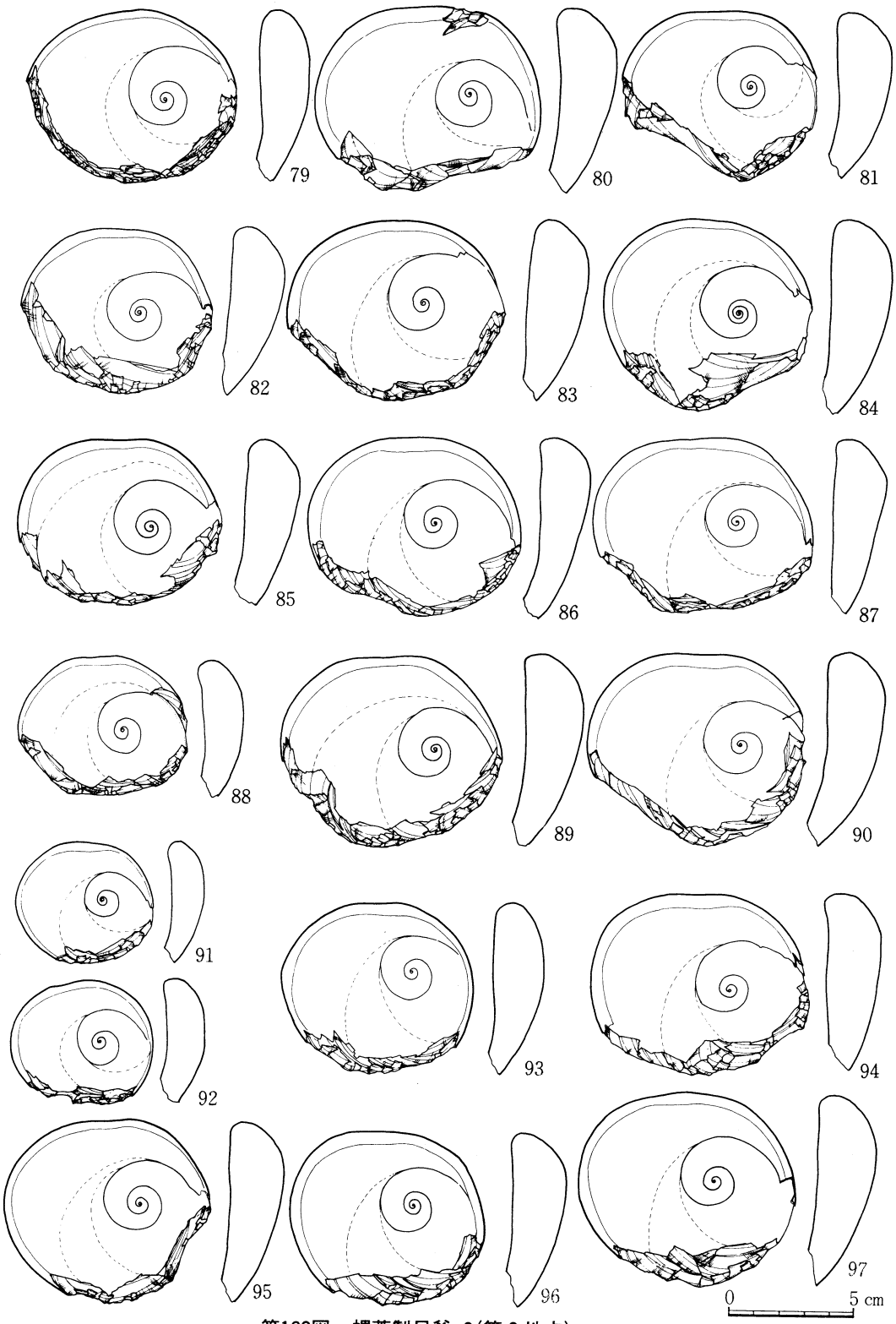
第125図　螺蓋製貝斧-3(第3地点)



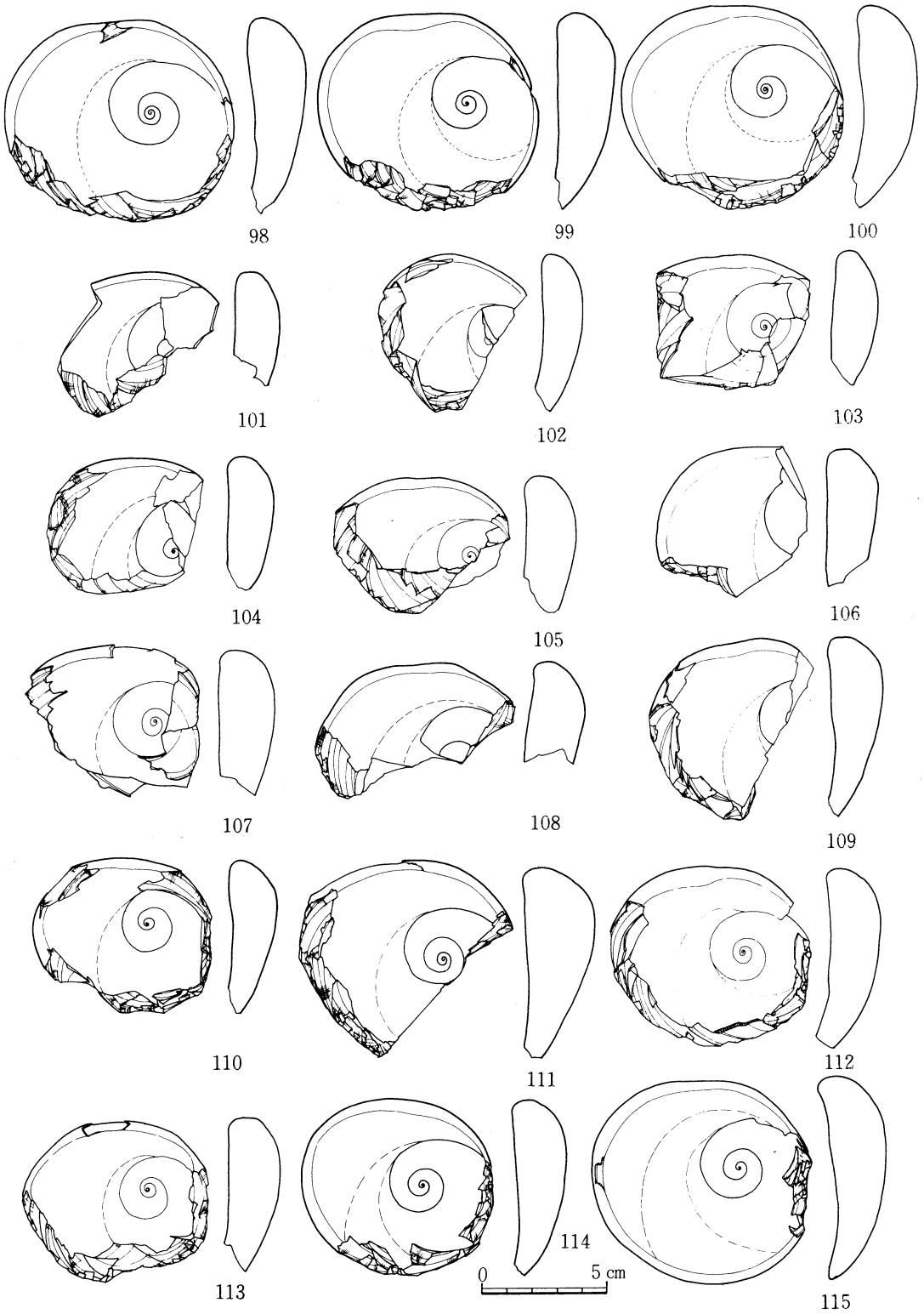
第126図　螺蓋製貝斧-4(第3地点)



第127図　螺蓋製貝斧-5(第3地点)



第128図　螺蓋製貝斧-6(第3地点)



第129図　螺蓋製貝斧-7(第3地点)

表45　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－1（20～24区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
1	8230	A－21	7.53	29.0
2	8221	A－21	7.59	160.0
3	8238	A－20	7.66	166.0

表46　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－2（26～28区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
—	7031	A－26	6.78	212.0
—	100	A－26	6.93	180.0
—	7024	A－26	6.51	146.0

表47　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－3（29～33区）

報告書%	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
4	3194	Y－32	7.18	139.0
5	1627	Z－30	6.43	115.0
6	649	Y－30	7.90	96.0
7	3604	Z－32	7.37	100.0
8	3610	Z－31	7.27	116.0
9	2913	Z－32	7.11	126.0
10	2538	Z－32	7.08	81.0
11	1512	Z－30	6.90	110.0
12	1357	Z－30	7.17	139.0
13	3599	Z－32	7.22	116.0
14	3078	Y－32	7.48	74.0
15	369	A－31	7.70	129.0
16	4409	Y－31	7.82	152.0
17	4328	A－31	6.28	121.0
18	3668	Z－32	7.18	174.0
19	2793	Z－31	7.11	126.0
20	—	Z－30	—	134.0
21	346	A－30	7.76	145.0
22	—	Y－33	—	136.0
23	3442	Y－32	7.70	141.0
24	4119	Z－30	—	162.0
25	1582	Z－30	6.69	106.0
26	1166	A－30	6.63	136.0
27	3150	Z－31	7.28	166.0
28	4241	Z－31	7.09	150.0
29	347	A－29	7.73	180.0
30	2799	Z－32	7.31	145.0
31	1098	Z－29	7.25	131.0
32	—	Z－30	—	164.0
33	4228	A－32	6.50	166.0

表48　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－4（29～33区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
34	1175	A－30	6.59	160.0
35	4367	Z－31	6.62	200.0
36	241	Z－29	8.15	181.0
37	4335	A－31	6.31	161.0
38	3862	A－32	6.58	141.0
39	1138	A－30	6.98	169.0
40	4615	Z－31	6.98	145.0
41	4551	Y－31	8.03	193.0
42	3096	Y－32	7.56	176.0
43	－	Y－30	－	162.0
44	4684	Z－32	6.54	163.0
45	1917	Z－31	7.14	199.0
46	1486	Z－30	6.75	184.0
47	1563	Z－30	6.74	189.0
48	3737	Z－32	6.86	169.0
49	1269	A－30	6.58	89.0
50	4543	Z－31	7.27	120.0
51	－	Z－31	－	135.0
52	3337	Y－32	7.72	146.0
53	4583	Z－30	7.22	70.0
54	3329	Y－32	7.87	151.0
55	1799	A－30	6.16	223.0
56	4731	Z－32	6.69	146.0
57	4090	A－31	6.57	164.0
58	2789	Y－32	7.81	232.0
59	4348	Z－31	6.71	151.0
60	2831	Z－31	7.23	156.0
61	1402	Y－30	7.66	180.0
62	4158	Z－32	7.86	190.0
63	4443	A－31	6.22	210.0

表49　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－5（29～33区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
64	3113	Y－32	7.70	204.0
65	2149	Z－31	7.42	196.0
66	1516	Z－30	6.81	226.0
67	－	Z－30	－	204.0
68	558	Z－30	7.80	166.0
69	3192	Y－32	8.55	201.0
70	1748	A－30	6.26	111.0
71	3659	Z－32	7.05	246.0
72	3841	Z－32	7.24	254.0
73	2739	Z－32	7.45	223.0
64	4459	Y－32	8.31	109.0
75	4717	A－32	6.63	134.0
76	1165	A－30	6.47	196.0
77	2414	Z－31	7.47	96.0
78	955	Z－30	7.63	225.0
79	1248	Z－29	7.07	169.0
80	1823	A－30	6.25	214.0
81	－	Z－30	－	256.0
82	3224	Z－32	7.67	141.0
83	2084	A－31	6.56	194.0
84	3575	Z－32	7.55	204.0
85	2002	Z－31	7.62	169.0
86	1628	A－30	6.72	180.0
87	2864	Z－32	7.31	202.0
88	2350	Z－31	7.72	89.0
89	1307	Y－30	7.72	210.0
90	－	Z－30	－	209.0
91	1806	A－30	6.37	56.0
92	3940	Z－32	7.28	69.0
93	2094	Z－31	7.11	146.0

表50　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－6（29～33区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
94	—	Z—32	7.00	192.0
95	739	Y—32	8.00	160.0
96	3563	Z—31	7.04	160.0
97	4562	Z—31	7.34	211.0
98	2046	A—31	6.93	230.0
99	2076	Z—31	7.62	216.0
100	—	Z—32	—	240.0
—	4614	Z—31	7.00	176.0
—	4716	A—31	6.58	207.0
—	—	—	—	179.0
—	2156	Z—31	7.37	56.0
—	2833	Y—33	7.86	169.0
—	2501	Z—32	7.55	131.0
—	962	A—30	6.63	194.0
—	2344	Z—32	7.24	196.0
—	3792	Z—33	7.47	170.0
—	4107	Y—32	6.67	189.0
—	4518	A—31	7.29	141.0
—	—	—	—	90.0
—	4337	A—32	6.05	149.0
—	389	A—31	7.82	126.0
—	3498	A—32	6.89	202.0
—	—	—	—	124.0
—	—	—	—	80.0
—	4059	Z—32	6.93	145.0
—	4412	Y—31	7.62	166.0
—	428	Y—31	8.14	114.0
—	3734	A—32	6.87	154.0
—	—	Z—30	—	149.0
—	364	A—31	7.64	136.0

表51　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－7（29～33区）

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
—	—	—	—	73.0
—	103	Z—30	7.88	131.0
—	4226	A—32	6.47	134.0
—	2633	Z—32	7.74	69.0
—	2634	Y—32	7.69	71.0
—	36	—	—	46.0
—	4210	A—31	7.09	212.0
—	1910	A—31	7.02	144.0
—	1945	A—31	6.90	176.0
—	—	A—30	—	170.0
—	2630	Z—31	7.10	166.0
—	1444	Y—30	7.64	206.0
—	1459	Z—30	6.94	166.0
—	—	Z—30	—	136.0
—	4558	A—31	6.82	165.0
—	2401	Z—32	7.31	194.0
—	4055	Z—32	7.03	104.0
—	903	A—30	6.91	170.0
—	4366	Z—31	6.71	176.0
—	310	Y—30	8.15	134.0
—	3399	Y—32	7.74	154.0
—	2715	Z—31	7.39	224.0
—	—	Z—31	—	144.0
—	—	A—30	—	180.0
—	1442	Y—30	7.74	179.0
—	3726	Z—32	7.14	204.0
—	1953	A—31	6.94	171.0
—	1974	A—31	6.77	159.0
—	3848	Z—32	7.46	176.0
—	771	Y—32	8.00	150.0

表52　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表－8（29～33区）

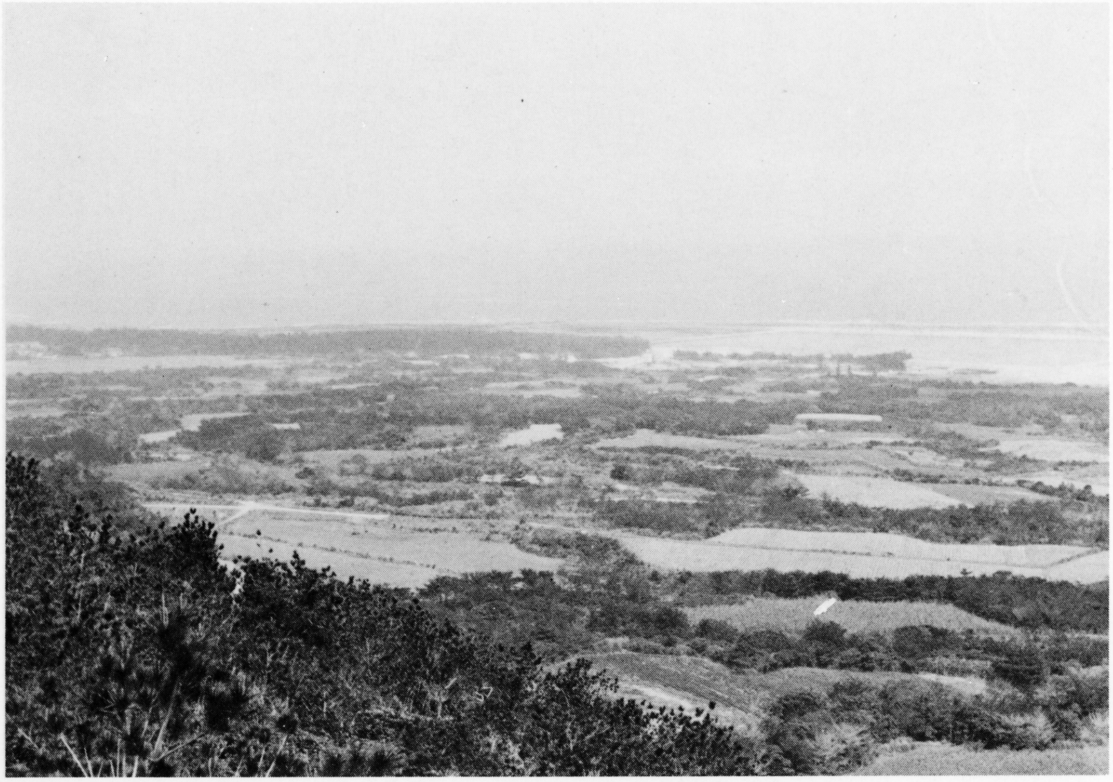
報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
—	2029	Z—31	7.29	139.0
—	—	A—32	—	149.0
—	3030	Z—32	7.09	176.0
—	—	A—32	—	138.0
—	2594	Z—31	7.43	94.0
—	4044	Y—32	7.05	149.0
—	2660	Z—31	7.62	44.0
—	2694	Z—31	7.31	50.0
—	4241	Z—31	7.09	41.0
—	40	——	—	109.0
—	2714	Z—31	7.45	70.0
—	4351	A—31	6.17	24.0

表53　下山田Ⅱ遺跡出土螺蓋製貝斧
一覧表9採集品

報告書No.	取り上げNo.	出土区	レベル(m)	重さ(g)
101	9	—	—	84.0
102	—	—	—	76.0
103	—	—	—	112.0
104	35	—	—	101.0
105	—	—	—	112.0
106	—	—	—	110.0
107	—	—	—	146.0
108	4843	—	6.80	114.0
109	4704	—	—	114.0
110	—	—	—	115.0
111	—	—	—	199.0
112	—	—	—	180.0
113	—	—	—	133.0
114	—	—	—	152.0
115	2887	—	—	225.0

図　　版

図版 1



アマンデーの丘(高岳)からの遠景

第1地点　8区～11区　調査風景

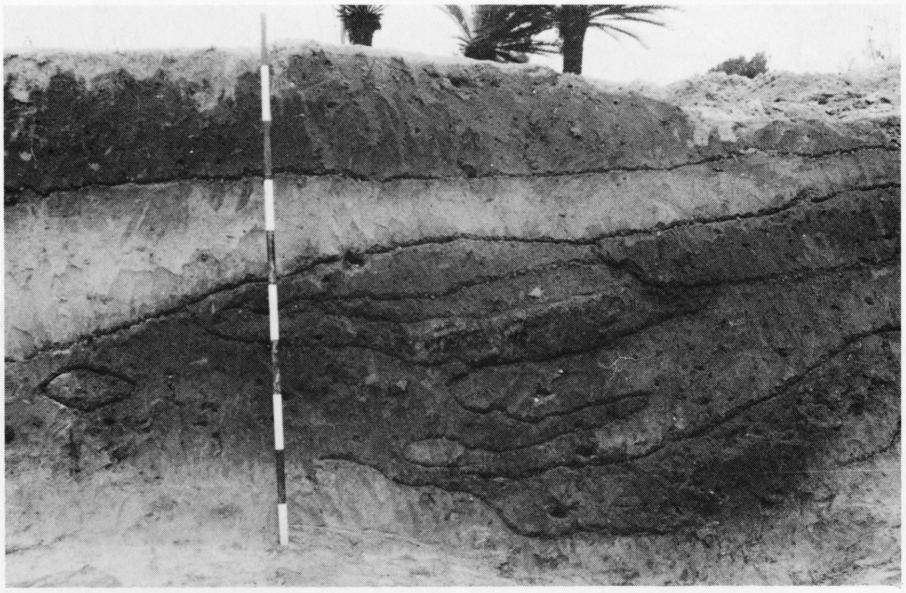
第１地点（南側）旧海岸線

第３地点26区～29区（北側より）

26～29区（南側より）

図版 3

第３地点　南壁全体図



31区南壁部分図

25区北壁部分図

第３地点　遺構出土状況（西側より）

第３地点　遺構・遺物出土状況（東側より）

図版 5

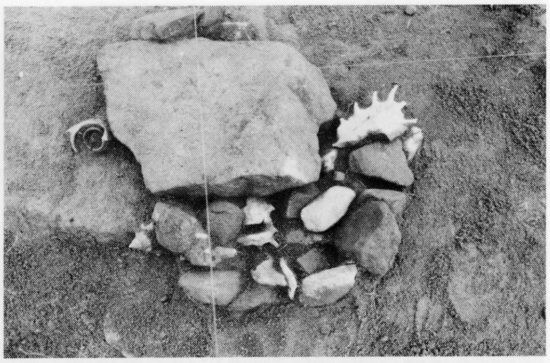
第１地点　遺物出土状況

第３地点　遺物出土状況

第３地点　７号集石遺構（上面）

第３地点　７号集石遺構（側面）

第３地点　12号集石遺構（検出時）

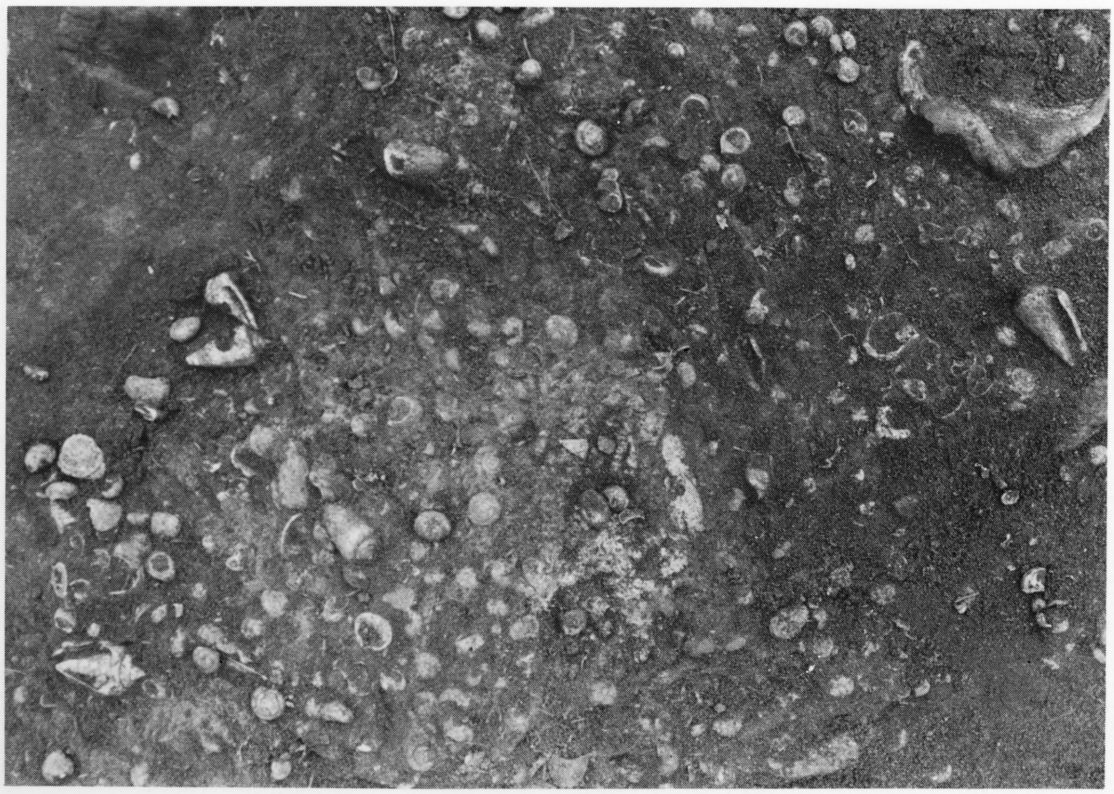


第３地点　12号集石遺構（最終面）

第３地点　３号集石遺構

第３地点　３号集石遺構（最終面）

第３地点　６号・７号　集石遺構状況



第３地点　貝溜出土状況

図版 7

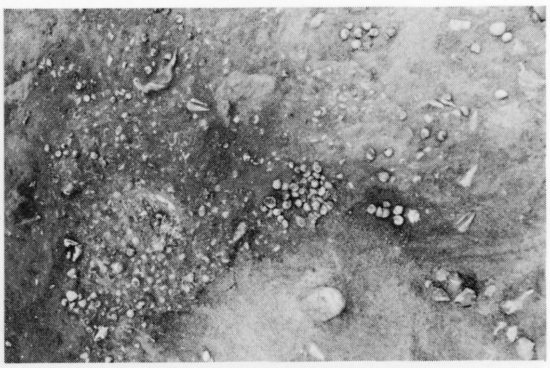
貝溜出土状況

貝溜出土状況

貝殻・土器片出土状況

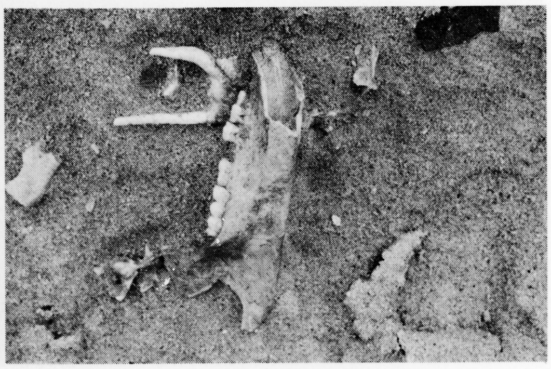
貝殻・獣骨出土状況

西壁遺物出土状況



貝殻出土状況

鯨骨出土状況



猪骨出土状況